

2011年度 追手門学院大学 教員活動評価調査票 【経済学部 経済学科】

◎教員活動評価票各評価領域の記載年度。

- I 教育活動 2010年度、2009年度、2008年度の3カ年。
- II 研究活動 2010年度、2009年度、2008年度、2007年度、2006年度の5カ年。
- III 社会活動 2010年度、2009年度、2008年度の3カ年。
- IV 大学運営活動 2010年度、2009年度、2008年度の3カ年。

〈経済学科〉

奥井 克美	2～6 ページ
加藤 靖弘	7～9 ページ
白川 一郎	10～11 ページ
朽尾 真一	12～18 ページ
難波 誠	19～21 ページ
西村 和志	22～24 ページ
則長 満	25～27 ページ
箱田 昌平	28～30 ページ
畠山 秀樹	31～33 ページ
林原 正之	34～37 ページ
福井 南海男	38～39 ページ
細井 雅代	40～44 ページ
三崎 一明	45～47 ページ
吉井 紀夫	48～50 ページ
四塚 朋子	51～53 ページ

2011年度 教員活動評価調査票 (記入用紙)

奥井 克美 1 / 5

所属	経済学部 経済学科	職名	教授	氏名	奥井 克美	学位	修士(経済学)、法政大学、1989年3月取得
----	-----------	----	----	----	-------	----	------------------------

I 教育活動 (3カ年<2010年度、2009年度、2008年度>の活動についてご記入願います。)

【担当科目】 (2011年度就任教員は、2011年度の本学担当科目をご記入願います。)

1. 学部担当科目

公共経済学、経済原論、入門経済学、新入生演習、演習

2. 大学院担当科目

経済政策特論Ⅱ、経済政策特論Ⅱ演習Ⅰ

3. 非常勤等担当科目(括弧内に大学名を記入してください) (2011年度就任教員は、前任校での担当科目についてもご記入願います。)

公共経済学特講(京都府立大学大学院)

【教育業績】 (2011年度就任教員は、前任校での教育業績についてもご記入願います。)

教育実践上の主な業績	年月日	備 考
1. 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 演習における「公共選択学生の集い」への参加	2000年11月～現在	演習の授業では、毎年、「公共選択学生の集い」という学生による報告・討論会に参加している。これは、十数大学の学生が与えられたテーマについてプレゼンテーションをし、討論会で議論を深める、というものである。大学外の人とも交流し、切磋琢磨させることにしている。
2. 作成した教科書、教材、参考書 「経済原論」問題集のインターネット閲覧版	2003年4月1日 ～2011年7月	経済原論の練習問題、講義ノート、中間試験及びその解答を、授業開講時にホームページから閲覧できるようにしている。
「世界の動きを経済体制という視点から考える」追手門学院大学経済学部編 『経済知力をみがく！～経済学へのいざない～』§6-2, pp.53-55, 所収.	2008年4月1日	経済体制論の潮流を紹介するとともに、この分野の私の研究成果の一部を紹介した。高校生や学部生向けに平易な解説をこころがけた

<p>3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等</p> <p>「学外から講師をお招きしての授業」追手門学院大学『人間回復の経済社会を目指して(4):大学教育高度化推進に係る平成 20 年度報告書』pp.97-98, 所収.</p>	2009 年 3 月 24 日	2008 年 12 月 9 日(火) I 限の公共経済学の授業において、株式会社ザイマックスビルディングサイエンス技術顧問の大窪道知氏に「人間回復の経済社会を目指して～あなたが今享受している生活がいつまで続くと思いますか？～Sustainability science」という演題の講演を行ってもらった。その際の様子をまとめた。
<p>「基礎自治体と公共経済学」追手門学院大学『持続可能な経済社会の構築を目指して:大学教育高度化推進に係る平成 21 年度報告書:』pp.57-61, 所収.</p>	2010 年 3 月 24 日	2009 年 11 月 27 日(金) II 限の公共経済学の授業において、埼玉県三郷市企画総務部参事(兼)企画調整課長の田中富雄氏に「基礎自治体は何をなすべきか・いかにあるべきか～持続可能な経済社会構築の視点から」という演題の講演を行ってもらった。その際の様子を、学生に書いてもらった記録や感想を中心に示した。
<p>「公共選択学生の集い」追手門学院大学学習支援・教育開発センター『学習支援・教育開発センター年報』第1号, pp.17-23, 所収.</p>	2011 年 3 月 31 日	奥井ゼミのゼミ員は、毎年、「公共選択学生の集い」という学生による報告・討論会に参加している。2010 年度は高崎経済大学において行われた。その時の様子、それに至るまでの指導、学生の成果の概要等について記した。
<p>4. その他教育活動上特記すべき事項</p>		

II 研究活動（5カ年〈2010年度、2009年度、2008年度、2007年度、2006年度〉の活動についてご記入願います。）

著書・論文等の名称	著書・ 共著の別	発行または 発表年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称)	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	査読の 有無
【著書】						
ブライアン・カプラン著『選挙の経済学:投票者はなぜ愚策を選ぶのか』	共監訳	2009年6月	日経BP社	<共監訳者>長峯純一氏、 <共訳者>湯之上英雄氏、 中村まづる氏、飯島大邦氏、 石田祐氏	472頁	
【論文】						
「世界各国データを用いた制度と経済パフォーマンスの関係についての考察」	単著	2006年5月	『経済政策ジャーナル』 第3巻第2号		81～84頁	有
「経済体制と公共選択」	単著	2006年12月	『追手門経済論集』 第XLI巻第2号		35～80頁	無
「経済体制の公共選択分析からの政策含意」	単著	2010年3月	『追手門経済論集』 第44巻第2号		61～92頁	無
【その他】						
「国際秩序の公共選択」(巻頭言)	単著	2009年7月	『公共選択の研究』第52号		1～5頁	無
【学会における主な活動】						
1997年～現在	公共選択学会幹事					
2008年～現在	日本公共政策学会関西支部運営委員					
2006年7月	討論“Park, Min-Jeong: A Study for the Rent Seeking in Korea Government Budget Allocation”(公共選択学会第10回全国大会:於京都大学)					
2007年7月	討論「稲葉陽二:経済格差とソーシャル・キャピタル」(日本経済政策学会第64回全国大会:於慶應義塾大学)					

2007年7月	討論「小林誉明:国境を越える立憲的選択の可能性---国際開発援助におけるルールの形成---」(公共選択学会第11回全国大会:於 東海大学)
2007年9月	発表「所有権システムの選択---アナキーモデルを利用した考察---」(日本経済学会2007年度秋季大会:於 日本大学)
2007年12月	討論「Cai Dapeng and Li Jie:Subsidization and Bargaining in Mixed Markets」(The 6th International Conference of the Japan Economic Policy Association :於 法政大学)
2008年3月	発表「政治プロセスの効率性に関する考察」(日本経済政策学会 関西部会:於 追手門学院大学)
2008年7月	討論「矢尾板俊平:汚職と政治経済システムとの関係に関する考察---政治的及び経済的データによる第一次的接近---」(公共選択学会第12回全国大会:於 関西大学)
2008年7月	発表「経済体制の公共選択分析」(日本公共政策学会関西支部第6回例会:於 京都府職員研修・研究支援センター)
2008年12月	討論「Khemarat Teerasuwanajak:Importance of R&D Productivity in Determining Intellectual Property Rights Protection Regime」(The 7th International Conference of the Japan Economic Policy:於 同志社大学)
2009年7月	シンポジウム「不況と公共選択」パネリスト(公共選択学会第13回全国大会:於 中央大学)＜コーディネーター＞長峯純一氏＜他のパネリスト＞土居丈朗氏、富崎隆氏
2009年11月	討論「Shio Ando: The Determinants of the Demand for Japanese Defense Expenditure」(The 8th International Conference of the Japan Economic Policy:於 国立大学財務・経営センター東京連絡所)
2010年6月	発表「投票者の合理性と経済政策の関係について」(日本公共政策学会2010年度大会:於 静岡文化芸術大学)
2010年11月	討論「Cai Dapeng and Li Jie“Do Lobbying Competition between Foreign Firms and Domestic Firms Increase or Decrease Tariff”」(The 9th International Conference of the Japan Economic Policy:於 早稲田大学)
【その他研究活動上特記すべき事項】	
科学研究費補助金(萌芽研究)研究代表者「最適体制の公共選択分析」	2004～2006年度
学術誌『公共選択の研究』の編集委員	1997年～現在

Ⅲ社会活動（3ヵ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）

社会における活動	年月日	備 考
三郷市政策研究講座における講義	2010年6月	「公共選択論について」(於埼玉県三郷市役所)

Ⅳ大学運営活動（3ヵ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）（2011年度就任教員は、2011年度の本学での学内職務及び大学業務をご記入願います。）

大学運営における活動	年月日	備 考
【学内職務】		
総合情報教育センター運営委員	2008年4月～現在	
学生部委員	2009年4月～2011年3月	
教育実習運営委員	2009年4月～2011年3月	
経済学部会計担当委員	2010年4月～現在	
経済学会庶務委員	2008年4月～2010年3月	
経済学会会計委員	2010年4月～現在	
【大学業務】		

2011年度 教員活動評価調査票 (記入用紙)

加藤 靖弘 1 / 3

所属	経済学部 経済学科	職名	准教授	氏名	加藤 靖弘	学位	文学修士(大谷大学)、商学修士(広島修道大学)
----	-----------	----	-----	----	-------	----	-------------------------

I 教育活動 (3カ年<2010年度、2009年度、2008年度>の活動についてご記入願います。)

【担当科目】 (2011年度就任教員は、2011年度の本学担当科目をご記入願います。)

1. 学部担当科目

貿易実務1, 2、 国際取引論1, 2、 ビジネス英語 1,2 英語 LL1, 2 新入生演習

2. 大学院担当科目

3. 非常勤等担当科目(括弧内に大学名を記入してください) (2011年度就任教員は、前任校での担当科目についてもご記入願います。)

京都女子大学文学部: Business Communication 1 (前期)、Business Communication 2 (後期)

帝塚山大学大学院法政策研究科: 電子取引システム特論

【教育業績】 (2011年度就任教員は、前任校での教育業績についてもご記入願います。)

教育実践上の主な業績	年月日	備 考
1. 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 「本人の申し出により非公表とした。」		
2. 作成した教科書、教材、参考書 「本人の申し出により非公表とした。」		
3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 「本人の申し出により非公表とした。」		
4. その他教育活動上特記すべき事項 「本人の申し出により非公表とした。」		

II 研究活動（5カ年〈2010年度、2009年度、2008年度、2007年度、2006年度〉の活動についてご記入願います。）

著書・論文等の名称	著書・ 共著の別	発行または 発表年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称)	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	査読の 有無
【著書】						
生きた英語が身につく語学留学のススメ—そろそろ日本を脱ぎたい人へ	単著	2007.1	明石書店		全158頁	
【論文】						
(学術論文) インコタームズとCLOUT	単著	2010.6	財団法人貿易奨励会、第9回貿易研究会、『研究報告』		87-101頁	有
オーストラリアにおける「国際物品売買契約に関する国際連合条約(CISG)」の判例動向	単著	2011.6	オーストラリア学会、『オーストラリア研究』第21号		44-56頁	有
CISGにおける「基本的違反と契約解除」について:CLOUT判例(Case 227, Case 243, Case 246, Case 275, Case 277)	単著	2009.7	国際商取引学会、『国際商取引学会年報』第11号		59-70頁	有
ビジネス英語はいつ、どのように生じるのか	単著	2009.3	追手門学院大学、『追手門経済・経営研究』第16号		183-195頁	無
基本的違反と契約解除について:ウィーン売買条約に準拠したCLOUT判例より		2008.9	追手門学院大学、『経済論集』第43号 第1巻		55-70頁	無
【その他】						
【学会における主な活動】						
「本人の申し出により非公表とした。」						
【その他研究活動上特記すべき事項】			年月日	備	考	
「本人の申し出により非公表とした。」						

Ⅲ社会活動（3カ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）

社会における活動	年月日	備 考
財団法人日本英語検定協会 面接担当試験委員 委嘱	2008年度～2010年度	

Ⅳ大学運営活動（3カ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）（2011年度就任教員は、2011年度の本学での学内職務及び大学業務をご記入願います。）

大学運営における活動	年月日	備 考
【学内職務】 「本人の申し出により非公表とした。」		
【大学業務】 「本人の申し出により非公表とした。」		

2011年度 教員活動評価調査票 (記入用紙)

白川 一郎 1 / 2

所属	経済学部 経済学科	職名	教授	氏名	白川 一郎	学位	経済学修士号
----	-----------	----	----	----	-------	----	--------

I 教育活動 (3カ年<2010年度、2009年度、2008年度>の活動についてご記入願います。)

【担当科目】 (2011年度就任教員は、2011年度の本学担当科目をご記入願います。)

1. 学部担当科目

日本経済論1・2、経済政策1・2、経済学基礎演習、演習1、演習2、新入生演習

2. 大学院担当科目

日本経済論

3. 非常勤等担当科目(括弧内に大学名を記入してください) (2011年度就任教員は、前任校での担当科目についてもご記入願います。)

【教育業績】 (2011年度就任教員は、前任校での教育業績についてもご記入願います。)

教育実践上の主な業績	年月日	備 考
1. 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
2. 作成した教科書、教材、参考書 日本経済論講義録、経済政策講義録、「政権交代期の日本経済」	2009年7月	
3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
4. その他教育活動上特記すべき事項 文科省政務大臣の要請に応じて、懇談会で若者の教育論について意見具申を行った。	2011年3月	

II 研究活動（5カ年〈2010年度、2009年度、2008年度、2007年度、2006年度〉の活動についてご記入願います。）

著書・論文等の名称	著書・ 共著の別	発行または 発表年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称)	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	査読の 有無
【著書】						
政権交代期の日本経済	単著	2009年7月	中央公論社		278頁	
【論文】						
【その他】						
【学会における主な活動】						
日本景気循環学会の顧問に就任		2010年4月より景気循環学会の理事と顧問を兼任。				
【その他研究活動上特記すべき事項】			年月日	備 考		

III 社会活動（3カ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）

社会における活動	年月日	備 考

IV 大学運営活動（3カ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）（2011年度就任教員は、2011年度の本学での学内職務及び大学業務をご記入願います。）

大学運営における活動	年月日	備 考
【学内職務】 キャンパス整備委員会委員として地震対策などの討議に参加。		
【大学業務】		

2011年度 教員活動評価調査票 (記入用紙)

朽尾 真一 1/7

所属	経済学部 経済学科	職名	准教授	氏名	朽尾 真一	学位	経済学修士、追手門学院大学、1987年3月取得
----	-----------	----	-----	----	-------	----	-------------------------

I 教育活動 (3カ年<2010年度、2009年度、2008年度>の活動についてご記入願います。)

【担当科目】 (2011年度就任教員は、2011年度の本学担当科目をご記入願います。)

1. 学部担当科目

経済シミュレーション A・B、ソフトウェア論、データ分析ソフトウェア A・B、キャリアデザイン論、演習 I -1,-2、演習 II -1,-2

2. 大学院担当科目

「本人の申し出により非公表とした。」

3. 非常勤等担当科目(括弧内に大学名を記入してください) (2011年度就任教員は、前任校での担当科目についてもご記入願います。)

プログラミングおよび演習 A1(龍谷大学)、プログラミングおよび演習 A2(龍谷大学)

【教育業績】 (2011年度就任教員は、前任校での教育業績についてもご記入願います。)

教育実践上の主な業績	年月日	備 考
1. 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 経済シミュレーションを用いた仮想経済の体験ができる授業の実施	2006年4月～現在	1998年度から経済シミュレーションを用いて仮想経済を疑似体験する授業を実施している。この経済シミュレーションは経済情報処理(国際経済学科必修・ヒューマンエコノミー学科選択科目)と演習の授業で利用している。(経済学部太田拓男教授と共に開発・運用を進めている。プログラム作成は外部委託している。補助金対象事業です。) 2007年度と2008年度はソフトウェア論でもプログラムの考えるための題材として利用した。 2008年7月から、気まぐれに行動する学生よりも、通常の世界のようにまじめに活動する代行プログラムを設計開発した。これによりシミュレーションが上手く動作するようになっている。経済情報処理の担当は2007年度までで、現在担当の太田先生は経済シミュレーションを実施していな

		<p>い。</p> <p>2009年度からは経済学部の学科科目として「経済シミュレーション」を開設しシミュレーションの活動を分析する講義を実施している。</p>
<p>成績の評価方法を変更し、授業各回におさらいの小テストを実施してこの配点を60点とした。残り40点は定期テストで評価した。(2007年度以降のソフトウェア論)</p>	<p>2007年4月～現在</p>	<p>授業は内容を理解し、この理解を積み上げていくものであるが、期末にまとめて丸暗記しようとする学生が多い。そこで、毎回の授業の開始時に前回の講義の内容を問う小テストを実施し、この配点を60点とした。小テストは携帯電話を利用する方法を用いたが、2007年度は途中でシステムが不調になったため、OMRを利用した。</p> <p>OMRは、2006年度から2007年度にかけて情報プロジェクトの活動の一つとして作成した。</p> <p>期末試験でもOMRを採用している。</p> <p>携帯電話を用いるシステムも改善が行われ、朽尾の実施方法も改めたので、OMRでなく、携帯電話のシステムを使用している。</p> <p>小テスト終了後は、解説を行い間違えたところを学生各自が確認できるようにした。</p> <p>2010年度の履修人数101名で実質出席者数は60～80名程度であったが、採点が短時間で処理でき容易であったため、問題作成などに多くの時間をとることができた。</p> <p>期末試験40点満点と小テスト60点満点で成績を評価した。ほとんどの学生は小テストよりも良い回答率を示しており、各回ごとの評価と解説が有効であることが確認できた。</p>

<p>講義のビデオ収録と TIES への公開</p>	<p>2007 年 11 月～現在</p>	<p>2005 年度から 2007 年度は、講義の音声を学内 Web に公開していたが、2007 年 11 月より、音声の収録のみでなく、講義の動画収録を行っている。公開する仕組みは TIES を利用している。これは学外からもユーザー ID とパスワードでアクセスできる仕掛けで講義を聞き逃したり、欠席した学生が自宅からでも内容を確認できるように配慮した。2007 年度は試行的に「経済情報処理」で実施した。2008 年度以降は「ソフトウェア論」でも実施を始めた。2009 年度以降は加えて「経済シミュレーション」も収録を行っている。</p> <p>この収録方法は 2009 年 5 月にインフルエンザで休校になった講義の補講替わりとしても利用している。</p> <p>2010 年度に、フォーラム教室の設定の調整と、TIES との接続環境の改善を行ってもらったため、接続できなかつたり、中断したりしなくなり、快適に利用できるようになった。</p>
<p>成績の評価方法を変更し、授業各回におさらいの小テストを実施してこの配点を 25 点とした。経済シミュレーションによる活動に対して 25 点を評価する。またレポートを課しこの配点を 25 点とした。残り 25 点は定期テストで評価した。(2009 年度以降の経済シミュレーション)</p>	<p>2009 年 4 月～現在</p>	<p>成績評価について、「ソフトウェア論」よりもさらに分散し、各 25 点の 4 つの評価に設定した。これは①授業開始時のおさらい小テスト、②経済シミュレーションでの活動状況、③産業連関などについて経済シミュレーションの数値を用いてレポート、④期末の定期テストである。講義内容については前出の通り TIES を用いて収録しており、6 月のインフルエンザの休講に対する補講としても実施した。</p>

<p>2. 作成した教科書、教材、参考書</p> <p>ゲーミングによる経済シミュレーションの再構築</p>	<p>2006年4月～現在</p>	<p>1998年度から3カ年間で開発した「ゲーミングによる経済システムのシミュレーション」は、授業などで運用している中で様々な問題点が見つかった。これらの問題点を解決するために2006年度から3カ年間、システムの再構築を図って開発を進めた。</p> <p>シミュレーションを授業で運用することは続けているが、再構築したシステムは年度毎にリリースして使用している。</p> <p>このシミュレーションは学科科目「経済シミュレーション」やゼミで活用している。また、オープンキャンパスではデモも行っている。</p> <p>将来的には、他の大学などにも販売できるようなシステムを想定して改善を務めている。</p> <p>タブレット型の端末が普及しつつあるので、このような端末への対応も考慮する必要が出てきそうである。</p>
<p>携帯電話を用いる小テストの実施に関する改善</p>	<p>2007年4月～現在</p>	<p>携帯電話を用いるシステムは、他学部の教員では「出席管理」として使用している例もあるが、朽尾は前回の内容をおさらいする小テスト用として使用している。</p> <p>このシステムは、総合情報教育センターが導入したものであるが、外部の企業の製品である。</p> <p>携帯電話に設問か解答の選択肢を表示できるシステムであったが、朽尾は設問や選択肢などを携帯電話に表示せずに、教室内でパワーポイント</p>

		<p>トで表示している。導入時は、設問や選択肢を携帯電話に表示していたが、システムが止まってしまつたトラブルが発生した。原因は不明である。</p> <p>学生は数問の設問に解答する際に、周りから答えを聞くなどして設問の前や後ろに画面を移動させているようであった。携帯電話からサーバへのアクセスを減らすために、設問などを携帯の画面でなく、教室内のモニターに表示するようにした。</p> <p>設問を表示する作業は手作業で行っていたが、2009年度からはパワーポイントのタイマー機能を利用している。</p> <p>設問に解答する時間が制限され、前の設問に戻る隙がないため、サーバに繋がらなくなることはなくなった。</p>
3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
4. その他教育活動上特記すべき事項		

Ⅱ 研究活動（5カ年〈2010年度、2009年度、2008年度、2007年度、2006年度〉の活動についてご記入願います。）

著書・論文等の名称	著書・共著の別	発行または発表年月	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数	査読の有無
【著書】						/
科目「経済情報処理」の学生成績の傾向分析	単著	2008年9月	『追手門経済論集第43巻第1号』（追手門学院大学経済学会）		153～174頁	無

【その他】						
Web を利用したゲーム機具による経済システムのシミュレーションの拡張・その 1 エージェント機能を組み込んだ拡張	共著	2008 年 9 月	教育システム情報学会 第 33 回全国大会講演論文集	太田拓男、朽尾真一(追手門学院大学)、後根隆之、林希和子、吉田明子(株式会社プロアシスト)	374～375 頁	無
Web を利用したゲーム機具による経済システムのシミュレーションの拡張・その 2 システムの実用的運用のための機能拡張	共著	2008 年 9 月	教育システム情報学会 第 33 回全国大会講演論文集	朽尾真一、太田拓男(追手門学院大学)、後根隆之、林希和子、吉田明子(株式会社プロアシスト)	376～377 頁	無
Web を利用したゲーム機具による経済システムのシミュレーションの拡張・その 3 エンジン部分の改良とエージェント機能の組み込み実装	共著	2008 年 9 月	教育システム情報学会 第 33 回全国大会講演論文集	後根隆之、林希和子、吉田明子(株式会社プロアシスト)、太田拓男、朽尾真一(追手門学院大学)	378～379 頁	無
Web を利用したゲーミングによる経済システムのシミュレーション・その 4 エージェント機能の展開	共著	2010 年 8 月	教育システム情報学会 第 35 回全国大会講演論文集	朽尾真一、太田拓男(追手門学院大学)、後根隆之、森本寛章、林希和子、(株式会社プロアシスト)	417～418 頁	無
Web を利用したゲーミングによる経済システムのシミュレーション・その 5 エージェント機能の運用	共著	2010 年 8 月	教育システム情報学会 第 35 回全国大会講演論文集	森本寛章、後根隆之、林希和子、(株式会社プロアシスト)、朽尾真一、太田拓男(追手門学院大学)	419～420 頁	無

【学会における主な活動】		
2005年4月～現在	教育システム情報学会関西支部 評議員・幹事	
【その他研究活動上特記すべき事項】	年月日	備 考
(公)私立大学情報教育協会・「FD 情報技術講習会運営委員会」委員	2008年4月～現在	2009年3月に大阪経済大学にて講習会を実施し、一部分の講師を担当した。 2010年3月、2011年3月も同様。

Ⅲ社会活動（3ヵ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）

社会における活動	年月日	備 考
茨木市生涯学習センター「きらめき」にて、パソコン講座「はじめてのパソコン」講師担当	2010年4月～現在	(半年に15回を前期後期で2クラス)
茨木市生涯学習センター「きらめき」にて、パソコン講座「準中級パソコン」講師担当	2007年4月～現在	(半年に15回を前期後期で2クラス)

Ⅳ大学運営活動（3ヵ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）（2011年度就任教員は、2011年度の本学での学内職務及び大学業務をご記入願います。）

大学運営における活動	年月日	備 考
【学内職務】 「本人の申し出により非公表とした。」		
【大学業務】 「本人の申し出により非公表とした。」		

2011年度 教員活動評価調査票 (記入用紙)

難波 誠 1 / 3

所属	経済学部 経済学科	職名	教授	氏名	難波 誠	学位	Ph.D. コロンビア大学、1971年3月取得
----	-----------	----	----	----	------	----	-------------------------

I 教育活動 (3カ年<2010年度、2009年度、2008年度>の活動についてご記入願います。)

【担当科目】 (2011年度就任教員は、2011年度の本学担当科目をご記入願います。)

1. 学部担当科目 経済数学 1、2、(A, B)、入門数学1、2、(A, B, C)
2. 大学院担当科目 経済数学特論、経済数学特論演習、経済数学特殊研究
3. 非常勤等担当科目(括弧内に大学名を記入してください) (2011年度就任教員は、前任校での担当科目についてもご記入願います。) 経営経済のための数学 A (近畿大学)

【教育業績】 (2011年度就任教員は、前任校での教育業績についてもご記入願います。)

教育実践上の主な業績	年月日	備 考
1. 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 高校数学の内容の復習も含める 授業の終りに演習問題を課す	2010年4月1日から現在 2010年4月1日から現在	
2. 作成した教科書、教材、参考書		
3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
4. その他教育活動上特記すべき事項 学習支援室に、週2コマ出勤し、学生の質問を受けている。	2009年10月1日から現在	

Ⅱ 研究活動（5カ年〈2010年度、2009年度、2008年度、2007年度、2006年度〉の活動についてご記入願います。）

著書・論文等の名称	著書・ 共著の別	発行または 発表年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	査読の 有無
【著書】						
平面図形の幾何学	単著	2008年3月	現代数学社		180ページ	
【論文】						
Galois coverings of the complex projective line and related differential equations	単著	2011年2月	KIAS, Curves and Jacobians		p.67-p.77	
【その他】						
「訳書」 幾何学 I	単著	2007年10月	シュプリンガー・ジャパン		302ページ	
「訳書」 幾何学 II	単著	2008年2月	シュプリンガー・ジャパン		302ページ	
【学会における主な活動】						
【その他研究活動上特記すべき事項】			年月日	備考		

Ⅲ 社会活動（3カ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）

社会における活動	年月日	備考
大阪大学工業会夏期数学講座で講演	2008年8月1日、2009年7月31日、 2010年7月30日	

IV大学運営活動（3ヵ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）（2011年度就任教員は、2011年度の本学での学内職務及び大学業務をご記入願います。）

大学運営における活動	年月日	備 考
【学内職務】 「本人の申し出により非公表とした。」		
【大学業務】 「本人の申し出により非公表とした。」		

2011年度 教員活動評価調査票 (記入用紙)

西村 和志 1 / 3

所属	経済学部 経済学科	職名	教授	氏名	西村 和志	学位	経済学修士
----	-----------	----	----	----	-------	----	-------

I 教育活動 (3カ年<2010年度、2009年度、2008年度>の活動についてご記入願います。)

【担当科目】 (2011年度就任教員は、2011年度の本学担当科目をご記入願います。)

1. 学部担当科目

経済原論Ⅰ 基礎演習Ⅰ キャリアデザイン論 演習Ⅰ 演習Ⅱ

2. 大学院担当科目

大学院特論 大学院特論演習Ⅰ

3. 非常勤等担当科目(括弧内に大学名を記入してください) (2011年度就任教員は、前任校での担当科目についてもご記入願います。)

「本人の申し出により非公表とした。」

【教育業績】 (2011年度就任教員は、前任校での教育業績についてもご記入願います。)

教育実践上の主な業績	年月日	備 考
1. 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 「本人の申し出により非公表とした。」		
2. 作成した教科書、教材、参考書 経済原論Ⅰ 講義ノート	2010年4月	
金融論講義ノート	2010年9月	
3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 「本人の申し出により非公表とした。」		
4. その他教育活動上特記すべき事項 「本人の申し出により非公表とした。」		

Ⅱ 研究活動（5カ年〈2010年度、2009年度、2008年度、2007年度、2006年度〉の活動についてご記入願います。）

著書・論文等の名称	著書・ 共著の別	発行または 発表年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	査読の 有無
【著書】						
【論文】						
金融システムのある開放マクロ貨幣 経済モデル	単著	2011年3月	追手門学院大学、追手門経済・ 経営研究 第18号		13頁	無
Comparison between the Gold Standard and the Managed Currency System	単著	2009年12月	Otemon Economic Studies, No. 42, 2009		7頁	無
金融システムのあるマクロ貨幣経済 モデル	単著	2007年3月	追手門学院大学創立40周年記 念論集経済学部篇		11頁	無
Multi-Country Integretion under Direct Democracy	単著	2006年12月	Otemon Economic Studies, No. 39, 2006		11頁	無
【その他】						
【学会における主な活動】						
「本人の申し出により非公表とした。」						
【その他研究活動上特記すべき事項】				年月日	備	考
「本人の申し出により非公表とした。」						

Ⅲ 社会活動（3カ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）

社会における活動	年月日	備	考

IV大学運営活動（3ヵ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）（2011年度就任教員は、2011年度の本学での学内職務及び大学業務をご記入願います。）

大学運営における活動	年月日	備 考
【学内職務】 「本人の申し出により非公表とした。」		
【大学業務】 「本人の申し出により非公表とした。」		

2011年度 教員活動評価調査票 (記入用紙)

則長 満 1 / 3

所属	経済学部 経済学科	職名	准教授	氏名	則長 満	学位	国際関係学修士、神戸市外国語大学、93年3月
----	-----------	----	-----	----	------	----	------------------------

I 教育活動 (3カ年<2010年度、2009年度、2008年度>の活動についてご記入願います。)

【担当科目】 (2011年度就任教員は、2011年度の本学担当科目をご記入願います。)

1. 学部担当科目 経済史、外国経済史、経済学基礎演習、新入生演習、演習Ⅰ、演習Ⅱ
2. 大学院担当科目 特記事項なし
3. 非常勤等担当科目(括弧内に大学名を記入してください) (2011年度就任教員は、前任校での担当科目についてもご記入願います。) 特記事項なし

【教育業績】 (2011年度就任教員は、前任校での教育業績についてもご記入願います。)

教育実践上の主な業績	年月日	備 考
1. 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 「サイレント・シート作戦」	2002年4月～	私語追放への試み
2. 作成した教科書、教材、参考書 毎週発行「先週の世界・日本は?」「来週の世界・日本は?」	1999年4月～	時事問題への関心高揚の試み
3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 特記事項なし		
4. その他教育活動上特記すべき事項 メールによる担当学生とのコミュニケーション	2003年4月～	経済史・外国経済史担当以外の学生とのメールによるコミュニケーション
テニス部顧問	1999年4月～	

2011年度 教員活動評価調査票（記入用紙）

則長 満 2 / 3

Ⅱ 研究活動（5カ年〈2010年度、2009年度、2008年度、2007年度、2006年度〉の活動についてご記入願います。）

著書・論文等の名称	著書・ 共著の別	発行または 発表年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称)	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	査読の 有無
【著書】						
大人数授業をどう改革するか	共著	2006年3月	アスカ文化出版		pp.41-64	
【論文】						
原油価格変動要因分析 2006年ケース	単著	2007年12月	追手門経済論集第42巻		pp.38-42	無
原油価格変動要因分析 WTI原油上場以降を中心に	単著	2008年9月	追手門経済論集第43巻		pp.14-41	無
原油価格変動要因分析 リーマンショック後の原油市場は どう変化したのか？	単著	2010年9月	追手門経済論集第45巻		pp.72-93	無
漢方薬は学生に効くのか？Ⅱ	単著	2011年3月	追手門教育研究所紀要 第29号		pp.39-47	無
【その他】						
【学会における主な活動】						
2008年6月21日		社会経済史学会近畿部会6月例会にて発表「原油価格変動要因分析-WTI原油上場以降を中心に」 於大阪学院大学				
【その他研究活動上特記すべき事項】				年月日	備	考
特記事項なし						

Ⅲ社会活動（3カ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）

社会における活動	年月日	備 考
高槻市藍野花園病院治験審査委員会委員	2006年4月～2008年10月	
神戸市教育委員会摩耶兵庫高校中間定時制検討会座長	2008年6月～2009年3月	
神戸市教育委員会 神戸市立学校園のあり方懇話会委員	2009年6月～2010年3月	
神戸市教育委員会 商業高校あり方研究会オブザーバー	2010年6月～10月	

Ⅳ大学運営活動（3カ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）（2011年度就任教員は、2011年度の本学での学内職務及び大学業務をご記入願います。）

大学運営における活動	年月日	備 考
【学内職務】		
学生部委員	2007年4月～2009年3月	
キャンパスハラスメント委員	2007年4月～2009年3月	
会計委員	2009年4月～2010年3月	
キャリア開発委員	2010年4月～2011年3月	
紀要委員	2011年4月～現在	
【大学業務】		
出張授業(滋賀県高島市高島高校)	2009年10月	
出張授業(兵庫県神戸市甲北高校)	2010年7月	
オープンキャンパス	2008年～2011年	

2011年度 教員活動評価調査票 (記入用紙)

箱田 昌平 1/3

所属	経済学部 経済学科	職名	教授	氏名	箱田 昌平	学位	経済学博士
----	-----------	----	----	----	-------	----	-------

I 教育活動 (3カ年<2010年度、2009年度、2008年度>の活動についてご記入願います。)

【担当科目】 (2011年度就任教員は、2011年度の本学担当科目をご記入願います。)

1. 学部担当科目 経済学基礎演習、特殊講義5、産業組織論、演習 I、演習 I, II (2)
2. 大学院担当科目 産業組織論特論、同演習、産業組織論特殊研究、同演習
3. 非常勤等担当科目(括弧内に大学名を記入してください) (2011年度就任教員は、前任校での担当科目についてもご記入願います。) 「本人の申し出により非公表とした。」

【教育業績】 (2011年度就任教員は、前任校での教育業績についてもご記入願います。)

教育実践上の主な業績	年月日	備 考
1. 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 「本人の申し出により非公表とした。」		
2. 作成した教科書、教材、参考書 「本人の申し出により非公表とした。」		
3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 「本人の申し出により非公表とした。」		
4. その他教育活動上特記すべき事項 「本人の申し出により非公表とした。」		

II 研究活動 (5カ年<2010年度、2009年度、2008年度、2007年度、2006年度>の活動についてご記入願います。)

著書・論文等の名称	著書・ 共著の別	発行または 発表年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称)	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	査読の 有無
【著書】 「本人の申し出により非公表とした。」						

【論文】						
戦後の三輪車市場における企業間競争	単著	2006年12月	『追手門経済論集』 第41巻第2号		pp.105-132	無
戦前のオート三輪車とプレモータリゼーション		2007年3月	『追手門経済経営研究』 第14号		pp.27-45	無
軽自動車の規格改正と企業間競争		2007年12月	『追手門経済論集』 第42巻2号		pp.25-45	無
日本のものづくりと技能形成		2008年9月	『追手門経済論集』 第43巻第1号		pp.192-221	無
三木の金物産地に変化とイノベーション		2010年3月	『追手門経済論集』 第44巻第2号		pp.112-148	無
【その他】						
「本人の申し出により非公表とした。」						
【学会における主な活動】						
日本経済政策学会、本部幹事		1980年—2010年				
【その他研究活動上特記すべき事項】				年月日	備	考
「本人の申し出により非公表とした。」						

Ⅲ社会活動（3カ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）

社会における活動	年月日	備	考
環山楼市民塾講演(ものづくりと産業組織論)	2009年5月12日		

IV大学運営活動（3ヵ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）（2011年度就任教員は、2011年度の本学での学内職務及び大学業務をご記入願います。）

大学運営における活動	年月日	備 考
【学内職務】		
経済学研究科科長	2008年9月から現在	
経済学部人事委員	2008年4月から現在	
【大学業務】		

2011年度 教員活動評価調査票 (記入用紙)

畠山 秀樹 1 / 3

所属	経済学部 経済学科	職名	教授	氏名	畠山 秀樹	学位	経済学博士(大阪大学)
----	-----------	----	----	----	-------	----	-------------

I 教育活動 (3カ年<2010年度、2009年度、2008年度>の活動についてご記入願います。)

【担当科目】 (2011年度就任教員は、2011年度の本学担当科目をご記入願います。)

1. 学部担当科目

経済史、日本経済史、演習1、演習2、経済学基礎演習、新入生演習、日本事情、学び論C、

2. 大学院担当科目

研究演習、日本経済史特殊研究、日本経済史特論演習1、日本経済史特論

3. 非常勤等担当科目(括弧内に大学名を記入してください) (2011年度就任教員は、前任校での担当科目についてもご記入願います。)

【教育業績】 (2011年度就任教員は、前任校での教育業績についてもご記入願います。)

教育実践上の主な業績	年月日	備 考
1. 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) テキスト、参考書には、私の著作を使用して、執筆の意図、内容を直接学生に教授している。		
2. 作成した教科書、教材、参考書 『マテリアル 日本経営史』有斐閣	1999年4月～現在	日本経済史・経営史用のビジュアルな参考書として使用
『住友財閥成立史の研究—普及版』同文館	1996年4月～現在	初版を日本経済史教科書用に再編集
3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
4. その他教育活動上特記すべき事項 優秀なゼミ生に対して卒業論文集への投稿を特別に指導		

Ⅱ 研究活動（5カ年〈2010年度、2009年度、2008年度、2007年度、2006年度〉の活動についてご記入願います。）

著書・論文等の名称	著書・共著の別	発行または発表年月	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数	査読の有無
【著書】						
【論文】						
三菱合資会社設立後の端島炭坑	単著	2006. 11	『追手門経済論集』 第41巻第1号		pp.563-621	無
第1次近代化投資完了期三池炭鉱に関する一史料	単著	2006. 12	同上、第41巻第2号		pp.310-362	無
高島炭坑のデータに関する若干の覚書	単著	2007. 3	三菱経済研究所『三菱史料館論集』第8号		pp.265-285	有
三菱合資会社設立後の鯉田炭坑	単著	2008. 3	三菱経済研究所『三菱史料館論集』第9号		pp.191-271	有
三菱合資会社設立後の筑豊炭販売	単著	2009. 3	三菱経済研究所『三菱史料館論集』第10号		pp.159-195	有
【その他】						
【学会における主な活動】						
社会経済史学会		評議員				
経営史学会		会員				
鉱山史研究会		会員				
【その他研究活動上特記すべき事項】			年月日	備	考	
九州大学記録資料館産業経済資料部門学外研究員			2008年度～現在	史料の調査・研究		

Ⅲ社会活動（3カ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）

社会における活動	年月日	備 考
財団法人奥田邸保存会評議員	2007年度～現在	国宝奥田邸の保存と研究
清交社講演会・講演 『三菱財閥形成期における企業者活動』	2008. 7.5	於：大阪全日空ホテル

Ⅳ大学運営活動（3カ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）（2011年度就任教員は、2011年度の本学での学内職務及び大学業務をご記入願います。）

大学運営における活動	年月日	備 考
【学内職務】		
図書館委員	2008～2010年度	
人権啓発委員	2008～2010年度	
経済経営資料室委員	2008～2010年度	
【大学業務】		
オープンキャンパス	2008, 2009年度	
オープンキャンパス ・ミニ講義	2010年度	
人権啓発委員会会誌『愛語』執筆：「財閥と囚人労働」	2008. 3	
人権啓発委員会 ・人権研修階案内NO. 30, 執筆：「21世紀の原生的労働関係」	2009. 6	

2011年度 教員活動評価調査票 (記入用紙)

林原 正之 1/4

所属	経済学部 経済学科	職名	教授	氏名	林原 正之	学位	博士(経済学)
----	-----------	----	----	----	-------	----	---------

I 教育活動 (3カ年<2010年度、2009年度、2008年度>の活動についてご記入願います。)

【担当科目】 (2011年度就任教員は、2011年度の本学担当科目をご記入願います。)

1. 学部担当科目

国際経済学, 国際貿易論, 国際経済学1, 2, 演習 I, 演習 II, 新入生演習

2. 大学院担当科目

前期課程: 国際経済論特論, 国際経済論特論演習 I, 国際経済論特論演習 II

後期課程: 国際経済論特殊研究, 研究演習

3. 非常勤等担当科目(括弧内に大学名を記入してください) (2011年度就任教員は、前任校での担当科目についてもご記入願います。)

「本人の申し出により非公表とした。」

【教育業績】 (2011年度就任教員は、前任校での教育業績についてもご記入願います。)

教育実践上の主な業績	年月日	備考
1. 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 時間内小テスト(模擬試験)の実施とその解説により理解を深める パワーポイントによる説明により理解を深める Eメールおよび教務課経由による書面による連絡・指導	毎年, 針学期秋学期とも 毎年, 針学期秋学期とも 必要に応じて	国際経済学(1, 2), 国際貿易論 国際経済学(1, 2), 国際貿易論 演習, 新入生演習
2. 作成した教科書、教材、参考書 基礎国際経済学(共編著) 経済学部テキストシリーズ「国際経済学, 国際経済学1・2」, [国際貿易論]	2000年5月10日 毎年	作成は2000年であるが、以降使用しており現在まで第8刷りである 国際経済学(1, 2), 国際貿易論
3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 特記事項無し		
4. その他教育活動上特記すべき事項 大学院修士論文審査副査 大学院修士論文審査	2009年度 2010年度	対象院生1名 対象院生1名

II 研究活動（5カ年〈2010年度、2009年度、2008年度、2007年度、2006年度〉の活動についてご記入願います。）

著書・論文等の名称	著書・ 共著の別	発行または 発表年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	査読の 有無
【著書】						
【論文】						
輸出補助金政策のタイミングの内生的決定と世界厚生水準の比較分析： 拡張された3国モデルでの考察	単著	2007年9月	追手門学院大学経済学会, 『追手門経済論集』 (第42巻, 1号)		94～116頁	無
競争政策, 輸出補助金政策および 経済厚生	単著	2007年10月	日本国際経済学会, 『国際経済』(58号)		95～113頁	有
Industrial and Trade Policies in a Developing Country under Endogenous Timing of Trade Policy	共著	2007年12月	Serial Publications, Indian Development Review, Vol.5, No.1	©Ryoichi Nomura, Makoto Okamura	341～354頁	有
「輸入国の競争政策が経済厚生に およぼす効果分析」	単著	2010年3月	追手門学院大学, 『経済・経営研究』(1号)			無
「競争政策, 輸出補助金政策および 経済厚生: 限界費用が異なるケース への拡張」	単著	2010年3月	追手門学院大学経済学会, 『追手門経済論集』 (第44巻, 2号)			無
【その他】						
学会研究会報告	単著	2009年3月	日本国際経済学会関西支部研 究会			
国際コンファレンス報告	単著	2009年4月	IEFS Japan Annual Meeting and the 3 rd Keio/Kyoto International conference on Market Quality Economics			

【学会における主な活動】		
2008年6月14日	日本国際経済学会関西支部総会 第3分科会座長	
2006年10月21日	日本経済学会秋季大会	大川隆夫(立命館大学)への予定討論者
2007年10月8日	日本国際経済学会全国大会	野村良一(立命館大学)への予定討論者
2008年10月12日	日本国際経済学会全国大会	大川良文(滋賀大学)への予定討論者
2009年5月16日	日本国際経済学会関西支部研究会	中野沙弥香(兵庫県立大学大学院)への予定討論
2009年7月25日	日本国際経済学会関西支部研究会	趙 来勲(神戸大学経済経営研究所)への予定討論
2009年12月5日	Fourth Keio/Kyoto Joint COE program International Conference on Market Quality Economics, 太田累(千葉経済大学)への予定討論者	
2010年10月17日	日本国際経済学会全国大会 中野沙弥香(兵庫県立大学大学院)への予定討論	
2010年12月18日	日本国際経済学会関西支部研究会 春名章二(岡山大学)への予定討論	
【その他研究活動上特記すべき事項】	年月日	備 考
Journal of International Trade and Economic Development 査読委員(レフリー)	2009年10月～	
国際経済(日本国際経済学会)査読委員(レフリー)	2010年1月～	
Review of International Economics 査読委員(レフリー)	2011年9月～	

Ⅲ 社会活動（3カ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）

社会における活動	年月日	備 考
「本人の申し出により非公表とした。」		

IV大学運営活動（3ヵ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）（2011年度就任教員は、2011年度の本学での学内職務及び大学業務をご記入願います。）

大学運営における活動	年月日	備 考
【学内職務】		
キャリア開発部委員	2009年4月～2010年3月	
演習 I 無資格者担当委員	2009年4月～2010年3月	
大学評議員	2010年4月～	
全学教員活動評価委員会委員	2010年4月～	
【大学業務】		
高校訪問	2009年7月3日	
オープンキャンパス担当	2009年7月19日	
経済学研究科担当資格審査審査委員長	2009年度	
経済学部昇任人事審査委員	2009年度	
高校訪問	2010年7月19日	
経済学部編入学入試出題	2010年度入試	
経済学研究科入試経済原論出題	2010年度入試	
経済学部編入学入試出題	2011年度入試	

所属	経済学部 経済学科	職名	教授	氏名	福井 南海男	学位	経済学修士
----	-----------	----	----	----	--------	----	-------

I 教育活動 (3カ年<2010年度、2009年度、2008年度>の活動についてご記入願います。)

【担当科目】 (2011年度就任教員は、2011年度の本学担当科目をご記入願います。)

1. 学部担当科目 経済原論Ⅱ 経済原論1, 2 演習Ⅱ1, 2 経済学基礎演習1, 2 新入生演習
2. 大学院担当科目 理論経済学特論Ⅰ、理論経済学特論Ⅰ演習Ⅰ
3. 非常勤等担当科目(括弧内に大学名を記入してください) (2011年度就任教員は、前任校での担当科目についてもご記入願います。)

【教育業績】 (2011年度就任教員は、前任校での教育業績についてもご記入願います。)

教育実践上の主な業績	年月日	備 考
1. 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		現在日常的に起こっている具体的な事実を例示し、一般的な定式化を行う前に、数値例を挙げて理解の促進を心がけている。 理論ばかりではなく、理論の理解を助けるために、歴史や制度についての説明も重視している。
2. 作成した教科書、教材、参考書		できるだけ板書を少なくし、プリントを配布することによって、学生に考える時間を与えることにしている。また、单元ごとに、まとめをプリントして配布するとともに、練習問題を作成し、必要に応じて、小テストを行うことによって各单元の理解を確認している。その結果によっては、復習を行うなど、各单元の理解を確認しながら、講義を進めることにしている。これらをまとめれば、担当各科目の教科書ができる段階にある。
3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
4. その他教育活動上特記すべき事項		

Ⅱ 研究活動（5カ年〈2010年度、2009年度、2008年度、2007年度、2006年度〉の活動についてご記入願います。）

著書・論文等の名称	著書・共著の別	発行または発表年月	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数	査読の有無
【著書】						
【論文】						
混合寡占市場における均衡の構造について	単著	2009年3月	追手門経済・経営研究第16号		125～158	無
ボモール型企业と寡占市場均衡	単著	2009年4月	追手門経済論集第43巻2号		1～52	無
【その他】						
【学会における主な活動】						
特に記入することはありません。						
【その他研究活動上特記すべき事項】			年月日	備	考	

Ⅲ 社会活動（3カ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）

社会における活動	年月日	備	考

Ⅳ 大学運営活動（3カ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）（2011年度就任教員は、2011年度の本学での学内職務及び大学業務をご記入願います。）

大学運営における活動	年月日	備	考
【学内職務】			
【大学業務】			

2011年度 教員活動評価調査票 (記入用紙)

細井 雅代 1/5

所属	経済学部 経済学科	職名	准教授	氏名	細井 雅代	学位	修士(経済学)、兵庫県立大学(旧神戸商科大学)、2001年3月取得
----	-----------	----	-----	----	-------	----	-----------------------------------

I 教育活動 (3カ年<2010年度、2009年度、2008年度>の活動についてご記入願います。)

【担当科目】 (2011年度就任教員は、2011年度の本科担当科目をご記入願います。)

1. 学部担当科目 租税論、地方財政論、新入生演習、経済学基礎演習1・2、演習I・II、
2. 大学院担当科目 租税論特論
3. 非常勤等担当科目(括弧内に大学名を記入してください) (2011年度就任教員は、前任校での担当科目についてもご記入願います。) なし

【教育業績】 (2011年度就任教員は、前任校での教育業績についてもご記入願います。)

教育実践上の主な業績	年月日	備 考
1. 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 新入生演習におけるグループワークの導入	2010年4月	4人一組でグループを作り、テーマを決めて、議論を行う。
2. 作成した教科書、教材、参考書 経済学基礎演習1, 2のテキスト作成	2010年度	テキストの内容は、マクロ経済学とミクロ経済学の基礎理論とその応用としており、1回生での基礎理論の復習をメインにして、その内容に中級レベルの理論を付け加えたものとしている。その範囲は、地方公務員試験の内容程度である。
3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 特になし		
4. その他教育活動上特記すべき事項 特になし		

II 研究活動（5カ年〈2010年度、2009年度、2008年度、2007年度、2006年度〉の活動についてご記入願います。）

著書・論文等の名称	著書・ 共著の別	発行または 発表年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称)	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	査読の 有無
【著書】						
なし						
【論文】						
Complementarity, Fiscal Decentralization and Economic Growth	共著	2007年9月	Economics of Governance, Vol.8 No.4	Akai, N., Y. Nishimura	339～362頁	有
The determinants of fiscal decentralization by various indicators: Evidence from State-level Cross-section Data for the United States	共著	2007年12月	Otemon Economic Studies, Vol.40	Akai, N.	1～7頁	無
地方分権社会における自治体経営	単著	2008年10月	季刊 政策・経営研究 Vol.4		34～45頁	無
Fiscal Decentralization, Commitment, and Inter-County Inequality in US states	共著	2009年3月	Journal of Income Distribution, Vol.18 No.1	Akai, N.	113～129頁	有
Why does fiscal decentralization contribute to economic growth? Test study of estimation with simultaneous equation models including direct and indirect effects from U.S. state-level data	単著	2009年3月	Otemon Economic Studies, Vol.41		49～67頁	無

2011年度 教員活動評価調査票 (記入用紙)

細井 雅代 3 / 5

Fiscal Decentralization, Economic Growth and Economic Volatility—Theory and Evidence from State-level Cross-section Data for the United States	共著	2009年6月	Japanese Economic Review, Vol.60 No.2	Akai, N., Y. Nishimura	223～235頁	無
女性就労の促進政策がもたらす財政への影響—地方自治体の子育て支援の追加的費用と収入の比較分析—	単著	2009年6月	都市問題研究, Vol.61 No.6		22～48頁	無
アメリカ合衆国における公教育財政構造と教育成果	単著	2011年3月	追手門経済・経営研究, Vol.18		39～56頁	無
【その他】						
自治体経営改革の自己診断 2006 —自己評価に基づく組織運営(ガバナンス)評価—	共著	2006年6月	財団法人関西社会経済研究所	小西砂千夫(代表)	共同執筆につき担当箇所抽出不可能	無
諸外国における義務教育費保障制度の比較研究	共著	2008年3月	諸外国教育財政制度研究会 (平成19年度文部科学省委託研究)	赤井伸郎(代表)	15～42頁	無
Decentralization and Educational Performance: Evidence from State-level Cross-section Data for the United States	共著	2006年5月	日本地方財政学会にて報告 (東洋大学)	Akai, N., Y. Tanaka.		
Decentralization and Educational Performance: Evidence from State-level Cross-section Data for the United States	共著	2006年6月	日本経済学会にて報告 (福島大学)	Akai, N., Y. Tanaka.		

【学会における主な活動】		
2007年5月	日本地方財政学会(松山大学)にて討論を行う	
2010年10月	日本財政学会(滋賀大学)にて討論を行う	
【その他研究活動上特記すべき事項】	年月日	備 考
アメリカ合衆国現地調査(Connecticut, Massachusetts, Vermont 州)	2007年10月	義務教育費について

Ⅲ社会活動（3ヵ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）

社会における活動	年月日	備 考
川西市行財政改革審議委員	2007年7月～2009年7月	
大阪市政研究所研究員	2009年4月～	
地域主権の確立に向けた地方行財政制度のあり方に関する調査研究会委員	2010年7月～2011年3月	(財)地方自治研究機構

Ⅳ大学運営活動（3ヵ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）（2011年度就任教員は、2011年度の本学での学内職務及び大学業務をご記入願います。）

大学運営における活動	年月日	備 考
【学内職務】		2008年11月～2009年12月まで 産休・育児休暇
経済学部会計担当委員	2008年4月1日～2008年9月21日	
経済学部懇親会担当委員	2008年4月1日～2008年9月21日	
経済学会会計委員	2008年4月1日～2008年9月21日	
経済学部教務委員	2010年4月～	
カリキュラム改革委員	2010年4月～	

【大学業務】		
高校訪問	2008年7月2日	大阪信愛女学院高等学校
おうてもん塾	2008年7月15日	
オープンキャンパス	2008年	うち一回
高校訪問	2008年7月28日	帝塚山学院高等学校
経済学部テキストシリーズまとめ役	2009年1月～2011年3月	
高校出張模擬授業	2010年	亀岡高等学校、宣真高等学校
高校訪問	2010年7月17日	京都翔英高等学校
高校訪問	2010年7月26日	城星学園高等学校
オープンキャンパス	2010年	うち一回
教育懇談会(岡山会場)	2010年6月12日	

2011年度 教員活動評価調査票 (記入用紙)

三崎 一明 1 / 3

所属	経済学部 経済学科	職名	教授	氏名	三崎 一明	学位	修士(経済学)
----	-----------	----	----	----	-------	----	---------

I 教育活動 (3カ年<2010年度、2009年度、2008年度>の活動についてご記入願います。)

【担当科目】 (2011年度就任教員は、2011年度の本学担当科目をご記入願います。)

1. 学部担当科目 経済原論Ⅰ、新入生演習、演習Ⅰ、演習Ⅱ
2. 大学院担当科目 理論経済学特論Ⅱ、理論経済学特論Ⅱ演習Ⅰ
3. 非常勤等担当科目(括弧内に大学名を記入してください) (2011年度就任教員は、前任校での担当科目についてもご記入願います。) なし

【教育業績】 (2011年度就任教員は、前任校での教育業績についてもご記入願います。)

教育実践上の主な業績	年月日	備 考
1. 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
2. 作成した教科書、教材、参考書 経済原論Ⅰの「講義ノート」プリント	2008年4月	
3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 なし		
4. その他教育活動上特記すべき事項 レクレーション研究会顧問		

II 研究活動 (5カ年<2010年度、2009年度、2008年度、2007年度、2006年度>の活動についてご記入願います。)

著書・論文等の名称	著書・ 共著の別	発行または 発表年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	査読の 有無
【著書】 なし						

【論文】						
経済学部の学生	単著	2007年3月	追手門学院経済・経営研究 (13号)		71～84頁	無
高島鞆之助と大阪偕行社附属小学校	単著	2007年3月	追手門学院大学教育研究紀要 (25号)		65～81頁	無
高島鞆之助	単著	2007年9月	追手門経済論集(第42巻1号)		117～163頁	無
建学の精神はなぜ必要か	単著	2008年3月	追手門学院大学教育研究紀要 (26号)		104～113頁	無
高島鞆之助と今井利兼と銀座	単著	2008年3月	追手門学院大学教育研究紀要 (26号)		91～103頁	無
高島鞆之助Ⅱ	単著	2008年9月	追手門経済論集(第43巻1号)		71～152頁	無
高島鞆之助の侍従時代	単著	2008年3月	追手門経済論集(第43巻2号)		83～134頁	無
高島鞆之助の寄附行為	単著	2009年3月	追手門学院大学教育研究紀要 (27号)		69～81頁	無
高島鞆之助と大久保利通の交通	単著	2010年3月	追手門学院大学教育研究紀要 (28号)		47～93頁	無
【その他】						
なし						
【学会における主な活動】						
なし						
【その他研究活動上特記すべき事項】			年月日		備 考	
なし						

Ⅲ社会活動（3カ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）

社会における活動	年月日	備 考
なし		

Ⅳ大学運営活動（3カ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）（2011年度就任教員は、2011年度の本学での学内職務及び大学業務をご記入願います。）

大学運営における活動	年月日	備 考
【学内職務】		
経済学科長	2008年4月～2010年3月	
大学評議員	2009年4月～	
経済学部長	2010年4月～	
【大学業務】		
高砂南高校	2009年2月23日	

2011年度 教員活動評価調査票 (記入用紙)

吉井 紀夫 1 / 3

所属	経済学部 経済学科	職名	准教授	氏名	吉井 紀夫	学位	経済学修士
----	-----------	----	-----	----	-------	----	-------

I 教育活動 (3カ年<2010年度、2009年度、2008年度>の活動についてご記入願います。)

【担当科目】 (2011年度就任教員は、2011年度の本学担当科目をご記入願います。)

1. 学部担当科目 経済原論 I、キャリアデザイン論、経済変動論 1、経済変動論 2、演習 I、演習 II
2. 大学院担当科目 なし
3. 非常勤等担当科目(括弧内に大学名を記入してください) (2011年度就任教員は、前任校での担当科目についてもご記入願います。) なし

【教育業績】 (2011年度就任教員は、前任校での教育業績についてもご記入願います。)

教育実践上の主な業績	年月日	備 考
1. 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 記憶よりも理解に重点を置く。例えば、重要でない専門用語は使用しない、経済モデルに数値を代入して実際に計算させることを通じて因果関係を理解させる、など。		
2. 作成した教科書、教材、参考書 経済原論 I、経済変動論 1、経済変動論 2 の科目の配布プリント		
3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 特記事項なし		
4. その他教育活動上特記すべき事項 学習や就職などに関する学生相談		

Ⅱ 研究活動（5カ年〈2010年度、2009年度、2008年度、2007年度、2006年度〉の活動についてご記入願います。）

著書・論文等の名称	著書・ 共著の別	発行または 発表年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称)	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	査読の 有無
【著書】						
なし						
【論文】						
均衡財政のもとでの公共支出と失業 給付および雇用率の長期分析	単著	2009年3月	追手門経済論集第43巻 第2号			無
【その他】						
なし						
【学会における主な活動】						
日本経済学会所属						
経済政策学会所属						
【その他研究活動上特記すべき事項】				年月日	備 考	
特記事項なし						

Ⅲ 社会活動（3カ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）

社会における活動	年月日	備 考
特記事項なし		

IV大学運営活動（3ヵ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）（2011年度就任教員は、2011年度の本学での学内職務及び大学業務をご記入願います。）

大学運営における活動	年月日	備 考
【学内職務】		
経済学部教務委員	2007年4月～2010年3月	
経済学部カリキュラム検討委員	2007年4月～2010年3月	
経済学部学生部委員	2010年4月～	
【大学業務】		

所属	経済学部 経済学科	職名	准教授	氏名	四塚 朋子	学位	修士(経済学)、大阪大学、1989年3月取得
----	-----------	----	-----	----	-------	----	------------------------

I 教育活動 (3カ年<2010年度、2009年度、2008年度>の活動についてご記入願います。)

【担当科目】 (2011年度就任教員は、2011年度の本学担当科目をご記入願います。)

1. 学部担当科目 ファイナンス論1・2、経済原論 I、経済データ分析、新入生演習、演習 I—1・2、演習 II—1・2
2. 大学院担当科目
3. 非常勤等担当科目(括弧内に大学名を記入してください) (2011年度就任教員は、前任校での担当科目についてもご記入願います。)

【教育業績】 (2011年度就任教員は、前任校での教育業績についてもご記入願います。)

教育実践上の主な業績	年月日	備 考
<p>1. 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)</p> <p>講義科目では、伝統的な理論と新しいアプローチ、時事問題をバランスよく混合した内容構成を心掛けている。ファイナンス論における直近の授業評価での「内容が新鮮で興味深い」項目は 4.43(大学平均 3.97)である。総合では、4.60(大学平均 3.99)であった。多少のばらつきはあるものの、常に4は軽く超えている。</p>	講義科目:毎年毎学期	
<p>演習 I の学生に対しては、授業時間以外でも SPI・小論文対策として、毎週、読解・要約、分析問題、形式論理・日常論理問題の練習課題を、ユニバーサルパスポートを通じて出している。</p> <p>演習 II の学生に対しては本人の意向を尊重しながら、本の貸与をはじめ、なるべく丁寧な卒業論文指導を心がけている。</p>	演習:2009年以降の秋学期	
<p>2. 作成した教科書、教材、参考書</p> <p>すべての科目について、パワーポイントファイルとエクセルファイルを作成。簡潔で分かりやすい表現を心がけている。直近の授業評価での「プレゼンテーションが適切」項目では 4.71(大学平均 3.88)であった。</p>	毎年毎学期	

3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
4. その他教育活動上特記すべき事項		

Ⅱ 研究活動 (5カ年<2010年度、2009年度、2008年度、2007年度、2006年度>の活動についてご記入願います。)

著書・論文等の名称	著書・共著の別	発行または発表年月	発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	編者・著者名(共著の場合のみ記入)	該当頁数	査読の有無
【著書】						
【論文】						
CAT ボンドのプライシング・パズルに関する研究	単著	2007年2月	(社)大阪銀行協会研究助成論文集(第11号)		pp.1-16	無、助成審査は有
大災害リスクのプレミアム・パズルについて	単著	2008年3月	『大阪大学経済学』(第57巻第4号)		pp.177-188	無
【その他】						
口頭発表「CAT ボンドのプライシング・パズルに関する研究」		2007年2月	社団法人・大阪銀行協会			
【学会における主な活動】						
【その他研究活動上特記すべき事項】			年月日		備 考	
大銀協フォーラム(大阪銀行協会)奨励賞			2006年		「CAT ボンドのプレミアム・パズルに関する研究」に対して	

Ⅲ社会活動（3ヵ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）

社会における活動	年月日	備 考
茨木市特別職報酬等審議会委員(市長職)	2008年5月	
公益財団法人 日弁連法務研究財団 専門部会委員	2008,2009,2010年度	

Ⅳ大学運営活動（3ヵ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）（2011年度就任教員は、2011年度の本学での学内職務及び大学業務をご記入願います。）

大学運営における活動	年月日	備 考
【学内職務】		
学院創立120周年記念事業企画広報委員	08年11月まで	
キャリア開発部委員	08年4月－09年3月	
経済学部・経済学会会計	08年4月－	
【大学業務】		
オープンキャンパス 模擬講義『ライアーゲームの経済学』	2008年8月31日	
「人類の偉大なる発明品「株式」とそのフロンティア」『経済知力を磨く』所収	毎年4月刊	
【その他大学運営活動上特記すべき事項】		
おうてもん塾「日本経済の昨日・今日・明日」第6講『資本市場との付き合い方』	2008年8月5日	

2011年度 追手門学院大学 教員活動評価調査票 【経済学部 ヒューマンエコノミー学科】

◎教員活動評価票各評価領域の記載年度。

- I 教育活動 2010年度、2009年度、2008年度の3カ年。
- II 研究活動 2010年度、2009年度、2008年度、2007年度、2006年度の5カ年。
- III 社会活動 2010年度、2009年度、2008年度の3カ年。
- IV 大学運営活動 2010年度、2009年度、2008年度の3カ年。

〈ヒューマンエコノミー学科〉

今堀 洋子	2～7 ページ
太田 拓男	8～10 ページ
衣笠 達夫	11～16 ページ
島本 美智男	17～19 ページ
曹 満	20～22 ページ
内藤 雄太	23～26 ページ
橋本 圭司	27～28 ページ
松本 直樹	29～31 ページ
村上 亨	32～34 ページ
森島 覚	35～37 ページ
李 義昭	38～48 ページ

2011年度 教員活動評価調査票 (記入用紙)

今堀 洋子 1/6

所属	経済学部 ヒューマンエコノミー学科	職名	准教授	氏名	今堀 洋子	学位	博士(工学)、大阪大学、2004年07月取得
----	----------------------	----	-----	----	-------	----	------------------------

I 教育活動 (3カ年<2010年度、2009年度、2008年度>の活動についてご記入願います。)

【担当科目】 (2011年度就任教員は、2011年度の本科担当科目をご記入願います。)

1. 学部担当科目

地域と暮らし、入門コンピュータ、新入生演習、特殊講義(フィールドワーク)、現代社会と人権、北摂を学ぶ、オーストラリアを学ぶ、地球環境論

2. 大学院担当科目

NPO特論

3. 非常勤等担当科目(括弧内に大学名を記入してください) (2011年度就任教員は、前任校での担当科目についてもご記入願います。)

環境特別講座 (山口県立大学)

【教育業績】 (2011年度就任教員は、前任校での教育業績についてもご記入願います。)

教育実践上の主な業績	年月日	備 考
1. 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 一方通行でなく、双方向の授業を意識し、それを実現するために、受講生に書くということで、彼らの考えを引き出し、それを、まとめて見える化するということを、担当する複数授業で試みている。 また、対話の手法であるワールド・カフェを用いて、それぞれの考えを聴きあい、お互いの違いをみとめつつ、共感できる事を、体験することも試みている。 更に、「地域と暮らし」では、教室の外に出て、希望者には、川掃除、田畑の作業などを、体験してもらうことで、ボーナスポイントを付与することもしている。	2008年度より実施	
2. 作成した教科書、教材、参考書 経済知力を磨く	2008年	
大学連携 e ラーニング TIESの教育改革	2009年8月	
つながりのなかではたらきまなびあそぶ 編集・発行 suilen	2010年1月	

3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
4. その他教育活動上特記すべき事項		
学習支援室のアドバイザー	2009年7月から	
春休みを利用したITパスポート(旧初級シスアド)対策集中講座の世話役	2010年3月まで	
プレントランスにおける世話役	2008年～現在	

Ⅱ 研究活動（5カ年〈2010年度、2009年度、2008年度、2007年度、2006年度〉の活動についてご記入願います。）

著書・論文等の名称	著書・共著の別	発行または発表年月	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数	査読の有無
【著書】						
サービサイジング エコビジネスが売 るものとは？	共著	2006年12月	財団法人 省エネルギーセンタ ー	地球環境関西フォーラム循環 社会技術部会（編集）、榎村 久子	239頁	
【論文】						
家電のグリーン・サービサイジングに 対する 利用者の受容性と事業化の 方策	単著	2006年7月	環境科学会誌, Vol.19, No.4		347-363頁	有
グリーン・サービサイジングの類型化 に基づく 事業性及び環境保全性 に関する事例分析	共著	2006年10月	土木学会、環境システム研究 論文集, vol34	◎郡嶋孝、池田秀文、今堀洋 子、小沢寿輔、玄場公規、竹 内裕明、辰巳菊子、松本亨、 吉田登	335-346頁	有
Reuse Strategies for Electronics and Electronic Products towards a Sustainable Society in Japan	単著	2006年11月	追手門経済論集, 第41巻 第1号		345-357頁	無

ライフスタイル変化に伴う家電製品の機能提供の類型	単著	2007年3月	追手門経済・経営研究, 第14号		1-6頁	無
環境 NPO におけるインターネット活用方策	単著	2007年6月	日本情報経営学会 第54回			無
リターナブルびん普及に関する施策—南九州の焼酎を中心としたリターナブルびんを事例に—	共著	2009年9月	追手門経済論集, 第44巻 第1号	◎今堀洋子、見市晃	1-11頁	無
コミュニティのためのスモールビジネス ～追手門学院大学の足元を見つめて～	単著	2009年12月	ベンチャー研究所			無
パーマカルチャー ～デジャードン・ゆかりさんのささやく樹での実践からの学び～	単著	2010年3月	オーストラリア研究紀要, 35号		59-69頁	無
【その他】						
サービスサイズを実現するために必要な経済的な動機づけは何か？		2006年10月14日	サービスサイズ 国際シンポジウム 千葉大学			
サービスサイジング～現状と可能性～		2006年12月20日	地球環境関西フォーラム第53回循環社会技術部会及び第15回サービスサイジングWG合同会合			
地域資源循環を促進するグリーン・サービスサイジング～飯田市の温室農家向け熱供給サービスを事例として～		2007年6月30日	工業経営研究学会			

Servicizing Research in Japan		2007年7月3日	Korea-Japan-US Exchange Seminar on Servicizing			
Sustainable movements in Japan		2007年9月18日	Schumacher College short course of Towards urban sustainability			
ローカルエコノミー地域に根ざした経済システム～追大の周辺地域に着目して～		2008年11月15日	日本情報経営学会関西支部			
飯田市におけるGSSの試み ～持続可能な地域づくりを目指して～		2008年11月26日	ATCグリーンプラザ「グリーンサービサイジングで広がるビジネスチャンス」			
「シューマッハ・カレッジにおける『スモール・イズ・ビューティフル』の実践とアドプト」		2008年12月2日	大阪大学サステイナビリティ・サイエンス研究機構	谷川佳子、今堀洋子		
グリーン・サービサイジング		2008年12月8日	ちくじん環境部会			
谷川佳子さんの修士論文の発表会と対話の会の開催		2010年10月18日	追手門学院大学	谷川佳子、今堀洋子		
【学会における主な活動】						
【その他研究活動上特記すべき事項】			年月日	備	考	
科学研究費補助金(基盤研究 C)研究代表者「消費者の受容性から見たグリーン・サービサイジング戦略の検討」			2006年度～2007年度			

Ⅲ社会活動（3カ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）

社会における活動	年月日	備	考
特定非営利活動法人 イ・キューブ 理事	2002年1月～現在		
地球環境関西フォーラム サービスサイジングWG 委員	2002年4月～現在		
関西エコステージ研究会 第三者評価委員会 委員	2003年11月～現在		
一般社団法人 エコステージ協会 評価基準委員会 委員	2003年11月～現在		
スロービジネススクール 1期生	2004年4月～2010年3月		
茨木市 生涯学習センターパソコン講座 講師	2005年5月～現在		
茨木市 ごみ減量審議会 委員	2005年8月～現在		
吹田市モモの家 運営委員	2009年4月～現在		
茨木市 産業振興ビジョン策定検討委員会 委員	2009年9月～現在		
茨木市 地球温暖化対策推進委員会 委員	2010年9月～現在		
茨木市 開発審議会 委員	2010年9月～現在		
環境省「我が国におけるびんリユースシステムの在り方に関する検討会」委員	2011年1月～現在		

Ⅳ大学運営活動（3カ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）（2011年度就任教員は、2011年度の本学での学内職務及び大学業務をご記入願います。）

大学運営における活動	年月日	備	考
【学内職務】			
情報FD	2007年4月～2010年3月		
教務委員	2009年4月～現在		
カリキュラム改革委員	2009年9月～現在		
懇親会委員	2010年4月～		

【大学業務】		
出張授業	毎年 複数回	
オープンキャンパス 模擬授業	2008年度～2009年度	
プリエントランスの集い 担当	2008年度～現在	
大学出版物の執筆 愛語	2009年12月	
学習支援室 担当教員	2009年7月～現在	
【その他大学運営活動上特記すべき事項】		
08年度春期公開講座「異文化理解－新しい価値の創造を求めて」の講師	2008年4月14日	「キーワードは3S 持続可能な暮らしとは？」
08年度 秋の専門講座 日本経済のこれから 講師	2008年10月16日	「ローカルエコノミー暮らしに根ざした経済システム」
08年度 経済学部「特色ある教育」シンポジウム 司会	2008年12月	「幸せって、なんだっけ」－豊かさを問い直す－ 辻信一氏
09年度 経済学部 秋の公開講座「持続可能な経済社会の構築をめざして」 企画と司会	2009年11月14日	「不都合な真実を超えて ～持続可能な社会を目指して～」 枝廣淳子氏
10年度 経済学部 春の公開講座「持続可能な経済社会の構築をめざして」 企画と司会	2010年6月	「トランジション・タウン」 中園順子氏
10年度 経済学部 秋の公開講座「持続可能な経済社会の構築をめざして」 企画と司会	2011年1月	「持続可能な社会 ～私達の暮らしとエネルギー～」 鎌仲ひとみ氏
11年度 経済学部 春の公開講座「持続可能な経済社会の構築をめざして」 企画と司会	2011年6月	「自律した生き方」 らんぼう氏他
11年度 経済学部 春の公開講座「持続可能な経済社会の構築をめざして」 企画と司会	2011年12月	「祝い島で生きる」 山戸孝氏

2011年度 教員活動評価調査票 (記入用紙)

太田 拓男 1/3

所属	経済学部 ヒューマンエコノミー学科	職名	教授	氏名	太田 拓男	学位	修士(経済学)、大阪、1973年3月取得
----	----------------------	----	----	----	-------	----	----------------------

I 教育活動 (3カ年<2010年度、2009年度、2008年度>の活動についてご記入願います。)

【担当科目】 (2011年度就任教員は、2011年度の本科担当科目をご記入願います。)

1. 学部担当科目

数理統計学、経済情報処理、経済統計1、経済統計2、新入生演習、演習I-1、演習I-2、演習II-1、演習II-2

2. 大学院担当科目

経済統計学特論、経済統計学特論演習I、経済統計学特論演習II

3. 非常勤等担当科目(括弧内に大学名を記入してください) (2011年度就任教員は、前任校での担当科目についてもご記入願います。)

【教育業績】 (2011年度就任教員は、前任校での教育業績についてもご記入願います。)

教育実践上の主な業績	年月日	備 考
1. 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
参加者の取引からなる経済システムのシミュレーションゲームを用いた講義	～2008年4月～現在	
対話的な操作による統計現象の法則性の学習システムを用いた講義	～2008年4月～現在	
2. 作成した教科書、教材、参考書		
参加者の取引からなる経済システムのシミュレーションゲーム	～2008年4月～現在	開発・改訂継続中(共同開発)、ネットで公開中
数理統計学講義資料	～2008年4月～現在	講義資料として配布、出版準備中
3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
Web上の経済システムのシミュレーション その1 -エージェント機能の導入-	2008年9月	共同発表筆頭者
教育システム情報学会 第33回全国大会案内		
Web上の経済システムのシミュレーション その4-エージェント機能の展開-	2010年8月	
その5-エージェント機能の運用-		
教育システム情報学会 第35回全国大会案内		

4. その他教育活動上特記すべき事項		
--------------------	--	--

Ⅱ 研究活動（5カ年〈2010年度、2009年度、2008年度、2007年度、2006年度〉の活動についてご記入願います。）

著書・論文等の名称	著書・共著の別	発行または発表年月	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数	査読の有無
【著書】						
【論文】						
Logistic Regression Applied to getting the Lowest Score in an Examination	単著	2008年12月	Otemon Economic StudiesVol.41		p77～p81	無
【その他】						
【学会における主な活動】						
【その他研究活動上特記すべき事項】			年月日	備考		

Ⅲ 社会活動（3カ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）

社会における活動	年月日	備考
茨木市生涯学習センター市民講座 「初歩からのパソコン」講師	～2009年9月	

2011年度 教員活動評価調査票（記入用紙）

太田 拓男 3/3

IV大学運営活動（3ヵ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）（2011年度就任教員は、2011年度の本学での学内職務及び大学業務をご記入願います。）

大学運営における活動	年月日	備 考
【学内職務】		
経済学部入試主事	2008年4月～2010年3月	
入試部特命業務担当	2008年4月～2010年3月	
入試部長	2010年4月～現在	
【大学業務】		

2011年度 教員活動評価調査票 (記入用紙)

衣笠 達夫 1/6

所属	経済学部 ヒューマンエコノミー学科	職名	教授	氏名	衣笠 達夫	学位	京都大学博士(経済学)、京都大学、1995年3月取得
----	----------------------	----	----	----	-------	----	----------------------------

I 教育活動 (3カ年<2010年度、2009年度、2008年度>の活動についてご記入願います。)

【担当科目】 (2011年度就任教員は、2011年度の本科担当科目をご記入願います。)

1. 学部担当科目

財政学1A、2A、財政学1B、2B、比較公共政策1、2、新入生演習、演習1、演習2

2. 大学院担当科目

財政学特論、財政学特論演習Ⅰ、財政学特論演習Ⅱ、財政学特殊研究

3. 非常勤等担当科目(括弧内に大学名を記入してください) (2011年度就任教員は、前任校での担当科目についてもご記入願います。)

公益事業論(流通科学大学)

【教育業績】 (2011年度就任教員は、前任校での教育業績についてもご記入願います。)

教育実践上の主な業績	年月日	備 考
1. 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 比較公共政策2(市町村の財政分析手法)のレポート作成に関して、毎年、学生のうち希望者を引率し、大学周辺の市町村を尋ね、財政計画の作成方法等について説明を受けている。	2006年度～	
2. 作成した教科書、教材、参考書 財政学1、2(国、地方公共団体の財政制度)のハンドアウト作成	2007年度～	
比較公共政策1(公益事業論)の教材作成	2007年度～2009年度	
比較公共政策1(公益事業論)の教科書作成	2010年度～	
3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
4. その他教育活動上特記すべき事項 岡山大学 社会科学研究科 博士論文 学外審査委員	2009年2月	

2011年度 教員活動評価調査票（記入用紙）

衣笠 達夫 2/6

Ⅱ 研究活動（5カ年〈2010年度、2009年度、2008年度、2007年度、2006年度〉の活動についてご記入願います。）

著書・論文等の名称	著書・共著の別	発行または発表年月	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数	査読の有無
【著書】						
【論文】						
Dynamic factor demand model: A real option approach.	単著	2006年5月	Proceedings of the 37th ISCIE International Symposium on Stochastic Systems Theory and Its Applications, (2006)		208～213頁	有
Dynamic Factor Demand Model under Uncertainty on Japanese Gas Firms	単著	2007年2月	International Journal of Innovative Computing, Information and Control, Vol.12, No.3		957～994頁	有
九州電力の海外での事業展開	単著	2008年6月	国際東アジア研究センター紀要 19巻2号		16～23頁	有
地方公営企業の生産関数の推定	単著	2009年1月	地域学研究(日本地域学会誌) 第38巻3号		599～614頁	有
地方公営企業の複数生産物の距離関数とRay生産関数の推定	単著	2009年4月	公益事業研究(公益事業学会誌)第60巻4号		37～46頁	有
【その他】						
生産性分析研究の新たな方向	単著	2006年11月	追手門経済論集 41巻1号		369～385頁	無
公共性について	単著	2006年12月	追手門経済論集 41巻2号		92～104頁	無
公企業の種類と役割	単著	2007年12月	追手門経済論集 42巻2号		1～11頁	無

地方公営企業の複数生産物の生産関数の推定；distance関数の計測手法を用いたmulti-outputの生産関数の推定	単著	2008年9月	追手門経済論集 43巻 1号		222～238頁	無
書評 森恒夫著『東南アジアの経済開発と政府の役割』	単著	2008年12月	国際公共経済学会誌 19巻		253頁	無
指定管理者制度に関する一考察	単著	2009年3月	追手門経済論集 43巻 2号		167～179頁	無
書評 遠山嘉博著『日豪経済関係の研究』	単著	2009年12月	国際公共経済学会誌 20巻		234頁	無
地方公営企業の経済学	単著	2010年3月	追手門経済論集 44巻 2号		1～60頁	無
地方公共団体の生産性分析：その1 生産関数モデル	単著	2011年3月	追手門経済論集 45巻 2号		34～53頁	無
【学会発表、座長、討論者等】						
公益事業学会 座長と討論1つ		2006年6月	大東文化大学			
日本地域学会 シンポジウム座長		2006年10月	千葉商科大学			
応用地域学会 座長と討論1つ		2006年12月	広島大学			
公益事業学会 座長と討論1つ		2007年6月	拓殖大学			
計画行政学会 シンポジウム座長		2007年9月	大阪大学			
日本地域学会 座長、発表		2007年10月	九州大学			
国際公共経済学会 座長と討論		2007年12月	名古屋学院大学			
公益事業学会 発表、討論		2008年6月	宮城蔵王ロイヤルホテル			
日本地域学会 シンポジウム座長		2008年10月	はこだて未来大学			
日本経済学会秋季大会 討論		2008年10月	近畿大学			
国際公共経済学会 座長		2008年12月	兵庫県立大学			
応用地域学会 座長		2008年12月	釧路公立大学			

公益事業学会 座長、発表		2009年6月	京都大学			
計画行政学会 座長		2009年9月	徳島大学			
日本経済学会秋季大会 討論		2009年9月	明治大学			
Japan-China Regional Science Semi- nor, discussant		2009年10月	プラザ京都			
日本地域学会 座長、討論、発表		2009年10月	広島大学			
国際公共経済学会 座長と討論		2009年12月	東洋大学			
応用地域学会 座長、討論		2009年12月	山形大学			
公益事業学会 座長、討論		2010年6月	北海学園大学			
日本地域学会 座長、討論		2010年10月	政策研究大学院大学			
国際公共経済学会 座長、討論		2010年12月	立命館大学			
応用地域学会 座長、討論		2010年12月	名古屋大学			
その他、細かいのがたくさんありますが省略しました。						
【学会における主な活動】						
1992年7月～	公益事業学会理事					
1994年6月～	Review of Urban and Regional Development Studies 論文審査委員					
1995年6月～	ETRI Journal (National Institute of Electronics & Telecommunications Research in Korea) 編集委員、 論文審査委員					
1996年6月～	日本経済政策学会 関西部会理事					
1996年6月～	社会経済研究 ((財)電力中央研究所) 論文審査委員					
1996年12月～2008年12月	国際公共経済学会理事					
2003年6月～2008年5月	日本地域学会理事、学会誌編集委員					
2005年12月～	応用地域学会 学会誌編集委員					

2006年6月～	公益事業学会 学会賞選考委員		
2006年12月～	国際公共経済学会 学会賞選考委員		
2008年6月～	応用地域学会 運営委員 会計担当理事		
2008年12月～	国際公共経済学会 常任理事		
2008年6月～2009年5月	日本経済政策学会誌 編集委員		
2008年7月～2010年7月	公益事業学会 関西部会 事務局長		
2009年8月～	Review of Urban and Regional Development Studies 編集委員		
【その他研究活動上特記すべき事項】	年月日	備	考
「本人の申し出により非公表とした。」			

Ⅲ社会活動（3カ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）

社会における活動	年月日	備	考
「本人の申し出により非公表とした。」			

Ⅳ大学運営活動（3カ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）（2011年度就任教員は、2011年度の本学での学内職務及び大学業務をご記入願います。）

大学運営における活動	年月日	備	考
【学内職務】			
人事委員、経済学研究科長（2008年4月～2008年11月）	2008年度		
採用・人事審査委員	2008年度		
学内昇格審査委員	2008年度		
特色のある教育委員	2008年度		
人事委員	2009年度		
学内昇格審査委員	2009年度		

2011年度 教員活動評価調査票（記入用紙）

衣笠 達夫 6/6

特色のある教育委員	2009年度	
人事委員	2010年度	
学内昇格審査委員	2010年度	
キャリア開発委員	2010年度	
【大学業務】		
オープンキャンパス 講義担当	2008年度	
留学生向け講義 日本事情3 担当	2007年度～2008年度	

2011年度 教員活動評価調査票 (記入用紙)

島本 美智男 1/3

所属	経済学部 ヒューマンエコノミー学科	職名	教授	氏名	島本 美智男	学位	修士(経済学)、神戸大学、1981年3月取得
----	----------------------	----	----	----	--------	----	------------------------

I 教育活動 (3カ年<2010年度、2009年度、2008年度>の活動についてご記入願います。)

【担当科目】 (2011年度就任教員は、2011年度の本科担当科目をご記入願います。)

1. 学部担当科目

演習Ⅰ、演習Ⅱ、経済学史1、経済学史2、社会思想史、新入生演習、経済学基礎演習1、経済学基礎演習2、学び論

2. 大学院担当科目

経済学史特論、経済学史特論演習

3. 非常勤等担当科目(括弧内に大学名を記入してください) (2011年度就任教員は、前任校での担当科目についてもご記入願います。)

【教育業績】 (2011年度就任教員は、前任校での教育業績についてもご記入願います。)

教育実践上の主な業績	年月日	備 考
1. 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 大人数授業でのコミュニティカードの利用	毎年度	学生参加の一助として同カードを活用
少人数授業でのディベート方式の導入	毎年度	ゼミ生の発表・討論能力の向上のため
2. 作成した教科書、教材、参考書 A.F.ウッツ(島本美智男訳)『経済社会の倫理』晃洋書房 2003年	適宜	経済学史において倫理思想の復権を説明するため
3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
4. その他教育活動上特記すべき事項 模擬面接	適宜	演習Ⅰにおいて中小企業社長等を招きゼミ生への講演と面接を実施

2011年度 教員活動評価調査票（記入用紙）

島本 美智男 2/3

Ⅱ 研究活動（5カ年〈2010年度、2009年度、2008年度、2007年度、2006年度〉の活動についてご記入願います。）

著書・論文等の名称	著書・ 共著の別	発行または 発表年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称)	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	査読の 有無
【著書】						
【論文】						
カトリック社会論における私有論拠の 地位	単著	2009年9月	追手門経済論集 (第44巻第1号)		81～104頁	無
【その他】						
【学会における主な活動】						
【その他研究活動上特記すべき事項】			年月日	備	考	

Ⅲ 社会活動（3カ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）

社会における活動	年月日	備	考
隣地マンション対策協議会代表・居住地管理組合理事長として隣地マンション建設計画に対する反対運動を組織する。大津市建築審査会に審査請求を行ったが棄却、行政訴訟は断念した。	2007年2月～2010年1月		市内各所の運動とも連携し大津市の建築行政に対して高度規制などの改善を迫るものであった。

2011年度 教員活動評価調査票（記入用紙）

島本 美智男 3/3

IV大学運営活動（3カ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）（2011年度就任教員は、2011年度の本学での学内職務及び大学業務をご記入願います。）

大学運営における活動	年月日	備 考
【学内職務】 全学自己評価委員	2008～2009年度	
【大学業務】 出張授業	2009年3月17日	滋賀県立守山北高校
オープンキャンパス	過去3カ年	
プリエントランス	2008年	

2011年度 教員活動評価調査票 (記入用紙)

曹 満 1/3

所属	経済学部 ヒューマンエコノミー学科	職名	准教授	氏名	曹 満	学位	修士(経済学)、九州大学、1988年3月取得
----	----------------------	----	-----	----	-----	----	------------------------

I 教育活動 (3カ年<2010年度、2009年度、2008年度>の活動についてご記入願います。)

【担当科目】 (2011年度就任教員は、2011年度の本科担当科目をご記入願います。)

1. 学部担当科目

1. アジア経済論 A 2. アジア経済論 B 3. 中国語ビジネスコミュニケーション 4. 演習1 5. 演習2 6. 新入生演習

2. 大学院担当科目

3. 非常勤等担当科目(括弧内に大学名を記入してください) (2011年度就任教員は、前任校での担当科目についてもご記入願います。)

【教育業績】 (2011年度就任教員は、前任校での教育業績についてもご記入願います。)

教育実践上の主な業績	年月日	備 考
<p>1. 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)</p> <p>(1) アジア経済論では、毎年世界、アジアおよび中国の経済情勢の変化に応じて授業の内容を差し替え、なるべく新鮮なものを学生に提供するようにしている。毎度の授業準備は大変だが、この点、学生に評価されている。出席率のアップ、私語への対応、学生の授業参加などの面においては、様々な工夫をしている、その結果、この科目の毎年の授業アンケートでは学生から、平均値4点以上の評価をもらえ、特に、学生の満足度では大学平均を大きく上回る評価を得ている。</p> <p>(2) 中国語ビジネスコミュニケーションの科目では、中国留学生の活用など全員参加型の授業形式を取り、随分活発で盛り上がった雰囲気の中で授業を進めている。その努力が学生に認められ、これまでの授業アンケートでは一貫して高い評価を得ている。</p> <p>他の科目については、アンケートを取っていないが、ほぼ同じ方針で取り組んでいる。</p>	2008年度～2010年度	

2. 作成した教科書、教材、参考書 教科書作っていないが、最新の資料や情報を取り入れた手作りのプリントをいつも学生に配布している。	2008年度～2010年度	
3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 毎年、教育方法、教育実践に関する内容のものを学部の自己評価冊子に投稿している。	2008年度～2010年度	
4. その他教育活動上特記すべき事項 学内で、留学生関係の仕事をよくやっている。たとえば、毎年、南京大学への派遣留学生の面接試験をずっと担当している。いろいろな翻訳のこともたまにある。また、南京大学からの編入留学生の入学前教育も毎年担当している。留学生の研究生指導もほぼ毎年やっている。いろいろな留学生からの相談も日常的にやっている。以上は、いずれもボランティアの形でやっている。	2008年度～2010年度	

Ⅱ 研究活動（5カ年〈2010年度、2009年度、2008年度、2007年度、2006年度〉の活動についてご記入願います。）

著書・論文等の名称	著書・共著の別	発行または発表年月	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数	査読の有無
【著書】						
【論文】						
中国個人消費不足の原因分析	単著	2010年3月	追手門経済論集第44巻第2号		169～192	
【その他】						
【学会における主な活動】						

【その他研究活動上特記すべき事項】	年月日	備 考

Ⅲ社会活動（3カ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）

社会における活動	年月日	備 考
2008年度秋の大学専門講座で講師を担当	2008年	
大学図書館での書の展示会の開催で中国伝統文化の紹介	2009年	
2010年度追手門学院大学公開講座で講師担当	2010年	
大阪ロータリークラブの例会で中学経済をテーマに講演を担当	2010年	
大阪府「公開講座フェスタ2010」で講師を担当	2010年	

Ⅳ大学運営活動（3カ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）（2011年度就任教員は、2011年度の本学での学内職務及び大学業務をご記入願います。）

大学運営における活動	年月日	備 考
【学内職務】 キャンパス環境整備委員会委員、留学生担当委員、編入学生委員、経済学部経済学会庶務委員、それぞれの業務を担当している。	2008年度～2010年度	
【大学業務】 毎年のオープンキャンパスに手伝いをしている。	2008年～2010年	

2011年度 教員活動評価調査票 (記入用紙)

内藤 雄太 1/4

所属	経済学部 ヒューマンエコノミー学科	職名	講師	氏名	内藤 雄太	学位	修士(商学)、早稲田大学、1997年3月取得
----	----------------------	----	----	----	-------	----	------------------------

I 教育活動 (3カ年<2010年度、2009年度、2008年度>の活動についてご記入願います。)

【担当科目】 (2011年度就任教員は、2011年度の本学担当科目をご記入願います。)

1. 学部担当科目

労働経済学、国際労働経済論、経済学基礎演習、キャリアデザイン論、演習 I、演習 II、Japanese Business (英語:国際交流教育センター)

2. 大学院担当科目

3. 非常勤等担当科目(括弧内に大学名を記入してください) (2011年度就任教員は、前任校での担当科目についてもご記入願います。)

【教育業績】 (2011年度就任教員は、前任校での教育業績についてもご記入願います。)

教育実践上の主な業績	年月日	備 考
1. 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) グループワークの活用(経済学基礎演習、演習など)	毎年	
2. 作成した教科書、教材、参考書 各種関連資料の作成・配付(経済学基礎演習、演習など)	毎年	「思考の図式化」「ディベートの意義と手順」など 10種類。演習ではそれを「資料ファイル」にまとめて配布し、図書館・指定図書コーナーと連携を図る。
「数字の裏を読む、経済の先を読む」追手門学院大学経済学部『経済知力をみがく! -Sharpen Your Economic Intelligence-』(初版および改訂版)	2008年3月、2010年3月	
3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
4. その他教育活動上特記すべき事項 留学生支援(研究生指導)、大学ブランディングの会(経営学部見市教授、国際教養学部梅村教授等)における学生FDスタッフとの活動など		

2011年度 教員活動評価調査票（記入用紙）

内藤 雄太 2/4

Ⅱ 研究活動（5カ年〈2010年度、2009年度、2008年度、2007年度、2006年度〉の活動についてご記入願います。）

著書・論文等の名称	著書・共著の別	発行または発表年月	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数	査読の有無
【著書】						
【論文】						
経済学と「システム思考」～大学低学年授業における「因果連鎖図」導入の試み(1)	単著	2007年3月	追手門学院大学教育研究所『追手門学院大学教育研究所紀要第25号』		40～46頁	無
「労働の質」と「ジョブ・デザイン」の経済学的意義	単著	2009年3月	追手門学院大学経済学部『追手門経済論集第43巻第2号』		222～242頁	無
経済学と「システム思考」(2)～演習科目等における資料ファイルの作成と活用	単著	2010年3月	追手門学院大学教育研究所『追手門学院大学教育研究所紀要第28号』		94～103頁	無
企業行動としての雇用調整：理論の再検討と個別産業データの分析	単著	2010年9月	追手門学院大学経済学部『追手門経済論集第45巻第1号』		47～71頁	無
「経済統合と労働市場」の研究に向けて	単著	2011年3月	早稲田大学商学部『早稲田商学』第428号		235～247頁	無
【その他】						
報告書：新入生全員履修科目「キャリアデザイン論」の試み	単著	2007年3月	追手門学院大学『平成18年度入学時からのライフデザインを目標としたキャリア教育』		2～6頁	無
【学会における主な活動】						
2008年3月	日本経済政策学会 関西部会研究大会 実行委員長					
2010年6月～	日本経済政策学会・関西部会幹事					

【その他研究活動上特記すべき事項】	年月日	備 考

Ⅲ社会活動（3カ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）

社会における活動	年月日	備 考
2008年度追手門学院大学秋の専門講座『日本経済のこれから』講演	2008年9月	第2回「雇用制度の歴史と今後」
茨木市総合評価一般競争入札評価委員	2009年2月～5月、 2011年2月～5月	

Ⅳ大学運営活動（3カ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）（2011年度就任教員は、2011年度の本学での学内職務及び大学業務をご記入願います。）

大学運営における活動	年月日	備 考
【学内職務】		
国際交流教育センター委員	～2008年	
学生部委員	～2009年	
FD推進委員	2008年～現在	
学科HP担当	～2010年	
教育研究所所員	～2009年	
キャリア形成教育プロジェクトチーム委員	～2010年	
キャリアデータベース検討WG委員	2007年～2010年	
【大学業務】		
第1回オープンキャンパスにおける模擬授業	2008年6月	
茨木西高等学校見学学生への授業公開	2008年10月	
第1回オープンキャンパスにおける模擬授業	2009年6月	

2011年度 教員活動評価調査票（記入用紙）

内藤 雄太 4/4

「書評:小倉一哉『エンドレス・ワーカーズ 働きすぎ日本人の実像』」『教育研究所 News Letter No.36』	2008年 5月	学内書誌執筆
「追手門学院大学第15回教育研究所セミナー報告:情報社会のなかの学生」『教育研究所 News Letter No.37』	2008年 7月	学内書誌執筆
「コンソーシアム京都・第6回フォーラム報告:高校新教育課程と接続教育の課題 (分科会)キャリア教育/数学教育」『教育研究所 News Letter No.39』	2009年 1月	学内書誌執筆
「ニュー・コラム:イノベーションのむずかしさ」『教育研究所 News Letter No.40』	2009年 3月	学内書誌執筆
「「不安」を読み解く」追手門学院大学人権啓発委員会『追大人権ビエンナーレ第2号』	2009年 4月	学内書誌執筆
「公開授業と授業研究会に参加してー感謝と課題ー」『追手門学院大学 公開授業通信 No.4』	2009年 11月	学内書誌執筆
「気を銜うことなかれ・・・」『追手門学院大学 公開授業通信 No.6』	2011年 2月	学内書誌執筆

2011年度 教員活動評価調査票 (記入用紙)

橋本 圭司 1/2

所属	経済学部 ヒューマンエコノミー学科	職名	教授	氏名	橋本 圭司	学位	経済学(博士)
----	----------------------	----	----	----	-------	----	---------

I 教育活動 (3カ年<2010年度、2009年度、2008年度>の活動についてご記入願います。)

【担当科目】 (2011年度就任教員は、2011年度の担当科目をご記入願います。)

1. 学部担当科目 経済原論Ⅰ 経済原論Ⅱ アメリカ経済論1 アメリカ経済論2 演習Ⅰ 演習Ⅱ 新入生演習 オーストラリアを学ぶ
2. 大学院担当科目 理論経済学特論Ⅲ 理論経済学特論Ⅲ演習Ⅰ 理論経済学特論Ⅲ演習Ⅱ 研究演習
3. 非常勤等担当科目(括弧内に大学名を記入してください) (2011年度就任教員は、前任校での担当科目についてもご記入願います。) マクロ経済学Ⅰ(近畿大学) マクロ経済学Ⅱ(近畿大学)

【教育業績】 (2011年度就任教員は、前任校での教育業績についてもご記入願います。)

教育実践上の主な業績	年月日	備考
1. 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
2. 作成した教科書、教材、参考書		
3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
4. その他教育活動上特記すべき事項		

II 研究活動 (5カ年<2010年度、2009年度、2008年度、2007年度、2006年度>の活動についてご記入願います。)

著書・論文等の名称	著書・共著の別	発行または発表年月	発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	編者・著者名(共著の場合のみ記入)	該当頁数	査読の有無
【著書】						

【論文】						
オーストラリアのツーリズム需要と経済成長	単	2011年3月	オーストラリア研究所		22-28	無
【その他】						
【学会における主な活動】						
		Pavoeconomicus, International Editorial Board				
【その他研究活動上特記すべき事項】				年月日	備 考	
North-West University, SOUTH AFRICA 修士論文審査員				2010年9月		

Ⅲ社会活動（3ヵ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）

社会における活動	年月日	備 考

Ⅳ大学運営活動（3ヵ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）（2011年度就任教員は、2011年度の本学での学内職務及び大学業務をご記入願います。）

大学運営における活動	年月日	備 考
【学内職務】 総合情報教育センター長		
【大学業務】		

2011年度 教員活動評価調査票 (記入用紙)

松本 直樹 1/3

所属	経済学部 ヒューマンエコノミー学科	職名	教授	氏名	松本 直樹	学位	博士(経済学)、関西学院大学、1998年5月取得
----	----------------------	----	----	----	-------	----	--------------------------

I 教育活動 (3カ年<2010年度、2009年度、2008年度>の活動についてご記入願います。)

【担当科目】 (2011年度就任教員は、2011年度の本科担当科目をご記入願います。)

1. 学部担当科目

国際マクロ経済学、国際金融論、演習 I・II

2. 大学院担当科目

国際金融論特論、国際金融論特殊研究、研究演習

3. 非常勤等担当科目(括弧内に大学名を記入してください) (2011年度就任教員は、前任校での担当科目についてもご記入願います。)

【教育業績】 (2011年度就任教員は、前任校での教育業績についてもご記入願います。)

教育実践上の主な業績	年月日	備 考
1. 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 現実の経済から経済学へのアプローチ		一部の授業において、新聞報道やテレビのニュースから経済問題を取り上げ、その後基礎的な経済学の説明をすることにより、経済学の理解を深めるようにしている。
2. 作成した教科書、教材、参考書 講義資料の作成と配布		国際マクロ経済学と国際金融論において、講義内容のレジюмеを印刷して全員に配布し、それにもとづいて講義を進めている。
3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
4. その他教育活動上特記すべき事項 クラブ顧問		ピアノ電子オルガンインストゥルメンタル部

2011年度 教員活動評価調査票（記入用紙）

松本 直樹 2/3

Ⅱ 研究活動（5カ年〈2010年度、2009年度、2008年度、2007年度、2006年度〉の活動についてご記入願います。）

著書・論文等の名称	著書・共著の別	発行または発表年月	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数	査読の有無
【著書】						
開放マクロ経済分析	単著	2007年2月	日本評論社		全206頁	
【論文】						
最近の原油価格高騰と物価安定	単著	2006年12月	『追手門経済論集』第41巻第2号		155～176頁	無
為替レート制度に関する覚書	単著	2008年9月	『追手門経済論集』第43巻第1号		1～13頁	無
通貨危機と原罪仮説	単著	2009年9月	『追手門経済論集』第44巻第1号		41～62頁	無
【その他】						
【学会における主な活動】						
2008年4月～	生活経済学会関西支部会運営委員					
2008年6月8日	生活経済学会研究大会において、討論者を務めた。（石川清英「信用金庫の破綻要因分析について」）					
2010年9月25日	日本金融学会秋季大会において、討論者を務めた。（浅田統一郎「Central Banking and Deflationary Depression : A Japanese Perspective」）					
【その他研究活動上特記すべき事項】			年月日	備考		

Ⅲ 社会活動（3カ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）

社会における活動	年月日	備考
ABC ラジオ「ニュース探偵局」に出演	2008年10月	

2011年度 教員活動評価調査票（記入用紙）

松本 直樹 3/3

IV大学運営活動（3ヵ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）（2011年度就任教員は、2011年度の本学での学内職務及び大学業務をご記入願います。）

大学運営における活動	年月日	備 考
【学内職務】		
経済学部長	2008年4月～2010年3月	
副学長	2010年4月～	
【大学業務】		
出張授業	2008年11月18日	滋賀県立大津商業高等学校
出張授業	2009年7月17日	神戸野田高等学校
【その他大学運営活動上特記すべき事項】		
「おうてもん塾」講師	2008年7月1日	テーマ「バブルと金融政策」

2011年度 教員活動評価調査票 (記入用紙)

村上 亨 1/3

所属	経済学部 ヒューマンエコノミー学科	職名	教授	氏名	村上 亨	学位	経済学博士
----	----------------------	----	----	----	------	----	-------

I 教育活動 (3カ年<2010年度、2009年度、2008年度>の活動についてご記入願います。)

【担当科目】 (2011年度就任教員は、2011年度の本科担当科目をご記入願います。)

1. 学部担当科目

経済政策 日本経済論 ヒューマンエコノミー概論 経済学基礎演習 新入生演習 演習Ⅰ 演習Ⅱ 経済学特殊講義

2. 大学院担当科目

経済政策特論Ⅰ 経済政策特論Ⅰ演習Ⅰ 経済政策特論Ⅰ演習Ⅱ 経済政策特殊研究Ⅰ 経済政策特殊研究 研究演習

3. 非常勤等担当科目(括弧内に大学名を記入してください) (2011年度就任教員は、前任校での担当科目についてご記入願います。)

【教育業績】 (2011年度就任教員は、前任校での教育業績についてご記入願います。)

教育実践上の主な業績	年月日	備 考
1. 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 経済学基礎演習(受講生45名)において、グループ学習方式を実践	2010年	
2. 作成した教科書、教材、参考書 ヒューマンエコノミー概論1	2009年 2010年	
ヒューマンエコノミー概論2	2009年	
3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
4. その他教育活動上特記すべき事項 学習支援・教育開発センターの学習支援室における学習支援アドバイザー	2009年7月～	

2011年度 教員活動評価調査票（記入用紙）

村上 亨 2/3

Ⅱ 研究活動（5カ年〈2010年度、2009年度、2008年度、2007年度、2006年度〉の活動についてご記入願います。）

著書・論文等の名称	著書・共著の別	発行または発表年月	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数	査読の有無
【著書】						
ポスト産業資本主義下の制度改革	共著	2006年10月	成文堂	酒井邦雄、村上亨、吉田良生、久下沼仁筈、吉田雅彦、角本伸晃	pp.2-20,pp40-58	
【論文】						
【その他】						
【学会における主な活動】						
2010年～	日本経済政策学会常務理事					
2002年～	国際公共経済学会理事					
2003年～	公益事業学評議員					
【その他研究活動上特記すべき事項】				年月日	備	考
国際公共経済学会レフェリー				2010年		

Ⅲ 社会活動（3カ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）

社会における活動	年月日	備	考
大阪府生活衛生営業指導センター分野調整事業協議会 副会長	2010年8月～		
豊中市上下水道事業運営審議会委員	2007年7月～		

2011年度 教員活動評価調査票（記入用紙）

村上 亨 3/3

IV大学運営活動（3ヵ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）（2011年度就任教員は、2011年度の本学での学内職務及び大学業務をご記入願います。）

大学運営における活動	年月日	備 考
【学内職務】		
学長補佐	2008年4月～2009年3月	
特任副学長	2009年4月～2010年3月	
【大学業務】		
出張授業		

2011年度 教員活動評価調査票 (記入用紙)

森島 覚 1/3

所属	経済学部 ヒューマンエコノミー学科	職名	教授	氏名	森島 覚	学位	経済学修士、名古屋市立大学 1991年3月取得
----	----------------------	----	----	----	------	----	-------------------------

I 教育活動 (3カ年<2010年度、2009年度、2008年度>の活動についてご記入願います。)

【担当科目】 (2011年度就任教員は、2011年度の本学担当科目をご記入願います。)

1. 学部担当科目

オーストラリア経済論、産業社会関係論、経済政策、新入生演習(各科目とも2008、2009、2010年度担当)

2. 大学院担当科目

経済学特殊講義(オーストラリア経済論)

3. 非常勤等担当科目(括弧内に大学名を記入してください) (2011年度就任教員は、前任校での担当科目についてもご記入願います。)

オーストラリア経済論(近畿大学)、オセアニアの経済(広島経済大学)

【教育業績】 (2011年度就任教員は、前任校での教育業績についてもご記入願います。)

教育実践上の主な業績	年月日	備 考
1. 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
2. 作成した教科書、教材、参考書 『大洋州の経済と労働』	2011年2月	教科書として併用
3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 「オーストラリア経済。社会をどう教えるか」発表	2010年11月	追手門学院大学2010年国際交流推進記念オーストラリア教育シンポジウム「オーストラリアをどう教えるか？」
4. その他教育活動上特記すべき事項		

Ⅱ 研究活動（5カ年〈2010年度、2009年度、2008年度、2007年度、2006年度〉の活動についてご記入願います。）

著書・論文等の名称	著書・共著の別	発行または発表年月	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数	査読の有無
【著書】						
大洋州の経済と労働	単著	2011年2月	成文堂		261頁	
【論文】						
豪労使関係事情	単著	2006年12月	追手門経済論集、第41巻1号		451-459頁	無
Comparative studies on the stress management for medicare/health care workers in Australia/New Zealand and Japan	単著	2006年12月	オーストラリア研究紀要、第32号		29-36頁	無
日本労使関係事情	単著	2006年12月	追手門経済論集、第41巻2号		177-187頁	無
オーストラリア、ニュージーランドの航空産業における労働者の現状と問題点	単著	2007年12月	オーストラリア研究紀要、第33号		81-90頁	無
大洋州性産業労働者の現実	単著	2007年12月	オーストラリア研究紀要、第33号		121-138頁	無
豪州のセックスワーク支援団体について	単著	2008年9月	追手門経済論集、第43巻1号		42-54頁	無
Comparative studies on sex works in Japan , Australia and New Zealand: Way to unionization of sex workers	単著	2008年12月	オーストラリア研究紀要、第34号		56-65頁	無
オーストラリア・ニュージーランドの労働環境問題	単著	2009年12月	オーストラリア研究紀要、第35号		89-98頁	無

【その他】						
ハワード政権下の労使関係改革	講演	2007年12月	科研・自由主義レジームの変容 と多様性に関する労働・福祉政 治の比較研究第3回研究会	京都大学法学部		
豪州・ニュージーランドにおけるセッ クスワーカーの現実	学会報 告	2008年6月	2008年オーストラリア学会報告	追手門学院大学大阪城スクエ ア		
【学会における主な活動】						
【その他研究活動上特記すべき事項】			年月日	備	考	

Ⅲ社会活動（3カ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）

社会における活動	年月日	備	考

Ⅳ大学運営活動（3カ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）（2011年度就任教員は、2011年度の本学での学内職務及び
大学業務をご記入願います。）

大学運営における活動	年月日	備	考
【学内職務】			
【大学業務】			

2011年度 教員活動評価調査票 (記入用紙)

李 義昭 1/11

所属	経済学部 ヒューマンエコノミー学科	職名	准教授	氏名	李 義昭	学位	博士(経済学)、神戸大学、2000年3月取得
----	----------------------	----	-----	----	------	----	------------------------

I 教育活動 (3カ年<2010年度、2009年度、2008年度>の活動についてご記入願います。)

【担当科目】 (2011年度就任教員は、2011年度の本学担当科目をご記入願います。)

1. 学部担当科目

福祉社会論、経済原論、新入生演習、経済学基礎演習、演習1、演習2

2. 大学院担当科目

福祉社会論特論

3. 非常勤等担当科目(括弧内に大学名を記入してください) (2011年度就任教員は、前任校での担当科目についてもご記入願います。)

社会保障論(関西国際大学)

【教育業績】 (2011年度就任教員は、前任校での教育業績についてもご記入願います。)

教育実践上の主な業績	年月日	備 考
1. 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) ボランティアなど交流・体験学習～自己の発見と他者の理解～ (「特色ある教育」平成20年度報告集)	2008年	演習Iにおいて、本学「特色ある教育」平成20年度報告の体験に基づく発見的・自己開発的な学習をテーマに、日ごろの学生生活においては関わることの少ない体験や経験に出会う学習設定を行った。具体的には、USJ(ユニバーサル・スタジオ・ジャパン)における、障害当事者および支援者との日常生活体験を行うことを目標に共同作業による課題解決学習を行った。学生は、そこから生まれた疑問や課題を解決する過程において、他者を知り、自らに気づき、自信を開発し、成長した。
高齢者・障害者・児童など支援施設・団体における体験学習～他者を知り自己の開発を行う～(大学教育高度化推進に係る平成20年度報告書)	2008年	演習I・IIにおいて、本校の大学教育高度化推進に係る平成20年報告に関連し、学生が体験学習を通じて、社会や地域の現実と現状に接し、

2011年度 教員活動評価調査票（記入用紙）

李 義昭 2/11

		<p>自己の世界と異なった世界を知り、自己の開発につながる学習設定を行った。具体的には大阪府ボランティア府民活動センターが行う「ボランティア体験プログラム」に参加した。また、NPO 法人「ヤンヤンのおうち」社会福祉法人「かがやき神戸」での合宿施設体験、さらに、近年、富山方式で注目されている「小規模多機能施設このゆびと～まれ」（富山）でのボランティア体験を行った。</p>
<p>障害当事者・支援者・開発関係者などとの交流学习～福祉と経済のわかる学生を育てる～(大学教育高度化推進に係る平成 20 年度報告書)</p>	2008 年	<p>講義科目「福祉社会論」において、本校の大学教育高度化推進に係る平成 20 年報告に関連し、学生が交流講義を通して社会的に困難を持つ人々の現実と現状を知り、福祉サービス市場における需要に対する供給はどのように増加させることができるのか、福祉と経済を複眼的に考えさせること目標に設定した。具体的には、「だれでも福祉、どこでも福祉」「生活支援ロボットの現状と今後の課題」「生活はイベントのように」「ゆかいなクラウン土曜日の天使たち」「いなみ野学園大学院卒業論文発表」など当事者の講演を行った。</p>
<p>高齢者・障害者・児童など支援施設・団体における体験学習～他者を知り自己開発を行う～(大学教育高度化推進に係る平成 21 年度報告書)</p>	2009 年	<p>演習Ⅰ・Ⅱにおいて、本校の大学教育高度化推進に係る平成 21 年報告に関連し、学生が体験学習を通じて、社会や地域の現実と現状に接し、自己の世界と異なった世界を知り、自己の開発につながる学習設定を行った。具体的には大阪府ボランティア府民活動センターが行う「ボランティア体験プログラム」に参加した。また、NPO 法人</p>

		「ヤンヤンのおうち」社会福祉法人「かがやき神戸」での合宿施設体験、さらに、国内外の研究者からも注目されている「精神障害者施設べてるの家」(北海道)でボランティア体験を行った。
障害当事者・支援者・開発関係者などとの交流学习～福祉と経済のわかる学生を育てる～(大学教育高度化推進に係る平成 21 年度報告書)	2009 年	講義科目「福祉社会論」において、本校の大学教育高度化推進に係る平成 21 年報告に関連し、学生が交流講義を通して社会的に困難を持つ人々の現実と現状を知り、福祉サービス市場における需要に対する供給はどのように増加させることができるのか、福祉と経済を複眼的に考えさせること目標に設定した。具体的には、「50年の思い～人は群れの中で生きて行ってもらいたい～」「みんなが楽しく働ける社会～ふわふわがふえていく仕事をめざして～」「ご近所さんふかふか～障害者の生活を広げる場～」「障害って何？～失語症を知っていますか～」「いなみ野学園大学院卒業論文発表」など当事者の講演を行った。
高齢者・障害者・児童などの支援施設における体験的学習と障害当事者との交流学习～他者を知り、自己の開発を行う～(大学教育高度化推進に係る平成 22 年度報告書)	2010 年	演習Ⅰ・Ⅱにおいて、本校の大学教育高度化推進に係る平成 22 年報告に関連し、学生が体験学習を通じて、社会や地域の現実と現状に接し、自己の世界と異なった世界を知り、自己の開発につなげる学習設定を行った。具体的には大阪府ボランティア府民活動センターが行う「ボランティア体験プログラム」に参加した。また、NPO 法人「ヤンヤンのおうち」社会福祉法人「かがやき神戸」での合宿施設体験、さらに、国内外の研究者

		からも注目されている社会福祉法人「浦河べてるの家」(北海道)と社会福祉法人さっぽろひかり福祉会「ひかり工房」でボランティア体験を行った。また、障害者自立支援センター「ぼぼんがぼん」主催の「つながりまつり」に参加した。
障害当事者・支援者・高齢者などとの交流学习～福祉と経済のわかる学生を育てる～(大学教育高度化推進に係る平成 22 年度報告書)	2010 年	講義科目「福祉社会論」において、本校の大学教育高度化推進に係る平成 22 年報告に関連し、学生が交流講義を通して社会的に困難を持つ人々の現実と現状を知り、福祉サービス市場における需要に対するき供給はどのように増加させることができるのか、福祉と経済を複眼的に考えさせること目標に設定した。具体的には、「障害があっても地域で暮らせる世の中に」「二人三脚でアメリカ・ピース・ツアー～原爆の被害とかなしみをアメリカ人に伝え語り合う～」「土曜日の天使達～社会福祉法人かがやき神戸ぐりいと」「いなみ野学園大学院卒業論文発表」など当事者の講演を行った。
2. 作成した教科書、教材、参考書 多人数講義科目における情報技術利用による授業理解の促進	2008 年～2010 年	福祉社会論・経済原論・経済学基礎演習において、各科目を学習・理解する上で必要な基礎知識および基礎的語句を授業の最初に提示し、さらに、インターネット Web 上(本学では「学びの泉」:現在「ユニバーサル・パスポート」)で公開している。また、毎回の講義における板書(講義ノート)はワードで作成したものをプロジェクターで投影し、この内容も直近二週間分を(本学では

2011年度 教員活動評価調査票（記入用紙）

李 義昭 5/11

		「学びの泉」:現在ユニバーサル・パスポート)で授業の理解促進のために公開している。
3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
4. その他教育活動上特記すべき事項 多人数講義科目における授業への学生参加を促進するための工夫	2008年～2010年	福祉社会論・経済原論・経済学基礎演習において、各科目への学生の授業参加を促すため、毎回の講義ごとに専用の用紙を配布してレポートを課した。テーマは授業に対する意見から時事や学習内容にわたり、毎回異なる。提出枚数・内容・提出時期などによって、レポートは平常点の評価に用いられるため、講義への出席率の向上・授業への参加意欲の促進となっている。

II 研究活動（5カ年〈2010年度、2009年度、2008年度、2007年度、2006年度〉の活動についてご記入願います。）

著書・論文等の名称	著書・共著の別	発行または発表年月	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数	査読の有無
【著書】						
【論文】						
「音声認識ソフト利用可能性に関する評価研究-発話に困難のある障害者・高齢者を対象として-」	共著	2007年3月	神戸大学発達科学部『神戸大学発達科学部研究紀要』査読論文 第14巻 第2号	李 義昭 中林稔堯	pp.147-156	有

2011年度 教員活動評価調査票（記入用紙）

李 義昭 6/11

「音声認識技術の利用可能性に関する研究開発」	共同研究（執筆）	2007年3月	『知的障害者（児）のコミュニケーションと促進する支援技術機器の開発（課題番号16200048）平成16～18年度科学研究費助成金研究成果報告書』	李 義昭 中林稔堯	pp.81-140	無
施設体験学習と障害当事者との交流学习～他者への理解と自己の発見～	実践報告	2007年3月	追手門学院大学「特色ある教育」平成19年度報告集～学生による学びの実践報告書～		pp.15-20	無
高齢者・障害者等施設・団体における体験学習～他者を知り自己開発を行う～	実践報告	2007年3月	追手門学院大学経済学部「人間回復の経済社会を目指して（3）大学教育高度化推進に係る平成19年度報告書		pp.52	無
障害がある本人・その支援者などとの交流学习～福祉と経済のわかる学生を育てる～	実践報告	2007年3月	追手門学院大学経済学部「人間回復の経済社会を目指して（3）大学教育高度化推進に係る平成19年度報告書		pp.53-55	無
「高齢期における人間関係の再構築」	単著	2007年9月	追手門学院大学『追手門経済論集第42巻第1号』		pp.164-256	無
ボランティアなど交流・体験学習～自己の発見と他者の理解～	実践報告	2008年3月	追手門学院大学「特色ある教育」平成20年度報告集～学生による学びの実践報告～		pp.23-27	無
高齢者・障害者・児童など支援施設・団体における体験学習～他者を知り自己の開発を行う～	実践報告書	2008年3月	大学教育高度化推進に係る平成20年度報告書		pp.85-89	

障害当事者・支援者・開発関係者などとの交流学習～福祉と経済のわかる学生を育てる～	実践報告書	2008年3月	大学教育高度化推進に係る平成20年度報告書		pp.91-96	
高齢者・障害者・児童などの支援施設や団体における体験学習～他者を知る、そして、自己開発を行う～	実践報告書	2009年3月	大学教育高度化推進に係る平成21年度報告書		pp.47-50	
ボランティア等交流・体験学習～自己の発見と他者の理解～	実践報告	2009年3月	追手門学院大学「特色ある教育」平成21年度報告集～学生による学びの実践報告～		pp.16-21	
障害当事者・支援者・開発関係者などとの交流学習～福祉と経済のわかる学生を育てる～	実践報告書	2009年3月	大学教育高度化推進に係る平成21年度報告書		pp.51-55	
「特定話者用音声認識ソフト開発とアルキメデスプロジェクトの連携に関する研究」	単著	2009年9月	追手門学院大学『追手門経済論集 第44巻 第1号』		pp.12-40	
高齢者・障がい者・児童などの支援施設における体験的学習と障がい当事者との交流学習～他者を知り、自己の開発を行う～	実践報告書	2010年3月	持続可能な経済社会の構築をめざして(2)経済学部講演会に係わる報告-2010年度-		pp.45-52	
障がい当事者・支援者・高齢者などとの交流学習～福祉と経済のわかる学生を育てる～	実践報告書	2010年3月	持続可能な経済社会の構築をめざして(2)経済学部講演会に係わる報告-2010年度-		pp.53-57	

「知的障害者、自閉症者等のコミュニケーションを促進するユニバーサル支援機器の開発」	共同研究（執筆）	2010年3月	『知的障害者、自閉症者等のコミュニケーションを促進するユニバーサルデザイン支援機器の開発（課題番号 19300281）平成 19～21 年度科学研究助成金研究成果報告書』	李 義昭 中林稔堯		
「知的障害者のコミュニケーションを促進する支援技術と高齢者の生活を支援する技術」-VOCA「ピクチャーエイド」とHo'alauna タブレット-	単著	2010年9月	追手門学院大学『追手門経済論集 第45巻 第1号』		pp.18-46	
【その他】						
ボランティア活動の量的貢献評価の試み	学会発表	2006年6月	福祉社会学会		福祉社会学会 第4回大会(大阪市立大学)	
構音障害者の音声認識の検討	共同発表	2007年1月	福祉情報工学研究会		電子情報通信学会技術研究報告(立命館大学)	
構音障害者の音声認識の検討	パネル発表	2007年3月	日本音響学会		日本音響学会 2007年春季研究発表会(芝浦工業大学)	

話者正規化に基づく構音障害者の音声認識	パネル 発表	2008年3月	日本音響学会		日本音響学会 2008年春季研究発表会(千葉工業大学)	
メタモデルと音響モデルの統合による構音障害者の音声認識	共同発表	2008年5月	電子情報通信学会		電子情報通信学会技術研究報告(神戸大学:音声研究会)	
メタモデルと音響モデルの統合による構音障害者の音声認識	パネル 発表	2008年9月	日本音響学会		日本音響学会 2008年秋季研究発表会(九州工業大学)	
Integration of Metamodel and Acoustic Model for Speech Recognition	パネル 発表	2008年9月	Interspeech		Interspeech2008 (オーストラリア・ブリスベンコンベンションセンター)	
構音障害者の連続音声認識の検討	パネル 発表	2009年3月	日本音響学会		日本音響学会 2009年春季研究発表会	
局所特徴量を用いた構音障害者の音声認識の検討	パネル 発表	2009年9月	日本音響学会		日本音響学会 2009年秋季研究発表会	

Multimodal Speech Recognition of a Person with Articulation Disorders Using AAM and MAF	パネル 発表	2010年2月	MMSP'10		2010 IEEE International Workshop on Multimedia Signal Processing	
PLSA による構音障害者の音素体系構築の検討	パネル 発表	2010年3月	日本音響学会		日本音響学会 2010年春季研究発表会	
Buried Markov Model を用いた構音障害者の音声認識の検討	共同発表	2010年9月	電子情報通信学会		電子情報通信学会技術研究報告 2010	
【学会における主な活動】						
【その他研究活動上特記すべき事項】			年月日	備	考	
神戸大学発達科学部中林研究室「知的障害者(児)のコミュニケーションと促進する支援技術機器の開発」(課題番号 16200048)」研究協力者			2004年4月～2007年3月			
神戸大学発達科学部中林研究室「知的障害者、自閉症者等のコミュニケーションを促進するユニバーサル支援機器の開発」研究分担者			2007年4月～2010年3月			

Ⅲ社会活動 (3カ年(2010年度、2009年度、2008年度)の活動についてご記入願います。)

社会における活動	年月日	備	考
特定非営利活動法人「ヤンヤンのおうち」代表世話係(理事長)	2000年3月～現在		
兵庫県いなみ野学園(高齢者大学)大学院地域づくり研究科安心できる地域づくり分野指導教官	2006年4月～現在		

2011年度 教員活動評価調査票（記入用紙）

李 義昭 11/11

IV大学運営活動（3ヵ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）（2011年度就任教員は、2011年度の本学での学内職務及び大学業務をご記入願います。）

大学運営における活動	年月日	備 考
【学内職務】		
人権啓発委員会委員	2006年～現在	
人権啓発委員会委員長	2010年～現在	
経済学部編集委員	2006年～現在	
【大学業務】		
オープンキャンパス模擬授業	2006年～現在	
【その他大学運営活動上特記すべき事項】		
追手門学院大学特色ある教育シンポジウムパネラー	2008年	
追手門学院大学経済学研究科シンポジウム「生涯学習を考える」	2010年	

2011年度 追手門学院大学

教員活動評価調査票

【経営学部 経営学科】

◎教員活動評価票各評価領域の記載年度。

- I 教育活動 2010年度、2009年度、2008年度の3カ年。
- II 研究活動 2010年度、2009年度、2008年度、2007年度、2006年度の5カ年。
- III 社会活動 2010年度、2009年度、2008年度の3カ年。
- IV 大学運営活動 2010年度、2009年度、2008年度の3カ年。

〈経営学科〉

井手吉 成佳	2～3 ページ
植藤 正志	4～5 ページ
岡崎 利美	6～8 ページ
梶原 晃	9～11 ページ
坂上 佳隆	12～14 ページ
地代 憲弘	15～17 ページ
篠原 健	18～21 ページ
徐 治文	22～24 ページ
高森 哉子	25～30 ページ
朽尾 安伸	31～33 ページ
西岡 健夫	34～37 ページ
藤原 英賢	38～40 ページ
水野 浩児	41～46 ページ
宮宇地 俊岳	47～51 ページ
村上 喜郁	52～55 ページ
山下 克之	56～59 ページ

2011年度 教員活動評価調査票 (記入用紙)

井手吉 成佳 1/2

所属	経営学部 経営学科	職名	講師	氏名	井手吉 成佳	学位	博士(マネジメント)、広島大学、 平成22年3月取得
----	-----------	----	----	----	--------	----	-------------------------------

I 教育活動 (3カ年<2010年度、2009年度、2008年度>の活動についてご記入願います。)

【担当科目】 (2011年度就任教員は、2011年度の担当科目をご記入願います。)

1. 学部担当科目 新入生演習、キャリアデザイン論、入門簿記、初級簿記、原価計算論1、原価計算論2、会計学特殊講義4、ファイナンス入門
2. 大学院担当科目
3. 非常勤等担当科目(括弧内に大学名を記入してください) (2011年度就任教員は、前任校での担当科目についてもご記入願います。) PC 演習

【教育業績】 (2011年度就任教員は、前任校での教育業績についてもご記入願います。)

教育実践上の主な業績	年月日	備考
1. 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 公開授業の実施	2011年7月15日	
2. 作成した教科書、教材、参考書		
3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
4. その他教育活動上特記すべき事項		

II 研究活動 (5カ年<2010年度、2009年度、2008年度、2007年度、2006年度>の活動についてご記入願います。)

著書・論文等の名称	著書・ 共著の別	発行または 発表年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	査読の 有無
【著書】						

2011年度 教員活動評価調査票（記入用紙）

井手吉 成佳 2/2

【論文】						
研究開発費の認識と会計環境	単著	2008年3月	広島大学マネジメント学会 『マネジメント研究』第8号		71～80頁	有
ソフトウェア原価計算におけるソフトウェア定量化手法	単著	2008年9月	日本会計研究学会 『会計プロGRESS』第9号		13～22頁	有
ソフトウェア原価計算の特質	単著	2009年3月	広島大学マネジメント学会 『マネジメント研究』第9号		47～57頁	有
【その他】						
【学会における主な活動】						
【その他研究活動上特記すべき事項】				年月日	備	考

Ⅲ社会活動（3ヵ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）

社会における活動	年月日	備	考

Ⅳ大学運営活動（3ヵ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）（2011年度就任教員は、2011年度の本学での学内職務及び大学業務をご記入願います。）

大学運営における活動	年月日	備	考
【学内職務】			
【大学業務】			
オープンキャンパス	2011年		

2011年度 教員活動評価調査票 (記入用紙)

植藤 正志 1/2

所属	経営学部 経営学科	職名	教授	氏名	植藤 正志	学位	博士(経営学) 神戸商科大学、平成8年1月
----	-----------	----	----	----	-------	----	-----------------------

I 教育活動 (3カ年<2010年度、2009年度、2008年度>の活動についてご記入願います。)

【担当科目】 (2011年度就任教員は、2011年度の本学担当科目をご記入願います。)

1. 学部担当科目 経営史1・2、リスク・マネジメント、新入生演習、専門演習
2. 大学院担当科目 経営史特論、経営史特論演習1、経営史特殊研究、研究演習
3. 非常勤等担当科目(括弧内に大学名を記入してください) (2011年度就任教員は、前任校での担当科目についてもご記入願います。)

【教育業績】 (2011年度就任教員は、前任校での教育業績についてもご記入願います。)

教育実践上の主な業績	年月日	備 考
1. 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 「本人の申し出により非公表とした。」		
2. 作成した教科書、教材、参考書 「本人の申し出により非公表とした。」		
3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 「本人の申し出により非公表とした。」		
4. その他教育活動上特記すべき事項 「本人の申し出により非公表とした。」		

II 研究活動 (5カ年<2010年度、2009年度、2008年度、2007年度、2006年度>の活動についてご記入願います。)

著書・論文等の名称	著書・ 共著の別	発行または 発表年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	査読の 有無
【著書】						

【論文】						
企業危機の組織的原因—組織神話をめぐって—	単著	2009年3月	追手門経済・経営研究第16号		13～26頁	無
渦中的リスク・マネジメントの再認識—成功仮説と信頼関係の崩壊をめぐって—	単著	2010年3月	追手門経済・経営研究第17号		43～60頁	無
技術の不可視化と危機管理	単著	2011年3月	追手門経済・経営研究第18号		1～15頁	無
【その他】						
大学・学生・保護者を貫くキャリア支援—“自信と信頼”の連鎖を求めて—	単著	2010年9月	大学時報 No.334		78～83頁	無
【学会における主な活動】						
【その他研究活動上特記すべき事項】			年月日	備	考	

Ⅲ社会活動（3ヵ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）

社会における活動	年月日	備	考
大学基準協会 大学部会評価委員	2010年4月～2011年3月		

Ⅳ大学運営活動（3ヵ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）（2011年度就任教員は、2011年度の本学での学内職務及び大学業務をご記入願います。）

大学運営における活動	年月日	備	考
【学内職務】 キャリア開発部長	2010年4月～現在		
【大学業務】			

2011年度 教員活動評価調査票 (記入用紙)

岡崎 利美 1/3

所属	経営学部 経営学科	職名	准教授	氏名	岡崎 利美	学位	商学修士、神戸大学 1993年3月
----	-----------	----	-----	----	-------	----	-------------------

I 教育活動 (3カ年<2010年度、2009年度、2008年度>の活動についてご記入願います。)

【担当科目】 (2011年度就任教員は、2011年度の本学担当科目をご記入願います。)

1. 学部担当科目 財務管理論、ベンチャーファイナンス論、経営学概論、新入生演習、基礎演習、発展演習、卒業演習、日本事情、ベンチャーファイナンス演習
2. 大学院担当科目
3. 非常勤等担当科目(括弧内に大学名を記入してください) (2011年度就任教員は、前任校での担当科目についてもご記入願います。)

【教育業績】 (2011年度就任教員は、前任校での教育業績についてもご記入願います。)

教育実践上の主な業績	年月日	備 考
1. 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 特になし		
2. 作成した教科書、教材、参考書 なし		
3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 なし		
4. その他教育活動上特記すべき事項 特になし		

II 研究活動 (5カ年<2010年度、2009年度、2008年度、2007年度、2006年度>の活動についてご記入願います。)

著書・論文等の名称	著書・ 共著の別	発行または 発表年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	査読の 有無
【著書】						

【論文】						
ドイツ債券市場の現状	単著	2010年12月	追手門経営論集 (Vol.16.No.2)		p.79-96	無
【その他】						
日本学術振興会経営問題第 108 委員会第 372 回本会議「ドイツ債券市場の概要」		2010年8月5日				
日本経営学会関西西部会第 577 回例会研究報告「ドイツ債券市場の現状」		2010年11月20日				
【学会における主な活動】						
【その他研究活動上特記すべき事項】			年月日	備 考		
長期海外研修（ドイツ Private Fachhochschule Göttingen）			2009年4月～2010年3月			

Ⅲ社会活動（3カ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）

社会における活動	年月日	備 考
兵庫県社会福祉協議会 評議員	2009年3月末まで	
兵庫県阪神南地域ビジョン委員会学識専門委員	2007年4月～2009年3月	

Ⅳ大学運営活動（3カ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）（2011年度就任教員は、2011年度の本学での学内職務及び大学業務をご記入願います。）

大学運営における活動	年月日	備 考
【学内職務】		
120周年記念志編纂委員	2008年度	
人権啓発委員	2008年度、2010年度	
キャンパス・ハラスメント相談員	2010年度	

2011年度 教員活動評価調査票（記入用紙）

岡崎 利美 3/3

【大学業務】 オープン・キャンパス ミニ講座、その他業務	2010年度	
【その他大学運営活動上特記すべき事項】 おうてもん塾	2009年2月17日	
出張講座(京都共栄学園)	2010年11月5日	

2011年度 教員活動評価調査票 (記入用紙)

梶原 晃 1/3

所属	経営学部 経営学科	職名	教授	氏名	梶原 晃	学位	博士(経営学)・PhD(Forestry)
----	-----------	----	----	----	------	----	-----------------------

I 教育活動 (3カ年<2010年度、2009年度、2008年度>の活動についてご記入願います。)

【担当科目】 (2011年度就任教員は、2011年度の本学担当科目をご記入願います。)

1. 学部担当科目

基礎演習1・2、新入生演習、キャリアデザイン論、入門簿記、初級簿記、中級簿記

2. 大学院担当科目

会計学特論、会計学特論演習、会計学特殊研究

3. 非常勤等担当科目(括弧内に大学名を記入してください) (2011年度就任教員は、前任校での担当科目についてもご記入願います。)

科学技術と企業倫理(愛媛大学理学部)、International Accounting(関西学院大学大学院企業戦略研究科)

【教育業績】 (2011年度就任教員は、前任校での教育業績についてもご記入願います。)

教育実践上の主な業績	年月日	備 考
1. 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) Universal Passport を活用した授業の展開	2010年	
2. 作成した教科書、教材、参考書		
3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
4. その他教育活動上特記すべき事項		

II 研究活動 (5カ年<2010年度、2009年度、2008年度、2007年度、2006年度>の活動についてご記入願います。)

著書・論文等の名称	著書・共著の別	発行または発表年月	発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	編者・著者名(共著の場合のみ記入)	該当頁数	査読の有無
【著書】						
『森林クレジットの組成プロセスに関する研究—社会的ネットワーク論の視点から—』	単著	2010年3月	神戸大学博士論文		161 ページ	
『国際会計基準と日本の会計実務比較分析/仕訳・計算例/決算処理 第3版』	共著	2009年12月	同文館出版	神戸大学・あずさ監査法人編	40 ページ	
【論文】						
「森林再生・林業活性化にむけた提言の比較分析と課題析出—より実効性のある提言の取りまとめに向けて—」(単著)	単著	2010年12月	追手門経営論集 第16巻 第2号		97-118 ページ	無
「林業経営における原価計算会計システムの導入とマテリアルフローコスト会計への拡張可能性」	単著	2008年3月	『環境管理』第44巻第3号		36-48 ページ	有
「日本の林業経営における原価計算システム」(単著)	単著	2007年3月	国民経済雑誌 第195巻 第3号		101-113 ページ	無
【その他】						
【学会における主な活動】						

【その他研究活動上特記すべき事項】	年月日	備	考

Ⅲ社会活動（3カ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）

社会における活動	年月日	備	考
日本経済調査協議会『未来を創る森林産業改革委員会』主査	2010年6月～		
地球環境戦略研究機関・IGES フェロー	2010年1月～		
中小企業基盤整備機構・国際化支援アドバイザー	2008年4月～		

Ⅳ大学運営活動（3カ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）（2011年度就任教員は、2011年度の本学での学内職務及び大学業務をご記入願います。）

大学運営における活動	年月日	備	考
【学内職務】			
経営学部学部長	2010年1月～		
経営学部教務グループ	2010年度		
経営学部企画グループ	2010年度		
経営学部総合情報センター運営委員	2010年度		
【大学業務】			
出張授業、オープンキャンパス、プリエントランスの集い、大学出版物の執筆等々			

2011年度 教員活動評価調査票 (記入用紙)

坂上 佳隆 1/3

所属	経営学部 経営学科	職名	教授	氏名	坂上 佳隆	学位	博士(経済学)
----	-----------	----	----	----	-------	----	---------

I 教育活動 (3カ年<2010年度、2009年度、2008年度>の活動についてご記入願います。)

【担当科目】 (2011年度就任教員は、2011年度の本学担当科目をご記入願います。)

1. 学部担当科目

(2008年度)意思決定論1, 2、経営統計、経営データ分析、経営外国文献講読1, 2、新入生演習、基礎演習1, 2、発展演習1, 2

(2009年度)経営統計、経営データ分析、経営数学1, 2、新入生演習、基礎演習1, 2、発展演習1, 2、卒業演習1, 2

(2010年度)意思決定論1, 2、経営数学1, 2、新入生演習、基礎演習1, 2、発展演習1, 2、卒業演習1, 2

2. 大学院担当科目

経営統計学特論、経営統計学特論演習1

3. 非常勤等担当科目(括弧内に大学名を記入してください) (2011年度就任教員は、前任校での担当科目についてもご記入願います。)

「本人の申し出により非公表とした。」

【教育業績】 (2011年度就任教員は、前任校での教育業績についてもご記入願います。)

教育実践上の主な業績	年月日	備 考
1. 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 経営統計 経営データ分析では教育上の効果を高めるためにコンピュータを用いて演習的に双方向的授業を行っている。また、経営数学では一般論を教えるのではなく、興味ある具体的な問題を解くことに重点を置いた授業を行っている。		
2. 作成した教科書、教材、参考書 「本人の申し出により非公表とした。」		
3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 「本人の申し出により非公表とした。」		
4. その他教育活動上特記すべき事項 「本人の申し出により非公表とした。」		

2011年度 教員活動評価調査票（記入用紙）

坂上 佳隆 2/3

Ⅱ 研究活動（5カ年〈2010年度、2009年度、2008年度、2007年度、2006年度〉の活動についてご記入願います。）

著書・論文等の名称	著書・共著の別	発行または発表年月	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数	査読の有無
【著書】						
「本人の申し出により非公表とした。」						
【論文】						
The Effect of FSD Changes in Multiplicative Background Risk on Risk - Taking Attitude	単著	2006年6月	SSS'05 プロシーディング		197-201	有
The Effects of FSD Changes in Multiplicative Background Risk on Risk-Taking Attitude	単著	2006年10月	International Journal of Innovative Computing, Information and Control, Vol.2, No.5		1017-1025	有
Some properties of the Monotone Generalized Probability Ratio Order	単著	2009年6月	追手門経営論集, Vol.15, No.1		89-98	無
【その他】						
「本人の申し出により非公表とした。」						
【学会における主な活動】						
「本人の申し出により非公表とした。」						
【その他研究活動上特記すべき事項】			年月日	備考		
大阪大学経済学研究科で開催の田畑研究会に毎週出席						

Ⅲ 社会活動（3カ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）

社会における活動	年月日	備考
「本人の申し出により非公表とした。」		

2011年度 教員活動評価調査票（記入用紙）

坂上 佳隆 3/3

IV大学運営活動（3ヵ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）（2011年度就任教員は、2011年度の本学での学内職務及び大学業務をご記入願います。）

大学運営における活動	年月日	備 考
【学内職務】 経営学会会計委員、 経営学会資格表彰委員	2008年4月1日～2009年3月31日	
人権啓発委員、 キャンパス整備委員	2009年4月1日～2010年3月31日	
キャンパス整備委員、 経営学会編集委員、 ガイドブック(経営学ガイド)編集委員	2010年4月1日～2011年3月31日	
【大学業務】 「本人の申し出により非公表とした。」		

2011年度 教員活動評価調査票 (記入用紙)

地代 憲弘 1/3

所属	経営学部 経営学科	職名	教授	氏名	地代 憲弘	学位	工学修士
----	-----------	----	----	----	-------	----	------

I 教育活動 (3カ年<2010年度、2009年度、2008年度>の活動についてご記入願います。)

【担当科目】 (2011年度就任教員は、2011年度の本学担当科目をご記入願います。)

1. 学部担当科目

経営学概論1, 2 人的資源管理論 1, 2 品質経営論 1, 2 キャリアデザイン論 新入生演習 基礎演習 発展演習 卒業演習

2. 大学院担当科目

人的資源管理論特論 同特論演習 I 同特論演習 II

3. 非常勤等担当科目(括弧内に大学名を記入してください) (2011年度就任教員は、前任校での担当科目についてもご記入願います。)

該当無し

【教育業績】 (2011年度就任教員は、前任校での教育業績についてもご記入願います。)

教育実践上の主な業績	年月日	備 考
1. 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 経営学概論1における教育内容の共通化の試みとして、DVD教材の導入を行った。		
2. 作成した教科書、教材、参考書 「本人の申し出により非公表とした。」		
3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 「本人の申し出により非公表とした。」		
4. その他教育活動上特記すべき事項 「本人の申し出により非公表とした。」		

2011年度 教員活動評価調査票（記入用紙）

地代 憲弘 2/3

Ⅱ 研究活動（5カ年〈2010年度、2009年度、2008年度、2007年度、2006年度〉の活動についてご記入願います。）

著書・論文等の名称	著書・共著の別	発行または発表年月	発行所、発表雑誌（及び巻・号数等の名称）	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数	査読の有無
【著書】						
工業経営における人・組織と技術	共著	2010年12月	(株)学文社	(編者)羽石寛寿、森健一、地代憲弘、黒澤敏朗	20頁	
【論文】						
中小企業経営者の経営資質が業績へ及ぼす要因についての一考察	共著	2009年9月	工業経営研究学会 ASIM Working Paper SeriesNo.W-09-01 Mar.2009	岡田好史、地代憲弘		有
【その他】						
「本人の申し出により非公表とした。」						
【学会における主な活動】						
工業経営研究学会副会長		2009年1月1日 現在に至る				
【その他研究活動上特記すべき事項】				年月日	備	考
「本人の申し出により非公表とした。」						

Ⅲ 社会活動（3カ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）

社会における活動	年月日	備	考
「本人の申し出により非公表とした。」			

2011年度 教員活動評価調査票（記入用紙）

地代 憲弘 3/3

IV大学運営活動（3ヵ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）（2011年度就任教員は、2011年度の本学での学内職務及び大学業務をご記入願います。）

大学運営における活動	年月日	備 考
【学内職務】 キャリア開発委員	2009年4月から	
【大学業務】 学長補佐	2009年3月まで	
学生部長	2009年3月まで	
大学評議員	2009年3月まで	

2011年度 教員活動評価調査票 (記入用紙)

篠原 健 1/4

所属	経営学部 経営学科	職名	教授	氏名	篠原 健	学位	博士(国際公共政策)大阪大学 2003年3月
----	-----------	----	----	----	------	----	------------------------

I 教育活動 (3カ年<2010年度、2009年度、2008年度>の活動についてご記入願います。)

【担当科目】 (2011年度就任教員は、2011年度の本学担当科目をご記入願います。)

1. 学部担当科目 オペレーションズリサーチ (OR1,2)、インターンシップ、新入生演習、基礎演習、発展演習、卒業演習
2. 大学院担当科目 社会情報学特論、社会情報学特論演習 I、社会情報学特論演習 II、社会情報学特殊研究、研究演習
3. 非常勤等担当科目(括弧内に大学名を記入してください) (2011年度就任教員は、前任校での担当科目についてもご記入願います。) なし

【教育業績】 (2011年度就任教員は、前任校での教育業績についてもご記入願います。)

教育実践上の主な業績	年月日	備 考
1. 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
①オペレーションズリサーチにおいて大人数・双方向授業実施。毎回小テストを行い、理解度を確認し手書き回答を電子的に蓄積、フィードバックする。	2008,2009,2010	
②GIS(地理情報システム)の教育とそれを活用した演習	2008, 2009, 2010	
③Eラーニングを活用した学習の実施(SPI、秘書検定、情報処理)	2010	
2. 作成した教科書、教材、参考書		
①文系の学生向けのオペレーションズリサーチ授業コンテンツ	2009, 2010	
②Eラーニングコンテンツ:SPI、オペレーションズリサーチ(継続開発中)	2010	
3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
学内の教育開発奨励制度報告会にて報告	2010	
4. その他教育活動上特記すべき事項		
教育開発奨励制度に支援により、「学ぼう(Manabo)による学士力向上支援システムの試行」を2010、2011年度実施。	2010	Manaboシステムの開発と試行。SPIなど実用システムも完成

Ⅱ 研究活動（5カ年〈2010年度、2009年度、2008年度、2007年度、2006年度〉の活動についてご記入願います。）

著書・論文等の名称	著書・共著の別	発行または発表年月	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数	査読の有無
【著書】						
Maitland+29 ミッシングリンクの解消	共著	2006年8月	ISBN 4-916128-04-4	稲村公望、篠原健他	119,137	
【論文】						
位置情報爆発時代における自己情報コントロール権としてのステルス権の提案	共著	2008年7月	日本社会情報学会 第16回関西支部	国司輝夫、篠原健		無
An Empirical Study of Facotos Promoting the Practical Use of Customer's Personal Information in Japan	共著	2008年9月	ITS 19th European Regional Conference, Rome	篠原健、井戸田博樹、黒目哲司		有
情報爆発時代における位置情報に関するステルス権の提案	共著	2008年11月	日本社会情報学会 第17回関西支部	国司輝夫、篠原健		無
The Factors to Promote the Practical Use of Customer's Personal Information in Japanese Firms	共著	2008年12月	OTEMON Economic Studies, Vol.41, 2008	篠原健、井戸田博樹、黒目哲司		無
地域安全情報コモンズ公開を実現する情報表示手法の提案	共著	2009年7月	日本社会情報学会第17回	国司輝夫、篠原健		無
位置情報爆発環境下における自己情報コントロール実現方式	共著	2010年4月	日本社会情報学会2010年4月号	国司輝夫、篠原健		有
【その他】						
情報経済のパラダイムシフト	パネル 討論	2006年6月	日本社会情報学会 103回研究会	篠原健他		

【学会における主な活動】		
社会情報学会理事	2008, 2009	
【その他研究活動上特記すべき事項】	年月日	備 考
指導した博士後期課程学生に課程博士号が授与される。	2010年3月	経営学研究科で第一号
二人目の博士後期課程社会人学生(2010年度入学)を指導中		

Ⅲ社会活動（3ヵ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）

社会における活動	年月日	備 考
JISA(情報サービス産業協会)国際委員会・国際公共政策部会長	2008,2009,2010	
大学基準協会評価委員	2008,2009,2010	
日本高等教育評価機構評価員	2009、2010	
大阪府電子契約導入検討委員会副委員長	2009	

Ⅳ大学運営活動（3ヵ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）（2011年度就任教員は、2011年度の本学での学内職務及び大学業務をご記入願います。）

大学運営における活動	年月日	備 考
【学内職務】		
総合情報教育センター長	2008,2009,2010	新システム稼働、TA機能強化など改革推進
経営学研究科長	2008,2009,2010	改革に奮戦。成果でも十分とは言えず。

2011年度 教員活動評価調査票（記入用紙）

篠原 健 4/4

【大学業務】		
自己評価委員		
120種年募金小委員会委員	2008,2009,2010	
ベンチャー研究所所員	2010	
関西社会人大学院連合にて講義(インテリジェントアレー専門セミナー)	2009年12月	
追手門エクステンションカレッジにて講義	2011年2月	
追手門・ペンクラブ主催講演会講師	2010年1月	
滋賀大学講演	2010年3月	

2011年度 教員活動評価調査票 (記入用紙)

徐 治文 1/3

所属	経営学部 経営学科	職名	教授	氏名	徐 治文	学位	博士(法学)、九州大学、1997年月取得
----	-----------	----	----	----	------	----	----------------------

I 教育活動 (3カ年<2010年度、2009年度、2008年度>の活動についてご記入願います。)

【担当科目】 (2011年度就任教員は、2011年度の本学担当科目をご記入願います。)

1. 学部担当科目

商法(総則・商行為)、会社法、商法(手形・小切手法)、比較会社法、新入生演習、発展演習、基礎演習、卒業演習

2. 大学院担当科目

商法特論、商法特論演習Ⅰ、商法特論演習Ⅱ、商法特集研究、研究演習

3. 非常勤等担当科目(括弧内に大学名を記入してください) (2011年度就任教員は、前任校での担当科目についてもご記入願います。)

比較会社法等(九州大学・関西大学・西南学院大学)

【教育業績】 (2011年度就任教員は、前任校での教育業績についてもご記入願います。)

教育実践上の主な業績	年月日	備 考
1. 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 講義・演習の履修効果を高めるために、会社法関連の判例解説を取り入れ、VTR・DVD 教材やコンピューター技術を活用するなど教育方法の改善を工夫している。	2003年4月～	
2. 作成した教科書、教材、参考書		
3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
4. その他教育活動上特記すべき事項 大学院生等学位論文指導	2003年4月～	

Ⅱ 研究活動（5カ年〈2010年度、2009年度、2008年度、2007年度、2006年度〉の活動についてご記入願います。）

著書・論文等の名称	著書・共著の別	発行または発表年月	発行所、発表雑誌（及び巻・号数等の名称）	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数	査読の有無
【著書】						
現代会社法理論と「法と経済学」	単著	2007年3月	晃洋書房		200頁	
グローバル化のなかの現代中国法	共著	2009年11月	成文堂	西村幸次郎	170～193頁	
【論文】						
中国改正会社法の意義と課題	単著	2006年12月	追手門経営論集(第12巻2号)		1～10頁	無
会社の資本制度とコーポレート・ガバナンス	単著	2008年3月	法学論集(第40巻3・4合併号)		123～138頁	無
【その他】						
岐路に立つ特許制度	翻訳	2009年3月	(財)知的財産研究所	島並 良	341～399頁	無
【学会における主な活動】						
2008年9月～		商法学研究会理事				
2008年10月		商事法国際フォーラム(中国・清華大学)にて解説者を務める				
		九州大学産業法研究会、関西商事法研究会、日中民商法研究会などに所属				
【その他研究活動上特記すべき事項】			年月日	備	考	
中国北京大学法学院客員研究員			2008年			

Ⅲ 社会活動（3カ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）

社会における活動	年月日	備	考
中国・重慶大学法学院客員教授	1999年9月～		
西南学院大学法学部非常勤講師			

IV大学運営活動（3ヵ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）（2011年度就任教員は、2011年度の本学での学内職務及び大学業務をご記入願います。）

大学運営における活動	年月日	備 考
【学内職務】		
経営学会委員	2001年4月～	
外国留学生担当委員	2001年4月～	
経営学部資料室委員	2001年4月～	
学生部委員会委員	2009年4月～	
【大学業務】		

2011年度 教員活動評価調査票 (記入用紙)

高森 哉子 1/6

所属	経営学部 経営学科	職名	教授	氏名	高森 哉子	学位	博士(法学)、千葉大学、2007年3月取得
----	-----------	----	----	----	-------	----	-----------------------

I 教育活動 (3カ年<2010年度、2009年度、2008年度>の活動についてご記入願います。)

【担当科目】 (2011年度就任教員は、2011年度の本学担当科目をご記入願います。)

1. 学部担当科目

民法(総則)、民法(物権法)、民法(債権法総論)、民法(債権法各論)、新入生演習、基礎演習1・2、発展演習1・2、卒業演習1・2

2. 大学院担当科目

民法特論、民法特論演習Ⅰ、民法特論演習Ⅱ、民法特殊研究

3. 非常勤等担当科目(括弧内に大学名を記入してください) (2011年度就任教員は、前任校での担当科目についてもご記入願います。)

民法1・2(関西大学)

【教育業績】 (2011年度就任教員は、前任校での教育業績についてもご記入願います。)

教育実践上の主な業績	年月日	備 考
1. 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) (1) 講義科目における具体的教育実践		学生には、教科書・六法・初回からの授業ノート(これらを3点セットと称している)を持参して受講することを義務付けている。授業の冒頭5分間で、教科書と前回のノートを用い、前回の復習をし本授業のテーマを明確にする。テーマの解説では、学生の興味をかきたてるために学生にとって身近な実例を用意し、時間の許す限りにおいて判例を取り上げ、事実関係を具体的に紹介している。学生の授業参加を促すために教科書・六法に複数色のカラーマーキングをさせ、また学生自身の復習に役立たせるため、板書は丁寧かつ工夫を凝らし、重要な箇所は「何月何日の授業ノートを見よ」と指示し、授業中も各自ノートを読み返させている。板書及び学生の筆記が一区切りついたところで、全員に顔を上げさせて、板

2011年度 教員活動評価調査票（記入用紙）

高森 哉子 2/6

		<p>書を示しつつもう一度内容を解説し、理解の確認と知識の定着化を図っている。大きくてはっきりとした口調で話すことはいうまでもない。私語はもちろんのこと授業中の入退出も厳しく注意している。これらの工夫の結果、授業評価では「基礎から教えてくれる授業は他にもあるけれど、基礎の基礎から教えてくれる授業は、この授業しかない」、「先生の熱意にやる気がでた」、「受講生が一体感をもって授業に参加できた」など好評であり、授業への満足度が高い。</p>
(2) 模擬裁判の実施		<p>法と裁判を身近なものとして実感させるため、刑事裁判の脚本を準備し、新入生演習において模擬裁判を実施している。裁判員制度に対する理解の向上にも役立っているようである。</p>
(3) 法廷傍聴の実施・指導		<p>判例が「現代社会における生ける法」であることを学ばせるため、毎年3回、ゼミ生の大阪地裁への法廷傍聴を実施している。事前にレジユメを配布して自習させた上、一人ひとりに課題を持たせ、実施後に報告書を提出させて指導し、理解を深めている。</p>
(4) プレゼミの実施		<p>基礎・発展・卒業のすべての演習において、民法財産法上の重要かつ興味深い判例を取り上げ、ゼミ生に報告させ、活発な議論・討論をすることによって、ゼミ生の法的思考力を鍛錬し、問題処理能力を養いたいと考えている。しかし、学生にとっては、判例集に掲載されている判例そのものから事案の概要をまとめ、判旨を抽出することは</p>

		なかなか困難な作業である。そこで、プレゼミ、すなわち課題ごとに報告者全員が研究室に集まり、私の前で事前報告・質問をすることを義務付けた。学年の異なる3つのゼミが併存しているため、なかなか時間の要することであり、判例そのものの取り方から改めて指導しなければならないこともしばしばあるが、このプレゼミの実施により、一般的にゼミ報告の内容が深まり、議論に参加しようとする意欲の向上が感じられるようになった。
2. 作成した教科書、教材、参考書 演習課題問題集の作成		基礎・発展・卒業のすべての演習において、民法財産法上の重要かつ興味深い判例を取り上げ、ゼミ生に報告させているが、報告課題としてゼミ生に与えている問題集は、判例の事案を参考に作成している。
3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 公開授業の実施	2008年7月1日	「民法（I）」の公開授業を実施した。授業後の公開授業研究会では、「200人あまりの受講生ほぼ全員の心をつかんで授業しているのに感心した」、「パワフルで、話術が実に楽しく、正直、学生がうらやましかった」、「緩急自在な間の取り方が、実に参考になった」等の好評を得た。
4. その他教育活動上特記すべき事項 (1) 大学院生修士論文指導		院生の修士論文指導のため、私の所属する研究会に、院生を参加させ報告させているが、その報告準備のためのプレ研究会を実施している。

(2) 法律相談		学生相談室から紹介されて、あるいは私の専門が民法であることを知って研究室に直接尋ねてくる学生に対して、大学教育現場に在る法律家としての立場から、法律相談に乗り助言を与えている。これは、2010年度より学生部の「弁護士による学生のための法律相談」に発展した。
(3) 教員とゼミ生及びゼミ生相互の交流の促進支援		教員とゼミ生及びゼミ生相互の親睦を図るために、年4回コンパを実施している。また、ゼミ生の一品持ち寄りパーティーも、年1、2回自宅で開催しているが、なかなか盛会である。更に、現役ゼミ生の将来における人脈を豊かなものとするため、高森ゼミ連合会である「八洲会」の総会をオリンピックイヤーに開催し、社会人となった先輩たちとの交流を深めさせている。

Ⅱ 研究活動（5カ年〈2010年度、2009年度、2008年度、2007年度、2006年度〉の活動についてご記入願います。）

著書・論文等の名称	著書・共著の別	発行または発表年月	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数	査読の有無
【著書】						/
『代理法の研究』 学位論文	単著	2008年2月	法律文化社		1～649頁	/
【論文】						
「現今の民法改正の問題点について－代理法改正に対する批判的考察－」	単著	2010年7月	千葉大学法学論集25巻2号		135～199頁	無

【その他】					
無権代理と相続	単	2006年 11 月 22 日	千葉法学研究会における報告 (千葉大学法経学部)		
【学会における主な活動】					
【その他研究活動上特記すべき事項】			年月日	備 考	

Ⅲ 社会活動（3カ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）

社会における活動	年月日	備 考
大阪府公益認定等委員会委員・委員長代理	2007年8月～現在に至る	わが国の公益法人制度は、明治29年の民法制定とともに始まり、非営利目的の法人は、主務官庁の許可を得て法人格を取得することとされていた（設立許可主義）。しかし、この度、明治以来初めて抜本的な改正がなされ、許可主義から準則主義に変更された。そして、準則主義で設立された一般社団・財団法人のなかで、公益目的事業を行うことを主たる目的とする法人については、行政庁が「合議制の機関」の意見に基づいて、公益法人に認定するという制度が創設された。この新しい制度は2008年12月から施行されたが、大阪府におけるこの「合議制の機関」が、「大阪府公益認定等委員会」である。私は委員に任命されると同時に、委員長代理に指名され、現在3期目である。昨年

2011年度 教員活動評価調査票（記入用紙）

高森 哉子 6/6

		後半から、移行認定・移行認可の申請件数が飛躍的に増加し、委員会開催も、月2～3度の頻度だが、民法総則を専門とする者として、自らの専門的知識と判断を、新しく生まれ変わった公益法人制度の下での公益認定に役立たせることができることに、やりがいを感じている。
--	--	---

IV大学運営活動（3ヵ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）（2011年度就任教員は、2011年度の本学での学内職務及び大学業務をご記入願います。）

大学運営における活動	年月日	備 考
【学内職務】		
経営学科長	2005年4月～2009年3月	
経営学部教務グループリーダー	2005年4月～2009年3月	
経営学部人事委員	2007年4月～現在に至る	
キャンパスハラスメント相談員	2007年4月～2009年3月	
大学評議員	2007年4月～2009年3月	
学生部長	2009年4月～現在に至る	
【大学業務】		
スーパー教授のスーパー授業	2008年7月20日	本学オープンキャンパス
学部教育への若干の提言 ー学生部長としての経験からー	2010年7月8日	国際教養学部FD懇談会
【大学業務】		
教員免許状更新講習「市民社会と法」講師	2009年8月25日	

2011年度 教員活動評価調査票 (記入用紙)

栢尾 安伸 1/3

所属	経営学部 経営学科	職名	准教授	氏名	栢尾 安伸	学位	博士(経営学)、神戸大学、平成 15 年 9 取得
----	-----------	----	-----	----	-------	----	---------------------------

I 教育活動 (3カ年<2010年度、2009年度、2008年度>の活動についてご記入願います。)

【担当科目】 (2011年度就任教員は、2011年度の本学担当科目をご記入願います。)

1. 学部担当科目

平成 21 年 経営学概論(2コマ年4コマ)、企業論、新入生演習、キャリアデザイン論(2コマ秋学期のみ)、卒業演習、日本事情
平成 22 年 学外研修(神戸大学大学院経営学研究科)

2. 大学院担当科目

3. 非常勤等担当科目(括弧内に大学名を記入してください) (2011年度就任教員は、前任校での担当科目についてもご記入願います。)
ありません。

【教育業績】 (2011年度就任教員は、前任校での教育業績についてもご記入願います。)

教育実践上の主な業績	年月日	備 考
1. 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) ゼミにおいて、学外での現地調査などの実施		
2. 作成した教科書、教材、参考書 「1からの経営学」(中央経済社)		
3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 DVDを利用したケーススタディを実施 具体的な事例に基づいて経営学の理論を学ぶことを目指す 企業家支援活動を行う実務家の講演活動		本学への赴任時より実施
4. その他教育活動上特記すべき事項		

2011年度 教員活動評価調査票（記入用紙）

朽尾 安伸 2/3

Ⅱ 研究活動（5カ年〈2010年度、2009年度、2008年度、2007年度、2006年度〉の活動についてご記入願います。）

著書・論文等の名称	著書・共著の別	発行または発表年月	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数	査読の有無
【著書】						
「1からの経営学」	共著	2006年12月	中央経済社	(加護野忠男・吉村典久編)	56-67頁	
「地域ブランドと広告—伝える流儀を学ぶ」	共著	2010年6月	嵯峨野書院	梅村修 辻幸恵 朽尾安伸	23-60頁	
【論文】						
組織構造と技能との関係	単著	2008年12月	追手門経営論集 Vol.14 No.2		pp79-98	無
中小企業における現場の技能—金型生産の事例を参考に—	単著	2009年2月	追手門学院大学ディスカッションペーパー		No.14	無
金型企業を対象としたインタビューデータ集	単著	2008年5月	追手門学院大学ディスカッションペーパー		No.15	無
技能の技術化プロセス	単著	2010年9月	繊維機械学会誌 Vol63No.9		pp53-60	
【その他】						
「流行と社会」(赤阪俊一,乳原孝,辻幸恵 著)(2004年3月 白桃書房) 書評	単著	2007年1月	京都学園大学総合研究所所報		2005年3月6号	
「新連携計画認定事例集(近畿地域)第4期」	単著	2008年12月	(独立行政法人)中小企業基盤整備機構編			
教え方の順序と技能	単著	2007年5月	繊維機械学会全国大会60回大会	研究報告		
技術革新と技能	単著	2008年5月	繊維機械学会全国大会61回大会	研究報告		
酒造りの人材育成	単著	2009年5月	繊維機械学会全国大会62回大会	研究報告		

これからの企業内教育について	単著	2009年11月	2009年度追手門学院大学公開講座			
中小企業における企業内教育の在り方について	単著	2009年11月	毎日新聞大阪本社 企業内研修			
【学会における主な活動】						
2011	日本繊維製品消費科学会 2011年度全国大会 流通消費者問題 座長					
【その他研究活動上特記すべき事項】				年月日	備	考
「本人の申し出により非公表とした。」						

Ⅲ社会活動（3カ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）

社会における活動	年月日	備	考
特にありません			

Ⅳ大学運営活動（3カ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）（2011年度就任教員は、2011年度の本学での学内職務及び大学業務をご記入願います。）

大学運営における活動	年月日	備	考
【学内職務】			
カリキュラム改革委員会	2011年より現在まで		
FD推進委員	2011年より現在まで		
教務委員	2011年より現在まで		
【大学業務】			
ベンチャービジネス研究所 所員	2011年より現在まで		
※2010年度学外研修のため、大学運営における活動は2011年度からの活動のみ標記			

2011年度 教員活動評価調査票 (記入用紙)

西岡 健夫 1/4

所属	経営学部 経営学科	職名	教授	氏名	西岡 健夫	学位	博士(経済学)京都大学、1999年11月取得
----	-----------	----	----	----	-------	----	------------------------

I 教育活動 (3カ年<2010年度、2009年度、2008年度>の活動についてご記入願います。)

【担当科目】 (2011年度就任教員は、2011年度の本学担当科目をご記入願います。)

1. 学部担当科目

経営学学概論、経営倫理学、経営組織論、基礎演習、発展演習、卒業演習

2. 大学院担当科目

博士前期課程 : 経営学特論、経営学特論演習 I、経営学特論演習 II

博士後期課程 : 経営学特殊研究、研究演習

3. 非常勤等担当科目(括弧内に大学名を記入してください) (2011年度就任教員は、前任校での担当科目についてもご記入願います。)

【教育業績】 (2011年度就任教員は、前任校での教育業績についてもご記入願います。)

教育実践上の主な業績	年月日	備 考
1. 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 講義科目(経営学概論、経営倫理・経営組織) 産業界から外部講師を招いて理論と実際の橋渡し(年間4~6回)。双方向授業(質疑、小テストなど)に注力。		
演習科目(2年、3年、4年) 学生の思考力、発表力を伸ばすことに力点。毎回3人ずつ報告、皆で討論。 キャリア教育も重視(先輩ゼミ生、キャリア開発部と連携)。		
2. 作成した教科書、教材、参考書 講義科目ではパワーポイント、プリント類を活用。教科書は、拙著『成熟社会の企業学』(2003年、文真堂)と、それをわかりやすくした「経営倫理ノート」を利用。		
3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		

4. その他教育活動上特記すべき事項 大学院学位論文指導 2007年1人、08年2人修士学位を取得。09年は2人を指導中。 博士後期課程は毎年1、2名を指導。		
社会人(経営コンサルタント)学位論文指導 2009年10月から開始、学位希望者が遠隔地のため2010年度から研究生を予定。		
留学生、編入生指導 毎年ゼミに留学生、編入生ともに、それぞれ1～3名受け入れ。		

Ⅱ 研究活動（5カ年〈2010年度、2009年度、2008年度、2007年度、2006年度〉の活動についてご記入願います。）

著書・論文等の名称	著書・共著の別	発行または発表年月	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数	査読の有無
【著書】 企業の責任・統治・再生	共著	2008年4月	文真堂	菊池・平田・厚東編著、第2章担当	22－37頁	/
【論文】 高次の社会的責任	単著	2007年3月	日本経営倫理学会誌第14号		197－206頁	有
独占的競争、パワー、組織	単著	2008年3月	追手門経済経営研究第15号		1－15頁	無
自由競争と経営倫理(その1)	単著	2009年3月	追手門経済経営研究第16号		1－12頁	無
自由競争と経営倫理(その2)	単著	2010年3月予定	追手門経済経営研究第17号	現在、原稿を印刷中		無

Changing Japanese-style Management System from a Viewpoint of Business Ethics	単著	2009年6月	追手門経営論集第15巻第1号		155-169 頁	無
【その他】						
応用倫理学事典、「競争の倫理」「社会的規制」「環境報告書」の3項目を担当	単著	2007年12月	丸善	加藤尚武編	pp.362-363 ,pp390-391 pp.372-373	有
経営学論集第78集(統一論題櫻井報告に対する討論者コメント)	単著	2008年9月	千倉書房	日本経営学会編	32-33頁	無
海外学会発表 ; Changing Japanese-style management from a Viewpoint of Business Ethics	単 独 発 表	2009年9月1 2日	ヨーロッパ経営倫理学会 European Business Ethics Network			有
学会発表 ; 企業の経済活動と人間の幸福	単独	2005年11 月12日	社会経済システム学会全国大会			有
学会発表 ; 高次の社会的責任	単独	2006年10 月21日	経営倫理学会全国大会			有
基調報告 ; 経営倫理の現状と課題	単独	2005年5月 25日	経営倫理学会関西部会			無
学会統一論題討論者 : 谷本寛治報告に対して	単独	2007年5月 20日	経営学史学会全国大会			
学会統一論題討論者 ; 櫻井克彦報告に対して	単独	2007年9月 6日	日本経営学会全国大会			
【学会における主な活動】						
2005年5月～	経営学史学会理事、運営委員					
2005年4月～	経営倫理学会評議員					
2007年9月5日～9月8日	日本経営学会第81回全国大会 大会委員長(於追手門学院大学)					

2011年度 教員活動評価調査票（記入用紙）

西岡 健夫 4/4

【その他研究活動上特記すべき事項】	年月日	備 考
レフェリー就任	2008年5月	経営学史学会年報論文査読
	2009年1月	経営学史学会学会賞(著書、論文)審査
	2009年10月	経営学史学会年報論文査読

Ⅲ社会活動（3ヵ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）

社会における活動	年月日	備 考
インテリジェントアレー専門セミナー(関西社会人大学院連合主催)	2009年12月11日	グローバル競争激化の中で企業と経済の本質を探る
全国大学証券ゼミナール学生研究発表大会の指導講師	2008年12月12、13日	於国立オリンピック記念青少年総合センター
ひょうごセルフヘルプ支援センター監事	2002年4月1日～現在	

Ⅳ大学運営活動（3ヵ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）（2011年度就任教員は、2011年度の本学での学内職務及び大学業務をご記入願います。）

大学運営における活動	年月日	備 考
【学内職務】		
追手門学院評議員	2008年8月～	
120周年学校史整備委員会委員	2007年7月～2009年3月	
【大学業務】		
出張授業 八幡工業高校	2009年4月16日	
出張授業 追手門学院茨木高校	2009年9月4日	
【その他大学運営活動上特記すべき事項】		
公開講座(秋の専門講座)	2009年10月15日	企業社会のゆくえ(自由経済と経営倫理)

2011年度 教員活動評価調査票 (記入用紙)

藤原 英賢 1/3

所属	経営学部 経営学科	職名	講師	氏名	藤原 英賢	学位	博士(経営学)
----	-----------	----	----	----	-------	----	---------

I 教育活動 (3カ年<2010年度、2009年度、2008年度>の活動についてご記入願います。)

【担当科目】 (2011年度就任教員は、2011年度の本学担当科目をご記入願います。)

1. 学部担当科目 入門簿記, 初級簿記, 中級簿記1, 中級簿記2, 監査論1, 監査論2, 発展演習1, 発展演習2, 経営特殊講義4, 会計学特殊講義3, 新入生演習
2. 大学院担当科目
3. 非常勤等担当科目(括弧内に大学名を記入してください) (2011年度就任教員は、前任校での担当科目についてもご記入願います。) 会計学特論1, 会計学特論2, 専門演習1, 専門演習2, 新入生ゼミナール, 簿記論1, 初級簿記演習, 中級簿記演習 A

【教育業績】 (2011年度就任教員は、前任校での教育業績についてもご記入願います。)

教育実践上の主な業績	年月日	備 考
1. 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) コンピューターを使った財務情報の使い方に関する実習	2009年4月から7月	
2. 作成した教科書、教材、参考書		
3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 簿記関連資格の取得支援講座を担当	2009年から2010年	
4. その他教育活動上特記すべき事項		

II 研究活動 (5カ年<2010年度、2009年度、2008年度、2007年度、2006年度>の活動についてご記入願います。)

著書・論文等の名称	著書・ 共著の別	発行または 発表年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	査読の 有無
【著書】						

【論文】						
継続企業の前提に関する監査人の判断	単著	2008年3月	学位論文(東北大学経112号)			有
監査法人の規模と監査報酬の関係	単著	2010年3月	現代監査(21)		159-168	有
内部統制の重要な欠陥と財務報告の質の関係	単著	2010年3月	愛知淑徳大学論集-ビジネス学部・ビジネス研究科 7号		97-110	無
内部統制報告書で開示された重要な欠陥と企業の財務情報との関係	単著	2009年3月	愛知淑徳大学論集-ビジネス学部・ビジネス研究科 6号		105-116	無
内部統制の重要な欠陥と監査役の性質の関係	単著	2010年3月	内部統制 No.3		163-171	無
【その他】						
内部統制報告制度の効果に関する実態調査と実証研究	共同	2009年8月	第2回内部統制研究学会全国大会	高田敏文, 内山峰男, 町田祥弘他		
An Empirical Research on the Audit of Financially Distressed Companies in Japan: On the Evaluation of Management Plans	単独	2007年11月	19th Asian-Pacific Conference on International Accounting Issues, Kuala Lumpur, Malaysia			
The Relationship Between Auditor's Consideration for Company's Financially Distress Condition and Financial Ratios		2008年11月	20th Asian-Pacific Conference on International Accounting Issues, Paris, France			
【学会における主な活動】						
なし						

【その他研究活動上特記すべき事項】	年月日	備 考
19th Asian-Pacific Conference on International Accounting Issues, The Vernon Zimmerman Best Award In recognition of the Best Doctoral Student Paper	2007年11月	

Ⅲ社会活動（3カ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）

社会における活動	年月日	備 考
なし		

Ⅳ大学運営活動（3カ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）（2011年度就任教員は、2011年度の本学での学内職務及び大学業務をご記入願います。）

大学運営における活動	年月日	備 考
【学内職務】 教務グループ, 企画グループ	2010年4月1日	
【大学業務】		

2011年度 教員活動評価調査票 (記入用紙)

水野 浩児 1/6

所属	経営学部 経営学科	職名	准教授	氏名	水野 浩児	学位	修士(法学)
----	-----------	----	-----	----	-------	----	--------

I 教育活動 (3カ年<2010年度、2009年度、2008年度>の活動についてご記入願います。)

【担当科目】 (2011年度就任教員は、2011年度の本学担当科目をご記入願います。)

1. 学部担当科目

ビジネス法基礎1・2 税法1・2 卒業演習1・2 発展演習1・2 基礎演習1・2 新入生演習1・2 オーストリアを学ぶ 現代社会と人権
学び論

2. 大学院担当科目

3. 非常勤等担当科目(括弧内に大学名を記入してください) (2011年度就任教員は、前任校での担当科目についてもご記入願います。)

民法(大阪産業大学)、くらしと法律(産業技術短期大学)

【教育業績】 (2011年度就任教員は、前任校での教育業績についてもご記入願います。)

教育実践上の主な業績	年月日	備 考
1. 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
①基礎演習における宿泊合宿 大学2回生を対象にした演習において、毎年9月上旬に淡路島で勉強合宿を実施している。ゼミ生の団結強化と、教員と学生の距離感が近くなる効果がある。	2008年9月 2009年9月 2010年9月	
②発展演習での海外合宿 大学3回生を対象にした演習において、毎年2月に上海で合宿を行う。日系企業工場見学や日系金融機関訪問を行い、中国経済の実態を学び、就職活動などに役立てる。	2009年2月 2010年2月 2011年2月	蘇州インソライト工業工場見学 上海レンゴー工場見学等
③社会人を招いた実践教育 銀行役員経験者や外資系証券会社役員等を招いて経済実態についての講義を受ける。学生時代に実務経験者より指導を受けることで、日常の講義内容が充実してくる。	2008年10月・11月 2009年10月・11月 2010年10月・11月	南都銀行元常務取締役 モルガンスタンレー証券債券調査本部長等

<p>④発展演習・基礎演習でのオーサカキングボランティア参加 (主催:毎日放送 共催:大阪市・大阪観光コンベンション協会) 大阪文化発展への協力と、リサイクルを啓蒙することにより環境問題について真剣に考える機会を提供した。</p>	<p>2008年7月26日～8月3日</p>	
<p>⑤基礎演習・発展演習でのボランティア活動 主に大学2回生および3回生を中心にガンバ大阪公式戦を利用して、ゴミの分別啓蒙活動ボランティアを実施している。企画・提案を全て学生が行い、先方との交渉も学生が行うことで責任感と忍耐力が培われる。ガンバ大阪公式戦全て実施している。</p>	<p>2009年8月・9月 5回 2010年3月～11月 18回</p>	
<p>2. 作成した教科書、教材、参考書 演習授業で使用する教材作成</p>	<p>2009年5月6日</p>	<p>「キャラクター総論」の知的財産の流動化に関する章は、発展演習などで利用し、実務における、資金調達方法の多様性を伝えることに役立っている。</p>
<p>3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 <教育研究所FD懇談会> 教育研究所所員として、教育研究所主催FD懇話会で発表を行った。</p>	<p>2009年6月5日 2010年7月5日</p>	
<p>4. その他教育活動上特記すべき事項 <体育会サッカー部顧問> 体育会サッカー部顧問として、日々学生指導に取り組んでいる。サッカーのみならず勉学面の指導や就職指導も行い、卒業生の100%が内定を獲得している。チーム成績も年々向上しており、強豪校からの受験者も毎年増加しており、入試にも間接的に貢献している。</p>	<p>2007年4月～現在</p>	

<p><マナーアップ推進活動> (学友会の指導)大学の喫煙マナーや、食堂などにおけるマナーの改善のため、学友会と協議をしながら、マナーアップキャンペーンを積極的に展開した。その結果、学生の喫煙マナーに対する意識が改善された。</p>	2009年5月	
---	---------	--

Ⅱ 研究活動（5カ年〈2010年度、2009年度、2008年度、2007年度、2006年度〉の活動についてご記入願います。）

著書・論文等の名称	著書・共著の別	発行または発表年月	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数	査読の有無
<p>【著書】 キャラクター総論 ー文化・商業・知財ー 第5章キャラクターと法律 第6章キャラクタービジネス（商品化権） 第7章 キャラクター（知的財産）とファイナンス</p>	共著	2009年5月6日	白桃書房	辻 幸恵 梅村 修	第5章 pp.184-210 第6章 pp.211-254 第7章 pp.255-295	/
<p>【論文】 ①債権者、債務者双方からの貸倒損失のアプローチの重要性ー資金調達環境改善の後押しー ②資金調達における知的財産評価の具体的検証 ③譲渡禁止特約重大な過失ある第三者 ④譲渡禁止特約と譲受人に重過失に関する判例の考察</p>		2007年3月	追手門学院大学経済・経営論集14号		pp.269-280	
		2009年3月	追手門学院大学経済・経営論集16号		pp.27-44	
		2009年10月	追手門経営論集第15巻第1号		pp.267-284	
		2010年3月	追手門学院大学経済・経営論集17号		pp.61-76	

2011年度 教員活動評価調査票（記入用紙）

水野 浩児 4/6

⑤オーストラリアにおける住宅取得税制インパクトの考察 Consideration of the effects of taxes on the residential house acquisition in Australia	2011年3月	追手門学院大学 オーストラリア研究所 紀要 36号	pp.61-80	
【その他】				
【学会における主な活動】				
2007年5月31日	発表「コンプライアンス経営重視の時代ファッションビジネスと法律関係」 (第60回日本繊維機械学会年次大会、於:大阪科学技術センター)			
2007年6月30日	発表「知的財産を活用した資金調達スキームと問題点」 (第5回日本知財学会学術研究発表会、於:東京大学)			
2009年2月	オーストラリアと日本との自由貿易とオーストラリア税制 —労働党政権への変化と国際取引、税制をめぐる諸問題— Free Trade Agreement between Australia and Japan, and the recent political change and tax restructurings (オーストラリア研究所主催 2008年度共同研究セミナー)			
【その他研究活動上特記すべき事項】		年月日	備	考

Ⅲ社会活動（3カ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）

社会における活動	年月日	備 考
奈良県再生支援協議会アドバイザー	2009年4月～現在	不定期に奈良県より企業の再生指導を依頼される。
中小企業整備基盤機構連携アドバイザー	2011年4月～現在	国の経営アドバイザーとして活躍している。
兵庫県委託診断員	2010年4月～現在	不定期に兵庫県から企業等の委託診断を依頼される。

2011年度 教員活動評価調査票（記入用紙）

水野 浩児 5/6

ラジオ大阪「土曜情報スタジオ」メインパーソナリティ	2009年4月～現在	毎週1時間番組を担当している。追手門学院大学の宣伝効果に寄与している。
関西学生サッカー連盟理事	2010年4月～現在	本学サッカー部を上部団体の役員として支えることも行っている。
講演「やさしい経営学入門」(加東市商工会主催 於:加東市商工会議所)	2008年9月	
講演「中小企業に必要なコンプライアンス体制の構築と経営者の悩み」 (大阪司法書士会主催 於:大阪司法書士会館)	2008年10月	
講演「就活に生きる学生生活の過ごし方」 (大東市商工会議所 於:大阪産業大学)	2008年12月	
講演「中小企業のコンプライアンス体制構築と司法書士の役割」 (京都司法書士会主催 於:リーガロイヤル京都ホテル)	2009年1月	
講演「コンプライアンス感覚は信用できる企業の最低条件」 (追手門学院大学主催「おうてもん塾」 於:追手門学院大阪城スクエア)	2009年2月	

IV大学運営活動（3カ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）（2011年度就任教員は、2011年度の本学での学内職務及び大学業務をご記入願います。）

大学運営における活動	年月日	備 考
【学内職務】		
学生部委員	2006年4月～2010年3月	
入試主事	2010年4月～現在	
体育会顧問会幹事	2009年4月～現在	
オーストラリア研究所所員	2007年4月～現在	本学オーストラリア研究所所員として活動している。
教育研究所所員	2009年4月～2011年3月	本学教育研究所所員として活動していた。

学長調査役	2007年4月～2009年3月	学長調査役として本学に必要な経営資源等を検証した。ガンバ大阪とのつながりに貢献できた。
【大学業務】 経営学部オープンキャンパス担当	2008年6月～9月 2009年6月～9月 2010年6月～9月	経営学部のオープンキャンパス企画・準備および運営を、学生を中心に行っている。総合司会を担当した。
経営学部プリエントランス担当	2009年1月23日	経営学部のプリエントランスを現役学生をスタッフとして参加させ、企画して取組んでいる。
オーストラリア研究所主催ディジュリドゥ演奏会司会	2010年6月～9月	オープンキャンパスで行われるオーストラリア研究所主催のディジュリドゥ演奏会司会を担当し、研究所の広報活動に貢献した。
守山北高等学校にて出張授業	2008年3月13日	「法律の大切さを知る。高校生にとって身近な法律」をテーマに高校生に分かりやすい法律の授業を行った。

2011年度 教員活動評価調査票 (記入用紙)

宮宇地 俊岳 1/5

所属	経営学部 経営学科	職名	講師	氏名	宮宇地 俊岳	学位	博士(経済学)、京都大学、2009年3月取得
----	-----------	----	----	----	--------	----	------------------------

I 教育活動 (3カ年<2010年度、2009年度、2008年度>の活動についてご記入願います。)

【担当科目】 (2011年度就任教員は、2011年度の本学担当科目をご記入願います。)

1. 学部担当科目 入門簿記(E・G)、初級簿記(E・G)、会計学原理1(B・C)、会計学原理2(B・C)、新入生演習、卒業演習1・2
2. 大学院担当科目 なし
3. 非常勤等担当科目(括弧内に大学名を記入してください) (2011年度就任教員は、前任校での担当科目についてもご記入願います。) ディスクロージャー論(流通科学大学)

【教育業績】 (2011年度就任教員は、前任校での教育業績についてもご記入願います。)

教育実践上の主な業績	年月日	備 考
1. 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
2. 作成した教科書、教材、参考書 ①流通科学大学における「ディスクロージャー論」は適切なテキストが存在しなかったため、全30回の講義について、オリジナルのPPT資料を作成	2010年9月～2011年1月にかけて	
②京都大学経営管理大学院講義『企業分析』用に教育用ケース教材を3点作成	2009年8月、2010年6月、2010年8月に各1点ずつ	Working PaperとしてWeb上で公開している
3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
4. その他教育活動上特記すべき事項		

Ⅱ 研究活動（5カ年〈2010年度、2009年度、2008年度、2007年度、2006年度〉の活動についてご記入願います。）

著書・論文等の名称	著書・共著の別	発行または発表年月	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数	査読の有無
【著書】						
『現代会計学と会計ビッグバン』	共著	2007年6月	森山書店	椛田龍三氏・由井敏和氏による共編著／私の担当箇所は、徳賀芳弘氏との共著	261-277頁	
【論文】						
『会計データを用いた M&A による経済効果分析』	単著	2009年3月	京都大学大学院経済学研究科、博士論文		1-107頁	無
「M&A 後の収益性に関する実証分析」	単著	2009年4月	産業経理協会、『産業経理』、第69巻、第1号		145-157頁	無
「M&A 実施企業の収益性推移の分析」	単著	2009年8月	中央経済社、『企業会計』、第61巻、第8号		133-139頁	無
「会計政策における「横並び」行動についての一考察－未積立退職給付債務の償却情報を材料として－」	共著	2011年3月	『会計・監査ジャーナル』第23巻、第3号	徳賀芳弘氏との共著	105-114頁	無
【その他】						
[Working Paper]						
「機関投資家のプライベート・エクイティ投資－日本の実態と国際比較－」	共著	2007年2月	京都大学大学院経済学研究科、Working Paper J-58	濱田康行氏、澤邊紀生氏、桐畑哲也氏、片川真実氏との共著	1-34頁	無
「退職給付会計情報と市場の深読み」	単著	2009年5月	京都大学経営管理大学院みずほ証券寄付講座、Working Paper No.2010.J-1		1-19頁	無

“Seeing Through News concerning Unfunded Pension Benefit Obligation Write-Off Policies in Japan; Market Reaction to News on Newspaper”	共著	2010年8月	京都大学大学院経済学研究科、Working Paper No.119	徳賀芳弘氏、Choi, Jong-Seo氏との共著	1-30頁	無
〔教育用ケース教材〕						
“Earnings Management by Means of Changes in Accounting Entities ;The Case of Tobu Railway Company”	共著	2009年7月	京都大学大学院経済学研究科、Working Paper No.108 (同内容は、Asian Academic Accounting Association, The 10th Annual Conference Proceedings DVD-ROMにも収録)	徳賀芳弘氏との共著	1-23頁	無
「企業分析における経営戦略分析」	単著	2010年6月	京都大学経営管理大学院 みずほ証券寄付講座、 Working Paper No.2010.J-2		1-22頁	無
「会計主体変更による利益管理」	単著	2010年8月	京都大学経営管理大学院 みずほ証券寄付講座、 Working Paper No.2010.J-3		1-19頁	無
〔学会ルポ〕						
「学会ルポ 日本会計研究学会第68回大会(課題研究委員会報告「日本の財務会計研究の棚卸し－国際的な研究動向の変化の中で－)」	単著	2009年12月	中央経済社、『企業会計』、第61巻、第12号		160頁	無

「学会ルポ 日本会計研究学会 第69回大会(課題研究委員会報告 「日本の財務会計研究の棚卸し －国際的な研究動向の変化の中 で－)」	単著	2010年12月	中央経済社、『企業会計』、 第61巻,第12号		91-92頁	無
【学会報告】						
「M&A後の収益性分析」	単独	2008年12月	日本会計研究学会第58回関西 西部会(同志社大学)			
“Earnings Management by Means of Changes in Accounting Entities; The Case of Tobu Railway Company”	共同	2009年11月	The 10th Annual Conference, Asian Academic Accounting Association,(Kadir Has University Istanbul, Turkey)	徳賀芳弘氏との共同報告		
【ワークショップ報告】						
「M&Aの長期的経済効果」	単独	2008年8月	九州会計研究会・サマーセミナ ー(長崎県立大学)			
“Earnings Management by Means of Changes in Accounting Entities”	単独	2010年2月	Pusan National University (Pusan, Korea)			
“Earnings Management by Means of Changes in Accounting Entities”	単独	2010年3月	National Taiwan University (Taipei, Taiwan)			
会計政策における「横並び行動」－ 会計基準変更時差異の償却政策を 材料として－	共同	2011年2月	RIEB セミナー/The Japanese Accounting Review Workshop (神戸大学経済経営研究所)	徳賀芳弘氏との共同報告		
【学会における主な活動】						
特になし						

【その他研究活動上特記すべき事項】	年月日	備	考
特になし			

Ⅲ社会活動（3カ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）

社会における活動	年月日	備	考
特になし			

Ⅳ大学運営活動（3カ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）（2011年度就任教員は、2011年度の本学での学内職務及び大学業務をご記入願います。）

大学運営における活動	年月日	備	考
【学内職務】			
①企画グループ	2011年4月1日より		
②キャンパス整備委員	2011年4月1日より		
③ベンチャービジネス研究所 所員	2011年4月1日より		
④経営学部 WEB 担当	2011年4月1日より		
【大学業務】			
①オープンキャンパスへの参加	計3回参加(2011年6月19日、8月7日、8月28日の)		
②滋賀県立能登川高校への出張講義(予定)	2011年9月28日		

2011年度 教員活動評価調査票 (記入用紙)

村上 喜郁 1/4

所属	経営学部	経営学科	職名	講師	氏名	村上 喜郁	学位	博士(商学)
----	------	------	----	----	----	-------	----	--------

I 教育活動 (3カ年<2010年度、2009年度、2008年度>の活動についてご記入願います。)

【担当科目】 (2011年度就任教員は、2011年度の本学担当科目をご記入願います。)

1. 学部担当科目

経営学概論 1・2、経営管理論 1・2、生産管理論 1・2、経営外国書購読 1・2、新入生演習、卒業演習 1・2 以上

2. 大学院担当科目

無し

3. 非常勤等担当科目(括弧内に大学名を記入してください) (2011年度就任教員は、前任校での担当科目についてもご記入願います。)

【非常勤】情報処理基礎演習、ビッグ・ビジネス(関西大学 商学部)

【前任校】経営学、リーダーシップ論、サービス経営論、組織論、情報処理基礎演習 A・B、観光学演習ⅡA・B、観光学演習ⅢA・B 以上

【教育業績】 (2011年度就任教員は、前任校での教育業績についてもご記入願います。)

教育実践上の主な業績	年月日	備 考
1. 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 「本人の申し出により非公表とした。」		
2. 作成した教科書、教材、参考書 「本人の申し出により非公表とした。」		
3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 「本人の申し出により非公表とした。」		
4. その他教育活動上特記すべき事項 「本人の申し出により非公表とした。」		

2011年度 教員活動評価調査票（記入用紙）

村上 喜郁 2/4

Ⅱ 研究活動（5カ年〈2010年度、2009年度、2008年度、2007年度、2006年度〉の活動についてご記入願います。）

著書・論文等の名称	著書・共著の別	発行または発表年月	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数	査読の有無
【著書】						
無し						
【論文】						
B 級ご当地グルメ市場の特性に関する一考察— 顧客セグメントと 3 つの差別化要因を中心に —	単著	2011 年 3 月	大阪観光大学『大阪観光大学紀要』第 11 集		85-92 頁	無
第二次世界大戦前の日本における GM 社とフォード社の販売戦略— 製品ライン政策を中心に—	単著	2010 年 9 月	工業経営研究学会学会誌『工業経営研究』第 24 巻		151-158 頁	有
ご当地グルメの競争優位構築に関する予備的考察	単著	2010 年 3 月	大阪観光大学『大阪観光大学紀要 開学 10 周年期年号』		155-166 頁	無
戦前期における GM 社とフォード社の対日進出戦略(要旨)	単著	2009 年 9 月	日本経営学会編『経営学論集 日本企業のイノベーション』79 集		246-247 頁	有
戦前期における GM 社とフォード社の対日進出戦略	単著	2008 年 9 月	工業経営研究学会学会誌『工業経営研究』第 22 巻		81-88 頁	有
フォード自動車会社単一車種大量生産政策の終焉	単著	2007 年 9 月	工業経営研究学会学会誌『工業経営研究』第 21 巻		57-62 頁	有
巨大自動車企業における製品政策の確立—ジェネラル・モーターズ社とフォード・モーター社の比較研究—	単著	2006 年 3 月	博士論文(関西大学)		1-81 頁	有

【その他】						
報告書:「大阪三地域の観光交流による地域活性化」泉州地域のフード・ツーリズムによる観光開発	共著	2011年3月	大阪観光大学『大阪観光大学紀要』第11集	尾家建生、村上喜郁	17-27頁	
戦前日本におけるGM社とフォード社の販売戦略—製品ライン政策を中心に—	個人	2009年9月	工業経営研究学会、第24回全国大会(道都大学)			
GM社とフォード社の初期日本進出	個人	2008年12月	工業経営研究学日本経営学会全国大会第82回大会(一橋大学)			
GM社とフォード社の初期日本進出	個人	2007年9月	日本経営学会関西部会12月例会(関西大学)			
米国巨大自動車企業の日本進出史—(I)第二次世界大戦以前—	個人	2007年9月	工業経営研究学会、第22回全国大会(大阪成蹊大学)			
フォード自動車会社単一車種大量生産政策の終焉	個人	2006年9月	工業経営研究学会、第21回全国大会(駒沢大学)			
						以上
【学会における主な活動】						
2009年	フードツーリズム研究会 入会					
2011年	日本観光研究学会 入会					
2011年4月～9月	工業経営研究学会 第26回全国大会(摂南大学) 運営委員					
	以上					

【その他研究活動上特記すべき事項】	年月日	備 考
工業経営研究学会 研究奨励賞 受賞	2010年9月	受賞論文「第二次世界大戦前の日本における GM 社とフォード社の販売戦略」
		以上

Ⅲ社会活動（3カ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）

社会における活動	年月日	備 考
特記事項無し		

Ⅳ大学運営活動（3カ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）（2011年度就任教員は、2011年度の本学での学内職務及び大学業務をご記入願います。）

大学運営における活動	年月日	備 考
【学内職務】		
経営学部 企画グループ 委員	2011年4月1日	
経緯学部 教務グループ委員	同上	
総合情報教育センター運営委員	同上	
追手門の教育ルネサンス構想チーム メンバー	2011年6月30日	
		以上
【大学業務】		
オープンキャンパス 経営学部 模擬講義担当	2011年8月7日	タイトル「経営学って何ですか？」
		以上

2011年度 教員活動評価調査票 (記入用紙)

山下 克之 1/4

所属	経営学部 経営学科	職名	専任講師	氏名	山下 克之	学位	博士(経済学), 名古屋大学, 2009年3月取得
----	-----------	----	------	----	-------	----	---------------------------

I 教育活動 (3カ年<2010年度、2009年度、2008年度>の活動についてご記入願います。)

【担当科目】 (2011年度就任教員は、2011年度の本学担当科目をご記入願います。)

1. 学部担当科目

新入生演習、基礎演習、経営特殊講義 3、経営外国文献講読1、経営外国文献講読 2、入門簿記、初級簿記、財務諸表論 1、財務諸表論 2、会計学原理 1、会計学原理 2、ファイナンス入門

2. 大学院担当科目

該当なし

3. 非常勤等担当科目(括弧内に大学名を記入してください) (2011年度就任教員は、前任校での担当科目についてもご記入願います。)

該当なし

【教育業績】 (2011年度就任教員は、前任校での教育業績についてもご記入願います。)

教育実践上の主な業績	年月日	備 考
1. 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 全学自己評価委員会による授業アンケートの実施	2009年7月、2009年12月 2010年7月、2010年12月	
教員本人による授業アンケートの実施(「財務諸表論1」ほか)	2009年7月、2010年1月 2010年7月、2011年1月	
2. 作成した教科書、教材、参考書 新入生演習を除く担当科目の全授業においてパワーポイントによる教材を作成	2009年4月から 2011年1月	
3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 該当なし		
4. その他教育活動上特記すべき事項 基礎演習(ゼミ)受講生全員との個別面談	2010年6月	

2011年度 教員活動評価調査票（記入用紙）

山下 克之 2/4

II 研究活動（5カ年〈2010年度、2009年度、2008年度、2007年度、2006年度〉の活動についてご記入願います。）

著書・論文等の名称	著書・共著の別	発行または発表年月	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数	査読の有無
【著書】該当なし						
【論文】						
ストック・オプションの簿記	単著	2007年7月	日本簿記学会年報第22号		和文9頁	有
TAX ACCOUNTING FOR STOCK OPTIONS IN JAPAN	単著	2007年10月	Journal of Proceedings Guan International Accounting Forum		英文23頁	有
ACCOUNTING AND TAXATION FOR EMPLOYEE STOCK OPTIONS IN JAPAN & MALAYSIA	共著	2007年11月	CD-ROM Proceeding	Prof. A. Noguchi and Prof.M.M. Hanefah	英文14頁	有
ストック・オプションに関する税効果会計	単著	2008年9月	経済科学第56巻第2号		和文15頁	無
ストック・オプションの会計－不確実性が制度会計に及ぼす影響－	単著	2009年3月	博士論文		和文138頁	—
自己新株予約権に関する一考察	単著	2009年6月	追手門経営論集		和文18頁	無
未公開企業におけるストック・オプションの会計基準に関する一考察	単著	2010年6月	追手門経営論集		和文21頁	無
STOCK OPTIONS RULES IN MALAYSIA AND JAPAN: A COMPARATIVE ANALYSIS	共著	2011年1月	Journal of International Business Research Volume 9, Special Issue, Number 1, 2010	Prof. A. Noguchi and Prof.M.M. Hanefah	英文20頁	有
【その他】						
(国内研究会報告) ストック・オプションの会計		2010年5月	課題設定型ワークショップ 2010 企業法と会計 (名古屋大学経済学研究科)			

(国内学会報告) ストック・オプションの簿記		2006年8月	第22回日本簿記学会全国大会 (兵庫県立大学)			
ストック・オプションに関する税 効果会計		2007年7月	第115回日本会計研究学会 中部部会 (名古屋大学)			
(国際学会報告) TAX ACCOUNTING FOR STOCK OPTIONS IN JAPAN		2006年6月	2006 Guam International Accounting Forum			
ACCOUNTING AND TAXATION FOR EMPLOYEE STOCK OPTIONS IN JAPAN & MALAYSIA with Prof. A. Noguchi and Prof. M. M. Hanefah		2007年11月	19th Asian-Pacific Conference On International Accounting Issues, Kuala Lumpur, Malaysia			
ANALYSIS ON THE DIFFERENCE OF RULES FOR STOCK OPTIONS IN MALAYSIA AND JAPAN with Prof. A. Noguchi and Prof. M. M. Hanefah		2010年3月	2010 International Conference on Business, Economics, and Information Technology			
【学会における主な活動】						
2001年～	日本インベスターズ・リレーションズ学会会員					
2006年～	日本簿記学会会員					
2006年～	日本会計研究学会会員					
【その他研究活動上特記すべき事項】				年月日	備	考
該当なし						

Ⅲ社会活動（3カ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）

社会における活動	年月日	備	考
市民講座「変貌する企業社会」において講座開催	2009年9月28日		
茨木市指定管理者候補者選定委員会委員	2010年～		
茨木市特別職報酬等審議会委員	2011年1月～2月		

IV大学運営活動（3ヵ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）（2011年度就任教員は、2011年度の本学での学内職務及び大学業務をご記入願います。）

大学運営における活動	年月日	備 考
【学内職務】		
教育実習運営委員	2009年4月～2010年3月	
経営学部企画グループ	2009年4月～2011年3月	
経営学部予算委員	2010年4月～	
経営学部ガイドブック編集委員	2010年4月～	
経営学部懇親会委員	2010年4月～	
【大学業務】		
オープンキャンパスの運営	2009年7月, 8月 2010年7月, 8月	
オープンキャンパスにて模擬講義	2010年8月	

2011年度 追手門学院大学 教員活動評価調査票 【経営学部 マーケティング学科】

◎教員活動評価票各評価領域の記載年度。

- I 教育活動 2010年度、2009年度、2008年度の3カ年。
- II 研究活動 2010年度、2009年度、2008年度、2007年度、2006年度の5カ年。
- III 社会活動 2010年度、2009年度、2008年度の3カ年。
- IV 大学運営活動 2010年度、2009年度、2008年度の3カ年。

〈マーケティング学科〉

井出 明	2～4 ページ
井戸田 博樹	5～13 ページ
金川 智恵	14～19 ページ
小西 一彦	20～25 ページ
笹本 晃子	26～27 ページ
L. S. de Silva	28～35 ページ
中野 統英	36～45 ページ
原田 章	46～48 ページ
福田 得夫	49～52 ページ
藤田 正	53～55 ページ
松井 温文	56～60 ページ
見市 晃	61～65 ページ
米倉 穰	66～69 ページ

2011年度 教員活動評価調査票 (記入用紙)

井出 明 1/3

所属	経営学部 マーケティング学科	職名	准教授	氏名	井出 明	学位	博士(情報学)
----	----------------	----	-----	----	------	----	---------

I 教育活動 (3カ年<2010年度、2009年度、2008年度>の活動についてご記入願います。)

【担当科目】 (2011年度就任教員は、2011年度の本学担当科目をご記入願います。)

1. 学部担当科目

情報リテラシー 入門コンピューター 情報と職業

2. 大学院担当科目

社会情報システム特論

3. 非常勤等担当科目(括弧内に大学名を記入してください) (2011年度就任教員は、前任校での担当科目についてもご記入願います。)

知的財産権(近畿大学) 科学技術と社会(北海道大学・院) プラクティカルワークショップ(中央大学・院) 環境科学特論(長崎大学)

観光情報・コンテクスト特論(首都大・院) 観光情報学(首都大)

【教育業績】 (2011年度就任教員は、前任校での教育業績についてもご記入願います。)

教育実践上の主な業績	年月日	備 考
1. 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 講義情報を集約したブログを開設した	2008年10月1日	
2. 作成した教科書、教材、参考書		
3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
4. その他教育活動上特記すべき事項 産学連携講座を企画運営した	2008年10月1日	

II 研究活動（5カ年〈2010年度、2009年度、2008年度、2007年度、2006年度〉の活動についてご記入願います。）

著書・論文等の名称	著書・共著の別	発行または発表年月	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数	査読の有無
【著書】						
観光とまちづくり	共著	2010年4月1日	古今書院	深見聡		
社会安全システム論	共著	2007年2月28日	東京電機大学出版局	中野潔	1-3章	
デジタルコンテンツ流通教科書	共著	2006年12月1日	インプレス	亀山弥	8章	
【論文】						
観光情報ソーラスの構築と観光言説比較に関する研究	共著	2009年7月7日	日本観光学会誌 第50号 pp.41-49	守屋豊	pp41-49	有
知的財産の偏在がもたらす“人間の安全保障”への影響	単著	2009年6月14日	日本知財学会第7回年次学術研究発表会講演論文集		PaperID 2E-7	有
THE THEORY OF TOURISM INFORMATICS RELATED TO MOVIE TOURISM	単著	2009年5月23日	2 nd International Conference on Impact of Movies & Television on Tourism		PaperID 2B-3	有
Role of Tourism in Disaster Recovery	共著	2008年12月8日	5 th China Tourism Forum	S.Fukami	pp103-107	有
【その他】						
The Role of Museum in the Process of Disaster Recovery	単著	2009年5月1日	6 th China Tourism Forum			

【学会における主な活動】		
情報処理学会	電子化知的財産社会基盤運営委員	
進化経済学会	観光学研究部会部会長	
【その他研究活動上特記すべき事項】	年月日	備 考
情報処理学会・電子情報通信学会 FIT2009 において“EIP の 10 年”を企画	2009年9月6日	
かんぽ財団平成 22 年度優秀研究奨励賞	2011年3月31日	

Ⅲ社会活動（3カ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）

社会における活動	年月日	備 考
神奈川県足柄上地域地域ブランド選定委員	2009年10月1日	
総務省 BBL 第101回講師	2009年6月1日	
JICA ICT を用いた安心・安全なまちづくり大阪会場講師	2008年10月10日	

Ⅳ大学運営活動（3カ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）（2011年度就任教員は、2011年度の本学での学内職務及び大学業務をご記入願います。）

大学運営における活動	年月日	備 考
【学内職務】 総合情報教育センター委員会委員	2011年4月1日	
【大学業務】 オープンキャンパスに従事	2011年8月7日	

所属	経営学部 マーケティング学科	職名	教授	氏名	井戸田 博樹	学位	博士(経済学)、大阪大学、2003年2月取得
----	----------------	----	----	----	--------	----	------------------------

I 教育活動 (3カ年<2010年度、2009年度、2008年度>の活動についてご記入願います。)

【担当科目】 (2011年度就任教員は、2011年度の本学担当科目をご記入願います。)

1. 学部担当科目

経営情報論 I・II、組織と情報 I・II、情報リテラシー I・II、入門コンピュータ I・II、プログラミング演習 I・II、新入生演習、学び論、日本事情

2. 大学院担当科目

社会情報システム特論

3. 非常勤等担当科目(括弧内に大学名を記入してください)(2011年度就任教員は、前任校での担当科目についてもご記入願います。)

情報処理論(関西学院大学)、システム監査(尾道大学)、プレゼンテーション実習(関西大学)、アプリケーション研究 II (システム監査)(甲南大学大学院)

【教育業績】 (2011年度就任教員は、前任校での教育業績についてもご記入願います。)

教育実践上の主な業績	年月日	備考
1. 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 社会情報システム特論	2009年4月1日～ 現在に至る	情報システムを社会科学から分析、研究する学問である社会情報システム論を考究するために、企業経営の観点から理論的視座を学ばせている。具体的テーマとしては、組織コミュニケーション、集合知、ICT ケイパビリティ、ERP、情報倫理などを題材に取り上げている。まず現状についてケースを用いて解説し、関連する経営理論を学ばせた上で、テーマを決めて学生に発表してもらうように指導している。
経営情報論 I・II	2009年4月1日～ 現在に至る	ICT の利用効果に企業間でなぜ差が生じるのか、その要因を理解し、ICT をどのように企業経営に活用すればよいのかを考えてもらうきっかけとなるように教示している。具体的には、経営情報システム、経営戦略、経営組織、情報社会、インターネットに着目し、企業でのその変遷とマネ

		ジメントの仕組み、および企業経営とICTの相互作用について講義している。事前に授業用のレジュメを配布しておき、学生の予習を促すとともに、單元ごとにレポート課題を作成させ、学生の理解度を確認しながら、授業するように努めている。
組織と情報 I・II	2007年4月1日～現在に至る	情報、組織、ネットワークをキーワードとして授業を展開している。春学期では、経営学を中心として、情報、組織、企業、経営理念、経営戦略、組織構造、組織とコミュニケーション、意思決定、ナレッジマネジメント、ネットワーク組織などについて教授している。秋学期は、経営情報を中心として、情報システム、コンピュータ、経営情報システム(MIS、DSS、SIS、グループウェア、EIS)、インターネット、Eビジネス、Web2.0などについて学習させている。丁寧なレジュメを作成し配布するようにしている。また、企業経営の事例については、ビデオ教材を利用して学生の理解の助けとしている。
プログラミング演習 I・II	2007年4月1日～ 2009年3月31日	経営学部の学生にとってプログラムを学ぶ意義は、論理的思考を身につけさせることにある。そこで簡単なアルゴリズムについて理解できるようになり、短いプログラムを解読、作成できることを目指して授業している。毎回複数のプログラミングを体験させている。自宅のPCで無料で利用できるJAVA言語を用いており、自宅学習も可能な工夫をしている。

情報リテラシー I・II	2007年4月1日～ 現在に至る	春学期は、パソコンによる表現・文章作成について実習を行っている。秋学期は特に、経営学部 の専門科目に役立つようにパソコン操作教育 だけでなく、統計や OR、財務分析に関する 実習も行っている。パソコン操作を通じて、 基本的知識の習得と分析結果の解読が できるように指導している。学生の習熟度 向上に向け、可能な限り自学させると ともに、学生のつまずきそうなところ では、丁寧に指導することを心がけて いる。
入門コンピュータ I・II	2007年4月1日～ 2011年3月31日	春学期は、パソコンによる表現・文章作成 について実習を行っている。秋学期は、表 計算ソフトを用いて、その基礎的操作か ら関数の使い方、簡単なゲーム作成など 教授している。大学生活で必要なパ ソコンの基本的な操作と利用方法が学 べるように工夫している。
新入生演習	2007年4月1日～ 現在に至る	ゼミを体験させる目的で、グループディス カッションから発表、質疑応答までの一 連の流れを毎回実施している。大学で積 極的に学ぶことの動議つけになっ ていると考えている。
日本事情	2010年12月～2011年1月	5回担当。中国人留学生および帰国子女 を対象に、経営学分野の日本事情を授 した。学生にとって関心の高いと思わ れるテーマを取り上げ、Youtube のビ デオ教材や白書のデータを多用して講 義した。例：日本のコンテンツ産業、携 帯電話産業、ソフトウェア産業、ディ ジタル著作権。

<p>2. 作成した教科書、教材、参考書 講義用教材：組織と情報Ⅰ・Ⅱ</p>	<p>2007年4月1日～ 現在に至る</p>	<p>情報、組織、企業、経営理念、経営戦略、組織構造、組織とコミュニケーション、意思決定、ナレッジマネジメント、ネットワーク組織、情報システム、コンピュータ、経営情報システム(MIS、DSS、SIS、グループウェア、EIS)、インターネット、E ビジネス、Web2.0 などについて、それぞれ、レジюмеを作成して配布。全110ページ</p>
<p>講義用教材：経営情報論Ⅰ・Ⅱ</p>	<p>2009年4月1日～ 現在に至る</p>	<p>経営情報論の基礎、経営情報論の基礎理論(組織論、経営戦略論、システム論、ネットワーク論)、経営情報システムの変遷、情報通信技術の進展、経営情報システムの設計・開発、経営情報システムの管理、ICT とビジネス・プロセス革新、インターネット・ビジネス、ICT と組織変革、ICT と組織コミュニケーション、ICT と社会、IT ガバナンス、それぞれ、レジюмеと副教材としてパワーポイント資料を作成。全90ページ</p>
<p>3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 特になし</p>		
<p>4. その他教育活動上特記すべき事項 特になし</p>		

Ⅱ 研究活動（5カ年〈2010年度、2009年度、2008年度、2007年度、2006年度〉の活動についてご記入願います。）

著書・論文等の名称	著書・共著の別	発行または発表年月	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数	査読の有無
【著書】						
内部統制 Q&A－経営幹部の疑問に ずばり答える－	共著	2006年10月	日経BP社	平野雅章, 村田潔, 水尾順一, 佐藤修, <u>井戸田博樹</u> , 石島隆, 島田祐次, 伊藤重隆	115頁～134頁, 168頁～ 187頁	
情報品質の研究	共著	2009年10月	中央経済社	関口恭毅, 村田潔, <u>井戸田博樹</u> 他5名	171～193頁	
環境変化と企業変革	共著	2009年11月	白桃書房	亀田速穂, 高橋敏朗, 下崎千代子, <u>井戸田博樹</u> 他12名	253～267頁	
【論文】						
IT ケイパビリティ形成の構造要因分 析	単著	2007年12月	追手門学院大学経営学会 追手門経営論集 Vol.13, No.2		1頁～18頁	無
組織における情報品質管理 －組織のコミュニケーションの観点 から－	単著	2008年4月	日本情報経営学会 日本情報経営学会誌 Vol.23, No.4		56頁～63頁	無
The Factors to Promote the Practical Use of Customer's Personal Information in the Japanese firms	共著	2008年12月	OTEMON ECONOMIC STUDIES, Vol.41	<u>H. Idota</u> , T. Kurome and T Shinohara	pp.23-48.	無

【その他】						
情報品質管理－役立つ情報システムの成功要因	共訳	2008年1月	中央経済社	関口恭毅, 石島隆, 井戸田博樹, 稲永健太郎, 古賀広志, 村田潔	67頁～91頁, 137頁～159頁	無
IT Usage by SMEs in Japan: A Comparatives Study of Higashi-Osaka City and Ohta Ward, Tokyo	共著	2008年3月	Center for Regional Economic Studies and Osaka School of International Public Policy Osaka University	M. Tsuji, H. Miyoshi, T. Bunno, H. Idota, M. Ogawa, et al	86p.	無
Analyses of Industrial Agglomeration, Production Networks and FDI Promotion—Research on Indonesia—	単著	2008年3月	ERIA Research Project Report Data Series 2007, No. 3-2		1頁～118頁	無
An Empirical Analysis of Factors Promoting IT Use by SMEs: Case of Two SME Clusters in Japan	共著	2007年10月	Proceedings of 9th IMAC Conference	H. Idota, T. Bunno, M. Tsuji and M. Nakanishi	pp. 1-8.	有
Comparative analysis of ICT use among Japanese SMEs	共著	2008年6月	Proceedings of 17th Biennial Conference of the ITS	T. Bunno, H. Idota, M. Tsuji	32p. (CD-ROM)	有
Organizational Innovation in Japanese SMEs Generated by ICT: Towards The Formation of ICT Capability	共著	2008年9月	Proceedings of 19th European ITS Conference	H. idota, T. Bunno and M. Tsuji	38p.(CD-ROM)	有
An Empirical Study of Factors Promoting the Practical Use of Customer's Personal Information in Japan	共著	2008年9月	Proceedings of 19th European ITS Conference	H. Idota, T. Kurome and T. Shinohara	36p. (CD-ROM)	有

Empirical analysis of industrial cluster and innovation in Japanese SMEs	共著	2009年3月	Proceedings of APCIM2009	H. Idota, T. Bunno and M. Tsuji	pp.116-131	有
An Empirical Study of Organizational Innovation Generated by ICT in Japanese SMEs	共著	2009年11月	Proceedings of AEA Internet Use & Impact Conference	T. Bunno, H. Idota, M. Ogawa and M. Tsuji	30p.(Web)	有
中小企業の情報化成功要因分析 -IT ケイパビリティを中心として-	単著	2006年6月	オフィスオートメーション学会・ 経営情報学会 2006年 合同・全国研究大学		pp.516-520	無
情報品質管理における内部統制	単著	2006年9月	第53回オフィスオートメーショ ン学会全国大会		pp. 109-112	無
.IT 内部統制 -内部統制ガイドライ ンとその活用	共著	2006年11月	経営情報学会 2006年秋季全 国研究発表大会	共同発表者 平野雅章, 村田潔, 水尾順一, 佐藤修, 井戸田博樹, 他 3名	pp.176-181	無
個人情報活用の活用効果と管理に関 する研究-アンケート調査を通じて-	共著	2007年10月	日本情報経営学会 第55回全国大会	井戸田博樹, 黒目哲児	pp. 53-56	無
個人情報活用効果の促進要因に関 する実証研究	共著	2008年10月	日本情報経営学会 第57回全国大会	井戸田博樹, 黒目哲児, 篠原健	pp.21-24.	無
イノベーション創出に向けた中小企 業の戦略と行動	共著	2009年7月	日本中小企業学会 西部部会	文能照之, 井戸田博樹, 辻正 次		無
中小企業のイノベーション戦略-効 果的なイノベーション・システムの構 築をめざして-	共著	2009年10月	日本中小企業学会 第29回全国大会	文能照之, 井戸田博樹, 辻正 次		無

【学会における主な活動】		
2002年4月～現在に至る	日本社会情報学会評議員及び関西支部研究会運営委員	
2003年9月～2006年8月、2009年8月～	日本地方自治研究学会理事	
2006年6月～現在に至る	日本情報経営学会理事	
2009年4月～2011年5月	経営情報学会理事	
【その他研究活動上特記すべき事項】	年月日	備 考
2007年-2008年度科研費基盤(C)テーマ「顧客個人情報の有効活用が企業競争力向上に寄与する貢献度の定量的検証方法の確立」	2007年4月-2009年3月	研究代表者（黒目哲児）
2007年-2009年度科研費基盤(C)テーマ「中小企業のイノベーション戦略に関する理論及び実証研究」	2007年7月-2010年3月	研究代表者（近畿大学 文能照之）
2009年-2011年度科研費基盤(C)テーマ「ICT ケイパビリティに基づくローカルイノベーションシステムの構築戦略」	2009年7月-2012年3月	研究代表者（井戸田 博樹）
日本情報経営学会投稿論文査読担当	2007年, 2009年	
日本地方自治研究学会投稿論文査読担当	2006年	
経営情報学会投稿論文査読担当	2007年, 2009年	
APCIM2008プログラム委員及び査読担当	2008-2009年	国際学会
IMAC2008プログラム委員	2008年	国際学会

Ⅲ社会活動（3カ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）

社会における活動	年月日	備 考
奈良市個人情報保護職員研修講師	2008年11月	
NPO 関西情報化維新協議会 理事	2009-2010年度	2009年6月-2011年6月 理事
ISACA (Information System Audit and Control Association) 会員	2007-2010年度	

2011年度 教員活動評価調査票（記入用紙）

井戸田 博樹 9/9

IV大学運営活動（3ヵ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）（2011年度就任教員は、2011年度の本学での学内職務及び大学業務をご記入願います。）

大学運営における活動	年月日	備 考
【学内職務】		
教務委員	2008-2009年度	
カリキュラム改革委員	2008-2009年度	
経営学部教務 G	2007-2009年度	
経営学部企画 G	2007-2008年度、2010年度	2010年度 企画 G 長
情報教育 FD 委員	2007-2008年度	
入試主事	2010年度	
【大学業務】		
オープンキャンパス担当	2007-2008年度、2010年度	
プリエントランスの集い担当	2007-2008年度、2010年度	
新入生ガイダンス担当	2008-2009年度	
2009年度秋の専門講座「変貌する企業社会」講師	2009年10月5日	テーマ「情報化の進展と企業社会の変貌」
ベンチャービジネス研究所・経営学会共同主催シンポジウム「中小企業の事業承継とビジネスイノベーション」講師・パネリスト	2011年2月28日	テーマ「中小企業のイノベーション戦略」

2011年度 教員活動評価調査票 (記入用紙)

金川 智恵 1/6

所属	経営学部 マーケティング学科	職名	教授	氏名	金川 智恵	学位	博士(人間科学)、大阪大学、2001年3月取得
----	----------------	----	----	----	-------	----	-------------------------

I 教育活動 (3カ年<2010年度、2009年度、2008年度>の活動についてご記入願います。)

【担当科目】 (2011年度就任教員は、2011年度の本学担当科目をご記入願います。)

1. 学部担当科目 産業心理学概論1, 2、リスクコミュニケーション論1, 2、新入生演習、基礎演習1, 2 発展演習1, 2 卒業演習1, 2、日本事情4
2. 大学院担当科目 産業社会心理学特論、産業社会心理学特論演習 I,II、産業社会心理学特殊研究、研究演習
3. 非常勤等担当科目(括弧内に大学名を記入してください) (2011年度就任教員は、前任校での担当科目についてもご記入願います。)

【教育業績】 (2011年度就任教員は、前任校での教育業績についてもご記入願います。)

教育実践上の主な業績	年月日	備 考
1. 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) リスクコミュニケーション論1の授業評価 基礎演習1の公開授業	2008年7月、2009年7月 2009年6月	
2. 作成した教科書、教材、参考書		
3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
4. その他教育活動上特記すべき事項 英語による留学生対象授業	2008年	日本企業における意思決定メカニズムや労働観について、比較文化的視点を交えて論じる。

II 研究活動（5カ年〈2010年度、2009年度、2008年度、2007年度、2006年度〉の活動についてご記入願います。）

著書・論文等の名称	著書・共著の別	発行または発表年月	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数	査読の有無
【著書】						
メンタルヘルスへのアプローチ—臨床心理学、社会心理学、精神医学を融合して	共著	2010年3月	ナカニシヤ出版	白樫三四郎、西村健（編） 西村健、白樫三四郎、高橋依子、金川智恵、角田豊、竹西亜古、内田由起子、藤本修、藤田綾子	pp.80-90	
【論文】						
「信頼回復におけるリスクコミュニケーションの可能性：日本型共考モデルの構築に向けて」	共著	2007年2月	平成18年度原子力安全基盤調査研究成果報告書	白樫三四郎、金川智恵、福井誠、竹西亜古、竹西正典、吉野絹子	pp.52-82	無
「原子力発電に対する市民の長期的信頼熟成に向けての心理学的検討」	共著	2008年3月	平成19年度原子力安全機構人間・組織等安全解析調査等事業研究成果報告書	白樫三四郎、金川智恵、福井誠、竹西亜古、竹西正典、吉野絹子	共同研究で議論をしながらの協同執筆故、担当箇所抽出不能	無
「リスク・コミュニケーション—治療のリスクとどう関わるのか？伝えるのか？」	単著	2008年4月	月刊薬事、48,3,75-82			無

「リスクメッセージの心理的公正基準:管理者への手続き的公正査定における事実性と配慮性」	共著	2008年8月	社会心理学研究、24,1,23-33	◎竹西亜古、竹西正典、福井誠、金川智恵、吉野絹子	共同研究で議論をしながらの協同執筆故、担当箇所抽出不能	有
「社会的かしこさ」測度開発の試み	共著	2009年10月	追手門経営論集、15,1,71-88	◎金川智恵、吉野絹子、木下冨雄	pp.71-88	無
社会心理学の研究成果を応用した集合研修(感情の自己制御メソッド)による予防的メンタルヘルスの提案その①—病は「気」から、気持ちは「知」から—	共著	2010年6月	追手門経営論集、16, 1-21	◎金川智恵、福井誠	pp.2-21	無
【その他】学会発表等						
「効果的インフォームド・コンセントの技法」	共同研究	2007年10月	関西がんチーム医療研究会	◎金川智恵、竹西亜古、福井誠	医療従事者を対象に、インフォームド・コンセントをリスクコミュニケーションの観点から論じた。	
「社会的かしこさの実証的検討—Meadを工学す—」	単独研究	2007年10月	自己意識研究会	金川智恵	社会的かしこさを自己概念との関連において	

2011年度 教員活動評価調査票（記入用紙）

金川 智恵 4/6

					検討し、特にその構造を自己心理学との関連で実証した。	
「社会的かしこさに関する実証的研究」	単独研究	2008年4月	関西社会心理学研究会	金川智恵	リスクコミュニケーションの心的資源たる、社会的かしこさについて、リスクコミュニケーションの効果性との関連を実証的に検討。	
「効果的インフォームド・コンセントの心的資源としての社会的かしこさの役割」	単独研究	2009年10月	関西がんチーム医療研究会	金川智恵	医療現場での効果的インフォームド・コンセントの心的資源としての社会的かしこさの役割を報告した。	

【学会における主な活動】		
【その他研究活動上特記すべき事項】	年月日	備 考
<外部資金の獲得状況>		
「信頼回復におけるリスク・コミュニケーションの可能性」	2006年	平成17年度(独)原子力安全基盤機構 公募研究「原子力安全基盤調査研究
「信頼回復におけるリスクコミュニケーションの可能性:日本型共考モデルの構築に向けて」	2007年	平成18年度(独)原子力安全基盤機構 公募研究「原子力安全基盤調査研究
「原子力発電に対する市民の長期的信頼熟成に向けての心理学的検討」	2008年	平成19年度原子力安全機構人間・組織等安全解析調査等事業研究
日本学術振興会科学研究費補助金(基盤研究 C 課題番号 15530414) (2003~2005年)(研究代表者)	2007年~2009年	日本学術振興会科学研究費補助金 (基盤研究 C 課題番号 19530571) (2007~2009年)(研究代表者)
<レフェリー>		
日本学術振興会科学研究費補助金第一段審査委員平成19年度	2007年度	科学研究費補助金第一段審査委員として、基盤研究A,B等の審査を行った。
日本学術振興会科学研究費補助金第一段審査委員平成20年度	2008年度	科学研究費補助金第一段審査委員として、基盤研究A,B等の審査を行った。

Ⅲ社会活動（3カ年<2010年度、2009年度、2008年度>の活動についてご記入願います。）

社会における活動	年月日	備 考
コクヨ S&T 株式会社主催 「予防的メンタルヘルス研修」講師	2008年6月~7月	社会心理学の知見、特に自己概念の研究知見を職場におけるメンタルヘルスの予防に応用した研修の実施。
日本生命保険相互会社主催 「予防的メンタルヘルス研修」講師	2009年9月~10月	同上
コベルコ株式会社主催「予防的メンタルヘルス研修」講師	2010年7月~10月	同上

2011年度 教員活動評価調査票（記入用紙）

金川 智恵 6/6

IV大学運営活動（3ヵ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）（2011年度就任教員は、2011年度の本学での学内職務及び大学業務をご記入願います。）

大学運営における活動	年月日	備 考
【学内職務】 入試主事	2008年度、2009年度	
キャンパスハラスメント相談員	2009年度	学生からの相談にあたり、話を聴取し、その後大学と学生間の連絡等を担当
【大学業務】 オープンキャンパス	2008年6月、7月、8月、2009年6月、7月、8月	オープンキャンパスの企画及び模擬授業
プリエントランスの集い	2009年1月、2010年1月	プリエントランスの企画及び総合司会
モンタナ大学海外研修の事前授業および引率	2008年6月、8月	モンタナ大学への海外研修の事前授業として、アメリカの対人行動規範を、特に相互協調自己観、相互独立的自己観との関連で紹介

所属	経営学部 マーケティング学科	職名	教授	氏名	小西 一彦	学位	修士(経営学)、大阪市立大学、1972年3月取得
----	----------------	----	----	----	-------	----	--------------------------

I 教育活動 (3カ年<2010年度、2009年度、2008年度>の活動についてご記入願います。)

【担当科目】 (2011年度就任教員は、2011年度の本学担当科目をご記入願います。)

1. 学部担当科目 マーケティング論、マーケティング演習、ベンチャービジネス論、基礎演習、発展演習、卒業演習
2. 大学院担当科目 マーケティング論特論、マーケティング論特論演習Ⅰ、マーケティング論特論演習Ⅱ、マーケティング特殊研究、研究指導
3. 非常勤等担当科目(括弧内に大学名を記入してください)(2011年度就任教員は、前任校での担当科目についてもご記入願います。) マーケティング論(同志社大学大学院)

【教育業績】 (2011年度就任教員は、前任校での教育業績についてもご記入願います。)

教育実践上の主な業績	年月日	備 考
1. 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 「独立自彊・社会有為」(本学の教育理念)に沿って、本学の学生に目を向けた創意工夫の教育を多面的に行った。		
(1) 私の教え子たちで社会人大学院卒生(MBA)を多数、招聘し、現役学生たちに講演や講義、質疑応答、などを頻繁に行った。いずれも、大変、好評であった。	(1)、(2)、(3)は、いずれも、毎年、実施している。	
(2) 学内外で募集された「ビジネスプランコンテスト」に積極的に応募させた。また、そのための指導を長時間かけて行った。	第43回 KIMSA:2008.12.3 第44回 KIMSA:2009.12.13 第45回 KIMSA:2010.12.17	
(3) KIMSA(関西学生マーケティング研究会、大阪市立大学、兵庫県立大学、関西学院大学、追手門学院大学などの関西のマーケティング・ゼミで構成)に参加させ、また、主催もさせた。詳細は2009年度の『特色ある教育報告書』を参照。		(3)の「第44回 KIMSA」では小西ゼミが主催ゼミとなり幹事役も担った。研究発表会、ディベート大会、懇親会、など。参加学生は約100名、会場は追手門学院大阪城スクエア6階大会議室。

(4) 私の担当していた茨木市内(心斎橋商店街)の空店舗(「現代 GP『追風』」)で実践的にも経営とマーケティングを学習させた。	(4)は、2005 年度秋学期から2009 年度秋学期までの4年間、小西ゼミの総力をあげて実施した。	(4)の「現代GP(追風)」は 2005 年 10 月から開始、2007 年度から2009 年度は文科省の「現代GP」に採択されて実施。かなり長時間を要した。
(5) 「大阪ベンチャー研究会」(主宰:小西一彦)、「追手門学院大学ベンチャービジネス研究所」(所長:小西一彦)が開催した講演会やセミナー、公開講座に積極的に出席させた。	(5)の「大阪ベンチャー研究会」は毎月1回、今も開催されている(HP参照)。	(5)「大阪ベンチャー研究会」で小西ゼミ生も一回実践報告を行っている。参加は自由。
(6) 日本経済新聞社が主催した「ベンチャー・エキスポ KANSAI」、摂津彩都信用金庫が主催した「ビジネスマッチング」、などで企業と広報活動を協働させた。	(6)毎年、11 月初旬に、2 日間、開催。HP参照。	(6)ゼミ生のほぼ全員が参加。
(7) 大学のインターネット(ユニバーサルパスポート、とくに「授業資料」)を利用して、每期、講義課目とゼミ科目も、かなり詳細に、補足情報の提供を行った。		
(8) トヨタ自動車、サントリー、アサヒビール、などの企業の工場見学を実施し、ゼミ生らに、日本の代表企業の生産現場を体験させた。	(8)サントリー:2008. 11.26 トヨタ:2009. 9. 17. アサヒビール:2010.7.16.	
(9) 茨木市内で開催された産官学の各種イベント(「子供まつり」「茨木フェスタ」「残暑祭り」など)に参加した。	(9)残暑祭り:2009.9. 18 子供秋祭り:2010.9.26	(9)の「残暑祭り」は小西ゼミ生が独自に企画し開催した。大変、盛況で関係の商店街から喜ばれた。
(10) 産経新聞社主催の「第 2 回大学まちづくりフォーラム」(関西学院大学、和歌山大学、追手門学院大学が参加)に出場した。	(10)フォーラム:2009.2.27 於:りそな銀行大阪本店ビル	
2. 作成した教科書、教材、参考書		
(1) 小西一彦編『新時代のマーケティング-理論と実践-』(六甲出版販売)	(1)2008 年 5 月	いずれも私の教え子たち(MBA)との共著。テキストと研究論文集を兼ねるとともに、卒業論文を書く際の参考になるように考え、編集した。
(2) 小西一彦編『新時代マーケティングへの挑戦-理論と実践-』(六甲出版販売)	(2)2011 年 3 月	

<p>3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等</p> <p>(1) 日本商業教育学会兵庫支部で招かれて講演 演題:「起業家教育について」(小西一彦)</p>	<p>(1)2008. 11. 8(神戸芸術工科大学1号館1階)</p>	<p>(1)この後のシンポジウム「商業高校における起業家教育について」でもパネラーとして参加</p>
<p>(2) 甲南大学ビジネス・イノベーション研究所第4回研究会で講演 演題「新時代の経営環境と起業家的人材育成」(小西一彦)</p>	<p>(2)2009年1月24日(甲南大学イノベーション研究所)</p>	<p>(2)シンポジウムでもパネラーとして参加</p>
<p>4. その他教育活動上特記すべき事項</p> <p>この3年間では、学部6名、大学院修士9名、博士2名の留学生をゼミに受け入れ指導。現在、博士後期課程では1名が博士論文の作成を行っていて、その指導に当たっている。学部の課外活動であるバトミントン部の顧問をしている。また、大学院経営研究科の院生たちの経営学研究会の顧問をしている。</p>		

Ⅱ 研究活動（5カ年〈2010年度、2009年度、2008年度、2007年度、2006年度〉の活動についてご記入願います。）

著書・論文等の名称	著書・共著の別	発行または発表年月	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数	査読の有無
【著書】						
新時代のマーケティング-理論と実践-	共著	2008年5月	六甲出版販売	小西一彦編著	1-5頁	
新時代マーケティングへの挑戦-理論と実践-	共著	2011年3月	六甲出版販売	小西一彦編著	1-3頁	
【論文】						
Japanese distribution system:The impact of newly designed collaborations on wholesalers' performance	共著	2008年1月	Industrial Marketing Management (Volume37,Issue1,January 2008. pp.104-115)	Rawwas,M.Y.A、小西一彦、上瀬昭司	80~121頁	有

世界同時不況に逢って思うこと	単著	2010年2月	『追手門学院大学ベンチャービジネスレビュー(第2号)』追手門学院大学ベンチャービジネス研究所			無
アイデアの創出と新規事業計画書ー方法と実践ー	単著	2011年2月	『追手門学院大学ベンチャービジネスレビュー(第3号)』追手門学院大学ベンチャービジネス研究所			無
【その他】						
中国人民大学大学院商学院の「市場流通論研究会」にて招待講演を行う「新時代の流通とマーケティングについて」		2009年10月28日	北京、中国人民大学、大学院、商学院(博士後期課程)			
第57回経済史研究会主催「風呂勉著『第二次大戦日米英流通史序論』合評」にて発表する「戦前・戦時・戦後の日本医薬品産業の流通のマーケティングについて」		2009年12月5日(土)	場所:大阪経済大学C65会議室			
【学会における主な活動】						
2005年10月～現在	大阪ベンチャー研究会(会員、代表世話人)毎月第3土曜日、午後2時～午後8時頃まで、会全体をコーディネート、指導、主宰している。2011年9月現在、68回目開催中。					
2001年1月～現在	神戸ベンチャー研究会(会員、特別顧問)毎月第4土曜日、午後6時～午後10時まで、顧問的に会の運営に協力し支援している。2011年9月現在、129回目開催中。					
2001年1月～現在	関西ベンチャー学会(会員、常任理事)「ベンチャー・マーケティング研究部会」主査担当。					
その他、各種学会に参加	日本商業学会、日本ベンチャー学会、American Marketing Association など10学会に会員として参加					

【その他研究活動上特記すべき事項】	年月日	備 考
上記の Rawwas との共著が Navigating between dyads and networks で引用されていることが世界最大の出版社のエルゼビア社からのメールで知った。 また、“Who’s Who Selection Committee” <MarquisWhosWho@businessbronze.com> から 2012 年版 Who’s Who in the World に掲載されるとの知らせを受けた。 ベンチャービジネス研究所主催第2回講演会 & シンポジウム: 司会 & 改題	2010 年 9 月 3 日 (activemail) 2011 年 2 月 9 日 (activemail)	引用者: Cova, B., Prévot, F., Spencer, R. Industrial Marketing Management volume 39, issue 6, year 2010, pp. 879 - 886
ベンチャービジネス研究所主催第3回講演会: コーディネーター & 司会	2009 年 1 月 14 日	佐々木正氏 (元シャープ副社長・顧問) を招聘し講演して頂いた
ベンチャービジネス研究所主催第4回講演会: コーディネーター & 司会	2009 年 12 月 16 日	熊谷信昭氏 (兵庫県立大学学長、元大阪大学総長名誉教授) 招聘、講演
ベンチャービジネス研究所主催第4回講演会: コーディネーター & 司会	2011 年 1 月 17 日	鄭祥林氏 (中華人民共和国駐大阪総領事) 招聘、講演

Ⅲ 社会活動（3カ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）

社会における活動	年月日	備 考
財)ひょうご産業活性化センター中小企業社外相談役	2005 年 4 月～現在に至る	兵庫県中小企業経営者の経営相談を行う
志摩市小規模事業者新事業全国展開支援事業委員会委員	2009 年 4 月～2010 年 3 月	志摩市活性化のための社会貢献の活動
大阪ベンチャー研究会代表	2005 年 10 月～現在	関西のベンチャー支援の諸活動を行う
追手門学院大学ベンチャービジネス研究所長	2007 年 4 月～2011 年 3 月	各種の産官学の連携の諸活動を行う
同志社大学大学院マーケティング論嘱託講師	2006 年 10 月～現在	他大学との教育を通じての相互連携

2011年度 教員活動評価調査票（記入用紙）

小西 一彦 6/6

IV大学運営活動（3ヵ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）（2011年度就任教員は、2011年度の本学での学内職務及び大学業務をご記入願います。）

大学運営における活動	年月日	備 考
【学内職務】 大学院委員会 経営学研究科 委員	2007年4月～現在	
ベンチャービジネス研究所 所長	2007年4月～2011年3月	『追手門学院大学ベンチャービジネス・レビュー』（創刊号、第2号、第3号）を編集・刊行した。詳細は本誌参照。
図書館運営委員会 経営学部 委員	2009年4月～現在	
【大学業務】 ベンチャービジネス研究所主催公開講座（コーディネーター&講義担当）	2009年2月～3月	（講師5人の中の一人として担当）
追手門学院大学ベンチャービジネス研究所・経営学会共同シンポジウムで コーディネーターとして担当、テーマ：中小企業の事業承継とビジネスイノベーション、場所：追手門学院大学大阪城スクエア6階大会議室	2011年2月28日	（講師5人の中の1人として担当）
関西社会人大学院連合主催インテリジェントアレー専門セミナー「職場と人生にきっと役立つ社会人大学院・短期体験セミナー」（大阪駅前第2ビル）	2009年11月20日	（講師5人の中の1人として担当）

2011年度 教員活動評価調査票 (記入用紙)

笹本 晃子 1/2

所属	経営学部 マーケティング学科	職名	准教授	氏名	笹本 晃子	学位	学士
----	----------------	----	-----	----	-------	----	----

I 教育活動 (3カ年<2010年度、2009年度、2008年度>の活動についてご記入願います。)

【担当科目】 (2011年度就任教員は、2011年度の本学担当科目をご記入願います。)

1. 学部担当科目 経営実務英語1, 経営実務英語2, 経営実務英語3, 経営実務英語4, 英語講読3, 英語講読4, 新入生演習、基礎演習1&2, 発展演習1&2, 卒業演習1&2
2. 大学院担当科目 「本人の申し出により非公表とした。」
3. 非常勤等担当科目(括弧内に大学名を記入してください) (2011年度就任教員は、前任校での担当科目についてもご記入願います。) 「本人の申し出により非公表とした。」

【教育業績】 (2011年度就任教員は、前任校での教育業績についてもご記入願います。)

教育実践上の主な業績	年月日	備考
1. 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 「本人の申し出により非公表とした。」		
2. 作成した教科書、教材、参考書 「本人の申し出により非公表とした。」		
3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 「本人の申し出により非公表とした。」		
4. その他教育活動上特記すべき事項 「本人の申し出により非公表とした。」		

II 研究活動 (5カ年<2010年度、2009年度、2008年度、2007年度、2006年度>の活動についてご記入願います。)

著書・論文等の名称	著書・共著の別	発行または発表年月	発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	編者・著者名(共著の場合のみ記入)	該当頁数	査読の有無
【著書】						

【論文】 Kolbの学習スタイル理論を活用して の授業改善への一考察	単著	2009年3月	追手門学院大学教育研究所紀 要 第27号			無
【その他】 「本人の申し出により非公表とした。」						
【学会における主な活動】						
「本人の申し出により非公表とした。」						
【その他研究活動上特記すべき事項】			年月日	備	考	
「本人の申し出により非公表とした。」						

Ⅲ社会活動（3ヵ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）

社会における活動	年月日	備	考

Ⅳ大学運営活動（3ヵ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）（2011年度就任教員は、2011年度の本学での学内職務及び大学業務をご記入願います。）

大学運営における活動	年月日	備	考
【学内職務】 「本人の申し出により非公表とした。」			
【大学業務】 「本人の申し出により非公表とした。」			

所属	経営学部 マーケティング学科	職名	教授	氏名	L.S. de Silva	学位	経営学博士
----	----------------	----	----	----	---------------	----	-------

I 教育活動 (3カ年<2010年度、2009年度、2008年度>の活動についてご記入願います。)

【担当科目】 (2011年度就任教員は、2011年度の本学担当科目をご記入願います。)

1. 学部担当科目 経営学概論、多国籍企業論、BRICs 企業論、新入生演習、基礎演習、発展演習、卒業演習、オーストラリアを学ぶ
2. 大学院担当科目 国際経営論特論、国際経営論特論演習I、国際経営論特論演習II、研究演習、国際経営論特殊演習
3. 非常勤等担当科目(括弧内に大学名を記入してください) (2011年度就任教員は、前任校での担当科目についてもご記入願います。)

【教育業績】 (2011年度就任教員は、前任校での教育業績についてもご記入願います。)

教育実践上の主な業績	年月日	備 考
1. 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
①学部・大学院生には理論だけではなく、経営実態を理解してもらうため、事例研究や実態情報等の資料を作成し、授業中配布する。	2008年、2009年、2010年～	
②学生に経営の実態を理解してもらうため、企業訪問や工場見学等を実施している。2008年には基礎演習学生とトヨタ自動車(愛知県)を訪問した。2009年には発展演習学生と資生堂(大阪)を訪問した。2010年には基礎演習学生とPanasonic(大阪工場)を訪問した。	2008年、2009年、2010年～	
③学生には国際企業関係の最新課題を理解してもらうため、グローバル化の最新課題である「SAFTA,VISTA,ALAD,CFTA,APATA,AIFTA,及びAANFTA関係の情報を収集し、授業・演習中に配布した。	2009年、2010年	予算が認められなかったので2011年以降は最新課題に関する資料を配布しないことにした。
④2009年に国際経営を学ぶ学生の「学力」と「発想力」を向上させるために近代的教授方法「AMATMCD」を試行錯誤で実施した。	2009年	2010年に予算申請したが、認められなかったため2010年以降は実施していない。
⑤学部のすべての講義にパワーポイントを使っている。授業に関連する参考資料は適宜配布する。	2008年、2009年、2010年	

⑥講義内容の質を向上させるため、国内外の大学と連携しながら新しい情報の交換を行っている。現在、一ツ橋大学、筑波大学、シンガポール国立大学およびタイ・タマサート大学の国際経営関係の教員と連携しながら講義内容を改善する。	2008年、2009年、2010年	
⑦外部から客員と専門家を招待する。授業に関する実態を学生に理解してもらうため、外部から企業の職員や専門家を招待して企業の実態について講義を実施する。昨年(2010年)にはUCCコーヒの管理職を招待した。2009年には札幌ビールの管理職を招待した。	2009年、2010年	
⑧できるだけ学生に演習に出席してもらうため、授業中は数回小テストを実施する。また、学生には自分で情報を収集してもらうため、毎週課題を出す。学生の成績評価は、毎週行う。	2009年、2010年	
⑨授業についていけない学生を対象に個別指導を行う。	2008年、2009年、2010年	
⑩月曜日から土曜日まで毎日出勤し、研究、教育だけではなく、学生の勉強に関する悩みや学生生活に関する問題等を解決するために指導を行う。	2008年、2009年、2010年	
⑪演習を欠席する学生にメールで連絡をとり、研究室によんでもらい欠席した理由を確認する。	2008年、2009年、2010年	
⑫演習生の成績は総合的に判断する。出席、発表内容、積極性等を総合的に判断し、最終成績を決定する。	2008年、2009年、2010年	
2. 作成した教科書、教材、参考書		
①ASEAN 企業に関する事例教材	2008年、2009年、2010年	学生には ASEAN 企業について具体的に理解してもらうため、ハンドブックを作成し、授業の参考資料として配布した。

②BRICs 企業経営関係の教材作成	2008 年、2009 年、2010 年	インド、タイ、とシンガポールを訪問し、現地大学や研究機関等から収集した日本で全く手に入らない資料を参考にして作成した BRICs 関係ハンドブックを学生に参考資料として配布した。
③国際企業及びグローバル化に関する資料作成	2008 年、2009 年、2010 年	国際企業及び企業のグローバル化に関する以下の資料を作成し、学生に参考資料として配布した。 A. インド企業のグローバル化に関する資料 B. 中国企業のグローバル化に関する資料 C. 国際自由貿易に関する資料 D. アメリカ巨大企業のグローバル化戦略に関する資料。
④日豪貿易関係と自由貿易協定の必要性に関する資料作成	2009 年、2010 年	オーストラリア・メルボルン大学を訪問し、現地で収集した日豪貿易関係の現状、問題点、および今後の動向等に関する情報をオーストラリア学ぶ学生に参考資料として配布した。
⑤日本企業のグローバル化戦略に関する資料作成	2009 年、2010 年	日本を代表する多国籍企業を訪問し、収集した情報を参考にして作成した「日本企業のグローバル化戦略」に関するハンドブックを多国籍企業論を学ぶ学生に配布した。
3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 ①企業訪問	2008 年、2009 年、2010 年	日本多国籍企業論の実態を把握するため、大学院生と学部の演習生を対象に企業訪問を取り入れられた。2008年にトヨタ自動車、2009年資生堂、2010年に Panasonic を訪問し、日本企業の国際化戦略について職員と意見交換した。

②招待講演	2008年、2009年	企業の管理職2名を招待し、企業の国際化の現状について講演してもらった。 2010年には十分予算が認められなかったため2010年以降は本招待講演が実施されていない。
③企業に関する事例分析とケース・スタディーの作成	2008年、2009年、2010年	演習生には多国籍企業の実態を理解してもらうため、企業の事例分析を行った。参考資料全てが私自身で作成した国際企業に関するケース・スタディーである。
4. その他教育活動上特記すべき事項 ①大学院生の研究指導を行う。大学院では学生の個別指導を行う。特に修士論文指導は個別に行った。	2008年、2009年	2008年には以下の院生を指導した。 ① 08BF005 研究課題：「中国企業の海外進出戦略に関する研究」 ② 08BF004 研究課題：「レノ社の経営戦略に関する事例研究」 ③ 08BF010 「中国ネット通販市場の現状と発展に関する研究」 2009年に以下の学生を指導した。 09BF002 研究課題「上海におけるコンビニエンス・ストアの経営戦略に関する研究：日系コンビニの実態を中心に」。
②研究性の指導。	2008年、2009年、2010年	毎年、数名の学部研究性を指導している。研究性の多くが大学院への進学を希望する学生ので、大学院に進学するための指導を行った。

II 研究活動（5カ年〈2010年度、2009年度、2008年度、2007年度、2006年度〉の活動についてご記入願います。）

著書・論文等の名称	著書・共著の別	発行または発表年月	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数	査読の有無
【著書】						
【論文】						
<i>HRM Practices in Foreign Subsidiaries in Asia</i>	単著	2006年12月	追手門経営論集 第12巻 第2号		11～16頁	無
<i>Direct Investment and Japanese Subsidiaries in Australia</i>	単著	2006年12月	オーストラリア研究所・研究紀要 第32号 (<i>Journal of Australian Studies</i>)		93～110頁	無
<i>Global Marketing Screening And Product Modification In Multinational Enterprises: Some Evidence from South Asia</i>	単著	2007年3月	創立40周年記念 論集経営学部編		55～66頁	無
<i>The Impact of Uncertainties And Political Risk on International Business: An Empirical Research in South Asia</i>	単著	2007年3月	追手門経済・経営研究第15号		17～29頁	無
<i>Foreign Subsidiaries in South Asia: A Study of their Main Sources of Employee Recruitment</i>	単著	2007年9月	追手門経営論集第13巻第1号		1～25頁	無
<i>Recent Trends in Australia-Japan-China Trade Relations: A Comprehensive statistical Analysis</i>	単著	2007年12月	オーストラリア研究紀要 33号 (<i>Journal of Australian Studies</i>)		39～58頁	無

<i>The Growth and Transformation of Indian Automobile Industry</i>	単著	2008年12月	<i>Otemon Economic Studies</i> Vol.41		1~22頁	無
<i>A Macro Analysis of Japanese-Australian Bilateral Trade Relations: Present Status and Future Trends</i>	単著	2008年12月	オーストラリア紀要 34号 (<i>Journal of Australian Studies</i>)		37~54頁	無
<i>Recent Trends and Developments of FDI in India: An Analysis of Government's Investment Policy and Strategy</i>	単著	2009年6月	追手門経営論集 第15巻 第1号		125~154頁	無
<i>Japan-Australia Trade Issues: An Analysis of Recent Developments in Market Liberalization</i>	単著	2009年12月	<i>Otemon Journal of Australian Studies</i> Vol.35,		1~19頁	無
<i>Indian Automobile Industry: Trend, Policy and Competition</i>	単著	2009年12月	<i>Otemon Economic Studies</i> Vol.42,		33~46頁	無
<i>The Impact of Political, Legal and Regulatory Environment on Global Marketing: The Case of India and the rest of South Asia</i>	単著	2010年3月	追手門経済・経営研究 第17号		77~88頁	無
<i>The Strategy of Japanese Multinationals in South Asia</i>	単著	2010年12月	追手門経済・経営論集 第18巻		17~38頁	無
【その他】						

【学会における主な活動】		
学会発表 ①コロンボ国立大学での研究成果発表（2008年8月）	研究発表課題： <i>Foreign Subsidiaries in South Asia: A Study of Main Sources of Employee Recruitment</i>	
学会発表 ②インド・バンガロール国立大学での研究発表（2008年8月）	研究発表課題： <i>The Growth and Transformation of Indian Automobile Industry</i>	
学会発表 ③シンガポール国立大学学会発表（2009年9月）	研究発表課題： <i>Japan-Australia Trade Issues: An Analysis of Recent Developments in Market Liberalization.</i>	
学会発表 ④「豪」メルボルン大学学会発表（2009年9月）	研究発表課題： <i>A macro Analysis of Japanese-Australian Bilateral Trade Relations: Present Status and Future Trends</i>	
学会発表 ⑤タイ・タアサート大学学会発表（2010年3月）	研究発表課題： <i>The Strategy of Japanese Multinationals in South Asia</i>	
【その他研究活動上特記すべき事項】	年月日	備 考
追手門学院大学「追手門経営論集」編集員	2007年から現在に至る	

Ⅲ社会活動（3カ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）

社会における活動	年月日	備 考
メルボルン大学講演	2009年8月10日	国際交流の一環として学生を対象に行った講演（講演テーマ：Japanese Market Conditions for Australian Exports）
コロンボ国立大学講演	2009年8月17日	国際交流の一環として大学院生を対象に行った講演（講演テーマ：SAFTA and Its Impact on Sri Lankan Economy）

コロンボ中央大学講演	2010年8月20日	国際交流の一環として行った講演 (講演テーマ: Globalization and Free Trade in South Asia: Problems and Remedies)
アジア経済研究所講演	2010年3月	専門情報交換目的で行った講演 (講演テーマ: 「南アジアにおける貿易の自由化と今後の課題」)
神戸大学講演	2010年3月	研究成果を幅広く宣伝する目的で行った講演。(講演テーマ: 「BRICs と新興国のグローバル化戦略」)

IV 大学運営活動（3カ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）（2011年度就任教員は、2011年度の本学での学内職務及び大学業務をご記入願います。）

大学運営における活動	年月日	備 考
【学内職務】		
英語教育担当委員	2010年から現在に至る	
経営学会編集員	2008年から現在に至る	
人事委員	2008年から現在に至る	
【大学業務】		

2011年度 教員活動評価調査票 (記入用紙)

中野 統英 1/10

所属	経営学部 マーケティング学科	職名	准教授	氏名	中野 統英	学位	博士(工学)
----	----------------	----	-----	----	-------	----	--------

I 教育活動 (3カ年<2010年度、2009年度、2008年度>の活動についてご記入願います。)

【担当科目】 (2011年度就任教員は、2011年度の本学担当科目をご記入願います。)

1. 学部担当科目

情報リテラシー、プログラミング演習、入門コンピュータ、新入生演習(マーケティング)

2. 大学院担当科目

情報科学特論

3. 非常勤等担当科目(括弧内に大学名を記入してください) (2011年度就任教員は、前任校での担当科目についてもご記入願います。)

統計学入門、現代と統計(大阪経済大学)

【教育業績】 (2011年度就任教員は、前任校での教育業績についてもご記入願います。)

教育実践上の主な業績	年月日	備 考
1. 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 1-1. 追手門学院大学 経営学部 マーケティング学科 (1) 情報リテラシー1 (2クラス 春学期)	2005年4月1日から 現在まで	(1) 情報リテラシー1 ここでは、情報やコンピュータとは何かといったことを教示した。具体的にはコンピュータの内部構造や歴史、情報倫理と知的財産権、情報をどのようにして扱うか、そして情報を扱う上での問題点について講義を行った。さらに文書作成ソフトを使った各種文書の作成やホームページ作成方法について実習形式で教えた。

(2) 情報リテラシー2 (2クラス 秋学期)	2005年4月1日から 現在まで	(2) 情報リテラシー2 情報化と社会生活の関係という観点から講義を行った。具体的には情報化によるサービスの変化、情報化と経営の関係、情報化が社会生活に及ぼす影響、そして情報化にともなう社会の発展についての講義を行った。さらに表計算ソフトの操作方法と応用(各種データ処理および解析)、データベース、プレゼンテーション技法についても実習形式で教えた。
(3) 入門コンピュータ1 (2クラス 春学期)	2005年4月1日から 現在まで	(3) 入門コンピュータ1 コンピュータの構造や基本ツールの操作(メモ帳や電子メールなど)及び注意事項(ウィルスや知的財産権など)について講義した。電子メールやインターネットについては実際に設定や操作をさせることで理解を図った。そして文書作成ソフトを使った各種ビジネス文書の作成法などを教え、簡単なホームページの作成法も教示した。
(4) 入門コンピュータ2 (2クラス 秋学期)	2005年4月1日から 現在まで	(4) 入門コンピュータ2 表計算ソフトを用いて表やグラフなどの作成方法、各種計算方法や関数の活用方法などを教えた。そしてデータベースについては講義を交えながら実際にソフトウェアを操作させて理解させ、最後にプレゼンテーション技法についても理論的な説明の後にスライドを作成させることによって教えた。

1-2. 追手門学院大学 経営学部 マーケティング学科		
(5) プログラミング演習1 (1クラス 春学期)	2009年4月1日から 2010年3月まで	(5) プログラミング演習1 この講義ではまずプログラム言語の種類・歴史とプログラムの動作原理について教えた。そして各プログラム言語に共通なプログラムの基礎知識（プログラムの基本構成や変数の使い方など）を実際に Java 言語を用いたプログラムを作成させることによって教示した。
(6) プログラミング演習2 (1クラス 秋学期)	2009年4月1日から 2010年3月まで	(6) プログラミング演習2 ここではまず Java 言語を用いてプログラムで用いる基本構文を教えた。そして Java 言語の特徴であるオブジェクト指向プログラミングについて解説し、Java を用いてオブジェクト指向のプログラムを作成・実行することを教示した。
(7) 新入生演習 (1クラス 春学期)	2009年4月1日から 現在まで	(7) 新入生演習 ここでは、以下の 2 項目についての講義を行った。 (i) 経営学部においてなぜ「情報」が必要になるかを紹介した。 (ii) 大学で何をするのかを学生に考えてもらう。

1-3. 大阪経済大学 人間科学部 (非常勤講師)		
(8) 統計学入門 (2 クラス 春学期)	2007年4月1日から 現在まで	(8) 統計学入門 度数分布表の作成方法や代表値などといった統計処理の基礎、確率に関する基礎知識、確率変数および離散確率変数における確率分布関数について講義形式で授業を行った。ただし統計処理や確率の計算については適時問題を作成して演習も行った。
(9) 現代と統計 (2 クラス 秋学期)	2007年4月1日から 現在まで	(9) 現代と統計 離散確率変数における確率分布関数とそれらを用いた分布(二項分布およびポアソン分布), 連続確率変数における確率分布関数および正規分布について講義形式で授業を行った。正規分布等の各種分布については適時問題を作成して演習も行った。
1-4. 追手門学院大学大学院 経営学研究科		
(10) 情報科学特論 (1 クラス 通年)	2009年4月1日から 現在まで	(10) 情報科学特論 この講義では経営に関わる者が最低限身につけておくべき情報科学に関する幅広い知識と柔軟な応用能力(活用方法)を養うことを目的とした。基本的な情報科学の知識を学習したあと、プログラムを作成したりデータベースのソフトウェアで実際にデータを扱ったりすることによって情報の応用能力を養った。

<p>2. 作成した教科書、教材、参考書</p> <p>(1) 情報リテラシー1 (2クラス 春学期)</p> <p>(2) 情報リテラシー2 (2クラス 秋学期)</p>	<p>2005年4月1日から 現在まで</p>	<p>(1)および(2) 文書作成ソフトと表計算ソフトの使用法については、平成17年度は市販テキストを利用したが、平成18年度からは高校で情報を履修した生徒が多数になったので自作プリントのみで講義と演習を行った。「情報やコンピュータとは何か」や「情報化と社会生活の関係」については自作スライドを用いて講義を行い、コンピュータの基本操作、注意事項、データベース、プレゼンテーションなどについてもすべて自作スライドと自作プリントを作成して講義を行った。</p>
<p>(3) 入門コンピュータ1 (2クラス 春学期)</p> <p>(4) 入門コンピュータ2 (2クラス 秋学期)</p>	<p>2005年4月1日から 現在まで</p>	<p>(3)および(4) 文書作成ソフトと表計算ソフトの使用法については、自作プリントで講義と演習を行った。コンピュータの基本操作、注意事項、データベース、プレゼンテーションなどについてもすべて自作スライドと自作プリントを作成して講義を行った。</p>
<p>(5) プログラミング演習1 (1クラス 春学期)</p> <p>(6) プログラミング演習2 (1クラス 秋学期)</p>	<p>2009年4月1日から 2010年3月まで</p>	<p>(5)および(6) 基本的には市販テキストを用いて授業を行ったが、学生に作成させる課題については適時プリントを作成して授業を行った。</p>

(7) 新入生演習（1クラス 春学期）	2009年4月から 現在まで	(7) (i) 経営学部においてなぜ「情報」が必要になるかを紹介し、適時プリントを作成して講義を行った。 (ii) 大学で何をするのかを学生に考えてもらう。
大阪経済大学 人間科学部（非常勤講師） (8) 統計学入門（2クラス 春学期） (9) 現代と統計（2クラス 秋学期）	2007年4月から 現在まで	(8)および(9) 基本的には市販のテキストで授業を行ったが、板書を充実させてノートだけでも授業を理解できるように配慮した。さらに適時問題を作成しプリントで配布することにより演習も行った。
追手門学院大学大学院 経営学研究科 (10) 情報科学特論（1クラス 通年）	2009年4月1日から 現在まで	(10) 基本的には講義についてはプリントを適時準備して行った。プログラム作成およびデータベースソフトウェアの利用については適時課題プリントを作成・配布して演習も行った。
3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 「本人の申し出により非公表とした。」		
4. その他教育活動上特記すべき事項 「本人の申し出により非公表とした。」		

II 研究活動（5カ年〈2010年度、2009年度、2008年度、2007年度、2006年度〉の活動についてご記入願います。）

著書・論文等の名称	著書・共著の別	発行または発表年月	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数	査読の有無
【著書】						
社会的拡散現象における重要度を考慮した影響力の解析 --エージェントベースシミュレーションを用いて--	単著	2008年9月	(社)日本繊維機械学会 学会誌 vol. 61, No. 9.		615～620頁	
社会的拡散現象における学習効果を考慮したエージェントが引き起こす影響の解析 ～ Q 学習を含むエージェントベースシミュレーションを用いて ～	単著	2010年9月	(社)日本繊維機械学会 学会誌 vol. 63, No. 9.		499～506頁	
【論文】						
エージェントベースシミュレーションにおける気まぐれなエージェントによって受ける影響の解析	単著	2006年6月	(社)日本繊維機械学会 第59回 年次大会研究発表論文集		126～127頁	無
Analysis of Global Influence with Random Effect in Agent-Based Simulations	単著	同年 6月	Proc. 37th ISCIE International Symposium on Stochastic Systems Theory and Its Applications (SSS '05)		191～196頁	有
An Agent-Based Approach to Simulations of Global Influence with Random Effect	単著	同年 10月	Trans. International Journal of Innovative Computing, Information and Control (IJICIC), Vol. 2, No. 5		1153～1163頁	有

エージェントベースシミュレーションにおける重要度を考慮した影響力の解析	単著	2007年6月	(社)日本繊維機械学会 第60回 年次大会研究発表論文集		214~215頁	無
Analysis of Local Influence with Capricious Agents in Agent-Based Simulations	単著	同年6月	Proc. 38th ISCIE International Symposium on Stochastic Systems Theory and Its Applications (SSS '06)		148~153頁	有
A Pilot Study on Modeling and Analysis of Capricious Agents in Agent-Based Simulations	単著	2008年1月	Trans. International Journal Of Innovative Computing Information and Control (IJICIC), Vol. 4, No. 1		91~100頁	有
エージェントベースシミュレーションにおける前期採用者の採用ルールの違いによる影響の解析	単著	同年5月	(社)日本繊維機械学会 第61回 年次大会研究発表論文集		120~121頁	無
Analysis of Influences Considering Vagueness in Agent-Based Simulation	単著	同年6月	Proc. 39th ISCIE International Symposium on Stochastic Systems Theory and Its Applications (SSS '07)		115~120頁	有
エージェントベースシミュレーションにおける前期採用者の採用ルールの違いによる採用者数の変化の解析	単著	同年12月	追手門経営論集, Vol. 14, No. 2		93~105頁	無
Influence of Rumors Including Vagueness in Agent-Based Simulations	単著	2009年1月	Trans. International Journal of Innovative Computing, Information and Control (IJICIC), Vol. 5, No. 1		129~138頁	有

マルチエージェントシミュレーションにおけるうわさの流布状況の解析 - エージェントシミュレーションへの Q 学習の導入	単著	同年 5 月	(社)日本繊維機械学会 第 62 回 年次大会研究発表論文集		74~75 頁	無
エージェントベースシミュレーションにおける Q 学習を用いたうわさの流布状況の解析	単著	同年 12 月	追手門経営論集, Vol.15, No.2		1~18 頁	無
Q 学習を用いたエージェントベースシミュレーションによるファッションの流布状況の変化に関する解析	単著	2010 年 5 月	(社)日本繊維機械学会 第 63 回 年次大会研究発表論文集		108~109 頁	無
Modeling and Analysis of Agents with Q-learning in Agent-Based Simulations	単著	同年 6 月	Proc. 41th ISCIE International Symposium on Stochastic Systems Theory and Its Applications (SSS '09)		69~74 頁	有
エージェントシミュレーションにおける Q 学習を含むエージェントによるうわさの流布状況の変化に関する解析	単著	同年 6 月	(社)日本繊維製品消費科学会 2010 年年次大会・研究発表要旨		26 頁	無
A Study on Modeling and Analysis of Agent-Based Simulations with Q-Learning	単著	2011 年 1 月	Trans. International Journal of Innovative Computing, Information and Control (IJICIC), Vol. 7, No. 1		51~60 頁	有
【その他】						
「本人の申し出により非公表とした。」						

【学会における主な活動】		
「本人の申し出により非公表とした。」		
【その他研究活動上特記すべき事項】	年月日	備 考
「本人の申し出により非公表とした。」		

Ⅲ社会活動 (3カ年<2010年度、2009年度、2008年度>の活動についてご記入願います。)

社会における活動	年月日	備 考
茨木市市民講座(茨木市民のためのコンピュータ講座)(追手門学院大学開催分): 講師	2008年8月~2010年11月	

Ⅳ大学運営活動 (3カ年<2010年度、2009年度、2008年度>の活動についてご記入願います。)(2011年度就任教員は、2011年度の本学での学内職務及び大学業務をご記入願います。)

大学運営における活動	年月日	備 考
【学内職務】		
1. 総合情報教育センター業務 兼任教員	2004年4月から2009年3月まで	総合情報教育センターで、各種教育業務のアシスト(TAの教育や教員へのIT講習会)や2008年度に導入した教育システムの検討、LLシステムの導入検討などを行った
2. 総合情報教育センター 運営委員	2005年4月から2010年3月まで	
3. 教務委員	2010年4月から現在まで	
4. カリキュラム改革委員	2010年4月から現在まで	
【大学業務】		
2008年度 オープンキャンパス 経営学部ブース ゼミ体験コーナー	2008年7月20日	
2009年度 オープンキャンパス 経営学部ブース 模擬授業	2009年8月8日	

所属	経営学部 マーケティング学科	職名	准教授	氏名	原田 章	学位	修士(人間科学)
----	----------------	----	-----	----	------	----	----------

I 教育活動 (3カ年<2010年度、2009年度、2008年度>の活動についてご記入願います。)

【担当科目】 (2011年度就任教員は、2011年度の本学担当科目をご記入願います。)

1. 学部担当科目

基礎演習 1, 基礎演習 2, 新入生演習, キャリアデザイン論, ビジネス心理研究法演習 2, 消費者心理学 1, 消費者心理学 2, 消費行動研究論 1, 消費行動研究論 2, 心理解析法 1, 心理解析法 2

2. 大学院担当科目

産業心理解析特論演習 1, 産業心理解析特論, 研究演習, 産業心理解析特殊研究

3. 非常勤等担当科目(括弧内に大学名を記入してください) (2011年度就任教員は、前任校での担当科目についてもご記入願います。)

統計基礎論(神戸松蔭女子大学), 人間科学データ専門実習 I(大阪大学大学院人間科学研究科), 心理学解析法 II(大阪経済大学), 社会心理学演習(甲子園大学)

【教育業績】 (2011年度就任教員は、前任校での教育業績についてもご記入願います。)

教育実践上の主な業績	年月日	備 考
1. 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) Universal Passport を活用した授業の展開	2009年, 2010年	
2. 作成した教科書、教材、参考書 消費行動研究論の教材	2010年9月~12月	Excelを用いた統計シミュレーションの説明(約50頁)
ビジネス心理研究法演習の教材	2009年9月~12月	SPSSの説明に関する説明(約200頁)
3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
4. その他教育活動上特記すべき事項		

Ⅱ 研究活動（5カ年〈2010年度、2009年度、2008年度、2007年度、2006年度〉の活動についてご記入願います。）

著書・論文等の名称	著書・共著の別	発行または発表年月	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数	査読の有無
【著書】						
社会調査の計量分析	共著	2010年4月	ミネルヴァ書房	川端亮編「検証的因子分析」を担当	15頁	
兵庫県の文化と情報	共著	2007年10月	神戸新聞総合出版センター	甲子園短期大学文化情報学科編	27頁	
【論文】						
庭環境の継続的整備による身体障害者療護施設の入居者と職員の植物と園芸活動に対する関心の変化	共著	2009年9月	人間・植物関係学会雑誌第8巻第2号	柴谷郁子, 原田章, 鷺尾金弥	8頁	有
仮想街空間構成法の方法とデータ表現	単著	2009年3月	甲子園短期大学紀要第27号		8頁	無
クロマキーを使ったリポーター体験番組制作～パソコンによる音声・映像編集作業を通して～	共著	2008年3月	甲子園短期大学紀要第26号	尾崎正敏, 原田章	5頁	無
初学者用プログラミング学習環境PENの実装と評価	共著	2007年8月	情報処理学会論文誌第48巻第8巻	西田知博, 原田章, 中村亮太, 宮本友介, 松浦敏夫	12頁	有
コンピュータを使った声紋分析実験	共著	2007年8月	甲子園短期大学紀要第25号	尾崎正敏, 原田章	6頁	無
【その他】						
無理のない、持続可能な防犯活動を目指して—防犯活動団体実態調査報告書	共著	2010年3月	RISTEX「犯罪からの子どもの安全」	小俣謙二, 浅川達人, 羽生和紀, 芝田征司, 原田章, 島田貴仁	14頁	無

【学会における主な活動】		
【その他研究活動上特記すべき事項】	年月日	備 考
日本犯罪心理学会第49回大会準備委員	(2010年4月～2011年8月)	
追手門学院大学エクステンションカレッジ講師	2011年2月13日	
RISTEX 委託研究「犯罪からの子どもの安全」子どもの犯罪リスク認知測定ツールの開発	2007年10月～2011年9月	

Ⅲ社会活動（3カ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）

社会における活動	年月日	備 考
大阪教育大学学校危機メンタルサポートセンター第53回定期セミナー・シリーズ「学校における子ども向け防災・防犯教育のあり方」講師	2010年9月24日	

Ⅳ大学運営活動（3カ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）（2011年度就任教員は、2011年度の本学での学内職務及び大学業務をご記入願います。）

大学運営における活動	年月日	備 考
【学内職務】		
経営学部教務グループ	2010年度	
経営学部企画グループ	2010年度	
経営学部総合情報センター運営委員	2010年度	
【大学業務】		

2011年度 教員活動評価調査票 (記入用紙)

福田 得夫 1/4

所属	経営学部 マーケティング学科	職名	教授	氏名	福田 得夫	学位	工学博士(大阪大学)、87年12月取得
----	----------------	----	----	----	-------	----	---------------------

I 教育活動 (3カ年<2010年度、2009年度、2008年度>の活動についてご記入願います。)

【担当科目】 (2011年度就任教員は、2011年度の本学担当科目をご記入願います。)

1. 学部担当科目 情報科学概論1・2、基礎演習1・2、発展演習1・2、卒業演習1・2
2. 大学院担当科目 システム科学特論、システム科学特論演習Ⅰ、システム科学特論演習Ⅱ、システム科学特殊研究、研究演習
3. 非常勤等担当科目(括弧内に大学名を記入してください)(2011年度就任教員は、前任校での担当科目についてもご記入願います。) なし

【教育業績】 (2011年度就任教員は、前任校での教育業績についてもご記入願います。)

教育実践上の主な業績	年月日	備 考
1. 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業資料の公開	2009年4月～現在	下記2に示した作成した教材を、ユニバーサルパスポート上で公開し、復習および予習に役ださせている。
2. 作成した教科書、教材、参考書 情報科学概論1・2	2009年4月～現在	従来は教科書を使用して、補助的にプリントを配布し板書をしながら講義していたが、受講生数の増加から板書では対応できなくなってきたので、パワーポイントを使用している。2009年度は前年度に使用したスライド画面の修正と追加をおこなった。その結果全ページ数(全画面数)144ページとなっている。

基礎演習1・2、発展演習1・2、卒業演習1・2	2008年4月～現在	従来から、独自作成の資料を電子ファイル化したものを配布している。総ページ数は200ページを超える。現在その内容を刷新中である。また、そのソースファイルを演習受講生には公開しているので、自らの学習内容を反映させた独自の資料を学生自ら作成できるようにしている。
3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
4. その他教育活動上特記すべき事項		

Ⅱ 研究活動（5カ年〈2010年度、2009年度、2008年度、2007年度、2006年度〉の活動についてご記入願います。）

著書・論文等の名称	著書・共著の別	発行または発表年月	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数	査読の有無
【著書】						
なし						
【論文】						
A Note on Fuzzy Random Vectors as Models for Vague but Synthetic Description of Complex Random Phenomena	単著	2006年5月	Proc. of 37th ISCIE Intl. Symp. on Stochastic Systems theory and Its Appl.(SSS'05)		119～124頁	有
Fuzzy Random Vectors as Models for Vague but Synthetic Description of Complex Phenomena	単著	2006年10月	International J. of Innovative Computing, Information & Control, IJICIC International, Vol.2, No.5		1097～1117頁	有

On Fuzzy Random Vectors and Their Application to Questionnaire Survey	共著	2006年11月	第49回自動制御連合講演会	Yoshinori Egawa	SA3-1-3, 1~4頁	無
On Fuzzy Random Vectors with Stepwise Membership Levels and Their Applications to Questionnaire Survey	共著	2007年6月	Proc. of The 38th ISCIE Intl. Symp. on Stochastic Systems Theory and its Appl.(SSS'06)	Yoshinori Egawa	58~63頁	有
Fuzzy Random Vectors with Stepwise Membership Levels and Their Applications to Questionnaire Survey	共著	2008年1月	International J. of Innovative Computing, Information and Control, IJICIC International, Vol.4, No.1	Yoshinori Egawa	1~14頁	有
A Note on Support Function of Fuzzy Set	単著	2009年12月	Otemon Economic Studies Vol. 42		1~31頁	無
【その他】						
【学会における主な活動】						
1975年4月～現在		システム制御情報学会主催「ストカスティック システム シンポジウム」組織委員				
【その他研究活動上特記すべき事項】				年月日	備	考

Ⅲ 社会活動（3カ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）

社会における活動	年月日	備	考

2011年度 教員活動評価調査票（記入用紙）

福田 得夫 4/4

IV大学運営活動（3ヵ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）（2011年度就任教員は、2011年度の本学での学内職務及び大学業務をご記入願います。）

大学運営における活動	年月日	備 考
【学内職務】 経営学部長	2007年4月～2011年1月	
学院理事	2007年7月～2011年1月	
【大学業務】		

2011年度 教員活動評価調査票 (記入用紙)

藤田 正 1/3

所属	経営学部 マーケティング学科	職名	教授	氏名	藤田 正	学位	修士(教育学)九州大学 1970年3月取得
----	----------------	----	----	----	------	----	-----------------------

I 教育活動 (3カ年<2010年度、2009年度、2008年度>の活動についてご記入願います。)

【担当科目】 (2011年度就任教員は、2011年度の本学担当科目をご記入願います。)

1. 学部担当科目

産業心理学1・2、リーダーシップ論、ビジネス心理研究法演習1、新入生演習、基礎演習、発展演習、卒業演習

2. 大学院担当科目

産業組織心理学特論、産業組織心理学特論演習Ⅰ、産業組織心理学特論演習Ⅱ、産業組織心理学特殊研究、研究演習

3. 非常勤等担当科目(括弧内に大学名を記入してください) (2011年度就任教員は、前任校での担当科目についてもご記入願います。)

【教育業績】 (2011年度就任教員は、前任校での教育業績についてもご記入願います。)

教育実践上の主な業績	年月日	備 考
1. 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 追手門学院学生の考える能力向上	2009年	追手門経営論集 15に掲載
2. 作成した教科書、教材、参考書 鉄鋼業フォアマン向け「集団討議と自己決定」資料	2008年	
鳥取県看護協会主催「集団マネジメント」資料	2009年	
3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 講演 鉄鋼業フォアマン向け「集団討議と自己決定」 年4回	2008、2009、2010	30年以上継続
研修 鳥取県看護協会主催「集団マネジメント」	2009、2010	年4日
4. その他教育活動上特記すべき事項		

2011年度 教員活動評価調査票（記入用紙）

Ⅱ 研究活動（5カ年〈2010年度、2009年度、2008年度、2007年度、2006年度〉の活動についてご記入願います。）

著書・論文等の名称	著書・共著の別	発行または発表年月	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数	査読の有無
【著書】						
地域のグループダイナミクス	単著	2009年4月	ナカニシヤ出版		80頁	
【論文】						
追手門学院学生が希望する職業職種に関する調査	単著	2008年12月	追手門経営論集14		137～145頁	無
「会合雰囲気テスト」による集団発達の測定	単著	2009年3月	追手門経済・経営研究16		119～124頁	無
追手門学院学生の考える能力向上・I（分析）	単著	2009年6月	追手門経営論集15		19～97頁	無
【その他】						
今こそ「ちいきのダイナミクスを」	単著	2009年6月	朝日21関西スクエア115		6頁	
漁師は空気を読む	単著	2010年8月	教職員組合「希燦時」5		16頁	
【学会における主な活動】						
社会心理学会シンポジウム コメンテーター		2009年10月				
関西社会心理学研究会発表		2010年10月				
【その他研究活動上特記すべき事項】			年月日	備	考	

Ⅲ 社会活動（3カ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）

社会における活動	年月日	備	考
講演 鉄鋼業フォアマン向け「集団討議と自己決定」 年4回	年4回・35年目		
鳥取県看護協会主催「集団マネジメント」	年4日・5年目	地域医療を目指して	

2011年度 教員活動評価調査票（記入用紙）

藤田 正 3/3

IV大学運営活動（3ヵ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）（2011年度就任教員は、2011年度の本学での学内職務及び大学業務をご記入願います。）

大学運営における活動	年月日	備 考
【学内職務】 「本人の申し出により非公表とした。」		
【大学業務】 「本人の申し出により非公表とした。」		

2011年度 教員活動評価調査票 (記入用紙)

松井 温文 1/5

所属	経営学部 マーケティング学科	職名	講師	氏名	松井 温文	学位	経営学修士
----	----------------	----	----	----	-------	----	-------

I 教育活動 (3カ年<2010年度、2009年度、2008年度>の活動についてご記入願います。)

【担当科目】 (2011年度就任教員は、2011年度の本学担当科目をご記入願います。)

1. 学部担当科目 2008年度 マーケティング論 医療福祉ビジネス論 基礎演習 発展演習 卒業演習 新入生演習 2009年度 マーケティング論 医療福祉ビジネス論 基礎演習 発展演習 卒業演習 新入生演習 2010年度 研修期間
2. 大学院担当科目
3. 非常勤等担当科目(括弧内に大学名を記入してください) (2011年度就任教員は、前任校での担当科目についてもご記入願います。)

【教育業績】 (2011年度就任教員は、前任校での教育業績についてもご記入願います。)

教育実践上の主な業績	年月日	備 考
1. 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
2. 作成した教科書、教材、参考書		
3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
4. その他教育活動上特記すべき事項		

Ⅱ 研究活動（5カ年〈2010年度、2009年度、2008年度、2007年度、2006年度〉の活動についてご記入願います。）

著書・論文等の名称	著書・共著の別	発行または発表年月	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数	査読の有無
【著書】						
【論文】						
マーケティング研究における広告活動の性格	単	2006/5	企業経営研究、日本企業経営学会、第9号			無
短期大学の学生に対するメールサービスとセミナー教育に関する一試論—より豊かな心を持った学生を育成するために—	共	2006/8	関西実践経営、実践経営学会関西部会、31号	高木直人・中村宏敏・松井温文		無
診療所における看護師の役割に関する一試論	単	2006/8	実践経営、実践経営学会、第43号			有
サービス・マーケティング研究の登場—歴史的規定を受けた必然性から—	単	2006/10	流通、日本流通学会、第19号			無
近江商人と社会的信用	共	2006/10	関西実践経営、実践経営学会関西部会、32号	高木直人・松井温文		無
サービス・マーケティング研究における機能主義アプローチ	単	2006/12	追手門経営論集、追手門学院大学経営学会、第12巻第2号			無
商業経済論の今日的意義—マーケティング研究との関連から—	単	2007/3	追手門経済・経営研究、追手門学院大学、第14号			無
理論の実践的応用1—ペンション・民宿の経営—	単	2007/3	追手門経済・経営研究、追手門学院大学、第14号			無

革新的な歯科衛生士	単	2007/3	日本産業科学学会研究論叢、 日本産業科学学会、第12号			有
特徴のある短期大学のホームページに見るサービス精神—仮説の構築に向けて—研究ノート	単	2007/5	企業経営研究、日本企業経営学会、第10号			無
短大生のキャリア開発実践の四年生大学への応用	共	2007/6	Discussion Paper in Business Management、追手門学院大学経営学会、No.6	高木直人・松井温文		無
市場の概念の確認と今後—マーケティング研究の基礎として—研究ノート	単	2007/9	追手門経営論集、追手門学院大学経営学会、第13巻第1号			無
理論の実践的応用 2—ベンチャー企業における機能主義—	単	2007/12	追手門経営論集、追手門学院大学経営学会、第13巻第2号			無
運輸の活動の再検討—古典マーケティング研究からの分析—	単	2008/3	中京大学論叢、中京大学商学会、第54巻			無
インターナル・マーケティングの構築に向けて—木村達也氏の著書を素材として—研究ノート	単	2008/3	追手門経済・経営研究、追手門学院大学、第15号			無
短期大学のホームページの基本的構成要素に関する分析—堺女子短期大学を事例として—	単	2008/3	日本産業科学学会研究論叢、 日本産業科学学会、第13号			有
理論の実践的応用 3—製品差別化戦略と市場細分化戦略の基本的理解とベンチャー—	単	2008/12	追手門学院大学ベンチャービジネスレビュー、追手門学院大学ベンチャービジネス研究所、創刊号			無

理論の実践的応用 4—大学市場の性格と規範的行動—	単	2009/3	追手門経済・経営研究、追手門学院大学、第16号			無
分析対象としての医療サービスの基本的性格—マーケティングとの係わりから—研究ノート	単	2009/6	追手門経営論集、追手門学院大学経営学会、第15巻第1号			無
看護師に対するイメージ—経営学部学生を対象に—	共	2009/8	富山商船高等専門学校研究集録、富山商船高等専門学校、第42号	清水真・香取薫・讃井真理・松井温文		無
病院経営とマーケティング研究との基本的関係—マーケティングの本性的理解を基礎として—	単	2010/3	追手門経済・経営研究、追手門学院大学、第17号			無
消費者志向と価格政策	単	2010/3	日本産業科学学会研究論叢、日本産業科学学会、第15号			有
マーケティングにおける製品開発と情報—消費者の欲望に対する認識も含めて—	単	2010/3	商経学叢、近畿大学経営学部、第56巻第3号			無
【その他】						
【学会における主な活動】						
【その他研究活動上特記すべき事項】			年月日		備考	

Ⅲ社会活動（3カ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）

社会における活動	年月日	備 考

Ⅳ大学運営活動（3カ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）（2011年度就任教員は、2011年度の本学での学内職務及び大学業務をご記入願います。）

大学運営における活動	年月日	備 考
【学内職務】 ガイドブック編集委員、懇親会委員、企画グループ	2008年度	
ガイドブック編集委員、懇親会委員、企画グループ	2009年度	
【大学業務】		

2011年度 教員活動評価調査票 (記入用紙)

見市 晃 1/5

所属	経営学部 マーケティング学科	職名	教授	氏名	見市 晃	学位	博士(工学)
----	----------------	----	----	----	------	----	--------

I 教育活動 (3カ年<2010年度、2009年度、2008年度>の活動についてご記入願います。)

【担当科目】 (2011年度就任教員は、2011年度の本学担当科目をご記入願います。)

1. 学部担当科目

新入生演習、基礎演習、発展演習、卒業演習 1,2、キャリアデザイン論 1、プログラミング演習 1A,2A、環境経営論 1,2、NPOマネジメント、環境と経営、エコマーケティング論、北摂を学ぶ

2. 大学院担当科目

環境経営論特論、環境経営論特論演習、環境経営論特殊研究、研究演習

3. 非常勤等担当科目(括弧内に大学名を記入してください) (2011年度就任教員は、前任校での担当科目についてもご記入願います。)

【教育業績】 (2011年度就任教員は、前任校での教育業績についてもご記入願います。)

教育実践上の主な業績	年月日	備 考
1. 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 携帯電話により、毎週、前回の理解度テストを行った		学部の演習科目以外の全教科
2. 作成した教科書、教材、参考書 8頁前後のプリント(教科書)を毎週配布した。予習の代わりに上記テストを行った		学部の演習科目以外の全教科
3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 次頁、その他に記載する。No.2,No3,No.8		
4. その他教育活動上特記すべき事項		

II 研究活動（5カ年〈2010年度、2009年度、2008年度、2007年度、2006年度〉の活動についてご記入願います。）

著書・論文等の名称	著書・共著の別	発行または発表年月	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数	査読の有無
【著書】						
【論文】						
Consideration on an appropriate education system for Japan to become respected in the world	共著	2007年3月	追手門学院大学創立四十周年記念論文集	Akira Miichi, Colin Dale	経営学部編 pp.11-24	無
Reform of the Japanese Education System Should be Required	単著	2007年4月	Western Social Science Association 2007, Calgary, Canada		pp.12	有
Policy of Global Warming Prevention: Reconstruction System of Reused Bottles	単著	2008年4月	50th Annual Conference WSSA 2008, Denver, U.S.A		pp.14	有
Reuse System of Bottles -For the Prevention of Climate-	単著	2008年9月	追手門経営論集 Vol.14, No.1		pp.25-55	無
Consideration on the modern times of Japan and Japanese history -Fate of maritime people who had obtained hegemony in the sea-	単著	2009年6月	追手門経営論集 Vol.15, No.1		pp.171-204	無
リターナルびん普及に関する施策 -南九州の焼酎を中心としたリターナルびんを事例に-	共著	2009年9月	追手門経済論集 Vol.44, No.1	今堀洋子、見市 晃	pp.1-11	無
A social Survey of Public Opinion Concerning Business Marketing of Flower Essence in Japan	共著	2010年4月	52th annual conference WSSA 2010, Reno, U.S.A.	Akira Miichi, Tatsuhiko Akamatsu, Yumi Wakasa	pp.44	有

The Study of the relationship between social background and manufacturing company employees' work stress in Japan	共著	2010年4月	52th annual conference WSSA 2010, Reno, U.S.A.	Tatsuhiko Akamatsu, Akira Miichi	pp.37	有
Social Consideration on Flower Essence Business	共著	2010年12月	追手門経営論集 Vol.16, No.2	Akira Miichi, Tatsuhiko Akamatsu	pp.141-157	無
【その他】						
南九州における900ml茶びんの統一リユースシステムモデル事業 -本事業の評価と今後の課題についての報告書	単著	2008年3月	(社)環境生活文化機構 2007年度報告書		pp.45-72	
学生のためのベンチャー研究所	単独	2008年7月	産学官連携推進大会2008 in 大阪			
リユースびん調査で分かった採るべき次の一手(上)	単著	2008年7月	季刊エルコレーター Vol.35		pp.12-13	
環境と起業 -大学施設を有効活用しませんか-	単独	2008年9月	追手門学院ベンチャービジネス研究所セミナー			
リユースびん調査で分かった採るべき次の一手(下)	単著	2008年10月	季刊エルコレーター Vol.36		pp.12-13	
学生のためのベンチャー研究所	単著	2008年12月	追手門学院大学ベンチャービジネス・レビュー 創刊号		pp.11-18	
製造業における新規顧客開拓のための営業戦略 -Web を利用した営業戦略における実践事例-	共著	2009年6月	工業経営研究学会西日本部会 研究発表会	赤松、見市		

経営感性学 -いつでも、何かないか-	単独	2009年11月	2009年度インテリジェントアレー 専門セミナー			
フラワーエッセンスの意識調査	共著	2009年12月	工業経営研究学会西日本部会 研究発表会	赤松、若狭、見市		
環境と起業 -大学施設を有効活用 しませんか	単著	2010年3月	追手門学院大学ベンチャービ ジネス・レビュー Vol.2		pp57-62	
製造業における企業体質強化に向 けた取り組み事例	共著	2010年3月	追手門学院大学ベンチャービ ジネス・レビュー Vol.2	赤松、見市	pp.13-18	
【学会における主な活動】						
2009年4月～		日本オペレーションズ・リサーチ学会関西支部監事				
【その他研究活動上特記すべき事項】			年月日	備	考	

Ⅲ 社会活動（3カ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）

社会における活動	年月日	備 考
特定非営利法人イ・キューブによる環境行動	2001年1月～	副理事長
茨木市生涯学習センター講師	2006年4月～	理科系とは。感性学など
茨木市環境教育ボランティア	2001年9月～	茨木市民向け環境教育
茨木市水道・下水道事業懇談会委員	2009年5月～同年9月	上水道・下水道価格改定案の提出

2011年度 教員活動評価調査票（記入用紙）

見市 晃 5/5

IV大学運営活動（3ヵ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）（2011年度就任教員は、2011年度の本学での学内職務及び大学業務をご記入願います。）

大学運営における活動	年月日	備 考
【学内職務】		
教育実習運営委員	2008,2009,2010 年度	
人事委員	2008,2009 年度	
経営学会委員	2008,2009,2010 年度	
英語教育プロジェクト	2011 年1月～	
【大学業務】		
学習支援・教育開発センター長	2009 年 10 月～2010 年度	
50 周年大学史編纂委員	2010 年度～	

2011年度 教員活動評価調査票 (記入用紙)

米倉 穰 1/4

所属	経営学部 マーケティング学科	職名	教授	氏名	米倉 穰	学位	経営学修士
----	----------------	----	----	----	------	----	-------

I 教育活動 (3カ年<2010年度、2009年度、2008年度>の活動についてご記入願います。)

【担当科目】 (2011年度就任教員は、2011年度の本学担当科目をご記入願います。)

1. 学部担当科目

経営戦略論1, 2、中小企業経営論1, 2、新入生演習、基礎演習、発展演習、卒業演習、日本事情

2. 大学院担当科目

企業論特論 B、企業論特論演習1, 2

3. 非常勤等担当科目(括弧内に大学名を記入してください) (2011年度就任教員は、前任校での担当科目についてもご記入願います。)

中小企業の国際化戦略(中小企業大学校東京校)

【教育業績】 (2011年度就任教員は、前任校での教育業績についてもご記入願います。)

教育実践上の主な業績	年月日	備 考
1. 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 基礎、発展演習にPBL(問題解決方学習法)を導入	2010年4月1日	
2. 作成した教科書、教材、参考書		
3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
4. その他教育活動上特記すべき事項 ゼミ運営において、「座学+PBL+実践活動」を導入している	2009年4月1日～	

2011年度 教員活動評価調査票（記入用紙）

米倉 穰 2/4

Ⅱ 研究活動（5カ年〈2010年度、2009年度、2008年度、2007年度、2006年度〉の活動についてご記入願います。）

著書・論文等の名称	著書・共著の別	発行または発表年月	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数	査読の有無
【著書】						
「経営学事典」	共著	2006年6月	学文社	日本経営教育学会	1	
The Global Network Strategy Behavior of Japanese SMEs in the 21 st Century	単著	2007年2月	晃洋書房		178	
【論文】						
【その他】資料						
現代 GP 取組概要(H19年度)報告集	共著	2008年3月	追手門学院大学	米倉 穰	6	
日本のハイテクベンチャーのリスト	単著	2008年6月	追手門学院大学		12	
ハイテクベンチャーに関するアンケート調査とインタビュー調査の要因	単著	2008年12月	追手門学院大学		10	
関西ベンチャー学会学会誌創刊号 責任編集	共著	2009年2月	関西ベンチャー学会	米倉穰	40	
現代 GP 取り組み概要(H20年度報告集)	共著	2009年3月	追手門学院大学	米倉穰	12	
ハイテクベンチャーの発展要因:分析 フレーム	単著	2009年3月	追手門学院大学		10	
現代 GP 取組概要(H21年度報告集)	共著	2010年3月	追手門学院大学	米倉穰	12	
関西ベンチャー学会誌 Vol.2 責任編集	共著	2010年2月	関西ベンチャー学会	米倉穰	60	
関西ベンチャー学会誌 Vol.3 責任編集	共著	2011年2月	関西ベンチャー学会	米倉穰	94	

【学会における主な活動】		
関西ベンチャー学会国際化研究部会を通算100回開催、司会を担当	2011年3月12日	
関西ベンチャー学会副会長兼事務局長	2007年4月1日～2013年3月	
【その他研究活動上特記すべき事項】学会発表	年月日	備 考
企業経営の国際化とは何か、グローバル化とは何か	2010年2月15日	関西ベンチャー学会
シンガポールにおける成功しているメディカル動向	2011年3月15日	関西ベンチャー学会

Ⅲ社会活動（3カ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）

社会における活動	年月日	備 考
中国北京市にてハイテクベンチャーの実態調査	2008年2月～3月	
米国シリコンバレーにて日系ハイテクベンチャーの実態調査		
中国上海にて市場調査	2008年6月末	
シンガポールにて医療ビジネスの調査	2010年10月28日～	
関西ベンチャー学会国際化研究部会通算100回開催、司会担当	2011年3月12日	

2011年度 教員活動評価調査票（記入用紙）

米倉 穰 4/4

IV大学運営活動（3ヵ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）（2011年度就任教員は、2011年度の本学での学内職務及び大学業務をご記入願います。）

大学運営における活動	年月日	備 考
【学内職務】		
人事委員	2005年4月1日～現在	
教務グループリーダー	2009年3月31日まで	
マーケティング学科長	2009年3月31日まで	
現代 GP 追風5店舗統括本部長	2010年3月31日まで	
企画グループ委員	2010年4月1日から	
経営学会委員(監査)	2011年3月末まで	
【大学業務】		

2011年度 追手門学院大学

教員活動評価調査票

【心理学部 心理学科】

◎教員活動評価票各評価領域の記載年度。

- I 教育活動 2010年度、2009年度、2008年度の3カ年。
- II 研究活動 2010年度、2009年度、2008年度、2007年度、2006年度の5カ年。
- III 社会活動 2010年度、2009年度、2008年度の3カ年。
- IV 大学運営活動 2010年度、2009年度、2008年度の3カ年。

〈心理学科〉

石王 敦子	2～5 ページ	辻 潔	50～52 ページ
井上 知子	6～8 ページ	中鹿 彰	53～57 ページ
井ノ口 淳三	9～11 ページ	中村 このゆ	58～67 ページ
加藤 徹	12～15 ページ	永野 浩二	68～74 ページ
金政 祐司	16～21 ページ	橋本 秀美	75～80 ページ
河崎 美保	22～25 ページ	馬場 天信	81～88 ページ
倉戸 由紀子	26～34 ページ	東 正訓	89～95 ページ
佐々木 英一	35～37 ページ	鋒山 泰弘	96～98 ページ
瀧端 真理子	38～43 ページ	三川 俊樹	99～104 ページ
田中 耕二郎	44～46 ページ	溝部 宏二	105～111 ページ
田中 秀明	47～49 ページ		

2011年度 教員活動評価調査票 (記入用紙)

石王 敦子 1/4

所属	心理学部 心理学科	職名	教授	氏名	石王 敦子	学位	博士(教育学)、京都大学、1996年7月取得
----	-----------	----	----	----	-------	----	------------------------

I 教育活動 (3カ年<2010年度、2009年度、2008年度>の活動についてご記入願います。)

【担当科目】 (2011年度就任教員は、2011年度の本学担当科目をご記入願います。)

1. 学部担当科目

卒業研究1・2、新入生演習、認知心理学、実験心理学演習、感情心理学、認知心理学講読、こころの科学(以上毎年)、レポート・論文の書き方、認知・脳科学系入門、認知心理学演習(以上2007,2008年度) 特殊演習1, 2、認知心理学特講(以上2009年度)

2. 大学院担当科目

認知心理学特論、臨床発達実習、保育支援特論、記憶と言語

3. 非常勤等担当科目(括弧内に大学名を記入してください) (2011年度就任教員は、前任校での担当科目についてもご記入願います。)

認知心理学(京都大学, 2008年度)

【教育業績】 (2011年度就任教員は、前任校での教育業績についてもご記入願います。)

教育実践上の主な業績	年月日	備 考
1. 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 書き込み式レジュメをすべての授業において実施 実験を取り入れた授業 授業評価を毎年受けて、授業方法の改善をしている	1997年度～ 1997年度～ 1997年度～	
2. 作成した教科書、教材、参考書 「グラフィック心理学」	2005年度～	教科書として使用
3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
4. その他教育活動上特記すべき事項 学会連合資格臨床発達心理士認定運営機構認定 臨床発達心理士スーパーバイザー取得	2009年12月	

Ⅱ 研究活動（5カ年〈2010年度、2009年度、2008年度、2007年度、2006年度〉の活動についてご記入願います。）

著書・論文等の名称	著書・ 共著の別	発行または 発表年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	査読の 有無
【著書】						
【論文】						
ストループ干渉とバイリンガル研究	単著	2007年3月	追手門学院大学心理学部 紀要, 1		1～10頁	無
逆ストループ干渉の生起機序	単著	2009年3月	追手門学院大学心理学部 紀要, 3		1～11頁	無
子どもの心理的特徴に関する調査 1—5・6年生における自己意識と 統制感、自己制御、ストレス対処と の関係—	共著	2009年3月	追手門学院大学地域支援 心理研究センター紀要, 5	落合正行、石王敦子、井上知子	31～60頁	無
子どもの心理的特徴に関する調査 2—5年生における自己意識と能 力認知と社会的責任との関係—	共著	2009年3月	追手門学院大学地域支援 心理研究センター紀要, 5	石王敦子、落合正行、井上知子	61～75頁	無
教師の子どもの評価	共著	2009年3月	追手門学院大学地域支援 心理研究センター紀要, 5	落合正行、石王敦子、井上知子	76～81頁	無
ストループ型翻訳課題における語 彙—概念表象	単著	2010年3月	追手門学院大学心理学部 紀要, 4		29～37頁	無
【その他】						
日本心理学会第70回大会ワーク ショップ話題提供	単独	2006年11月	九州大学			
日本発達心理学会第18回大会 自主シンポジウムの企画と司会	共同	2007年3月	埼玉大学	石王敦子、井上知子、落合正行		

日本発達心理学会第19回大会リレー講演企画と司会	共同	2008年3月	追手門学院大学	落合正行、 <u>石王敦子</u>		
日本発達心理学会第19回大会ラUNCHONレクチャー企画と司会	共同	2008年3月	追手門学院大学	落合正行、 <u>石王敦子</u>		
日本心理学会第72回大会ポスター発表	単独	2008年9月	北海道大学			
【学会における主な活動】						
2005年4月～		関西心理学会役員				
2009年4月～		日本臨床発達心理士会関西支部役員				
【その他研究活動上特記すべき事項】			年月日	備	考	
「本人の申し出により非公表とした。」						

Ⅲ 社会活動（3カ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）

社会における活動	年月日	備	考
毎日文化センター「癒しと励ましの心理学」講師「外国語でコミュニケーションを楽しむ」毎日文化センター	2008年7月		
おうてもん塾「子育ての心理学」講師「もっとも大事な時期の育児のあり方」大阪城スクエア	2008年10月		
毎日文化センター「癒しと励ましの心理学」講師「もの忘れはこわくない」毎日文化センター	2009年5月		

2011年度 教員活動評価調査票（記入用紙）

石王 敦子 4/4

IV大学運営活動（3ヵ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）（2011年度就任教員は、2011年度の本学での学内職務及び大学業務をご記入願います。）

大学運営における活動	年月日	備 考
【学内職務】		
学生相談室長	2006年4月～2009年3月	
心理学研究科研究科長	2008年4月～2010年3月	
【大学業務】		
出張授業参加	毎年3回～4回	
オープンキャンパス参加(オープンキャンパス委員 2009年度)	毎年3回から4回	
高校訪問参加	毎年3校～5校訪問	
【その他大学運営活動上特記すべき事項】		
学生相談室発行「教職員のためのガイドブック」の編集と執筆	2009年3月	
入学式後教育講演会歓迎会にて新入生保護者への講話	2008年4月	

2011年度 教員活動評価調査票 (記入用紙)

井上 知子 1/3

所属	心理学部 心理学科	職名	教授	氏名	井上 知子	学位	修士(教育学)、京都大学、67年3月取得
----	-----------	----	----	----	-------	----	----------------------

I 教育活動 (3カ年<2010年度、2009年度、2008年度>の活動についてご記入願います。)

【担当科目】 (2011年度就任教員は、2011年度の本学担当科目をご記入願います。)

1. 学部担当科目

心理学体系論、パーソナリティ心理学、家族心理学、生育史心理学、生涯発達心理学特講、心理学の総合的理解、心理学総合科目1、心理検査学、特殊演習1、ライフスタイル演習、卒業演習1、卒業演習2

2. 大学院担当科目

臨床発達心理学特論、育児支援特論、心理アセスメント演習1、心理アセスメント演習2、生涯発達・生涯教育心理学コース演習1、2、臨床発達実習

3. 非常勤等担当科目(括弧内に大学名を記入してください) (2011年度就任教員は、前任校での担当科目についてもご記入願います。)

【教育業績】 (2011年度就任教員は、前任校での教育業績についてもご記入願います。)

教育実践上の主な業績	年月日	備 考
1. 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
2. 作成した教科書、教材、参考書 臨床心理学 2 版		
3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 地域支援心理研究センター公開講座1 毎日文化センター公開講座「生活の知恵とカウンセリングの心」シリーズ 5 高齢者の生活における生きがい毎日文化センター公開講座「癒しと励ましの心理学」シリーズ3 心の健康とはなんだろうか 追手門学院大学主催の公開講座「こころ豊かに生きる」コーディネーター・講師。参加者一般市民約200名		

公開講座フェスタ 心ゆたかに生きるとは「よりよく生きるとはー地域・学校・家庭への心理学の貢献」講師		
4. その他教育活動上特記すべき事項 学校心理士、臨床発達心理士、臨床発達心理士スーパーバイザー		

Ⅱ 研究活動（5カ年〈2010年度、2009年度、2008年度、2007年度、2006年度〉の活動についてご記入願います。）

著書・論文等の名称	著書・共著の別	発行または発表年月	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数	査読の有無
【著書】						
【論文】						
不登校に対する心理学的対応についてー文献的検討ー	単著	2009年3月	追手門学院大学心理学部紀要第3巻		11-26頁	無
子どもの心理的特徴に関する調査1ー5・6年生における自己意識と統制感、自己制御、ストレス対処との関係ー	共著	同年3月	追手門学院大学地域支援心理研究センター紀要第5巻	落合正行、石王敦子	31-60頁	無
子どもの心理的特徴に関する調査2ー5年生における自己意識と能力認知と社会的責任との関係	共著	2009年3月	追手門学院大学地域支援心理研究センター紀要第5巻	落合正行、石王敦子	61-75頁	無
教師の子どもの評価	共著	2009年3月	追手門学院大学地域支援心理研究センター紀要第5巻	落合正行、石王敦子	76-81頁	無

【その他】						
【学会における主な活動】						
【その他研究活動上特記すべき事項】			年月日	備	考	

Ⅲ社会活動（3カ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）

社会における活動	年月日	備	考

Ⅳ大学運営活動（3カ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）（2011年度就任教員は、2011年度の本学での学内職務及び大学業務をご記入願います。）

大学運営における活動	年月日	備	考
【学内職務】 大学院心理学研究科長			
【大学業務】 出張授業多数回、オープンキャンパス、模擬講義及び個人相談、大学フェア			

2011年度 教員活動評価調査票 (記入用紙)

井ノ口 淳三 1/3

所属	心理学部 心理学科	職名	教授	氏名	井ノ口 淳三	学位	博士(教育学)、京都大学、2000年3月取得
----	-----------	----	----	----	--------	----	------------------------

I 教育活動 (3カ年<2010年度、2009年度、2008年度>の活動についてご記入願います。)

【担当科目】 (2011年度就任教員は、2011年度の本学担当科目をご記入願います。)

1. 学部担当科目

現代の子どもと教育2、教育原論、教育史、教職概論、道德教育論、視聴覚教育、教職総合演習1、教育実習、介護等体験

2. 大学院担当科目

3. 非常勤等担当科目(括弧内に大学名を記入してください) (2011年度就任教員は、前任校での担当科目についてもご記入願います。)

【教育業績】 (2011年度就任教員は、前任校での教育業績についてもご記入願います。)

教育実践上の主な業績	年月日	備 考
1. 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
2. 作成した教科書、教材、参考書		
学力を育てる教育学	2008年4月	八千代出版
教職概論	2008年5月	ミネルヴァ書房
3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
教師を育てる	2010年6月	ナカニシヤ出版
4. その他教育活動上特記すべき事項		
教師を目指す学生への論作文の指導	2008年3月	『教職課程年報』第16号

Ⅱ 研究活動（5カ年〈2010年度、2009年度、2008年度、2007年度、2006年度〉の活動についてご記入願います。）

著書・論文等の名称	著書・共著の別	発行または発表年月	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数	査読の有無
【著書】						
Johannens Amos Comenius	共著	2009年3月	Academia,Praha	Svatava Chocholová	450～454頁	
西洋の教育の歴史	共著	2010年2月	ミネルヴァ書房	山崎英則	1～11頁	
【論文】						
理性による情念の制御は、どこまで可能か—デカルトとコメニウスの場合—	単著	2008年9月	近代教育フォーラム、第17号	教育思想史学会	19～26	有
日本の中学校社会科教科書におけるオーストラリアの取り扱いについて	単著	2009年12月	追手門学院大学オーストラリア研究所紀要、第35号		33～39	無
良心の教育について、どのように考えるのか	単著	2010年6月	関西教育学会年報、34号		186～190頁	有
『世界図絵』1883年版の特徴について	単著	2011年3月	追手門学院大学心理学部紀要、第5号		75～89頁	無
【その他】						
On the Role of the Textbook in Popular Education—Mainly “Orbis pictus” in the 18 th and 19 th Century,	単独発表	2009年8月	31st International Standing Conference for the History of Education, (ユトレヒト大学)			有

On the Educational Consideration for Children in the 17th Century—Mainly “ <i>Orbis sensualium pictus</i> ” of J.A.Comenius	単独 発表	2010年8月	32nd International Standing Conference for the History of Education, (アムステルダム大学)			有
【学会における主な活動】						
2001年8月～2009年8月	日本教育学会理事					
2005年9月～現在	日本教師教育学会理事					
2009年10月～現在	日本教育方法学会常任理事					
【その他研究活動上特記すべき事項】				年月日	備 考	
日本学術振興会科学研究費委員会専門委員				2008年12月～2010年11月		
日本学術振興会科学研究費補助金 基盤研究(C)代表				2010年4月～現在		
日本学術振興会科学研究費補助金 基盤研究(B)分担				2010年4月～現在		

Ⅲ社会活動（3カ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）

社会における活動	年月日	備 考
関西チェコ・スロバキア協会副会長	2001年3月～現在	

Ⅳ大学運営活動（3カ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）（2011年度就任教員は、2011年度の本学での学内職務及び大学業務をご記入願います。）

大学運営における活動	年月日	備 考
【学内職務】		
大学評議員	2005年4月～現在	
教育実習運営委員	1997年9月～現在	
【大学業務】		

2011年度 教員活動評価調査票 (記入用紙)

加藤 徹 1/4

所属	心理学部 心理学科	職名	教授	氏名	加藤 徹	学位	文学修士、大阪大学、1972年3月取得
----	-----------	----	----	----	------	----	---------------------

I 教育活動 (3カ年<2010年度、2009年度、2008年度>の活動についてご記入願います。)

【担当科目】 (2011年度就任教員は、2011年度の本学担当科目をご記入願います。)

1. 学部担当科目

感覚心理学、環境心理学、実験心理学演習、感覚心理学演習、感覚心理学購読、感覚心理学得講、特殊演習1, 2, 卒業研究1, 2, 認知・脳科学入門、レポート・論文の書き方、心の科学、ライフスタイル演習1、新入生演習

2. 大学院担当科目

環境心理学得論、環境心理学演習

3. 非常勤等担当科目(括弧内に大学名を記入してください) (2011年度就任教員は、前任校での担当科目についてもご記入願います。)

なし

【教育業績】 (2011年度就任教員は、前任校での教育業績についてもご記入願います。)

教育実践上の主な業績	年月日	備 考
1. 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 記載事項なし		
2. 作成した教科書、教材、参考書 記載事項なし		
3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 記載事項なし		
4. その他教育活動上特記すべき事項 落語研究会顧問		

II 研究活動（5カ年〈2010年度、2009年度、2008年度、2007年度、2006年度〉の活動についてご記入願います。）

著書・論文等の名称	著書・共著の別	発行または発表年月	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数	査読の有無
【著書】						
記載事項なし						
【論文】						
音の大きさの記憶に関する一実験－連続判断中に生じた特定音源の大きさの記憶による判断－	共著	2007年3月	追手門学院大学心理学部紀要1巻	◎加藤 徹、桑野園子、難波精一郎、津田智行	47-55 頁	無
音の大きさの記憶に関する一実験(2)－特定音源のレベルを下げた遂行した追試の結果－	共著	2008年3月	追手門学院大学心理学部紀要2巻	◎加藤 徹、桑野園子、難波精一郎	17-24 頁	無
カテゴリー連続判断法の特性の検討－レベル変化音の規則性の相違による比較－	共著	2009年3月	追手門学院大学心理学部紀要3巻	◎加藤 徹、桑野園子、難波精一郎	45-56 頁	無
変動音の大きさ予測をめぐって－ラウドネスモデルの適用可能性の検討	共著	2009年3月	追手門学院大学心理学部紀要4巻	◎加藤 徹、桑野園子、難波精一郎	63-71 頁	無
【その他】						
連続判断法と聴覚的トラッキング		2006年6月	日本人間工学会第47回大会シンポジウム「音環境と人間工学」発表	加藤 徹		
連続判断中に生じた特定音源の大きさの記憶による判断		2006年9月	日本音響学会2006年秋季研究発表会	加藤 徹、桑野園子、難波精一郎、津田智行		
音楽演奏音のラウドネスの評価指標		2009年5月	日本音楽知覚認知学会2009年春季研究発表会	羽藤 律、加藤 徹、桑野園子、難波精一郎		

音楽演奏音のラウドネス評価指標の比較	2009年9月	日本音響学会2009年秋季研究発表会	羽藤 律, 加藤 徹, 桑野園子, 難波精一郎		
有意味音の適意レベルーレベル変動音のラウドネス評価	2010年5月	日本音楽知覚認知学会2010年春季研究発表会	難波精一郎, 加藤 徹, 桑野園子		
音楽演奏音の大きさに影響を及ぼす物理的要因について	2010年5月	日本音楽知覚認知学会2010年春季研究発表会	羽藤 律, 加藤 徹, 桑野園子, 難波精一郎		
Calculation of loudness Level of time-varying sound	2010年6月	国際騒音制御工学会、Lisbon	桑野園子, 難波精一郎, 加藤 徹		
Comparison of indices for the subjective evaluation of the loudness of musical sounds.	2010年8月	国際音楽知覚・認知学会、Seattle	羽藤 律, 加藤 徹, 桑野園子, 難波精一郎		
【学会における主な活動】					
記載事項なし					
【その他研究活動上特記すべき事項】		年月日	備	考	
記載事項なし					

Ⅲ社会活動（3カ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）

社会における活動	年月日	備	考
記載事項なし			

2011年度 教員活動評価調査票（記入用紙）

加藤 徹 4/4

IV大学運営活動（3ヵ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）（2011年度就任教員は、2011年度の本学での学内職務及び大学業務をご記入願います。）

大学運営における活動	年月日	備 考
【学内職務】		
心理学部紀要編集委員	2008,2009年度	
心理学部図書館委員	2010年度から	
【大学業務】		
オープンキャンパス		心理学科では毎年スケジュールにより担当
指定校訪問		心理学科ではスケジュールにより担当

2011年度 教員活動評価調査票 (記入用紙)

金政 祐司 1/6

所属	心理学部 心理学科	職名	准教授	氏名	金政 祐司	学位	博士(人間科学)、大阪大学大学院、2007年10月
----	-----------	----	-----	----	-------	----	---------------------------

I 教育活動 (3カ年<2010年度、2009年度、2008年度>の活動についてご記入願います。)

【担当科目】 (2011年度就任教員は、2011年度の本学担当科目をご記入願います。)

1. 学部担当科目

新入生演習G 心理、人間関係の心理学A、ライフスタイル演習2E、社会心理学演習、ビジネスリサーチ演習A-C、対人行動論、特殊演習2L、社会心理学特講、社会心理学講読、卒業研究1R、卒業研究2R

2. 大学院担当科目

社会 環境 犯罪心理学コース演習IA、社会 環境 犯罪心理学コース演習II、対人行動学特論、上級対人行動学演習

3. 非常勤等担当科目(括弧内に大学名を記入してください) (2011年度就任教員は、前任校での担当科目についてもご記入願います。)

同志社女子大学大学院 非常勤講師 (担当科目: 社会心理学特講 I)、大阪人間科学大学 非常勤講師 (担当科目: 心理学演習 II、対人行動論)

【教育業績】 (2011年度就任教員は、前任校での教育業績についてもご記入願います。)

教育実践上の主な業績	年月日	備 考
1. 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) ・書き込み式レジュメの使用	2006年より	毎講義、B4サイズの裏表を使用した書き込み式の授業資料を用意し、現在何に関する授業が展開されているのか、視覚的、聴覚的にわかりやすく学生の理解を促すように努めている。この書き込み式レジュメを使用することで無駄な板書を省くことができ、学生が授業に集中しやすくテンポ良く授業を進めることが可能となる。

<p>・ディスカッションによる思考力とコミュニケーション力の向上</p>	<p>2008年より</p>	<p>ゼミやFA演習などの少人数制の科目では、個人の興味や関心を社会へと繋げていける（学生が就職活動などで社会と深く関わっていく際の動機づけを促す）ような教育の実践を試みている。たとえば、学生が自ら能動的に思考することを促進させるためのトレーニングとして、日常的な問題や疑問について、学生同士で話し合う機会を提供している。</p>
<p>2. 作成した教科書、教材、参考書 「わたしから社会へ広がる心理学」（編者：金政祐司・石盛真徳）</p>	<p>2006年10月</p>	<p>「わたしから社会へ広がる心理学」（編者：金政祐司・石盛真徳）で編者および第2章「わたしが他者を見る時、他者と関わる時」（Pp.37-61）を担当。</p>
<p>「よくわかる心理学」（編著者：無藤隆・森敏昭・池上知子・福丸由佳）</p>	<p>2009年2月</p>	<p>VI 対人関係 1 対人魅力を決めるもの-類似説と相補説 2 自尊心と感情の関係 3 愛とは何か？-愛の三角理論と恋愛の色彩理論 4 愛や恋愛の個人差-成人の愛着理論 5 人が心を開くとき-自己開示、Pp.102-111を担当。</p>
<p>「健康と暮らしに役立つ心理学」（編者：金政祐司・大竹恵子）</p>	<p>2009年4月</p>	<p>「健康と暮らしに役立つ心理学」（編者：金政祐司・大竹恵子）で編者および第6章「ひとと人をつなぐ絆」（pp.70-82.）を担当。</p>
<p>「社会・発達からみる人間関係」（編著者：西垣悦代）</p>	<p>2009年4月</p>	<p>第六章 親密な人間関係（Pp.96-115）を担当。</p>
<p>3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 特記事項なし</p>		
<p>4. その他教育活動上特記すべき事項 特記事項なし</p>		

II 研究活動（5カ年〈2010年度、2009年度、2008年度、2007年度、2006年度〉の活動についてご記入願います。）

著書・論文等の名称	著書・共著の別	発行または発表年月	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数	査読の有無
【著書】						
「わたしから社会へ広がる心理学」	共著	2006年10月	北樹出版	（編著者：金政祐司・石盛真徳）	編集と第2章 「わたしが他者を見る時、他者と関わる時」 （Pp.37-61）	
「自己心理学 6 社会心理学へのアプローチ」	共著	2008年2月	金子書房	（編著者：下斗米淳）	第2章「わたしが他者を見る時、他者と関わる時」 （Pp.37-61）	
「よくわかる心理学」	共著	2009年2月	ミネルバ書房	（編著者：無藤隆・森敏昭・池上知子・福丸由佳）	VI 対人関係 1～5 （Pp.102-111）	
「健康と暮らしに役立つ心理学」	共著	2009年4月	北樹出版	（編著者：金政祐司・大竹恵子）	編集と第六章・ひとと人とをつなぐ絆 （pp.70-82.）	
「社会・発達からみる人間関係」	共著	2009年4月	北大路書房	（編著者：西垣悦代）	第六章・親密な人間関係 （pp.96-115.）	

「社会心理学事典」	共著	2009年6月	丸善株式会社	(日本社会心理学会〔編〕)	5. 親密な対人関係 恋愛の類型論 (Pp.192-193)	
「史上最強図解 よくわかる恋愛心理学」	共著	2010年7月	ナツメ社	(著者：金政祐司、相馬敏彦、谷口淳一)	担当部分は執筆者がトピック毎に異なるため明確にすることは困難。	
朝倉実践心理学講座8 対人関係と恋愛・友情の心理学	共著	2010年10月	朝倉書店	(編著者：松井豊)	第4章. 恋愛のかたち (Pp.41-61)	
社会化の心理学/ハンドブック	共著	2010年11月	川島書店	(編著者：菊池章夫・二宮克美・堀毛一也・斎藤耕三)	8.非婚の時代：結婚への社会化 (Pp.109-124)	
【論文】						
恋愛関係の排他性に及ぼす青年期の愛着スタイルの影響について	単著	2006年11月	社会心理学研究 第22巻第2号		Pp.139-154	有
青年期の愛着スタイルと友人関係における適応性との関連	単著	2007年3月	社会心理学研究 第22巻第3号		Pp.274-284	有
青年・成人期の愛着スタイルが親密な対人関係および適応性に及ぼす影響	単著	2007年10月	大阪大学大学院 博士論文		292頁	有
青年・成人期の愛着スタイルの世代間伝達—愛着は繰り返されるのか?—	単著	2007年11月	心理学研究 第78巻第4号		Pp.398-406	有

2011年度 教員活動評価調査票（記入用紙）

金政 祐司 5/6

青年期の母-子ども関係と恋愛関係の共通性の検討：青年期の2つの愛着関係における悲しき予言の自己成就	単著	2009年8月	社会心理学研究 第25巻第1号		Pp.11-20	有
中年期の夫婦関係において成人の愛着スタイルが関係内での感情経験ならびに関係への評価に及ぼす影響	単著	2010年11月	パーソナリティ研究 19巻2号		Pp.134-145	有
【その他】						
翻訳						
「成人のアタッチメント：理論・研究・臨床」	共訳	2008年3月	北大路書房	(監訳者：遠藤利彦・谷口弘一・ <u>金政祐司</u> ・串崎真志)	監訳と第14章 不安のアタッチメントと抑うつ 症状—対人関係の展望の訳、担当部分	Pp. 367-394
【学会における主な活動】						
2006年10月～2008年10月	日本パーソナリティ心理学会編集委員					
2008年10月～現在に至る	日本パーソナリティ心理学会常任編集委員					
2011年4月～現在に至る	日本心理学会地方別代議員（近畿）					
	所属学会—日本社会心理学会、日本グループ・ダイナミックス学会、Asian Association of Social Psychology、日本心理学会、日本感情心理学会、日本パーソナリティ心理学会、日本健康心理学会、日本発達心理学会					
【その他研究活動上特記すべき事項】				年月日	備 考	
科学研究費補助金 若手研究（B） 課題番号 19730391				2007年4月～2010年3月	研究代表者	
学術研究助成基金助成金 基盤研究（C） 課題番号 23530838				2011年4月～現在に至る	研究代表者	

Ⅲ社会活動（3カ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）

社会における活動	年月日	備 考
「RCC ラジオ ホリデースペシャル チョコッと恋しいバレンタイン」 「男の気持ち・女の気持ち」コーナーに出演	2008年2月	
「爆笑問題のニッポンの教養」 FILE153：「恋愛必勝法おしえます」に出演	2011年7月	

Ⅳ大学運営活動（3カ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）（2011年度就任教員は、2011年度の本学での学内職務及び大学業務をご記入願います。）

大学運営における活動	年月日	備 考
【学内職務】 総合情報教育センター運営委員	2011年4月～	
【大学業務】 出張講義	2011年7月	
2011年度オープンキャンパス4回参加予定		
おうてもん塾10月講演予定		

2011年度 教員活動評価調査票 (記入用紙)

河崎 美保 1/4

所属	心理学部 心理学科	職名	専任講師	氏名	河崎 美保	学位	博士(教育学)
----	-----------	----	------	----	-------	----	---------

I 教育活動 (3カ年<2010年度、2009年度、2008年度>の活動についてご記入願います。)

【担当科目】 (2011年度就任教員は、2011年度の本学担当科目をご記入願います。)

1. 学部担当科目

生涯発達・生涯教育心理学入門、教育心理学 A、生涯教育心理学特講、実験心理学演習、生涯教育心理学演習 2、チャイルドサポート演習 A、特殊演習 2C、特殊演習 1C、プレゼンテーション法、新入生演習 B、ライフスタイル演習 1E

2. 大学院担当科目

臨床発達心理実習

3. 非常勤等担当科目(括弧内に大学名を記入してください) (2011年度就任教員は、前任校での担当科目についてもご記入願います。)

教育心理学(関西大学), 教育心理学(京都教育大学)

【教育業績】 (2011年度就任教員は、前任校での教育業績についてもご記入願います。)

教育実践上の主な業績	年月日	備 考
1. 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
①視聴覚教材を使った授業 レジュメとの対応関係が明確に構成されたパワーポイントや問題意識を喚起するために効果的なビデオ教材を使用している。		
②連続性・双方向性をもった授業感想用紙 受講生が過去の講義を振り返りながら学習を進め、また教員との双方向性を感じられるように、半期を通じて感想・疑問を記入できるシートを使用し、毎回、回収しコメントを書くなどして返却している。		
③グループ活動 他の受講生からの学びや、自ら考える機会を持たせるために、4人前後のグループで取り組む課題を実施している。		

<p>④学生による授業評価:2010 年度秋学期に担当した「教育心理学」に対する授業アンケートにおいて、おおむねよい評価を得た。初学者にも読みやすく理解しやすいよう教育心理学の重要な研究例をそれぞれ A41 枚にまとめた教材を作成し、受講生自身が読み考察する機会を設け、グループでの話し合いを組み合わせるなどした。これに対する肯定的な評価として、「視聴覚機器がうまく利用されていた」、「内容が新鮮で興味深いものであった」の項目に5点満点中それぞれ平均4.71, 4.67の評価を得た。</p>		
<p>2. 作成した教科書、教材、参考書 「ワードマップ・認知的個性」(松村暢隆 編)を分担執筆した。認知的個性とは、個人のもつ多様な認知的特徴を、発達や健康の標準からの逸脱・病理としてのみ捉えるのではなく、個性の表れとして捉え直す概念である。これらは、才能教育・個性化教育を含む通常教育、発達障害に関わる特別支援教育・精神医学等で個別に処遇されてきたが、本書は、これら各々に関する基礎的研究と、各分野での意義、教育的実践について、解説・論考するものであり、「教育心理学」や「発達心理学」を学ぶための教材として適していると考えられる</p>	2010年4月	
<p>3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等</p>		
<p>4. その他教育活動上特記すべき事項</p>		

2011年度 教員活動評価調査票（記入用紙）

河崎 美保 3/4

Ⅱ 研究活動（5カ年〈2010年度、2009年度、2008年度、2007年度、2006年度〉の活動についてご記入願います。）

著書・論文等の名称	著書・共著の別	発行または発表年月	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数	査読の有無
【著書】						
学力を育てる授業研究	共著	2008年10月	三学出版	赤井 悟（監修）・大阪府寝屋川市立田井小学校研修委員会（編著）	213～217頁	
ワードマップ・認知的個性—教育的支援に生かす—	共著	2010年4月	新曜社	松村暢隆（編著）	93～103頁	
【論文】						
算数授業における能動的聴取と多様な解法からの学び	単著	2008年3月	京都大学大学院教育学研究科紀要（第54号）		270～281頁	無
誤解法聴取による正解法理解促進効果：小学5年生の算数授業場面における検討	単著	2010年3月	発達心理学研究（第21巻，第1号）		12～22頁	有
算数文章題の解法学習に対する複数解法説明活動の効果：混み具合比較課題を用いて	共著	2011年3月	教育心理学研究（第59巻，第1号）	河崎美保・白水 始	13～26頁	有
【その他】						
他の子どもの考えの発表が学びのリソースになる（特集：他者と学ぶ、他者に学ぶ）	単著	2011年1月	『発達』第125号，ミネルヴァ書房		41～47頁	
【学会における主な活動】						

【その他研究活動上特記すべき事項】	年月日	備 考
科学研究費助成 若手研究(スタートアップ)(2009年度～2010年度)「研究課題:算数の複数解法の協調的吟味に関する実証的研究」(研究代表者)	2009年4月～2011年3月	

Ⅲ社会活動（3ヵ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）

社会における活動	年月日	備 考
京都市小学校教育心理研究会水曜講座「教室での学び合いのルールと文化づくり」講師	2010年11月17日	

Ⅳ大学運営活動（3ヵ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）（2011年度就任教員は、2011年度の本学での学内職務及び大学業務をご記入願います。）

大学運営における活動	年月日	備 考
【学内職務】		
【大学業務】		
出張授業(大阪府立桜塚高等学校)	2010年7月12日	
本学キャンパス見学ツアーでの模擬授業(京都翔英高等学校)	2010年10月1日	
出張授業(兵庫県立 伊丹高等学校)	2010年12月20日	
平成22年度追手門学院大学教育開発奨励制度報告書 『心理学基礎力(行動知)の養成』(分担執筆)	2011年3月31日	

2011年度 教員活動評価調査票 (記入用紙)

倉戸 由紀子 1/9

所属	心理学部 心理学科	職名	教授	氏名	倉戸 由紀子	学位	Master of Education (Springfield College) 1974/5 月 取得
----	-----------	----	----	----	--------	----	--

I 教育活動 (3カ年<2010年度、2009年度、2008年度>の活動についてご記入願います。)

【担当科目】 (2011年度就任教員は、2011年度の本科担当科目をご記入願います。)

1. 学部担当科目 人間関係の心理学 B、臨床心理学面接講読1、臨床心理学面接演習1A、心理療法、心理療法演習1A、卒業研究1,2、特殊演習1F,2F、 ライフスタイル演習1A、メンタルケア演習、卒業論文
2. 大学院担当科目 臨床心理面接特論1、2、臨床心理研究法特論1、2、臨床心理学研究法演習Ⅱ1、Ⅱ2、学校臨床心理学特論、臨床心理学コース演習1A、2A、 臨床心理実習
3. 非常勤等担当科目(括弧内に大学名を記入してください) (2011年度就任教員は、前任校での担当科目についてもご記入願います。)

【教育業績】 (2011年度就任教員は、前任校での教育業績についてもご記入願います。)

教育実践上の主な業績	年月日	備 考
1. 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) グリーフ・ケア・ワーク:心理臨床学の立場からの構築	2009年9月～現在	大惨事などの外傷性ストレスの心理臨床的援助方法(おもにゲシュタルト療法)を被害者や研修者を実施し、さらにその援助方法を構築する。 (グリーフ・ケア演習:上智大学グリーフケア研究所客員研究員として)
2. 作成した教科書、教材、参考書 ①「心理療法」の教材を改訂	2008年4月	「心理療法」は基礎的な理論のほかに受講生の学習動機を高めるために卒後の進路先のリストや職業倫理、クイズなどが織り込まれている。改訂版には心理療法家の自己点検を付加する。

② 「人間関係の心理学」の教材を改訂	2008年4月	人間関係の心理学」では、心理臨床の立場から現代社会の人間関係の歪みをビデオ教材などを駆逐しながら1回生用に分かりやすく編集している。さらに被虐待・虐待についてのパワーポイントを付加する。
③ 大学院「臨床心理学面接特論」	2009年4月	「ゲシュタルト療法」および危機介入「大惨事の心のケア」についてのパワーポイントを作成(教材)
④ 「看護管理職のためのメンタルケアと健康管理」	2010年10月	看護管理職のためのメンタルケアのための体験学習とアセスメントを作成。さらに健康管理のための関わり方の提案などをパワーポイントの教材として作成(教材)
3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 困難な学生への対応の仕方	① 2008年6月30日 ② 2008年10月17日	全入時代の大学現場にて中途退学者や対応に困る学生が増加している。まず、学生相談の立場から教職員に対してコラボレーションの仕方について講演と体験学習を提案する (聖トマス大学教職員研修)
講演:「困っている学生への対応について」	2009年10月	看護大学における中途退学者や適応困難をきたしている学生への対応の仕方を講演すると同時に教員自身の教育力獲得のモチベーションを高めるためにエンパワーメントを狙いとする体験学習を提案 (大阪府看護協会)

講演:「看護管理職のためのメンタルケアと健康管理」	2010年10月	大阪看護協会主催の病院看護管理職を対象にしたメンタルサポートとメンタルケアについてどのように部下に関わったらいいかをの講演。心理臨床的体験学習と心理臨床を基盤にしたメンタルケアとストレスコーピングのアセスメントを作成してメンタルサポートの方法について提案する。
講演:悲嘆・エゴバウンダリー・再生—心理臨床の現場から	2010年6月18日	ゲシュタルト療法を基にした悲嘆の研究とケースを元に悲嘆のメカニズムを解明した。 上智大学グリーンケア研究所主催
4. その他教育活動上特記すべき事項		
1) 大学院生への修士論文指導	2008年～現在	「臨床心理学コース演習1A,2A」において各年度に3名の修士論文指導を実施する。
2) 大学院生への実習指導	2008年～現在	大学院「臨床心理実習」において院生の実習先である精神病院(さわ病院、垂水病院)へ出向き、より効果的で実習生の適性に合致した実習指導の方法を現場の臨床心理士とともに構築する。
3) 大学院生へのスーパービジョン	2008年～現在	院ゼミ生の他大学学生相談室にて関わった事例の理解の仕方及び関わり方を個人的にスーパーバイズする。各年度によって多少の違いがあるが平均2～3名を週1回60分～90分、年間20回～30回実施した。
4) 留学生支援	2008年11月 および2009年5月	交換留学生対象に英語にて日本の大学生の現状を問題提起し討議をする。

Ⅱ 研究活動（5カ年〈2010年度、2009年度、2008年度、2007年度、2006年度〉の活動についてご記入願います。）

著書・論文等の名称	著書・共著の別	発行または発表年月	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数	査読の有無
【著書】						
【論文】						
「心理臨床における高度専門職養成課程モデル構築への試案1」	単著	2006年6月	追手門学院大学地域支援心理研究センター、追手門学院大学「心のクリニック」紀要創刊号		35～38頁	
“A Study Of A Community Support Project For Child Rearing”	単著	2006年6月	追手門学院大学人間学部紀要第18号		2～8頁	
「大学生へのヒューマニスティック・エデュケーションの意義と可能性—心理臨床の立場から」	単著	2006年4月	追手門学院大学地域支援心理研究センター、追手門学院大学「心のクリニック」研究紀要第2号		57～72頁	
“A Community Support Project For Child Rearing in Japan-In Case of Pre-Kindergarten Children”	単著	2006年12月	追手門学院大学地域支援心理研究センター、追手門学院大学「心のクリニック」研究紀要第2号		17～21頁	
“A Study on The Meaning And Feasibility Of Humanistic Education For College Student: An Approach From Counseling ”	単著	2007年6月	追手門学院大学心理学部紀要第1号		96～99頁	

発達の偏りや遅れが疑われる乳幼児の心理臨床－集団遊戯療法と母親/養育者グループ	単著	2007年12月	追手門学院大学地域支援心理研究センター、追手門学院大学「心のクリニック」研究紀要第3号		20～32頁	
発達の偏りや遅れが疑われる乳幼児の心理臨床的援助についての評価モデル試案－母親/養育者と子どもとの並行グループの場合	単著	2007年12月	The 12 th International Counseling Conference Promoting Global Advocacy for Counseling: Enhancing Client Development and Opportunities		79～84頁	
臨床心理職養成課程モデル構築への試案	単著	2007年12月	追手門学院大学地域支援心理研究センター、追手門学院大学「心のクリニック」研究紀要第4号		116～127頁	
臨床心理学的地域援助について:ある大学でのコラボレーションの例	単著	2008年12月	追手門学院大学地域支援心理研究センター、追手門学院大学「心のクリニック」研究紀要第4号		58～67頁	
Hypothetical Model of Training for Higher Professionals in Psychotherapy – A View from Humanistic Education with a Gestalt Approach	単著	2008年12月	追手門学院大学「心のクリニック」研究紀要4号		70～76頁	

心理臨床における高度専門職養成 課程モデル構築への試案	単著	2009年3月	追手門学院大学地域支援心理 研究センター、追手門学院大学 「心のクリニック」研究紀要第5 号		155～182頁	
The Reports of Community Support Project for Child Rearing	単著	2009年3月	追手門学院大学地域支援心理 研究センター、追手門学院大学 「心のクリニック」研究紀要第5 号		183～197頁	
発達の偏りや遅れが疑われる乳幼 児の心理臨床	単著	2009年3月	追手門学院大学地域支援心理 研究センター、地域社会との連 携による心理的問題について の解決及び援助の方法の開発 平成16～20年度「私立大学学 術研究高度化推進事業」研究 成果報告書		199～224頁	
“悲嘆の作業”の心理臨床について	単著	2009年12月	追手門学院大学「心のクリニッ ク」紀要第6号 追手門学院大学 地域支援心理研究センター		11～20頁	
性暴力サイバーによる悲嘆のワーク ーゲシュタルト崩壊から統合へー	単著	2010年12月	追手門学院大学「心のクリニッ ク」紀要第7号 追手門学院大学 地域支援心理研究センター		14～23頁	
【その他】						
【翻訳】						
ゲシュタルト療法バーベイティム	共同翻 訳	2009年6月	第2部第4章～第5章 ナカニ シヤ出版	F.S.Pearls 著 倉戸ヨシヤ監訳	87～115頁	

【学会口頭発表】						
Poster session “A Study of A Community Support Project for Child Rearing In Japan- In Case of Pre-Kindergarten Children”	単独	2006年6月	The 5th Hawaii International Conference on Social Sciences, Wikiki Beach Marriott Resort & Spa, Honolulu, Hawaii			
Presentation “A Study on The Meaning And Feasibility of Humanistic Education for College Student: An Approach From Counseling”	単独	2007年6月	The 12th International Counseling Conference, Hilton Hotel, Shanghai, China			
Poster session “Introducing A Group Approach To Graduate Student: Its Impact and Implications”	単独	2007年6月	The 6th Hawaii International Conference on Social Sciences, Wikiki Beach Marriott Resort & Spa, Honolulu, Hawaii			
Presentation Session “What mothers can do for prevention of child abuse: A Community Support Project in a Suburban City”	単独	2008年5月	The 7th Hawaii International Conference on Social Sciences, Wikiki Beach Marriott Resort & Spa, Honolulu, Hawaii			
Presentation Session “A Clinical Community Support Through the Collaboration With University Staff”	単独	2009年6月	The 8th Hawaii International Conference on Social Sciences, Wikiki Beach Marriott Resort & Spa, Honolulu, Hawaii			

(第1発表者)エンプティチエアによる介入法をめぐって1	共同	2009年8月	日本人間性心理学会第28回大会、法政大学多摩キャンパス			
A Case Study On Grief Work: An Explosion of Anger for the First Time In 30 Years Since the Death of Her Husband,	単独	2010年6月	The 9 th Hawaii International Conference on Social Sciences ,Hilton Waikiki Kuhio Hotel in Honolulu, Hawaii			
ゲシュタルト療法によるアプローチ「-悲嘆」の作業についての考察	単独	2010年9月	日本人間性心理学会第29回大会 於、熊本大学			
自主シンポジウム指定討論者 ゲシュタルト療法の実践と課題	単独	2010年9月	日本心理臨床学会第29回大会 於、東北大学川内萩ホール			
学会企画シンポジウム 話題提供者 ゲシュタルト療法に魅せられて	単独	2010年12月	日本臨床ゲシュタルト療法学会第1回大会、於、追手門学院大手前センター			
【学会における主な活動】						
2006年9月	わが国におけるゲシュタルト心理臨床の実際 日本心理臨床学会第25回大会 関西大学					
2006年9月	自主シンポジウム:臨床心理職養成課程モデル構築への試案-現状を踏まえて 日本心理臨床学会第25回大会、関西大学					
2008年9月	エンプティチエアの心理臨床 日本心理臨床学会第27回大会ワークショップ 筑波大学					
【その他研究活動上特記すべき事項】				年月日	備	考

Ⅲ社会活動（3カ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）

社会における活動	年月日	備 考
豊中市子ども未来部子育て支援課「次世代育成支援対策協議会」副委員長	2008年4月～現在	
豊中市教育委員会地域支援課 放課後子どもクラブ運営委員会委員	2008年4月～現在	
豊中市教育委員会地域教育振興課放課後子どもプラン運営委員会委員	2008年4月～現在	
聖トマス大学 学生相談室 非常勤臨床心理士	2008年4月～現在	
法務局西日本入国管理センター非常勤臨床心理士	2008年4月～現在	
上智大学グリーンケア研究所客員研究員	2009年4月～現在	

Ⅳ大学運営活動（3カ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）（2011年度就任教員は、2011年度の本学での学内職務及び大学業務をご記入願います。）

大学運営における活動	年月日	備 考
【学内職務】 「本人の申し出により非公表とした。」		
【大学業務】 「本人の申し出により非公表とした。」		

所属	心理学部 心理学科	職名	教授	氏名	佐々木 英一	学位	博士(教育学)、名古屋大学、1996年1月取得
----	-----------	----	----	----	--------	----	-------------------------

I 教育活動 (3カ年<2010年度、2009年度、2008年度>の活動についてご記入願います。)

【担当科目】 (2011年度就任教員は、2011年度の本学担当科目をご記入願います。)

1. 学部担当科目

現代の子どもと教育 2、生徒指導論、比較教育学、社会教育計画、職業指導論、商業科教育論2、教職総合演習2、教育実習事前指導、介護等体験

2. 大学院担当科目

3. 非常勤等担当科目(括弧内に大学名を記入してください) (2011年度就任教員は、前任校での担当科目についてもご記入願います。)

職業指導(大阪工業大学)

【教育業績】 (2011年度就任教員は、前任校での教育業績についてもご記入願います。)

教育実践上の主な業績	年月日	備 考
1. 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 教材の選定につき、学生の学校生活での自己の体験に基づけるような事実留意している。	2009年、2010年	
2. 作成した教科書、教材、参考書 『教育課程のフロンティア』(共著、晃洋書房)	2010年	
『ノンキャリア教育としての職業指導』(学文社)	2009年	
3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
4. その他教育活動上特記すべき事項		

Ⅱ 研究活動（5カ年〈2010年度、2009年度、2008年度、2007年度、2006年度〉の活動についてご記入願います。）

著書・論文等の名称	著書・共著の別	発行または発表年月	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数	査読の有無
【著書】						
新版・専門高校の国際比較	共編著	2006年4月	法律文化社	堀内達夫、佐々木英一、伊藤一雄	105-115、 127-136	
熟練工養成の国際比較	共編著	2007年9月	ミネルヴァ書房	平沼高、佐々木英一、田中萬年	145～169	
ノンキャリア教育としての職業指導	共編著	2009年3月	学文社	斉藤武雄、佐々木英一、田中喜美	1～21	
【論文】						
ドイツ職業教育法の改正	単著	2007年3月	追手門学院大学心理学部紀要（1号）		43～49頁	無
オーストリアにおける職業教育・訓練の現況と特徴	単著	2007年3月	技術教育研究（第66号）		24～29頁	有
転換期のドイツデュアルシステム	単著	2008年3月	追手門学院大学教職課程年報（第16号）		33～45頁	無
ドイツにおける職業教育・訓練の構造転換	単著	2010年3月	追手門学院大学心理学部紀要（4号）		73～106頁	無
若年者雇用対策に関する国際比較研究	単著	2010年5月	社会保険労務士総合研究機構報告書		1～23頁	有
【その他】						

【学会における主な活動】		
2007年10月～	日本産業教育学会理事	
2010年10月～	日本産業教育学会学会賞審査委員長	
2008年9月	Die deutsche Gesellschaft fuer Technische Bildung にて学会発表	
【その他研究活動上特記すべき事項】	年月日	備 考
日本産業教育学会学会賞受賞	2006年10月	受賞著作『ドイツ・デュアルシステムの新展開』
ドイツ Muenster 大学にて博士論文審査委員	2009年2月	
科学研究費基盤研究C	2007年～2009年	

Ⅲ社会活動（3ヵ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）

社会における活動	年月日	備 考
全国社会保険労務士連合会総合研究機構主任研究員	2008年2月～	

Ⅳ大学運営活動（3ヵ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）（2011年度就任教員は、2011年度の本学での学内職務及び大学業務をご記入願います。）

大学運営における活動	年月日	備 考
【学内職務】 総合情報教育センター委員	2009年～2010年	
【大学業務】		

2011年度 教員活動評価調査票 (記入用紙)

瀧端 真理子 1/6

所属	心理学部 心理学科	職名	教授	氏名	瀧端 真理子	学位	修士(教育学)、京都大学、1994年3月
----	-----------	----	----	----	--------	----	----------------------

I 教育活動 (3カ年<2010年度、2009年度、2008年度>の活動についてご記入願います。)

【担当科目】 (2011年度就任教員は、2011年度の本学担当科目をご記入願います。)

1. 学部担当科目 くらしと文化 A・B、社会教育課題研究 I A・I B・II A・II B、社会教育概論 B、博物館学1、博物館学2、ボランティア論、博物館実習
2. 大学院担当科目 なし
3. 非常勤等担当科目(括弧内に大学名を記入してください) (2011年度就任教員は、前任校での担当科目についてもご記入願います。) 英書講読・教育文化学基礎演習(同志社大学)、博物館学(教育論)(大阪大学)、社会教育計画論(京都大学)

【教育業績】 (2011年度就任教員は、前任校での教育業績についてもご記入願います。)

教育実践上の主な業績	年月日	備 考
1. 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 見学実習(半日・1日<バスツアーの実施・引率>)	2008年5月24日、6月28日 2009年5月16日、7月4日 2010年5月29日、7月3日	兵庫県立考古博物館／茨木市立キリシタン遺物史料館 大阪府立弥生文化博物館・大阪府立近つ飛鳥博物館／京都府立総合資料館 京都府立総合資料館／岐阜県世界淡水魚園水族館
2. 作成した教科書、教材、参考書 学芸員課程年報 Musa23、24、25号の編集・発行	2009年3月、2010年3月、 2011年3月	次年度博物館実習生にも配布し、事前の参考資料として使用した
3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 「魅力ある初年次教育用テキストとは？—A Survival Guide for Art History Studentsをたたき台にして—	2009年3月	追手門学院大学教育研究所紀要 27号
4. その他教育活動上特記すべき事項		

Ⅱ 研究活動（5カ年〈2010年度、2009年度、2008年度、2007年度、2006年度〉の活動についてご記入願います。）

著書・論文等の名称	著書・共著の別	発行または発表年月	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数	査読の有無
【著書】						
ボランティアコーディネータ白書 07-09 版	共著	2008 年 2 月	大阪ボランティア協会出版部	特定非営利活動法人 日本ボランティアコーディネーター協会「ボランティアコーディネータ―白書 2007-2009 年版」編集委員会	82-87 頁	
新しい博物館学	共著	2008 年 3 月	芙蓉書房出版	全国大学博物館学講座協議会西日本部会	187-189 頁	
【論文】						
宮城県美術館普及部における教育普及活動の展開	単著	2006 年 4 月	全日本博物館学会『博物館学雑誌』第 31 巻第 2 号		101-130 頁	有
指定管理者制度の導入―公立ミュージアムのゆくえ―	単著	2006 年 5 月	至文堂『現代のエスプリ』466 号		120-131 頁	無
ミュージアム関連女性専門職のキャリア形成と課題	単著	2007 年 3 月	追手門学院大学ジェンダー教育研究会『21 世紀ジェンダー教育の構築:フィールドワークからの発信』追手門学院大学 2006 年度学内共同研究報告書		115-162 頁	無
横須賀美術館建設反対運動の主張と波及効果―自治体財政難と市民参加の観点から―	単著	2007 年 4 月	『博物館学雑誌』第 32 巻第 2 号		31-62 頁	有

博物館法改正の経緯と残された課題	単著	2008年9月	文化経済学会<日本>『文化経済学』第6巻第2号		111-116頁	無
魅力ある初年次教育用テキストとは？—A <i>Survival Guide for Art History Students</i> をたたき台にして—	単著	2009年3月	追手門学院大学教育研究所『追手門学院大学教育研究所紀要』第27号		127-135頁	無
公益法人制度改革が公立博物館にもたらす影響	単著	2010年3月	追手門学院大学心理学部『追手門学院大学心理学部紀要』第4巻		123-149頁	無
【その他】						
《どうなった？ 芦屋市立美術博物館—シンポジウム・レポート》「芦屋市立美術博物館の一年を振り返って」を聴いての走り書き	単著	2007年6月	あいだの会 月刊『あいだ』138号		5-7頁	有
教育委員会の機構改革・必置規定見直し動向を考える—文化財保護行政と博物館行政の現状と課題—	共著	2007年3月	追手門学院大学博物館研究室『Musa 博物館学芸員課程年報』第21号	福島正樹	15-36頁	無
新博物館法に向けてのブレンディング	共著	2007年3月	『Musa 博物館学芸員課程年報』第21号	水藤真、井上敏	37-62頁	無
芦屋市立美術博物館の現在と市民利用施設の未来	共著	2008年3月	『Musa 博物館学芸員課程年報』第22号	藤本隆	11-36頁	無
パネルディスカッション「新公益法人制度への移行と博物館」に参加して	単著	2009年2月	財団法人日本博物館協会『博物館研究』Vol.44 No.3		16-18頁	有
市立大町山岳博物館所蔵行政文書目録	共著	2009年3月	『追手門学院大学心理学部紀要』第3巻	宮野典夫	135-183頁	無

博物館のアウトプットと予算査定	共著	2010年3月	『Musa 博物館学芸員課程年報』第24号	岡本全勝、大嶋貴明、佐久間大輔	19-44頁	無
指定管理者制度と情報公開	共著	2011年3月	『Musa 博物館学芸員課程年報』第25号	田中孝男	17-84頁	無
特例民法法人から公益認定・移行認可を受けた博物館関連法人一覧	単著	2011年3月	『Musa 博物館学芸員課程年報』第25号		103-114頁	無
【学会における主な活動】						
2006年6月	「教育委員会の機構改革・必置規定見直し動向を考える」(コーディネーター) 日本社会教育学会六月集会ラウンドテーブル①(於 筑波大学)					
2006年9月	「横須賀美術館建設反対運動の主張と波及効果」日本社会教育学会第53回研究大会自由研究発表 (於 福島大学) 単独					
2006年9月	「新博物館法に向けてのブレインストーミング」(コーディネーター) 日本社会教育学会六月集会ラウンドテーブル②(於 コラッセふくしま)					
2007年6月	「芦屋市立美術博物館の現在と市民利用施設の未来」(コーディネーター) 日本社会教育学会六月集会ラウンドテーブル②(於 宇都宮大学)					
2007年9月	「長期地域変容が大町山岳博物館に与えた影響」日本社会教育学会第54回研究大会自由研究発表(於 東京農工大学) 単独					
2008年6月	「博物館のアウトプットと予算査定」(コーディネーター) 日本社会教育学会六月集会ラウンドテーブル①(於 日本社会事業大学)					
2008年9月	「行政文書を用いた大町山岳博物館研究—住民主導の博物館づくりとその後の展開—」日本社会教育学会第55回研究大会 (於 和歌山大学) 単独					
2009年9月	「公益法人制度改革と自治体出資法人—公立博物館の管理運営を巡って—」日本社会教育学会第56回研究大会自由研究発表 (於 大東文化大学) 単独					
2010年6月	「神戸市立須磨海浜水族園における指定管理者交代の経緯と課題」全日本博物館学会第36回研究大会 (於 明治大学) 共同					

2010年9月	「自治体財政の変動が公立博物館に及ぼす影響」日本社会教育学会第57回研究大会自由研究発表 (於神戸大学) 単独	
2010年9月	「指定管理者制度と情報公開」(コーディネーター) 日本社会教育学会第57回研究大会ラウンドテーブル③ (於神戸大学)	
【その他研究活動上特記すべき事項】	年月日	備 考
日本学術振興会科学研究費補助金(基盤研究 C)「研究課題:公立博物館の成立と存続に関する研究—市民との関係構築の視点から—」課題番号 17530597	2005年～2008年度	
クルマに依存しない郊外生活の可能性に関する研究(共同)『都市の魅力アップ方策の研究 研究成果報告書 クルマに依存しない郊外生活の可能性に関する研究 その4』(関西大学工学部建築学科 建築環境デザイン研究室「クルマに依存しない郊外生活研究会」研究代表者:岡絵理子)	2008年2月	箕面市からの受託研究
今後の学芸員養成と博物館学の方向性(単著)『神奈川大学 21世紀 COEプログラム「人類文化のための非文字資料の体系化」研究成果報告書 高度専門職学芸員の養成—大学院における養成プログラムの提言—』(「人類文化研究のための非文字資料の体系化」研究推進会議)	2008年3月	
日本学術振興会科学研究費補助金(基盤研究 C)「自治体財政難が公立博物館に及ぼす長期的影響に関する研究」課題番号 22530888	2010年～2012年度	

Ⅲ社会活動（3カ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）

社会における活動	年月日	備 考
茨木市立文化財資料館運営審議会委員長	2008年4月～現在	
茨木市環境審議会委員	2006年2月～現在	
大阪市立自然史博物館友の会読書サークル Books 世話人	2002年4月～現在	
滋賀県博物館協議会平成22年度第2回研修会講師	2011年2月	

Ⅳ大学運営活動（3カ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）（2011年度就任教員は、2011年度の本学での学内職務及び大学業務をご記入願います。）

大学運営における活動	年月日	備 考
【学内職務】		
心理学部 FD 推進委員	2008年4月～2009年3月	
心理学部キャリア開発部委員	2010年4月～現在	
【大学業務】		
金蘭会高等学校(出張授業)	2008年7月16日	
兵庫県立尼崎高等学校(出張授業)	2008年9月26日	
オープンキャンパス	2008年7月20日	資格取得に関する相談コーナー担当

2011年度 教員活動評価調査票 (記入用紙)

田中 耕二郎 1/3

所属	心理学部 心理学科	職名	教授	氏名	田中 耕二郎	学位	教育学修士
----	-----------	----	----	----	--------	----	-------

I 教育活動 (3カ年<2010年度、2009年度、2008年度>の活動についてご記入願います。)

【担当科目】 (2011年度就任教員は、2011年度の本学担当科目をご記入願います。)

1. 学部担当科目

現代の子どもと教育、教職概論、教育行政学、教育法学、教職総合演習、教職実践研究、教育実習、介護等体験、日本事情、オーストラリアを学ぶ、社会教育行政

2. 大学院担当科目

臨床心理関連行政論

3. 非常勤等担当科目(括弧内に大学名を記入してください) (2011年度就任教員は、前任校での担当科目についてもご記入願います。)

「本人の申し出により非公表とした。」

【教育業績】 (2011年度就任教員は、前任校での教育業績についてもご記入願います。)

教育実践上の主な業績	年月日	備 考
1. 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 大人数の授業(教育行政学)では毎回授業終了5分前に、授業内容についての感想・質問等を自由に記述させる用紙を配布し、次回の授業の改善に役立てている。		
2. 作成した教科書、教材、参考書 教職概論(ミネルヴァ書房)	2008年4月	井ノ口淳三教授と共編著
3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
4. その他教育活動上特記すべき事項 アメリカンフットボール部顧問 チアリーディング部顧問		

2011年度 教員活動評価調査票（記入用紙）

田中 耕二郎 2/3

II 研究活動（5カ年〈2010年度、2009年度、2008年度、2007年度、2006年度〉の活動についてご記入願います。）

著書・論文等の名称	著書・共著の別	発行または発表年月	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数	査読の有無
【著書】						
教職概論	共著	2008年4月	ミネルヴァ書房	田中耕二郎、井ノ口淳三	1～24頁	
【論文】						
2006年度教育実習のまとめ	単著	2007年3月	追手門学院大学教職課程年報、第15号		39～50頁	無
生徒指導の手段としての教育法的対応の意義と限界	単著	2007年3月	追手門学院大学教職課程年報、第15号		27～36頁	無
2007年度教育実習のまとめ	単著	2008年3月	追手門学院大学教職課程年報、第16号		47～56頁	無
2008年度教育実習のまとめ	単著	2009年3月	追手門学院大学教職課程年報、第17号		43～54頁	無
教員免許更新講習を担当して	単著	2010年3月	追手門学院大学教職課程年報、第18号		29～34頁	無
2009年度教育実習のまとめ	単著	2010年3月	追手門学院大学教職課程年報、第18号		55～68頁	無
2010年度教育実習のまとめ	単著	2011年3月	追手門学院大学教職課程年報、第19号		29～40頁	無
【その他】						

【学会における主な活動】		
【その他研究活動上特記すべき事項】	年月日	備 考
オーストラリア研究所共同研究代表者 「オーストラリアの高等教育の質的改善に関する調査研究」	2007年4月～2008年3月	
日豪交流基金「サー・ニール・カーリー・研究助成」	2008年4月	

Ⅲ社会活動（3ヵ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）

社会における活動	年月日	備 考
全国私立大学教職課程研究連絡協議会事務局長	2008年6月～2010年5月	
全国私立大学教職課程研究連絡協議会副会長代行	2010年6月～現在	
京都府私立中学高等学校保護者会連合会副会長	2010年6月～2011年5月	

Ⅳ大学運営活動（3ヵ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）（2011年度就任教員は、2011年度の本学での学内職務及び大学業務をご記入願います。）

大学運営における活動	年月日	備 考
【学内職務】		
資格課程主任		
教育実習運営委員長		
【大学業務】		
オーストラリア研究所員		

2011年度 教員活動評価調査票 (記入用紙)

田中 秀明 1/3

所属	心理学部 心理学科	職名	准教授	氏名	田中 秀明	学位	博士(人間科学)、早稲田大学、2003年3月取得
----	-----------	----	-----	----	-------	----	--------------------------

I 教育活動 (3カ年<2010年度、2009年度、2008年度>の活動についてご記入願います。)

【担当科目】 (2011年度就任教員は、2011年度の本学担当科目をご記入願います。)

1. 学部担当科目

認知神経心理学、認知神経心理学講読、生理心理学、心の科学、新入生演習、ライフスタイル演習 1・2、実験心理学演習、特殊演習 1、特殊演習 2、認知神経心理学演習、認知神経心理学特講、認知・脳科学入門、卒業研究 1・2、卒業論文

2. 大学院担当科目

神経生理学特論、臨床発達心理実習、生涯発達・生涯教育心理学コース演習 1・2、修士論文

3. 非常勤等担当科目(括弧内に大学名を記入してください) (2011年度就任教員は、前任校での担当科目についてもご記入願います。)

【教育業績】 (2011年度就任教員は、前任校での教育業績についてもご記入願います。)

教育実践上の主な業績	年月日	備 考
1. 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 認知神経心理学と生理心理学では、脳の模型、DVD、ビデオを活用した。資料は、単純で分かり易いものを使用して、脳と心の基本的なメカニズムが理解できるように工夫した。また、講義中の私語をなくすよう、独自のルールを設定した。	2008年4月1日から	
2. 作成した教科書、教材、参考書 田中秀明 2009 脳のメカニズムをふまえた学習法 藤本忠明・東正訓(編) ワークショップ大学生生活の心理学 ナカニシヤ出版 16-26.	2009年4月1日から	
3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
4. その他教育活動上特記すべき事項 新入生演習と卒業研究の学生のアカデミックアドバイザーとして、修学相談に応じた。	2008年4月1日から	

2011年度 教員活動評価調査票（記入用紙）

田中 秀明 2/3

Ⅱ 研究活動（5カ年〈2010年度、2009年度、2008年度、2007年度、2006年度〉の活動についてご記入願います。）

著書・論文等の名称	著書・共著の別	発行または発表年月	発行所、発表雑誌（及び巻・号数等の名称）	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数	査読の有無
【著書】						
ワークショップ大学生生活の心理学	共著	2009年3月	ナカニシヤ出版	藤本忠明・東正訓(編)	16～26頁	
【論文】						
継続的タイミングと随伴陰性変動	共著	2006年12月	生理心理学と精神生理学 (第24巻3号)	望月芳子・田中秀明・竹内成生・高澤則美・山崎勝男	219～226頁	有
エラー関連陰性電位によるエラー検出と注意資源の関係に関する検討	単著	2007年3月	追手門学院大学心理学部紀要 (第1巻)		137～157頁	無
Strategy of attentional resource allocation in error monitoring on associated error negativity: A dual task analysis	単著	2008年3月	追手門学院大学心理学部紀要 (第2巻)		25～35頁	無
Error positivity is related to attentional control of task-switching	単著	2009年6月	NeuroReport vol.20		820～824頁	有
課題切り替えにおける注意制御が刺激認知と運動抑制に与える効果	単著	2011年3月	追手門学院大学心理学部紀要 (第5巻)		35～43頁	無
【その他】						
【学会における主な活動】						
所属学会	日本生理心理学会、日本心理学会、日本臨床神経生理学会、日本認知心理学会、関西心理学会					

【その他研究活動上特記すべき事項】	年月日	備 考

Ⅲ社会活動（3カ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）

社会における活動	年月日	備 考
Tanaka, H., 2008 Error processing and attentional control: ERN/Ne and Pe in a task-switching paradigm. International Journal of Psychology. 43, 338. (The XXIX International Congress of Psychology, Berlin, Germany)	2008年7月20日から25日	ポスター発表を行った。

Ⅳ大学運営活動（3カ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）（2011年度就任教員は、2011年度の本学での学内職務及び大学業務をご記入願います。）

大学運営における活動	年月日	備 考
【学内職務】		
学生部委員、大学問題連絡協議会委員	2008年4月1日から2年間	
編入学生担当委員	2009年4月1日から2年間	
学部紀要編集委員	2010年4月1日から	
【大学業務】		
高校へ出張授業	2008年4月1日から	毎年5校程度は出張授業を実施している。
オープンキャンパス	2008年4月1日から	心理学科オープンキャンパス「コンピュータを使用した心理学実験」を担当している。

2011年度 教員活動評価調査票 (記入用紙)

辻 潔 1/3

所属	心理学部 心理学科	職名	准教授	氏名	辻 潔	学位	修士(文学)、金沢大学、平成元年 3月取得
----	-----------	----	-----	----	-----	----	-----------------------

I 教育活動 (3カ年<2010年度、2009年度、2008年度>の活動についてご記入願います。)

【担当科目】 (2011年度就任教員は、2011年度の本学担当科目をご記入願います。)

1. 学部担当科目 卒業研究1・2、新入生演習、特殊演習1、ライフスタイル演習2、心理検査法演習2、遊戯療法論、障害福祉心理学、臨床心理面接特講1、臨床心理技法講読、人間性の形成
2. 大学院担当科目 臨床心理基礎実習、臨床心理査定演習1、臨床心理学コース演習1・2、臨床心理学研究法演習 I 1・2、臨床心理学研究法特論1
3. 非常勤等担当科目(括弧内に大学名を記入してください) (2011年度就任教員は、前任校での担当科目についてもご記入願います。)

【教育業績】 (2011年度就任教員は、前任校での教育業績についてもご記入願います。)

教育実践上の主な業績	年月日	備 考
1. 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
2. 作成した教科書、教材、参考書		
3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 2008年度第2回心理学部FD談話会発表	2009年1月15日	
4. その他教育活動上特記すべき事項		

Ⅱ 研究活動（5カ年〈2010年度、2009年度、2008年度、2007年度、2006年度〉の活動についてご記入願います。）

著書・論文等の名称	著書・共著の別	発行または発表年月	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数	査読の有無
【著書】						
【論文】						
ロールシャッハ・テスト発達水準スコアと知的機能との関連について	単著	2006年12月	追手門学院大学心のクリニック 紀要 第3号		37～45頁	無
発達の偏りや遅れが疑われる子どもへの援助モデルの提示－臨床心理士養成指定大学院の中での実践－	単著	2007年12月	追手門学院大学心のクリニック 紀要 第4号		65～71頁	無
本学大学院臨床心理学コースの臨床心理基礎実習の実際	単著	2007年12月	追手門学院大学心のクリニック 紀要 第4号		91～94頁	無
本学心理学部における学生の成績評価について	単著	2009年3月	追手門学院大学心理学部 自己評価 第3号		19～25頁	無
心理臨床専門職養成のための教育方法に関する研究－子育てへの心理臨床的支援活動導入の試みとカウンセリング応答技法の訓練を中心に－	単著	2009年3月	私立大学学術研究高度化推進事業追手門学院大学地域支援心理研究センター研究成果報告書		257～271頁	無
【その他】						
日本心理臨床学会第25回大会 自主シンポジウム 臨床心理職養成課程モデル構築への試案－現状を踏まえて 話題提供者		2006年9月	於 関西大学			

【学会における主な活動】		
【その他研究活動上特記すべき事項】	年月日	備 考
2009年度大学院心理学研究科心理学専攻臨床心理学コース修士論文 神田浩伸「大学生における睡眠習慣と抑うつ感との関係についての臨床心理学的研究」の研究論文作成指導を行った。	2009年4月～2010年3月	

Ⅲ社会活動（3ヵ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）

社会における活動	年月日	備 考
(財)関西カウンセリングセンターにおいて、社会人向けに心理検査及びカウンセリングについて実習指導を行った。	2008年4月～現在	

Ⅳ大学運営活動（3ヵ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）（2011年度就任教員は、2011年度の本学での学内職務及び大学業務をご記入願います。）

大学運営における活動	年月日	備 考
【学内職務】		
カリキュラム改革委員	2008年4月～2011年3月	
心理学部紀要編集委員長	2008年4月～2010年3月	
学生相談室室長	2009年4月～現在	
国際交流教育センター委員	2010年4月～現在	
【大学業務】		
心理学部オープンキャンパス委員	2009・2010年度	
オープンキャンパス模擬授業担当	2010年度	
『学生相談室だより』執筆	2009・2010年度	
【その他大学運営活動上特記すべき事項】		
学習支援室ピアサポーター研修会講師	2009・2010年度	

2011年度 教員活動評価調査票 (記入用紙)

中鹿 彰 1/5

所属	心理学部 心理学科	職名	准教授	氏名	中鹿 彰	学位	教育学修士、京都大学、1981年 3月取得
----	-----------	----	-----	----	------	----	-----------------------

I 教育活動 (3カ年<2010年度、2009年度、2008年度>の活動についてご記入願います。)

【担当科目】 (2011年度就任教員は、2011年度の本学担当科目をご記入願います。)

1. 学部担当科目

臨床心理学基礎論, 発達障害論, 障害福祉心理学, 人間性の形成, 卒業研究, 特殊演習, ライフスタイル演習, 心理検査法演習, メンタルケア演習, 新入生演習, 現代社会と人権, 臨床心理査定特講

2. 大学院担当科目

障害者(児)心理学特論, 臨床心理基礎実習, 臨床心理査定演習, 臨床心理学コース演習, 臨床心理学研究法特論, 臨床心理学研究法演習

3. 非常勤等担当科目(括弧内に大学名を記入してください) (2011年度就任教員は、前任校での担当科目についてもご記入願います。)

【教育業績】 (2011年度就任教員は、前任校での教育業績についてもご記入願います。)

教育実践上の主な業績	年月日	備 考
1. 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 毎講義終了時に、その講義を通じて、その日のテーマについて考えたこと、授業への質問・意見・感想をレポートとして自由に書いてもらっている。全体での質問は難しくても、このレポートを通じて個別に学生は、分からないことや教員への要望も比較的自由にその都度表明できる。このレポートでは出席の確認、誤字・脱字などの指導、要望や質問へのフィードバックを行っており、同時に教員は毎回、講義のテーマに関する学生の達成度や反応を具体的につかむことができる。学生にとっては、記述力の向上、講義でのモチベーションの維持、復習などに役立てられる。また、このレポートでの教員とのやりとりを通じて自らの不安・悩みを支えられたという学生も見られた。講義および演習における教材や授業資料などの情報提供手段として、印刷物に加えてコンピュータ用プレゼンテーションソフト(パワーポイント)を活用しながら視覚的に提示し、学生の興味を引きながらより具体的に現象がとらえられるように配慮した授業活動を行った。	2008年度 2009年度 2010年度	

<p>2. 作成した教科書、教材、参考書 パワーポイントとして作成した資料を印刷して教材として配布しており、余白に各自で講義で聞いた内容を書くこむことで、話に集中できて効率よく授業を受けられることを目標としている。</p>	<p>2008 年度 2009 年度 2010 年度</p>	
<p>3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 心理学部 FD 懇話会において、ライフスタイル演習での取り組みについて発表する。</p>	<p>2010 年度</p>	
<p>4. その他教育活動上特記すべき事項 アカデミックアドバイザーとして、単位取得、学生生活について相談を特に新入生を対象に行う。 編入生担当として、3年へ編入した学生を対象に、授業の選び方、単位取得の方法等の相談にのる。 新入生演習のクラスに中国からの留学生が1人と、編入生に南京大学からの留学生が一人おり、カリキュラムについての説明、履修指導、日本での生活での相談にのる。</p>	<p>2008 年度 2009 年度 2010 年度</p>	

II 研究活動（5カ年〈2010年度、2009年度、2008年度、2007年度、2006年度〉の活動についてご記入願います。）

著書・論文等の名称	著書・共著の別	発行または発表年月	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数	査読の有無
<p>【著書】 京大心理臨床シリーズ 5 軽度発達障害児における社会適応と自己実現—情短施設での被虐待児との遊戯療法過程から—</p>	<p>共著</p>	<p>2007年3月</p>	<p>創元社</p>	<p>岡田康伸・河合俊雄・桑原知子（編）『心理臨床における個と集団』</p>	<p>451～465 頁</p>	<p></p>

【論文】						
新版K式発達検査 2001 の課題と有用性	単著	2006年12月	追手門学院大学心のクリニック 紀要第3号		28～32頁	無
発達障害と児童虐待	単著	2007年3月	追手門学院大学心理学部紀要 第1号		159～172頁	無
近年における境界線精神発達の重要性—学習障害を伴う児童との関わりから—	単著	2007年3月	追手門学院大学地域支援心理 研究センター紀要第3号		14～26頁	無
「家から遠い。」と作業所への通所をしぶった事例—広汎性発達障害を伴う中度精神遅滞の青年—	単著	2007年3月	京都市児童福祉センター紀要 第8号		35～40頁	無
生涯発達の視点から見た乳幼児期の支援のあり方—発達の遅れを伴う子どもへの関わり—	単著	2007年12月	追手門学院大学心のクリニック 紀要第4号		6～10頁	無
就学前における発達の遅れと偏りを伴う子どもへの心理臨床的支援—行動特徴と評価の実際—	単著	2007年12月	追手門学院大学心のクリニック 紀要第4号		72～78頁	無
就学前における軽度発達障害児への心理臨床的支援—生涯発達の視点から見た乳幼児期の支援のあり方—	単著	2009年3月	平成16年度～平成20年度「私立 大学学術研究高度化推進事業」 (オープン・リサーチ・センター —整備事業)研究成果報告書		273～284頁	無
軽度発達障害理解における境界線精神発達の重要性—情短施設での学習障害を伴う児童との関わりから—	単著	2009年3月	平成16年度～平成20年度「私立 大学学術研究高度化推進事業」 (オープン・リサーチ・センター —整備事業)研究成果報告書		285～300頁	無

教員免許更新講習「子どもの変化についての理解(1):子どもの発達に関する、脳科学、心理学等の最新知見に基づく内容」を担当して	単著	2010年3月	追手門学院大学教職課程年報第18号		7~16頁	無
学校における発達障害の理解と支援	単著	2011年3月	追手門学院大学心理学部紀要第5号		45~59頁	無
【その他】						
【学会における主な活動】						
2007年3月24日	日本発達心理学会第18回大会自主シンポジウム話題提供者					
2008年3月19日~21日	日本発達心理学会第19回大会委員					
【その他研究活動上特記すべき事項】			年月日		備	考

Ⅲ社会活動（3カ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）

社会における活動	年月日	備	考
川西市人権研修会講師	2008年7月9日		
茨木市立庄栄幼稚園研修会講師	2008年3月25日		
箕面市萱野中央人権文化センター講師	2008年12月5日		
箕面市萱野中央人権文化センター障害児自立支援事業研修会講師	2009年7月25日		
箕面市萱野中央人権文化センター障害児自立支援事業研修会講師	2009年12月12日		
箕面市萱野中央人権文化センター障害児自立支援事業研修会講師	2010年2月12日		

2011年度 教員活動評価調査票（記入用紙）

中鹿 彰 5/5

IV大学運営活動（3ヵ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）（2011年度就任教員は、2011年度の本学での学内職務及び大学業務をご記入願います。）

大学運営における活動	年月日	備 考
【学内職務】		
地域支援心理研究センター長	2007年4月～現在	
学長室学長特命	2009年4月～2011年3月	
全学自己評価委員会委員	2007年4月～現在	
心理学部教務委員	2009年4月～2011年3月	
心理学部編入生担当委員	2007年4月～2009年3月	
【大学業務】		
出張授業 宝塚西高校、東舞鶴高校、東高校 宝塚高校、摂津高校 東舞鶴高校 太子高校、名張桔梗が丘高校	2008年 2009年9月25日、11月19日 2009年10月23日 2010年9月3日、10月29日	
オープンキャンパス	2008年、2009年、2010年	
河合塾主催大学院フェア	2008年	
追手門学院大学地域支援心理研究センター公開シンポジウムコーディネーター	2009年1月10日	
追手門学院大学地域支援心理研究センター公開シンポジウム指定討論者	2009年11月21日 2010年11月13日	
おうてもん塾講師	2008年10月21日 2009年10月27日	
追手門学院大学講座講師	2009年4月24日	
教員免許講習講師	2009年8月4日、8月6日	
新任職員研修講師	2009年3月19日	

2011年度 教員活動評価調査票 (記入用紙)

中村 このゆ 1/10

所属	心理学部 心理学科	職名	教授	氏名	中村 このゆ	学位	博士(社会学)、甲南大学、1997年3月取得
----	-----------	----	----	----	--------	----	------------------------

I 教育活動 (3カ年<2010年度、2009年度、2008年度>の活動についてご記入願います。)

【担当科目】 (2011年度就任教員は、2011年度の本学担当科目をご記入願います。)

1. 学部担当科目 心理学の歴史、ライフスタイル演習、特殊演習、心理療法演習、臨床心理基礎論講読、メンタルヘルス論、臨床心理学入門、新入生演習、臨床心理査定特講、卒業研究、現代社会と人権
2. 大学院担当科目 臨床心理学コース演習、臨床心理学特論、臨床心理実習、臨床心理査定演習、臨床心理研究法特論、臨床心理学研究法演習
3. 非常勤等担当科目(括弧内に大学名を記入してください) (2011年度就任教員は、前任校での担当科目についてもご記入願います。) Japan Affairs (追手門学院大学 国際交流センター)、現代社会と人権

【教育業績】 (2011年度就任教員は、前任校での教育業績についてもご記入願います。)

教育実践上の主な業績	年月日	備 考
1. 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
2. 作成した教科書、教材、参考書 ライフスタイル演習教材「自分の物語」「ジェノグラムから考える家族関係」	2008年4月	
3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 「楽しもう。60点育児」東大阪市子育て支援事業、若江岩田 みんなの広場 きらりっこ講演会 イコーラム	2008年5月29日	
「育児と育自」東大阪市子育て支援事業、若江岩田みんなの広場きらりっこ 講演会 イコーラム	2009年3月18日	
OBS 大分放送ラジオ「ごごらくワイド おしゃべりBOX コーナー」ユング心理 学と夢	2009年5月28日	
ラジオ大阪「松本雅子のキャンパスNOW 心理学部箱庭インタビュー」	2009年8月8日	

「親子関係の心理学 育児は育自」おうてもん塾 親子関係の心理学 追手門学院大阪城スクエア	2009年10月13日	
「摂食障害の低年齢化とその予防に向けて」河内医師会学校保健講習会 東大阪市男女共同参画センター イコーラム	2009年10月22日	
「ちょっと気になる我が子の行動、なんで？ どうして？ どうしよう？」東大阪市子育て支援事業、若江岩田みんなの広場きらりっこ講演会 イコーラム	2010年3月17日	
「摂食障害の基本値知識～心理士さんに聞いてみよう」摂食障害回復サポートサイト、未来蝶、あかりネットワーク、 http://future-butterfly.net/kihon/coul_index.html	2010年7月	
「最近のジェンダー（性役割）の問題とメンタルヘルスについて」金沢こころの電話全体研修会、石川県社会福祉会館	2010年9月25日	
「摂食障害の歴史と現状 ジェンダーと社会要因の観点から」財団法人真生会館カトリック学習センター「食からみる現代社会」講座 真生会館	2011年1月22日	
「社会性の発達と段階に合わせた言葉かけ」東大阪市子育て支援事業、若江岩田みんなの広場きらりっこ講演会 イコーラム	2011年3月17日	
4. その他教育活動上特記すべき事項		
大学院生対象箱庭療法研究会顧問	2006年7月～	
大学院修士論文指導1名	2008年4月～2009年3月	
大学院修士論文指導1名	2009年4月～2010年3月	
大学院修士論文指導2名	2010年4月～2011年3月	

Ⅱ 研究活動 (5カ年<2010年度、2009年度、2008年度、2007年度、2006年度>の活動についてご記入願います。)

著書・論文等の名称	著書・共著の別	発行または発表年月	発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	編者・著者名(共著の場合のみ記入)	該当頁数	査読の有無
【著書】						
Dreaming the Myth Onwards	共著	2008年3月	Routledge	Lucy Huskinson ed.	pp. 132-141 (10頁)	
Self and No-Self:Continuing the Dia-logue between Buddhism and Psycho-therapy	共著	2009年6月	Routledge	D. Mather, M. Miller, O. Ando eds.	pp. 189-197 (9頁)	
The Last Desire: A Clinical Experience working with a Dying Man. In <i>Sacral Revolution: Reflecting on the Work of Andrew Samuels-Cutting Edge In Psycho-Analysis and Jungian Analysis.</i>	単著	2010年2月	Routledge	Heuer, G (ed).	pp. 176-183 (8頁)	
Struggles, commercialism, 'ideal' feminine images and internal oppression: eating Disorders and the pursuit of thinness in Japan. in <i>Body, Mind And Healing After Jung A Space of Questions.</i>	単著	2010年5月	Routledge	Jones, R. ed.	pp. 160-173 (13頁)	

【論文】						
Struggles among Japanese women with conservative gender roles in floods of 'ideal' minine images through commercialism	単著	2006年3月	Psychotherapy and Politics International 4(1)		pp. 55-61 (7頁)	有
小学生と中学生の摂食態度 群馬県と大阪府の比較で	単著	2007年3月	追手門学院大学心理学部紀要, 1		pp. 173-179 (7頁)	
ジェンダーコンシャスなアプローチ 教員養成学部における学生の進路とジェンダー	単著	2007年3月	追手門学院大学心のクリニック紀要, 3		pp. 33-36 (4頁)	
Sokushin-Jobutsu as Transformation Japanese Esoteric Buddhism From a Jungian Perspective	単著	2007年12月	追手門学院大学心のクリニック紀要, 4		pp. 128-132 (5頁)	
最期の願い -産業カウンセリング場面におけるターミナルケアの経験 から-	単著	2008年3月	甲南心理臨床学会紀要 10		pp. 25-33 (9頁)	
大学生のKFDでみる自己像、家族力動とジェンダーロール	単著	2008年3月	追手門学院大学心理学部紀要, 2		pp. 37-50 (14頁)	
小学生と中学生の摂食態度—群馬県と大阪府の比較—	単著	2009年12月	心身医学 48(12)		pp. 1043-1047 (5頁)	有
摂食障害治療者のボディーイメージ、ダイエット体験、摂食態度、ジェンダー観	単著	2009年3月	追手門学院大学心理学部紀要, 3		pp. 103-110 (8頁)	

心理治療者のボディイメージ、 ダイエット体験、摂食態度、ジェンダー観	単著	2010年3月	追手門学院大学心理学部紀 要, 4		pp. 151-160 10頁)	
原佐知佳論文へのコメントー不安 定な状況におかれた治療者の不安 ー	単著	2010年3月	神戸親和女子大学心理・教育 相談室心理相談研究紀要, 8		pp. 167-169 (3頁)	
箱庭療法に見る日本女性の伝統的 性役割とキャリアのジレンマ	単著	2010年3月	追手門学院大学心理学論集, 18		pp. 1-5 (5頁)	
摂食障害者と青年男女のボディイ メージ、ダイエット体験、摂食態 度、ジェンダー観	単著	2011年3月	追手門学院大学心理学部紀 要, 5		pp. 61-74 (14頁)	
地域子育て支援との連携について の実践的研究(1)「若江岩田みんな の広場きらりっこ」の活動から	共著	2011年3月	追手門学院大学地域支援心 理研究センター紀要, 7		pp. 17-23 (7頁)	
【その他】						
わが子が加害者だった時 親とし てできること	単著	2006年6月	児童心理臨時増刊 843		pp. 120-123 (4頁)	
こどものこんな気持ちにどう対応 するか人間関係編『死にたい』『殺 してやりたい』	単著	2007年10月	児童心理 2007年10月号		pp. 72-77 (7頁)	
言葉の力の不足と問題行動	単著	2008年9月	児童心理 2008年9月号, 883		pp. 44-48 (5頁)	
現代社会と人権を担当して職場、 学校でのセクシュアル・ハラスメ ントへの対応	単著	2008年2月	追手門学院大学人権啓発委 員会会誌愛語, 10		pp. 5	

今、求められることばを聴く力	単著	2009年9月	月刊国語教育, 29(9)		pp. 46-49 (4頁)	
息子の自立・母親の自立	単著	2010年2月	児童心理, 2010(2), 908		pp. 46-49 (4頁)	
場面緘黙の子への援助	単著	2010年2月	児童心理, 2010(11), 922		pp. 91-95 (5頁)	
年次段階を踏んだカリキュラムー 演習、臨床心理実習、査定実習を 中心に一	単著	2010年3月	追手門学院大学心理学部/心 理学科・自己評価 2009年度, 4		pp. 38-40 (3頁)	
「ライフスタイル演習2」を担当し て心理臨床的技法を用いて	単著	2011年3月	追手門学院大学心理学部/心 理学科・自己評価 2009年度, 5		pp. 50-52(3頁)	
【学会における主な活動】						
2006年5月19日	The Image of Maha-Vairocana-tatha-Gata emerging from The therapist Kyoto Conference Continuing the dialogue Between Buddhism and Psychology 花園大学 セラピーの決定的場面でセラピストが抱いた大日如来のイメージが心理治療にどのように有効であ ったか、ユング心理学の観点から考察した。					
2006年7月8日	The Image of Maha-Vairocana-tatha-Gata emerging from The therapist at a crucial point of therapy Psyche and Imagination IAJS Conference University of Greenwich In this presentation, I de al with the image Mahavairocana-tatha-gata emerging from a therapist at a crucial point of therapy with a patient. Mahavairocana-tatha-gata is the Buddha who expounded the esoteric B uddhism, referring to an idealization of the truth of the universe. Also, in the esoteric Buddhism, we can find some similar points to Jungian Psychology, which are, for example, my sticism, integration opposite things, respect for the feminine, totality, and the numinou s. I intend to discuss how the image helps the patient to introduce to my client' s transformation from viewpoints of the transferential relationship, unifying the transcendent.					

2006年9月16日	「学校教員の摂食態度、ボディイメージ、他者評価」 第2回日本摂食障害学会 於 東京家政大学 群馬県を中心とする教員177名の教員の摂食態度、ボディイメージ、他者評価を調査し、教員自身が痩身追求の社会風潮、保守的ジェンダー観を有していることを報告した。同学会 一般演題座長
2006年9月23日	「教員養成学部における学生の進路とジェンダー」 日本心理臨床学会第26回大会 於 関西大学 自主シンポジウム「ジェンダーコンシャスなアプローチ(2)」企画、司会、話題提供「教員養成学部における学生の進路とジェンダー（話題提供者 竹内和子、上原明子、落合美貴子、軸丸清子、指定討論者 小柳茂子）」
2007年7月7日	Transformation Through Japanese Buddhism from A Jungian Perspective The Jungian Society for Scholarly Studies 2007 Conference Boston University 真言密教の中心概念、即身成仏をユング心理学の変容の概念と比較し、その類似点と違いについて考察した。
2007年10月20日	「動的家族描画に見られる家族とジェンダー」 第3回日本摂食障害学会 於 京都府立医科大学 群馬県小学校児童、中学校生徒の摂食態度を EAT-26 を用いて調査した。その結果、女性と男性、都市部と地方に有意な差が見られた。また、小学生にも問題食行動が拡大されていることが示唆された。同学会 市民公開講座女性のライフサイクルと摂食障害 司会、共同司会 生野照子、シンポジスト、知崎和子、岡本百合、木内千暁、藤田光恵
2008年7月4日	The Last Desire(A Clinical experience Of Working with a Dying man) IAAP-IAJS ETH Conference ETH Zurich The theme of death has been the most tabooed subject in the Western world during the first half of twentieth century. It is very interesting to discuss whether Japan, as well as the Western world, has lost their religious traditions, and how Japanese treat the theme of death in their society. In this paper, I reported a clinical work with a dying man. I considered meaning of the work for both the patient and the psychotherapist from viewpoints of transformation and religious mysteries.

2008年9月5日	<p>「3世代にわたるジェノグラム研究からみる日本の家族病理」 日本心理臨床学会第27回大会 於 つくば国際会議場他 自主シンポジウム「ジェンダーコンシャスなアプローチ(4)—都市と地方の家族像—」企画、司会、 話題提供 「3世代にわたるジェノグラム研究からみる日本の 家族病理」(話題提供者 仲倉高広、荻 原高子、指 定討論者 志水紀代子)</p>
2008年9月21日	<p>「治療者の摂食態度、ボディイメージ、ジェンダー観」 第4回日本摂食障害学会 於 政策研究大学院大学 摂食障害学会会員123名を対象にそのボディイメージ、 ダイエット体験、摂食態度、ジェンダー観を調査した。その結果、女性では自己の体重を適正に認知 していないものが男性より有意に多数であった。また、ステレオタイプなジェンダー観を有している ことが明らかになった。 一般演題「体重・摂食(2)」座長同シンポジウムⅡ「結婚・育児をめぐる諸問題」シンポジスト「子 育てが症状軽減、人格成長に有効であったと思われる事例」</p>
2009年7月10日	<p>Dilemma of Gender Roles and Career: Three Sandplay creations by a Japanese Woman Psyche, Power, and Society The 2nd Inter-National Conference of The International Associ- ation of Jungain Studies Cardiff University The Sandplay therapy is a method of non verbal psychotherapy developed by Kalff, D. in Swit- zerland. In 60's, once the method based on Jungian psychology was introduced into Japan by Kawai, H., it became so popular in Japan. In this paper, I showed three Sandplay creations by a Japanese young woman who was suffering from depressive states and compulsive behavior s. I highlighted Dilemma of Gender Roles and Career of Japanesewomen through her Sandplay w- orks.</p>
2009年9月12日	<p>「心理治療者の摂食態度、ボディイメージ、ジェンダー観」 第13回日本摂食障害学術集会 於 浪速人権文化センター 日本心理臨床学会会員200名を対象にそのボディイメージ、ダイエット体験、摂食態度、ジェンダー 観を調査した。その結果、自己の体重の不適正認知者は男女共に多く、有意な差は無かった。摂食障 害治療者対象の調査に比べて、比較的柔軟なジェンダー観を有していることが示唆された。 同学会、一般演題6 座長、特別セミナー24 講師「摂食障害治療に用いる夢分析」</p>
2009年9月20日	<p>日本心理臨床学会第28回秋季大会 於 東京国際フォーラム 自主シンポジウム「ジェンダーコンシャスなアプローチ(5)—病院臨床からみるジェンダー—」企画、 司会 共同企画者 仲倉高広、話題提供者 中川佳苗、安尾利彦、森田眞子、指定討論者 川畑直人</p>

2010年8月10日	The Masculine of Women in the Patriarchal Society, Japan, by A Consideration Sandplay Works and Japanese Myth. On the Edge: Psyche in Ethics, the Arts and Nature, a Conference of Research in Jung and Analytical Psychology, The Jungian Society for Scholarly Studies and the International Association for Jungian Studies, Cornell University, Ithaca, New York.	
2010年9月3日	自主シンポジウム「ジェンダーコンシャスなアプローチ(6)ー学校臨床からみるジェンダー」企画、司会 中村このゆ 話題提供者狩野経子、荻原高子、立石一信、指定討論者 橋本秀美 日本心理臨床学会第29回秋季大会、於東北大学川内北キャンパス	
2010年10月2日	演題発表「青年期における摂食障害とジェンダー観の関わりについて」第14回日本摂食障害学術集会、於政策研究大学院大学	
【その他研究活動上特記すべき事項】	年月日	備 考

Ⅲ社会活動（3カ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）

社会における活動	年月日	備 考
東大阪市子育て支援事業 若江岩田みんなの広場 きらりっこ顧問	2008年4月(現在に至る)	
摂食障害回復サポートプロジェクトあかりプロジェクト顧問	2010年5月～	

IV大学運営活動（3ヵ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）（2011年度就任教員は、2011年度の本学での学内職務及び大学業務をご記入願います。）

大学運営における活動	年月日	備 考
【学内職務】		
心理学科長・心理学部FD委員・心理学部カリキュラム委員	2007年4月～2009年3月	
キャンパスハラスメント相談委員	2008年4月～	
教育実習委員	2009年4月～2010年3月	
大学院自己評価委員	2010年4月～	
キャンパス整備委員	2010年4月～	
【大学業務】		
出張授業		
岸和田高等学校	2008年8月21日	
名張桔梗が丘高校	2008年10月31日	
和歌山県立新宮高校	2008年11月28日	
大阪府立大冠高校	2009年2月12日	
滋賀県立守山高校	2009年2月13日	
加古川南高等学校	2009年6月5日	
兵庫県立柏原高校	2009年10月2日	
川西名峰高校	2010年2月3日	
岡山県立村野高校	2010年7月23日	
オープンキャンパス箱庭療法体験コーナー	2006年～	

2011年度 教員活動評価調査票 (記入用紙)

永野 浩二 1/7

所属	心理学部 心理学科	職名	准教授	氏名	永野 浩二	学位	教育学修士
----	-----------	----	-----	----	-------	----	-------

I 教育活動 (3カ年<2010年度、2009年度、2008年度>の活動についてご記入願います。)

【担当科目】 (2011年度就任教員は、2011年度の本学担当科目をご記入願います。)

1. 学部担当科目

心理療法演習、心理療法特論1、介護心理学、面接調査法、心理現場へのインターンシップ、特殊演習2、ライフスタイル演習2、卒業研究1・2、新入生演習、臨床心理基礎論講読A

2. 大学院担当科目

臨床心理基礎実習、臨床心理学研究法特論1, 2、臨床心理研究法演習1, 2、臨床心理面接特論

3. 非常勤等担当科目(括弧内に大学名を記入してください) (2011年度就任教員は、前任校での担当科目についてもご記入願います。)

【教育業績】 (2011年度就任教員は、前任校での教育業績についてもご記入願います。)

教育実践上の主な業績	年月日	備 考
1. 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業アンケート評価	2008年～2010年	大学自己評価委員会による全学授業アンケートの評価は総じて高い。過去3年間では、12項目の平均評定は、4.17～4.66 (大学平均 3.73～4.16)であった。中でも、「この授業は内容が斬新で興味深いものであった」「教師の熱意と意欲が感じられた」という項目は、時に4.8を超える高いものであり、教育内容・工夫が反映されていると思われる。

各授業への取り組み実践報告について	2008年～2010年	<p>2008年～2009年の新しい実践的な取り組みである「自己獲得的学習」を行った。これは、「行動に意味のある影響を与えるような学習」(Rogers,1957)が生じることを目的とした体験型授業である。以下の文献を参照されたい。</p> <p>永野浩二(2011)「ディスカッションを中心とした自己獲得的学習」追手門学院大学教育研究所紀要 29 26-38</p> <p>永野浩二(2010)「年次段階を踏んだカリキュラムについて～個人的な取り組みを中心に～」追手門学院大学心理学部自己評価 第4号 追手門学院大学心理学部 FD・自己評価委員会年報 34-37</p>
<p>2. 作成した教科書、教材、参考書</p> <p>「ワークショップ大学生活の心理学」(共著)</p>	2009年3月1日	<p>編著者：藤本忠明・東正訓 担当部分：「『不登校・ひきこもり』や『留年』とどうつきあうか？」pp.208-225 本書は大学生活のための心理学テキストである。担当箇所は、大学生を中心とした不登校・ひきこもり・留年の現状や主な学説などについて概観し、学生生活を営む上で、これらの問題にどう関わっていくか考えるための示唆を与えるものである。</p>

3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 心理学部 FD 談話会：「心理学部アカデミックアドバイザー制度の現状と課題：困難事例との関わり」	2008年7月10日	心理学部で行われている教学支援のためのアカデミック・アドバイザー制度についての発表である。中でも、関わりが困難な学生への対応への注意点や課題について、具体的な事例を元に報告・検討を行った。以下に報告。 追手門学院大学心理学部自己評価 第3号 追手門学院大学心理学部 FD・自己評価委員会年報 7-13
心理学部研究科FD談話会：「大学院教育における各自の工夫について考える」	2009年2月19日	大学院教育で日ごろ工夫していることについてのディスカッションを企画した。以下はその報告。 追手門学院大学心理学部自己評価 第4号 追手門学院大学心理学部 FD・自己評価委員会年報 75-76
4. その他教育活動上特記すべき事項 修士論文指導 写真部・ギター部 顧問	2008年～2010年 2008年～2010年	5名の大学院生の修士論文を指導 (継続中)

Ⅱ 研究活動（5カ年〈2010年度、2009年度、2008年度、2007年度、2006年度〉の活動についてご記入願います。）

著書・論文等の名称	著書・共著の別	発行または発表年月	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数	査読の有無
【著書】						
ワークショップ大学生生活の心理学	共著	2009年3月	ナカニシヤ出版	編著者：藤本忠明・東正訓	pp.208-225	
【論文】						
中年期危機がもたらす肯定的影響	単著	2010年3月	追手門学院大学地域支援心理研究センター紀要6		pp21-35	無
【その他】						
小論・報告						
真実の関係とは？ 中村論文のコメント	単著	2008年3月	神戸女学院大学大学院人間科学研究科心理教育相談室紀要9		pp110-114	
身体化・行動化から言語化へ～大石論文のコメント	単著	2009年3月	神戸女学院大学大学院人間科学研究科心理教育相談室紀要10		pp100-106	
自分達のための将来計画ワークショップの創造と、「ミドルエイジを生きる」ワークショップ	単著	2010年10月	エンカウンター通信 400号記念号 石崎印刷		pp112-119	
アカデミック・アドバイザー制度における困難事例との関わり	単著	2009年3月	追手門学院大学心理学部自己評価 第3号 追手門学院大学心理学部 FD・自己評価委員会年報		pp7-13	

年次段階を踏んだカリキュラムについて～個人的な取り組みを中心に～	単著	2010年3月	追手門学院大学心理学部自己評価 第4号 追手門学院大学心理学部 FD・自己評価委員会年報		pp34-37	
大学院教育における各自の工夫について考える	単著	2010年3月	追手門学院大学心理学部自己評価 第4号 追手門学院大学心理学部 FD・自己評価委員会年報		pp75-76	
学会発表・自主企画等						
学生エンカウンターグループの構造と学生生活	共同	2008.8.1	日本人間性心理学会第27回 於：関西大学	松本剛・畠瀬直子・永野浩二・奥田由貴子・山村温路での共同発表		
若手グループ臨床家のためのファシリテーター・トレーニングー自分の感覚を活かすためのPCAトレーニング・モデル試案ー	共同	2008.9.6	日本心理臨床学会第27回大会 (於：つくば国際会議場)	本山智敬・永野浩二での共同発表		
「グループ・ファシリテーターのためのネットワーク」結成へ向けて	共同	2008.9.4	日本心理臨床学会第27回大会 自主シンポジウム (於：つくば国際会議場)	本山智徳・高松里・永野浩二・村久保雅孝・都能美智代・三國牧子での共同企画		
親回復支援プログラム“MY TREE”	共同	2008.12.14	大阪府臨床心理士会第16回ワークショップ 分科会 D 虐待問題ー(於：大阪国際会議場)	企画：福支部会運営委員会 手塚千恵子 司会：永野浩二 発表者：白山美知子・手塚真樹子・八木ありこ		

若手臨床家のためのトレーニング・グループの開発ー参加者の体験からの検討ー	共同	2009.8.28	日本心理臨床学会第28回大会 (於:法政大学)	本山智敬・松本大輝・山村温路・熊谷直人・河合謙・永野浩二での共同発表		
グループで参加者の心理的安全性を高める為にー実践上の工夫ー	共同	2010.9.25	日本人間性心理学会第29回大会 (於:熊本大学)	本山智敬・三國牧子・村久保雅孝・永野浩二・都能美智代・下田節夫での共同発表		
当事者研究の必要性	共同	2010.9.24	日本人間性心理学会第29回大会 自主企画(於:熊本大学)	企画:高松里 話題提供:高松里・井内かおる・押江隆 指定討論:永野浩二・村久保雅孝		

【学会における主な活動】

日本人間性心理学会第27回大会準備委員	2008年8月1日～3日 於:関西大学
---------------------	---------------------

【その他研究活動上特記すべき事項】

	年月日	備 考
2008年度追手門学院「特色ある個人研究」研究補助	2008年4月～2009年3月	「中年期危機がもたらす影響に関する研究」として追手門学院大学地域支援心理研究センター紀要6に発表
人間性心理学研究 論文審査委員	2008年～2010年	現在も継続中

Ⅲ社会活動（3カ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）

社会における活動	年月日	備 考
「本人の申し出により非公表とした。」		

2011年度 教員活動評価調査票（記入用紙）

永野 浩二 7/7

IV大学運営活動（3ヵ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）（2011年度就任教員は、2011年度の本学での学内職務及び大学業務をご記入願います。）

大学運営における活動	年月日	備 考
【学内職務】 「本人の申し出により非公表とした。」		
【大学業務】 「本人の申し出により非公表とした。」		

2011年度 教員活動評価調査票（記入用紙）

橋本 秀美 1/6

所属	心理学部 心理学科	職名	教授	氏名	橋本 秀美	学位	博士(学校教育学)、兵庫教育大学連合大学院、平成15年3月取得
----	-----------	----	----	----	-------	----	---------------------------------

I 教育活動（3カ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）

【担当科目】（2011年度就任教員は、2011年度の本科担当科目をご記入願います。）

1. 学部担当科目

新入生演習、心理療法講読、特殊演習2H、臨床心理面接演習2、心理療法演習3、心理学総合科目2、ライフスタイル演習1D、特殊演習1H、臨床心理面接特講2、卒業研究1K、卒業研究2K、卒業論文

2. 大学院担当科目

臨床心理学特論、臨床心理学研究法特論1、臨床心理実習、臨床心理学研究法演習Ⅱ1、臨床心理面接特論1、臨床心理学研究法特論2、臨床心理学研究法演習Ⅱ2、臨床心理面接特論2

3. 非常勤等担当科目(括弧内に大学名を記入してください) (2011年度就任教員は、前任校での担当科目についてもご記入願います。)

健康相談活動(大阪教育大学)、スーパーバイザー(大阪大学大学院心理臨床学専攻)

【教育業績】（2011年度就任教員は、前任校での教育業績についてもご記入願います。）

教育実践上の主な業績	年月日	備 考
1. 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 「本人の申し出により非公表とした。」		
2. 作成した教科書、教材、参考書 「本人の申し出により非公表とした。」		
3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 「本人の申し出により非公表とした。」		
4. その他教育活動上特記すべき事項 「本人の申し出により非公表とした。」		

2011年度 教員活動評価調査票（記入用紙）

橋本 秀美 2/6

Ⅱ 研究活動（5カ年〈2010年度、2009年度、2008年度、2007年度、2006年度〉の活動についてご記入願います。）

著書・論文等の名称	著書・共著の別	発行または発表年月	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数	査読の有無
【著書】						
スクールカウンセリングに活かす描画法－絵にみる子どもの心	単著	2009年10月	金子書房		全178頁	
【論文】						
描画の専門家が描画から共感性を捉える視点についての研究－描画者の肯定・否定感情に対する共感性に違いに着目して－	単著	2007年7月	臨床描画研究(描画テスト・描画学会誌:北大路書房)(第22巻)		128～145頁	有
BOOK REVIEW(スクールカウンセリングに活かす描画法)		2010年6月	応用心理学のクロスロード 第1号(日本応用心理学会)		37頁	無
特別支援教育への学校心理学的アプローチ－大学と学校現場との連携によるチーム援助を通して－	共著	2010年7月	日本学校心理士会年報 第2号(2009年度)	橋本秀美・塩見邦雄	103-129頁	有
中学生の友人関係と学級適応感－仲間関係の排他性と学級風土との関連－	共著	2011年3月	中部大学現代教育学研究紀要 第4号	三島浩路・橋本秀美	3～129頁	有
【その他】						
特別支援教育における教師態度的あり方	共著	2006年9月	日本心理学会 第70回大会発表論文集	橋本秀美、田中晴子、三島浩路		
描画法の心理的効果としての癒し－コラージュ作成における不安状態の変化－	共著	2006年9月	日本描画テスト・描画学会 第16回大会発表論文集	橋本秀美、山下綾子		

描画における共感性の測定研究(1)	共著	2007年9月	日本教育心理学会 第49回研究大会発表論文集	橋本秀美、三島浩路		
高機能発達障害児への特別支援教育(2)－大学と学校現場との連携の実践モデル－	共著	2007年12月	日本応用教育心理学会 第22回研究大会発表論文集	橋本秀美、富永由希乃、渡部伸子		
描画における共感性研究(2)－母子画を通してみる母子関係と共感性との関連－	共著	2008年3月	日本発達心理学会 第19回研究大会発表論文集	橋本秀美、稲継章恵		
動的家族画と動的学校画における包囲・区分の出現とその解釈について	単著	2008年9月	日本描画テスト・描画学会 第18回大会発表論文集			
学校場面でのいじめと友人関係について－女子大生における小・中・高時代の振り返り調査から－	共著	2008年9月	日本教育心理学会 第50回研究大会発表論文集	橋本秀美・三島浩路・山本華世		
仲間はずれの様態に関する研究－PAC分析を用いて－	共著	2008年11月	日本応用教育心理学会 第23回研究大会発表論文集	橋本秀美・五百木真実		
友人関係といじめとの関連について－女子大学生における小・中・高校時についてふり返りの調査から－	共著	2008年11月	日本応用教育心理学会 第23回研究大会発表論文集	橋本秀美・山本華世		
－動的家族画に描かれたきょうだいの数と実際のきょうだい数との違いと、動的学校画に描かれた友人の数との関連について－	単著	2009年9月	日本描画テスト・描画学会 第19回大会発表論文集	橋本秀美・山本華世		
動的家族画(KFD)にみられるきょうだい数と学校適応感との関連について	共著	2009年9月	日本応用心理学会 第76回研究大会発表論文集	橋本秀美・三島浩路		

友人関係の排他性と学級適応感－ 中学生を対象とした調査結果から－	共著	2009年9月	日本教育心理学会 第51回研究大会発表論文集	橋本秀美・三島浩路		
特別支援教育への心理臨床家としての アプローチ－専門家チームとしての 支援を通して	単著	2009年11月	日本応用教育心理学会 第24回研究大会発表論文集			
スクールカウンセリングに活かす描画 法－絵にみる子どもの心－～学校 教育相談での使用を中心に～	単著	2010年5月	日本学校教育相談学会 講演			
動的家族画と動的学校画にみられる 描画特徴と仲間集団の親密性との関 連について	単著	2010年9月	日本応用心理学会 第77回研究大会口頭発表集 (於 京都大学)			
ジェンダーコンシャスなアプローチ(6) －学校臨床からみるジェンダー－	共著	2010年9月	日本心理臨床学会 第29回秋季大会 シンポジウム指定討論者 (於 東北大学)	中村このゆ・橋本秀美他		
幼児の人物画の描画特徴とその発 達の推移について ～調査研究を通しての－考察～	単著	2010年9月	日本描画テスト・描画学会 第20回大会発表論文集			
青年期の描画特徴にみられる抑うつ 感についての考察 ～調査研究を通しての－考察～	共著	2010年9月	日本描画テスト・描画学会 第20回大会発表論文集	小林三千緒・橋本秀美		
阪神・淡路大震災における心理的援 助の効果についての研究	共著	2010年10月	日本応用教育心理学会 第25回研究大会発表論文集	村上誠治・橋本秀美		

【学会における主な活動】	
1999年4月～現在に至る	日本学校教育相談学会兵庫県支部 副理事長
1999年4月～現在に至る	日本応用教育心理学会 理事
2001年4月～現在に至る	兵庫県学校心理士会 理事
2010年4月～現在に至る	日本描画テスト・描画療法学会 理事
2006年9月	日本教育心理学会 第48回大会 日本学校心理士会主催 学会研修会 学校心理士認定研修会 講師 『スクールカウンセリングに役立つ技法としての描画法 -描画を通して子どもの心を理解する-』
2006年10月	日本学校教育相談学会第1回 近畿ブロック研究大会 座長及び助言者 『学校教育相談への発達の視点 -不登校や非行のある生徒への対応を中心に-』
2007年7月	日本学校教育相談学会 第32回 兵庫県事例研究会 座長及び助言者 『校内体制としての連携の大切さ とスクールカウンセラーの活用』
2007年10月	日本学校教育相談学会第2回 近畿ブロック研究大会 座長及び助言者 『教師のバーンアウト』
2008年5月	日本学校教育相談学会 第19回 兵庫研究大会 座長及び助言者 『教師の行う教育相談とスクールカウ ンセラーとの連携』
2009年1月	日本学校教育相談学会第19回「中央研修会」 講師 『スーパーバイザーに必要な理論と技術』
2009年10月	日本学校教育相談学会第4回 近畿ブロック研究大会 座長及び助言者 『つながり響き合う心を育む教育 相談』
2010年5月	日本学校教育相談学会第21回 総会・研修会 講演 『スクールカウンセリングに活かす描画法』
2010年7月	学校心理士会講演 講師「学校心理士に有効な描画法の理解とその活用の仕方」
2010年10月	日本学校教育相談学会第5回 近畿ブロック研究大会 座長及び助言者
2010年11月	認定「学校カウンセラー」(日本学校教育相談学会)実践研究会 講師およびコメンテーター

【その他研究活動上特記すべき事項】	年月日	備 考
西宮市教育委員会・特別支援専門家チーム専門委員	2008年4月～現在	
日本描画テスト・描画療法学会論文査読 レフェリー就任	2004年4月～現在	
日本学校教育相談学会論文査読 レフェリー就任	2005年4月～現在	
日本学校教育相談学会・日本教育カウンセラー協会 スーパーバイザー就任	2005年4月～現在	

Ⅲ社会活動（3ヵ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）

社会における活動	年月日	備 考
西宮市教育委員会・心身障害児適正就学指導専門委員会専門委員	2002年4月～現在	
神戸市私立幼稚園連盟子育て相談室専門相談委員	2003年4月～現在	
西宮市教育委員会・特別支援専門家チーム専門委員	2003年4月～現在	
西宮市立西宮養護学校評議委員	2008年4月～現在	
西宮市立香櫨園小学校学校評議員	2009年4月～現在	

Ⅳ大学運営活動（3ヵ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）（2011年度就任教員は、2011年度の本学での学内職務及び大学業務をご記入願います。）

大学運営における活動	年月日	備 考
【学内職務】 「本人の申し出により非公表とした。」		
【大学業務】 「本人の申し出により非公表とした。」		

2011年度 教員活動評価調査票 (記入用紙)

馬場 天信 1/8

所属	心理学部 心理学科	職名	准教授	氏名	馬場 天信	学位	博士(心理学)
----	-----------	----	-----	----	-------	----	---------

I 教育活動 (3カ年<2010年度、2009年度、2008年度>の活動についてご記入願います。)

【担当科目】 (2011年度就任教員は、2011年度の本学担当科目をご記入願います。)

1. 学部担当科目

「新入生演習」、「ライフスタイル演習 1」、「心理検査法演習 2」、「心理療法演習 1」、「精神分析学」、「心理療法特講」(「臨床心理面接演習」と2年交替)、
「メンタルケア演習」、「卒業研究 1」、「卒業研究 2」、「臨床心理検査法演習」

2. 大学院担当科目

「臨床心理実習」、「臨床心理学研究法特論 1」、「臨床心理学研究法特論 2」、「臨床心理査定演習 2」、「臨床心理学研究法演習 II」、
「臨床心理学コース演習 I」、「臨床心理学コース演習 II」、「投映法特論」(2011年度は不開講)

3. 非常勤等担当科目(括弧内に大学名を記入してください) (2011年度就任教員は、前任校での担当科目についてもご記入願います。)

【教育業績】 (2011年度就任教員は、前任校での教育業績についてもご記入願います。)

教育実践上の主な業績	年月日	備 考
1. 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 「本人の申し出により非公表とした。」		
2. 作成した教科書、教材、参考書 「ワークショップ 大学生活の心理学」(藤本・東 編著)	2009年3月	ナカニシヤ出版から新入生演習授業での使用を念頭においた教科書を出版し、自我同一性の内容について分担執筆し、20法についての解説も行った。
3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 「本人の申し出により非公表とした。」		
4. その他教育活動上特記すべき事項 「本人の申し出により非公表とした。」		

Ⅱ 研究活動（5カ年〈2010年度、2009年度、2008年度、2007年度、2006年度〉の活動についてご記入願います。）

著書・論文等の名称	著書・共著の別	発行または発表年月	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数	査読の有無
【著書】						
「心理学概論」	共著	2006年6月	ナカニシヤ出版	監修 山内弘継、橋本宰、編者 岡市廣成、鈴木直人、青山謙二郎、分担執筆者 55名	330-337頁	
「心理査定実践ハンドブック」	共著	2006年9月	創元社	編者 氏原 寛、岡堂哲雄、亀口憲治、西村洲衛男、馬場禮子、松島恭子、分担執筆者多数	500-516頁	
「心理学実習/基礎編」	共著	2006年12月	培風館	編者 高石浩一、谷口高士、分担執筆者 19名	146-150頁	
「感情心理学」	共著	2007年9月	朝倉出版	編者 鈴木直人、分担執筆者 11名	135-153頁	
「ワークショップ大学生生活の心理学」	共著	2009年4月	ナカニシヤ出版	編者 藤本忠明、東正則 分担執筆者 15名	109-117頁	
【論文】						
肥満運動療法と心理的サポート	共著	2006年8月	保健の科学, 48	木村 穰、馬場天信	565-569頁	有
ロールシャッハ図版に対するアレキシサイミアの感情体験 ——SD 評定を用いた検討——	単著	2007年3月	京都文教大学人間学部研究報告, 9		61-73頁	有
ストレス、パーソナリティと喫煙行動の関連性について-Alexithymia とタイプ A 行動パターンとの関連から	共著	2007年3月	ストレス科学, 21	佐藤 豪、馬場天信、中西美和	217-222頁	有

肥満外来におけるチーム医療の効果の検討：心理特性と減量効果との関係について	共著	2007年4月	肥満研究, 36	齋藤瞳、馬場天信、木村 穰、佐藤 豪	68-73 頁	有
先端的脳科学研究における被験者体験の心理的影響について 一経皮的脳磁気刺激法(TMS)の被験者へのインタビューを通して	共著	2009年3月	人間学研究, 9	濱野清志、金山由美、馬場天信	13-30 頁	有
脳計測体験の臨床心理学的検討に関する研究 I	共著	2009年3月	京都文教大学臨床心理学部研究報告, 1	濱野清志、金山由美、馬場天信	41-52 頁	有
脳計測体験の臨床心理学的検討に関する研究 II	共著	2009年3月	京都文教大学臨床心理学部研究報告, 1	金山由美、濱野清志、馬場天信	53-68 頁	有
Psychological factors that promote behavior modification by obese patients.	共著	2009年9月	BioPsychoSocial Medicine, 3	Hitomi Saito, Yutaka Kimura, Sawako Tashima, Nana Takao, Akinori Nakagawa, Takanobu Baba, and Suguru Sato	電子ジャーナル受理のため頁無し	有
本学心理学部におけるティーチング・アシスタント制度導入の試み: 臨床心理査定演習における実践報告,	単著	2010年3月	追手門学院大学教育研究所紀要, 28		104-116 頁	無
Alexithymia が精神的健康に与える影響について 一知覚されたストレスとソーシャルサポートの観点から	単著	2010年3月	追手門学院大学心理学論集, 18		19-25 頁	無

【その他】						
追大心理学部の学生と関わる中で見えてきたこと ——他大学との違いについての私見——	単著	2008年3月	心理学部 FD・自己評価委員会 年報, 2007年度 第2号		11-16頁	無
「肥満の認知行動療法」の翻訳	共同	2006年10月	金剛出版	ザフラ・クーパー、デボラ・M・ ホーカー、クリストファー・G・フ ェアバーン(原著)、小牧元(翻 訳監修)、馬場天信他4名分 担翻訳		
【学会発表・シンポジウム】						
生活習慣病に対する健康心理学的介入	単独	2006年9月	日本健康心理学会第19回大会 (指定討論者)			
アレキシサイミアからみた肥満症に対するチーム医療介入効果	共同	2006年9月	日本健康心理学会第19回大会	馬場天信, 齋藤瞳, 中川明 仁, 佐藤豪, 木村穰		
肥満症者に対するチーム医療介入の減量効果と気分状態の変化 ——介入前後の気分状態の比較——	共同	2006年10月	第27回日本肥満学会	馬場天信, 齋藤瞳, 木村穰, 佐藤豪, 田嶋佐和子, 上田加 奈子, 小崎篤志, 岩坂壽二		
肥満患者に対するチーム医療介入の減量効果と心理特性の変化 ——エゴグラムを用いて——	共同	2006年10月	第27回日本肥満学会	馬場天信, 木村穰, 佐藤豪, 田嶋佐和子, 上田加奈子, 小 崎篤志, 岩坂壽二		
A study of the Effect on Counseling for Obese People based on Transactional Analysis Theory	共同	2007年9月	第3回アジア健康心理学会議	Saito,H., Kimura,Y., Baba,T., Nakagawa,A., & Sato,S.		

肥満治療における認知行動療法的介入の効果と心理指標の変化 ——NEO-PI-Rを用いて——	共同	2007年10月	第28回日本肥満学会	中川明仁, 木村 穰, 齋藤 瞳, 高橋美智子, 松島典子, 馬場天信, 佐藤 豪		
肥満外来における減量プログラムの終了群および中断群の性格特性の比較	共同	2007年11月	第2回生活習慣病認知行動療法研究会	齋藤 瞳, 木村 穰, 中川明仁, 高橋美智子, 田嶋佐和子, 上田加奈子, 高尾奈那, 馬場天信, 佐藤 豪		
アレキシサイミアとソーシャルサポートが抑うつ傾向に与える影響 ——2種類のストレス尺度を用いた検討——	共同	2008年6月	第49回日本心身医学会	馬場天信, 佐藤 豪		
先端的脳科学研究における被験者体験の精神的影響について ——経皮的脳磁気刺激の被験者体験を通して——	共同	2008年9月	第72回日本心理学会	濱野清志, 金山由美, 馬場天信		
スクールカウンセリングからみた中学生のこころと身体 — チーム支援の実際 —	単独	2009年9月	第48回日本心身医学会近畿地方会シンポジウムシンポジスト			
アレキシサイミアの表情認知障害について	単独	2009年9月	第73回日本心理学会企画シンポジウムシンポジスト			
減量成功後の体重維持に関わる心理的特性の変化	共同	2009年9月	第30回日本肥満学会	中川明仁, 木村穰, 齋藤瞳, 田嶋佐和子, 上田加奈子, 馬場天信, 佐藤豪		
減量プログラム介入前後におけるアレキシサイミア傾向の比較検討	共同	2010年5月	第51回日本心身医学会総会	馬場天信, 佐藤豪, 齋藤瞳		

アレキシサイミアと成人愛着スタイル、就学前母子関係の関連	単独	2010年9月	第74回日本心理学会		
身体疾患に対する心理臨床的アプローチの量的基礎研究(4)	共同	2010年9月	第74回日本心理学会	濱野清志、金山由美、馬場天信、駿地真由美、深尾篤嗣、村川治彦	
身体疾患に対する心理臨床的アプローチの量的基礎研究(5)	共同	2010年9月	第74回日本心理学会	金山由美・濱野清志・馬場天信・駿地真由美・深尾篤嗣・村川治彦	
身体疾患に対する心理臨床的アプローチの量的基礎研究(1) 一年代・性別による選択された身体的病内容の比較—	共同	2010年9月	日本心理臨床学会第29回大会	馬場天信、駿地真由美、深尾篤嗣、濱野清志、金山由美、村川治彦	
身体疾患に対する心理臨床的アプローチの量的基礎研究(2) 一病の体験による生活・生き方の変化—	共同	2010年9月	日本心理臨床学会第29回大会	駿地真由美、馬場天信、深尾篤嗣、濱野清志、金山由美、村川治彦	
身体疾患に対する心理臨床的アプローチの量的基礎研究(3) 一年代・性別から見た病体験影響度の比較—	共同	2010年9月	日本心理臨床学会第29回大会	深尾篤嗣、馬場天信、駿地真由美、濱野清志、金山由美、村川治彦	
Posttraumatic Growth(外傷後成長)に影響を及ぼす諸要因の検討(1) —「聞き手」の存在および年齢要因の比較—	共同	2010年9月	日本心理臨床学会第29回大会	頭師有里、馬場天信	

消化器症状の悪化に影響を及ぼす諸要因の検討 —アレキシミア、愛着スタイル、就学前母子関係からの検討—	単独	2010年9月	日本健康心理学会第23回大会			
怒り抑制及び信念傾向が心身の健康に及ぼす影響	共同	2010年9月	日本健康心理学会第23回大会	秋山睦、馬場天信		
肥満患者の活動性に関わる心理的特性についての検討	共同	2010年10月	第31回日本肥満学会	中川明仁・木村穰・田嶋佐和子・上田加奈子・馬場天信・斎藤瞳・佐藤豪		
経常的研究交流委員会企画シンポジウム「生活習慣病の改善および予防に関わるパーソナリティ」指定討論者	単独	2010年10月	日本パーソナリティ心理学会第19回大会			
【学会における主な活動】						
2005年7月～2007年6月	日本心理学会専門別代議員(第3部門)					
2009年7月～現在	日本心理学会専門別代議員(第3部門)					
2010年5月～現在	日本感情心理学会理事					
2010年6月～現在	日本心身医学会近畿支部代議員					
【その他研究活動上特記すべき事項】			年月日	備 考		
日本学術振興会科学研究費補助金(若手研究 B 課題番号 21730572)(2009年～2013年)「感情発達と関係性に注目したアレキシミア形成要因に関する実証的研究」(研究代表者)			2009年4月～2014年3月	科学研究費補助金の獲得		
日本学術振興会科学研究費補助金(基盤研究 B 課題番号 21330163)(2009年～2013年)「身体疾患に対する心理臨床的アプローチの基礎研究」(研究分担者)			2009年4月～2014年3月	科学研究費補助金の獲得		

文部科学省 科学技術総合研究委託費による委託業務「重要政策課題への機動的対応の推進」プログラム「意識の先端的脳科学がもたらす倫理的・社会的・宗教的影響の調査研究」における臨床心理・宗教的・精神的側面の研究における研究担当者	2007年4月～2008年3月	
---	-----------------	--

Ⅲ社会活動（3カ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）

社会における活動	年月日	備 考
「本人の申し出により非公表とした。」		

Ⅳ大学運営活動（3カ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）（2011年度就任教員は、2011年度の本学での学内職務及び大学業務をご記入願います。）

大学運営における活動	年月日	備 考
【学内職務】 入試主事	2008年～2009年	入試主事として、「追手門心理はここが違う」のパンフレット作成とパネル作成を行い、オープンキャンパスの充実をはかった。また指定校推薦枠の大幅な見直しを行った。
自己評価・自己点検医院	2010年～現在	
【大学業務】 「本人の申し出により非公表とした。」		

2011年度 教員活動評価調査票 (記入用紙)

東 正訓 1/7

所属	心理学部 心理学科	職名	教授	氏名	東 正訓	学位	社会学修士(1988年 3月)
----	-----------	----	----	----	------	----	-----------------

I 教育活動 (3カ年<2010年度、2009年度、2008年度>の活動についてご記入願います。)

【担当科目】 (2011年度就任教員は、2011年度の本学担当科目をご記入願います。)

1. 学部担当科目

社会心理学、文化心理学、心理統計法、心理測定法、心理学研究法、心理学的データ解析、ビジネスリサーチ演習、特殊演習1、卒業演習1・2、
新入生演習、ライフスタイル演習2

2. 大学院担当科目

社会・産業・犯罪心理学コース演習 I D、社会・産業・犯罪心理学コース演習 II D、社会心理学特論、社会心理学演習1、社会心理学演習2、
心理統計法特論、上級社会心理学演習

3. 非常勤等担当科目(括弧内に大学名を記入してください) (2011年度就任教員は、前任校での担当科目についてもご記入願います。)

心理学(関西大学)、心理統計法特論(帝塚山大学大学院)

【教育業績】 (2011年度就任教員は、前任校での教育業績についてもご記入願います。)

教育実践上の主な業績	年月日	備 考
1. 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 実社会との連携による学生参加型演習の試み	2009年6月～	ビジネスリサーチ演習で、具体的企業と連携して、テレビCM、会社イメージなどの計量心理学的分析を指導し、企業担当者の前で報告させている。
2. 作成した教科書、教材、参考書 「ワークショップ大学生生活の心理学(ナカニシヤ出版)」	2009年3月	企画編集を担当し、分担執筆(2章2節 pp.26-36;5章2節自己概念と自尊心、pp.95-109)した。
3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 「心理学部カリキュラムの運営状況と履修指導」(心理学部 FD・自己評価委員会年報「自己評価」2007年度所収)	2008年3月	教務委員として新たな心理学部カリキュラムの特徴、具体的運営方法、学科内の合議過程や残された課題について記したものである

「Academic adviser (AA)の現状と課題」(心理学部 FD・自己評価委員会年報「自己評価」2008 年度所収)	2009 年 3 月	全学にさきがけ心理学部で導入したアカデミックアドバイザー制度の経緯、概要、残された課題について記したものである。
ライフスタイル演習 2 の概要(心理学部 FD・自己評価委員会年報「自己評価」2010 年度所収)	2011 年 3 月	心理学科のユニークな演習科目としてのライフスタイル演習2の教育目標や運営の概要について報告した。
ライフスタイル演習 2(藤本・東)担当の課題について(心理学部 FD・自己評価委員会年報「自己評価」2010 年度所収)	2011 年 3 月	ライフスタイル演習の担当課題について報告した。
「授業改善をどのように行っているか」班の報告(心理学部 FD・自己評価委員会年報「自己評価」2010 年度所収)	2011 年 3 月	2010 年度第 2 回心理学部 FD 談話会報告における班でのディスカッション内容をまとめ、考察した。
4. その他教育活動上特記すべき事項 心理学部教務委員	2007 年 4 月～2009 年 3 月	心理学科教務委員として、学部カリキュラムの調整と運営、履修指導を担当した。
情報 FD プロジェクト委員	2005 年 4 月～2009 年 3 月	全学の情報教育の刷新を目指して、各学科に所属する情報教育に関わる教員を中心として活動した。
心理学部心理学科学科長	2009 年 4 月～2010 年 3 月	学科長として、学科の教務、予算、入試関係、学科内の庶務に携わった。教務委員の時から継続的にかかわってきた特別配慮が必要な学生らの履修、修学、大学適応の指導、履修科目担当者らとの折衝にあたった。
心理学研究科主任	2010 年 4 月～	研究科の教務、予算、外部との折衝に主任として関わっている。

II 研究活動（5カ年〈2010年度、2009年度、2008年度、2007年度、2006年度〉の活動についてご記入願います。）

著書・論文等の名称	著書・共著の別	発行または発表年月	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数	査読の有無
【著書】						
ワークショップ大学生生活の心理学	共著	2009年3月	ナカニシヤ出版	著者：藤本忠明、東正訓、荒木浩子、小城英子、小高恵、駿地真由美、田中秀明、對梨成一、永野浩二、橋本尚子、馬場天信、広沢俊宗、三川俊樹	pp.26-36 ; pp.95-109	
【論文】						
パーソナリティ心理学と社会心理学における個人差変数の理論的構図（Ⅱ）－態度－行動関係をめぐる論争と計画的行動理論－	単著	2007年3月	追手門学院大学心理学部紀要第1号		181-206頁	無
交通規範に対する態度および違反行動とドライバーの年齢との関連	共著	2007年6月	交通科学, vol37, No.2	<第1著者>東 正訓 <共著者>藤本 忠明・内山伊知郎・坂口 哲司・山口 直範・中西 誠	4-14頁	有
高校生の海外留学プログラムの評価－地域連携型研究の一試みとして－	単著	2008年3月	地域支援センター紀要第4号		2-12頁	無
モビリティ・マネジメントに関する考察－社会心理学の視点から－	単著	2008年11月	交通科学 Vol39, No1		12-20頁	無
国政選挙における労働組合員の投票行動の一貫性と非一貫性	単著	2009年3月	追手門学院大学心理学部紀要第3巻		73-101頁	無

リサイクル行動の規定因に関する研究	共著	2010年3月	追手門学院大学地域支援心理研究センター紀要第6号	<第一著者>東 正訓 <共同執筆者>西道実・永野光朗・岩井洋・木下広美・吉田純子	12-20頁	無
「民主党への支持／不支持傾向に「組合活動に対する態度」が及ぼす影響」(pp65-70)、「前回の参院選と今回の衆院での組合員の投票行動の一貫性と非一貫性」(pp71-88)、「組合の政治活動への組合員の理解を深めることで民主党支持者をふやそうー試論的提案」(pp89-95)	単著	2010年12月	第46回共同調査 組合員政治意識総合調査報告(社団法人国際経済労働研究所)			無
総論 交通政策と住民参加	単著	2010年12月	交通科学 Vol.41, No.1		1-2頁	無
交通政策と住民参加に関する文献リスト	共通	2010年12月	交通科学 Vol.41, No.1	<第一著者>東 正訓 <共同執筆者>赤松茉莉花	49-51頁	無
【その他】						
第44回衆議院選挙における労働組合員の投票行動に関するアンケートデータの分析ー小泉内閣および民主党への支持／不支持を規定した要因は何かー	単独	2006年9月	日本社会心理学会第47回大会発表論文集(於 東北大学)		716-717頁	
二輪運転者の交通規範に対する態度と行動Ⅱー3S違反(Signal,Sake,Speed)を中心にした車種別の考察ー	共同	2006年7月	日本交通心理学会2006年度大会(第71回大会 於 実践女子大学)	<口頭発表者>山口直範 <共著者>中西 誠 藤本忠明 東 正訓 内山伊知郎 坂口哲司	558-559頁	

労働組合員の投票参加傾向を規定する要因分析	単独	2007年9月	日本社会心理学会第48回大会 発表論文集(於 早稲田大学)		558-559頁	
労働組合員の投票参加傾向を規定する要因分析Ⅱ	単独	2008年11月	日本社会心理学会第49回大会 発表論文集(於 鹿児島大学)		394-395頁	
公共目的にもとづくキャンペーンを効果的にすすめるために	単独	2009年10月	日本社会心理学会第50回大会 発表論文集(於 大阪大学)		394-395頁	
労働組合員の投票参加傾向を規定する要因構造—組合の政治活動に対する態度変数を加えたモデルの検討—	単独	2010年9月	日本社会心理学会第51回大会 発表論文集(於広島大学)		332-333頁	
労働組合員の民主党支持傾向を規定する要因構造の分析	単独	2011年9月	日本社会心理学会第51回大会 発表論文集(於名古屋大学)		177頁	
【学会における主な活動】						
2009年6月～2010年6月		大阪交通科学研究会理事				
2005年6月～		「交通科学」編集委員				
2010年6月～		一般社団法人交通科学研究会理事				
【その他研究活動上特記すべき事項】				年月日	備	考
日本社会心理学会刊行「社会心理学研究」投稿論文の審査担当				2008年7月		
大阪交通科学研究会発行「交通科学」投稿論文の審査担当				2008年8月		
「交通科学(Vol41, No.1)」特集「交通政策と住民参加」企画編集担当				2010年12月		

Ⅲ社会活動（3カ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）

社会における活動	年月日	備 考
安全運転管理者等法定講習 特別講義講師	2007年4月～現在に至る(年に数回)	(財)大阪府交通安全協会の委嘱を受け、大阪府下において、安全運転管理者向けの心理学的な内容の講義を行なうものである。

Ⅳ大学運営活動（3カ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）（2011年度就任教員は、2011年度の本学での学内職務及び大学業務をご記入願います。）

大学運営における活動	年月日	備 考
【学内職務】 ベンチャービジネス研究所所員	2007年4月～2010年3月	同研究所の立ち上げ、軌道に載せるまでの運営に関する会議、シンポジウムに参加した。2011年1月17日、本学学生対象のビジネスプラン審査委員を務める。2011年2月グランキューブ(大阪国際会議場)にて産学官大会にて、「CMの心理学」と題して発表。
地域支援心理研究センター所員	2005年4月～現在	追手門学院大手前中高における海外留学プログラムの評価研究、地域単位で行なう向社会的なキャンペーンを効果的に運営するための社会心理学的な理論研究とともに、環境、交通、犯罪問題に関するキャンペーン実践に関する事例検討も行なった。
総合情報教育センター委員	2006年4月～2009年3月	心理学部選出委員として参加した。

2011年度 教員活動評価調査票（記入用紙）

<p>【大学業務】 出張講義</p>		
<p>尼崎高校(9月12日)、水口東高校(3月19日)</p>	<p>2008年度</p>	
<p>大阪府立桜塚高校(7月10日)、追手門学院茨木高校(5月15日)</p>	<p>2009年度</p>	
<p>西宮高校(9月1日)、牧野高校(9月30日)、八尾翠翔高校(10月4日)</p>	<p>2010年度</p>	
<p>オープンキャンパス</p>	<p>2007年度(7月16日、8月25日)、 2008年度(6月22日、8月30日、9月21日)、 2009年度(6月21日、8月8日、9月5日) 2010年度(6月20日、8月1日、8月21、22日)、 2011年度(7月17日、8月7日、8月28日)</p>	
<p>指定校訪問</p>	<p>2007年度(7月16日、8月25日)、 2008年度(6月22日、8月30日、9月21日)、 2009年度(7月10日、7月27日、7月31日)</p>	

2011年度 教員活動評価調査票 (記入用紙)

鋒山 泰弘 1/3

所属	心理学部 心理学科	職名	教授	氏名	鋒山 泰弘	学位	教育学修士
----	-----------	----	----	----	-------	----	-------

I 教育活動 (3カ年<2010年度、2009年度、2008年度>の活動についてご記入願います。)

【担当科目】 (2011年度就任教員は、2011年度の本学担当科目をご記入願います。)

1. 学部担当科目

教育方法学、教育課程論、社会科教育論2、社会科・公民科教育論、特別活動論、教育実習、教職実践研究、教職総合演習

2. 大学院担当科目

なし

3. 非常勤等担当科目(括弧内に大学名を記入してください) (2011年度就任教員は、前任校での担当科目についてもご記入願います。)

教職教育論(京都大学)

【教育業績】 (2011年度就任教員は、前任校での教育業績についてもご記入願います。)

教育実践上の主な業績	年月日	備 考
1. 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 特別活動論においてグループワークによるロール・プレイを授業に取り入れている。	2008年4月から	
2. 作成した教科書、教材、参考書 分担執筆『教育実習 64 の質問』(寺崎昌夫・黒澤英典・別府昭郎[監修]学文社、)69-70頁,109-114頁,117-118頁	2008年4月	
3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
4. その他教育活動上特記すべき事項 教育採用試験を受験する学生に対する個別指導	2008年4月から	

2011年度 教員活動評価調査票（記入用紙）

鋒山 泰弘 2/3

Ⅱ 研究活動（5カ年〈2010年度、2009年度、2008年度、2007年度、2006年度〉の活動についてご記入願います。）

著書・論文等の名称	著書・共著の別	発行または発表年月	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	编者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数	査読の有無
【著書】						
学びのための教師論	共著	2007年3月	勁草書房	グループ・ディダクティカ	223-249頁	
大学における「学びの転換」とは何か	共著	2008年3月	東北大学出版会	東北大学高等教育開発推進センター	39-52頁	
授業と評価をデザインする：社会	共著	2010年6月	日本標準	鋒山泰弘、赤沢早人	68-108頁	
【論文】						
「PISA型学力」と評価を生かした授業改善の課題	単著	2007年3月	追手門学院大学教職課程年報 第15号	追手門学院大学教職課程	7-14頁	無
イギリスにおけるシティズンシップ教育と日本の特別活動	単著	2008年3月	追手門学院大学 教職課程年報 第16号	追手門学院大学教職課程	17-32頁	無
学習指導要領の戦後史と教育課程研究の課題	単著	2008年12月	人間と教育 NO.60	民主教育研究所	45-52頁	無
教育実習における授業の計画性と柔軟性について—「教育実習日誌」の内容をもとにして—	単著	2009年3月	追手門学院大学 教職課程年報 第17号	追手門学院大学教職課程	7-14頁	無
小学校の新しい教科書をどう生かすか	単著	2010年11月	季刊 ひろば 京都の教育	京都教育センター	24-29頁	無
【その他】						
イギリスのコンプリヘンシブ教育のための教科教育改革	学会発表	2008年7月13日	日英教育学会第17回大会シンポジウム	会場：首都大学東京南大沢キヤンパス		
学力評価制度・実践の比較研究の立場から	学会発表	2009年11月29日	教育目標・評価学会第20回大会公開シンポジウム「学力と評価の最前線」	会場：京大会館		

【学会における主な活動】		
2008年12月～	教育目標・評価学会常務理事	
2008年11月～	関西教育学会理事	
【その他研究活動上特記すべき事項】	年月日	備 考
日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究(B)課題番号 20330190、研究課題「学校教師の力量形成を志向した授業研究の方法論に関する研究」研究代表者 藤原彰教授(兵庫県立大学)の研究分担者	2008年4月～2010年3月	

Ⅲ社会活動（3ヵ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）

社会における活動	年月日	備 考
京都府立朱雀高校教職員夏季研修会講師:テーマ「学力評価と授業改革」	2009年8月21日	
第8回京都府私立中学高等学校教育研究大会 第7分科会講師:テーマ「言語活動を充実させる授業～新学習指導要領の趣旨をふまえて～」	2009年10月18日	
湘南学園小学校教職員夏季研修会講師:テーマ「私立小学校における通知表改訂の課題」	2010年8月27日	

Ⅳ大学運営活動（3ヵ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）（2011年度就任教員は、2011年度の本学での学内職務及び大学業務をご記入願います。）

大学運営における活動	年月日	備 考
【学内職務】		
資格課程教室教務委員	2008年4月～	
教育実習運営委員	2008年4月～	
【大学業務】		

2011年度 教員活動評価調査票 (記入用紙)

三川 俊樹 1/6

所属	心理学部 心理学科	職名	教授	氏名	三川 俊樹	学位	学術修士、大阪大学、1986年3月取得
----	-----------	----	----	----	-------	----	---------------------

I 教育活動 (3カ年<2010年度、2009年度、2008年度>の活動についてご記入願います。)

【担当科目】 (2011年度就任教員は、2011年度の本学担当科目をご記入願います。)

1. 学部担当科目

キャリアデザイン論、カウンセリング心理学、学校心理学(隔年)、キャリアガイダンス、チャイルドサポート演習、新入生演習、特殊演習2、ライフスタイル演習2、生涯発達心理学演習(隔年)、生涯発達心理学講読、卒業研究1・2

2. 大学院担当科目

教育心理学特論、学校カウンセリング特論(隔年)、進路指導特論(隔年)、臨床発達心理実習、生涯発達・生涯教育心理学コース演習1・2

3. 非常勤等担当科目(括弧内に大学名を記入してください) (2011年度就任教員は、前任校での担当科目についてもご記入願います。)

なし

【教育業績】 (2011年度就任教員は、前任校での教育業績についてもご記入願います。)

教育実践上の主な業績	年月日	備 考
1. 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 学生ボランティアの心理教育的援助能力の開発	2006年4月～2009年3月	教育ボランティア学生の心理教育的援助能力の育成に効果的な研修プログラムを開発し、その成果を「教育ボランティアハンドブック」としてまとめた。
2. 作成した教科書、教材、参考書 『大学生のためのキャリアガイドブック』(北大路書房)	2009年3月	大学生の自立・自律のためのキャリアデザインの指針と、大学4年間の学びのポイントをまとめた。
『ワークショップ大学生活の心理学』(ナカニシヤ出版)	2009年3月	卒業後の進路を考える視点をキャリアデザイン、自己理解、職業理解の点からまとめた。

3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 大学におけるキャリア教育－3年間のキャリアデザイン論(選択科目)を振り返って(『教育研究所紀要』第26号)	2008年3月	大学におけるキャリア教育のあり方について述べ、2005年度から担当した「キャリアデザイン論」の授業内容と成果を学生の小レポートと「キャリア成熟尺度」により評価した結果をまとめた。
4. その他教育活動上特記すべき事項		
大学院心理学研究科(旧文学研究科)心理学専攻における修士論文指導	2004年4月～	修士論文主査
大学カウンセラー(日本学生相談学会認定)	2001年5月～	
学生相談室長	2004年4月～2006年4月	

Ⅱ 研究活動（5カ年〈2010年度、2009年度、2008年度、2007年度、2006年度〉の活動についてご記入願います。）

著書・論文等の名称	著書・共著の別	発行または発表年月	発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	編者・著者名(共著の場合のみ記入)	該当頁数	査読の有無
【著書】						
キャリア・カウンセリング ハンドブック	共著	2006年11月	中部日本教育文化会	日本キャリア教育学会編	pp.9-12, pp.88-100. (17頁)	
ほめて伸ばす！叱って育てる！	単著	2007年9月	東京書籍		213頁	
キャリア教育の系譜と展開	共著	2008年3月	(社)雇用問題研究会	仙崎武、藤田晃之、三村隆男、鹿島研之助 ほか	p.269.(1頁)	
キャリアコンサルタント その理論と実務	共著	2008年3月	(社)日本産業カウンセラー協会	木村周、桐村晋次、三川俊樹 ほか	pp.82-111.(30頁)	
キャリア教育概説	共著	2008年9月	東洋館出版社	日本キャリア教育学会編	pp.8-22.(5頁)	
ワークショップ 大学生生活の心理学	共著	2009年3月	ナカニシヤ出版	藤本忠明・東正訓編	pp.227-242.(16頁)	

大学生のためのキャリアガイドブック	共著	2009年3月	北大路書房	寿山泰二・宮城まり子・三川俊樹 ほか	pp.42-59,pp.83. (18頁)	
学生相談ハンドブック	共著	2010年2月	学苑社	日本学生相談学会50周年記念編集委員会編	pp.69-71,pp.74-77. (7頁)	
実践キャリアデザインー高校・専門学校・大学	共著	2010年7月	ナカニシヤ出版	生駒俊樹編	pp.103-117.(15頁)	
【論文】						
大学におけるキャリア教育ー3年間のキャリアデザイン論(選択科目)を振り返って	単著	2008年3月	追手門学院大学教育研究所紀要第26号		pp.43-63.(21頁)	無
【その他】						
辞典・報告書等						
カウンセリング心理学事典「キャリア心理学との異同・関係」	分担	2008年11月	誠信書房	國分康孝(監修)	pp.11-13.(3頁)	
産業カウンセリング辞典「職業発達理論」「信頼関係形成期」「逐語記録」「スーパー」「中西信男」	分担	2008年11月	金子書房	日本産業カウンセリング学会(監修)	5項目担当	
家庭の養育力・教育力の支援	単著	2009年3月	平成16年度～平成20年度「私立大学学術研究高度化推進事業」(オープン・リサーチ整備事業)研究成果報告書	井上知子(研究者代表)	pp.129-153.(5頁)	
キャリア研究を学ぶ25冊を読む	編集	2009年11月	泉文堂	日本キャリアデザイン学会(監修)	編集委員	
キャリア形成に必要な力とは	単著	2011年2月	(社)私学経営研究会	私学経営(第432号)	pp.47-51.(5頁)	

【学会における主な活動】		
2001年5月～現在	日本学生相談学会理事	
2009年10月～現在	日本教育カウンセリング学会理事	
2010年9月～現在	日本カウンセリング学会理事	
2010年10月～現在	日本キャリア教育学会副会長	
2006年9月～2011年9月	日本産業カウンセリング学会常任理事	
【その他研究活動上特記すべき事項】	年月日	備 考
日本カウンセリング学会 奨励賞受賞(第12号)	1990年5月	
日本産業カウンセリング学会 学会賞受賞(第11号)	2010年9月	

Ⅲ社会活動（3カ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）

社会における活動	年月日	備 考
日本学生支援機構「キャリア支援研修会」に関する協力者会議委員	2006年5月～現在	2009年度「就職・キャリア支援研修会」、2010年度以降は「就職・キャリア支援教職員研修会」に名称変更し、現在に至る
貝塚市次世代育成支援行動計画推進委員会委員長	2006年5月～2009年3月31日	2009年に後期行動計画策定のため再任
国立教育政策研究所「学校におけるキャリア教育に関する総合的研究」研究協力者	2008年4月～2010年3月	
大阪府地域家庭教育推進協議会委員長	2009年4月～2010年3月	
大阪市教育振興基本計画(仮称)策定懇話会委員	2009年8月～2011年3月	
貝塚市次世代育成支援後期行動計画推進委員会委員長	2009年8月～2011年3月31日	後期行動計画策定のため再任
箕面市立とどろみの森学園 研究開発学校運営指導委員長	2010年4月～2011年3月	

泉南市教育支援センター推進委員会委員	2010年4月1日～2011年3月31日	
兵庫県教育委員会 平成22年度高校への特別支援学校分教室設置調査研究事業に係る高校との交流及び共同学習推進委員会副委員長	2010年4月～2011年3月	
大阪府立大学「キャリア教育指導者養成研修」に係る地域協議会委員	2010年5月21日～2011年3月	
文部科学省 大学生の就業力育成支援事業委員会 書面審査委員	2010年6月9日～2010年12月	
茨木市社会教育委員	2010年7月1日～現在	
キャリア・コンサルティング研究会－大学等キャリア教育部会(厚生労働省委託事業「キャリア・コンサルティング調査・研究事業」)委員	2010年8月4日～2012年3月	
箕面市教育センター 教育研究スーパーバイザー	2010年5月1日～2012年3月	

IV大学運営活動（3カ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）（2011年度就任教員は、2011年度の本学での学内職務及び大学業務をご記入願います。）

大学運営における活動	年月日	備 考
【学内職務】		
キャリア開発部長	2006年5月～2010年3月	
サテライトオフィス室長	2008年4月～2010年3月	2007年3月～オフィス阪急茨木室長
【大学業務】		
出張授業	2008年度	大阪府立阿武野高等学校、大阪国際大学附属滝井高等学校、兵庫県立伊丹高等学校、兵庫県立鳴尾高等学校
出張授業	2009年度	和歌山県立日高高等学校、大阪市立東高等学校、兵庫県立伊丹高等学校

出張授業	2010年度	滋賀県立大津高等学校、大阪府立東百舌高等学校、滋賀県立水口東高等学校、つくば開成高等学校(京都校)
オープンキャンパス、進学相談会	2009年度	「保護者向け説明会」を担当
【その他大学運営活動上特記すべき事項】		
追手門学院 学校経営管理セミナー「キャリア教育における高大連携」	2009年9月19日	
追手門学院 中・高等学校教職員研修	2009年7月～8月	
平成21年度「大学教育・学生支援推進事業」【テーマB】学生支援推進プログラム採択「追手門型エンパワメント・アプローチによる就職支援モデルの展開」	2009年10月～2012年3月	シンポジウム・フォーラムの企画およびコーディネーター、および報告書の作成
学生部委員	2010年4月～現在	

2011年度 教員活動評価調査票 (記入用紙)

溝部 宏二 1/7

所属	心理学部 心理学科	職名	准教授	氏名	溝部 宏二	学位	博士(医学)、九州大学、1996年3月取得
----	-----------	----	-----	----	-------	----	-----------------------

I 教育活動 (3カ年<2010年度、2009年度、2008年度>の活動についてご記入願います。)

【担当科目】 (2011年度就任教員は、2011年度の本学担当科目をご記入願います。)

1. 学部担当科目 精神医学、心理療法演習 2B、心理検査法演習 2C
2. 大学院担当科目 精神医学特論、臨床心理実習
3. 非常勤等担当科目(括弧内に大学名を記入してください) (2011年度就任教員は、前任校での担当科目についてもご記入願います。) 心理学概論、精神医学(鳥取大学医学部)、精神保健(西九州大学健康福祉学部)、精神医学・心身医学(上智大学グリーンケア研究所)

【教育業績】 (2011年度就任教員は、前任校での教育業績についてもご記入願います。)

教育実践上の主な業績	年月日	備 考
1. 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業評価(心理学研究科「精神医学特論」)	2008年3月	総合評価 4.51(大学平均:3.84、学科平均 3.82)
授業評価(大学心理学部・社会学部「精神医学」)	2009年9月	総合評価 4.30(大学平均:3.91、学科平均 3.95)
授業評価(大学心理学部・社会学部「精神医学」)	2010年9月	総合評価 4.42(大学平均:3.92、学科平均 4.04)
授業評価(心理学研究科「精神医学特論」)	2011年3月	総合評価 5.00(大学平均:4.16、学科平均 4.16)
2. 作成した教科書、教材、参考書 講義レジュメ	2008年3月～現在	「精神医学」は授業の度にかなりボリュームのあるレジュメを作成して配布している。授業時間だけでは消化しきれない量であるが、将来的には大学院生用の「精神医学特論」のレジュメと合わせて教科書にする予定であるので、「(講義を聞いていなくても)読めば理解できる」を目指したレジュメになっていると考えている。

3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 追手門学院大学地域支援心理研究センター2008年度公開シンポジウム「学校における教育相談の在り方ーカウンセリング・マインドを活かすためにー」	2009年1月	指定討論者
文科系大学にて「精神医学」を講義してーその開講学年・学科についての検討ー	2010年3月	追手門学院大学心理学部/心理学研究科 FD・自己評価第4号 pp66-70
授業改善のための工夫ー「精神医学」を通じてー	2011年3月	追手門学院大学心理学部/心理学研究科 FD・自己評価第5号 pp38-41
4. その他教育活動上特記すべき事項 追手門学院高校(茨木)学生相談 追手門学院大学大学院生(修士)臨床指導 追手門学院大学大学院生(修士)スーパーバイズ 追手門学院大学研修相談員スーパーバイズ 追手門学院大学修士修了生スーパーバイズ	2008年4月ー現在 2008年4月ー現在 2008年4月ー現在 2008年4月ー現在 2008年4月ー現在	

II 研究活動（5カ年〈2010年度、2009年度、2008年度、2007年度、2006年度〉の活動についてご記入願います。）

著書・論文等の名称	著書・共著の別	発行または発表年月	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数	査読の有無
【著書】 アリス・メダリア, ナディン・レヴハイム, ティファニー・ハーランズ著 中込和幸, 最上多美子監訳 精神疾患における認知機能障害の矯正法	共訳	2008年12月	星和書店	訳者：中込和幸、最上多美恵、池澤聰、植田俊幸、片山征爾、挟間玄以、兼子幸一、前田和久、 <u>溝部宏二</u> 、山田武史	pp23-36	

【論文】						
ボンディング障害に対して内観療法が奏功した一例	共著	2006年5月	精神経誌 108	古市厚志、 <u>溝部宏二</u> 、貫名秀、川原隆造	pp.449-458	有
大学病院での精神科研修プログラム-鳥取大学の場合-	共著	2007年3月	臨床精神医学 36	<u>溝部宏二</u> 、中込和幸	pp.261-268	無
大学医局システムと地方精神医療	共著	2007年9月	精神科 11	<u>溝部宏二</u> 、中込和幸	pp.228-233	無
神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害(摂食障害を含む)の疾患の概念と理解	共著	2007年11月	精神経誌 109	<u>溝部宏二</u> 、中込和幸	pp.1157-1164	無
地域精神医療の変遷と今後の展開	単著	2008年3月	追手門学院大学地域支援心理研究センター紀要 4		pp.13-20	無
摂食障害に対するアディクションアプローチ	単著	2008年5月	アディクションと家族 25(1)		pp.23-28	無
15番目染色体部分トリソミーを持つ精神病性障害の1症例	共著	2008年6月	精神科治療学 23(6)	宮城徹朗、松本寛史、 <u>溝部宏二</u>	pp.755-757	有
集団遊戯療法にて大学院生に生じる「セラピストとしての心理的展開」	共著	2008年12月	追手門学院大学心のクリニック紀要 5	<u>溝部宏二</u> 、野上彩、小出さやこ、赤坂直紀、好田史尚、蓬萊暁、宮本哲雄	pp22-33	無
「摂食障害のこころ」はわかるのか？—アディクションアプローチの勧め—	単著	2009年2月	心療内科 13		pp157-163	無
「遊戯療法」か「療育」か！—集団遊戯療法中に大学院生セラピストに生じた心理的展開より—	共著	2009年12月	追手門学院大学心のクリニック紀要 6	<u>溝部宏二</u> 、石森大介、近藤容子、頭師有里、高橋慶子、高村寛、松浦馨	pp21-35	無

うつ病女性患者への集中内観療法による介入研究－ストレス対処行動の変化－	共著	2010年4月	精神医学 52	朴盛弘、 <u>溝部宏二</u> 、川原隆造。中込和幸	pp393-400	有
個がチームとして機能するには－集団遊戯療法中に大学院生セラピストに生じた心理的展開より－	共著	2010年12月	追手門学院大学心のクリニック 紀要 7	<u>溝部宏二</u> 、川杉麻由美、寺脇弥生、村井千哲、伊藤友厚、岩佐浩、河野達也、西澤一哉、村上誠治	pp24-41	無
精神の弁証法としての内観療法、その可能性と限界－奥村二吉に学ぶ－	単著	2010年12月	内観医学 12		pp13-25	無
【その他】						
「他科からみた頭痛」：精神科の立場から	シンポジスト	2006年11月	第34回日本頭痛学会教育セミナー	<u>溝部宏二</u> 、中込和幸		
摂食障害患者に対する臨床カルパス作成の試み	口演	2006年11月	第30回日本心身医学会中国・四国地方会	<u>溝部宏二</u> 、植田俊幸、挟間玄以、山田武史、中込和幸		
専門医のための特別講座 3「神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害(摂食障害を含む)の疾患の概念と病態の理解」	教育講演	2007年5月	第103回日本精神神経学会	<u>溝部宏二</u> 、中込和幸		
「暴力・抑うつに対するアディクションアプローチ」：摂食障害に対するアディクションアプローチ	シンポジスト	2007年11月	第18回日本嗜癖行動学会	<u>溝部宏二</u> 、中込和幸		
嗜癖としての摂食障害	口演	2008年7月	第46回日本心身医学会近畿地方会	<u>溝部宏二</u>		

「内観療法の内と外」:精神の弁証法としての内観、その可能性と広がりおよび限界-奥村二吉に学ぶ-	シンポジスト	2009年10月	第12回日本内観医学会	溝部宏二		
【学会における主な活動】						
2006年4月～2007年9月	西日本神経精神神経学会幹事(2006年4月以前より継続)					
2006年4月～2007年9月	山陰精神神経学会幹事(2006年4月以前より継続)					
2006年4月～2007年9月	山陰小児心身症研究会幹事(2006年4月以前より継続)					
2006年4月～2008年3月	日本心身医学会代議員(2006年4月以前より継続)					
2006年4月～現在	日本心身医学会心身医療専門医(2006年4月以前より継続)					
2007年5月	第58回日本心身医学会総会(一般演題座長)					
2006年4月～現在	日本内観医学会評議員(2006年4月以前より継続)					
2007年11月	第10回日本内観医学会(一般演題座長)					
2008年4月～現在	日本精神神経学会専門医					
2007年5月	第103回日本精神神経学会(教育講演)					
【その他研究活動上特記すべき事項】			年月日	備 考		
特記事項なし						

Ⅲ社会活動（3カ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）

社会における活動	年月日	備 考
箕面市萱野中央人権センターにて「発達障害の子供への具体的な対処の方法」について講演	2008年12月	箕面市萱野中央人権センターらいとぴあ 21」で、発達障害児の支援活動ボランティアを行っているスタッフに対して講演会を行った。

「不登校生・高校中退者のための学校相談会」にて教育講演(第1回～第2回)	2010年7月 2011年1月	サンケイリビング新聞社主催の教育相談会が2010年夏から年2回の頻度で開催された。「不登校生・高校中退者のための学校相談会」で行った教育講演の題目は、第1回「不登校のこころと脳そして身体～家族にできること～」、第2回「不登校のこころと脳そして身体～家族にできること～」
地域支援心理研究センター「心のクリニック室長」として地域住民への心理支援	2008年4月～現在	追手門学院(大学・大学院・大学職員以外)園児・児童・学生・職員・父兄のメンタルヘルスの向上に関与。また、非常勤心理相談員や大学院生と共に、地域住民に対してカウンセリングを行って、主に北摂地域のメンタルヘルスの向上に努める。特に発達障害児や疑いのある幼児に対して、茨木市の障害福祉センターをはじめ、各地の児童相談書などと提携して「プレイセラピー」を行った。また、2011年1月には、地域住民の為に無料発達相談会を行った。
京都府臨床心理士会 学校臨床心理士部会 右京西京班 09年度1月班別研修会にて「SCのケースワーク的介入を中心とした発表事例におけるコメントター」	2010年1月	スクールカウンセラーが、対応困難事例を報告し、それに対して「精神医学的」「臨床心理学的」それぞれの立場からコメントを行った。

2011年度 教員活動評価調査票（記入用紙）

溝部 宏二 7/7

IV大学運営活動（3ヵ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）（2011年度就任教員は、2011年度の本学での学内職務及び大学業務をご記入願います。）

大学運営における活動	年月日	備 考
【学内職務】		
地域支援心理研究センター運営委員	2008年4月～現在	
追手門学院地域支援心理研究センター附属心のクリニック相談室長	2008年4月～現在	
【大学業務】		
OTEMON PRESS No.30 追大先生伝説執筆	2009年6月	
学生相談室だより執筆	2009年11月	

2011年度 追手門学院大学 教員活動評価調査票 【社会学部 社会学科】

◎教員活動評価票各評価領域の記載年度。

- I 教育活動 2010年度、2009年度、2008年度の3カ年。
- II 研究活動 2010年度、2009年度、2008年度、2007年度、2006年度の5カ年。
- III 社会活動 2010年度、2009年度、2008年度の3カ年。
- IV 大学運営活動 2010年度、2009年度、2008年度の3カ年。

〈社会学科〉

岩渕	亜希子	2～4ページ
内海	博文	5～9ページ
柏原	全孝	10～12ページ
加村	隆英	13～17ページ
草山	太郎	18～20ページ
栗山	直子	21～25ページ
清水	学	26～28ページ
城野	充	29～31ページ
辰本	頼弘	32～34ページ
千葉	英史	35～37ページ
沼尻	正之	38～40ページ
平木	宏児	41～43ページ
古川	隆司	44～51ページ
山本	博史	52～56ページ
善積	京子	57～61ページ

2011年度 教員活動評価調査票 (記入用紙)

岩渕 亜希子 1/3

所属	社会学部 社会学科	職名	准教授	氏名	岩渕 亜希子	学位	修士(行動科学)
----	-----------	----	-----	----	--------	----	----------

I 教育活動 (3カ年<2010年度、2009年度、2008年度>の活動についてご記入願います。)

【担当科目】 (2011年度就任教員は、2011年度の本学担当科目をご記入願います。)

1. 学部担当科目 新入生演習、表現演習、家族論、比較家族論、社会調査実習 1・2、社会調査入門 1・2、基礎社会統計、社会統計応用、社会調査文献研究、入門コンピュータ 1・2、学び論
2. 大学院担当科目 なし
3. 非常勤等担当科目(括弧内に大学名を記入してください) (2011年度就任教員は、前任校での担当科目についてもご記入願います。) 社会調査法 I (甲南大学)、社会調査法(梅花女子大学)

【教育業績】 (2011年度就任教員は、前任校での教育業績についてもご記入願います。)

教育実践上の主な業績	年月日	備考
1. 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 「道具のリアリティ:講義で『社会調査』をどう伝えるか」	2009年2月	『追手門学院大学社会学部自己評価』 第3号、pp.23-29.
2. 作成した教科書、教材、参考書 「入門・社会調査法」(轟亮・杉野勇編、法律文化社)	2010年4月10日	分担執筆
「論点ハンドブック 家族社会学」(野々山久也編、世界思想社)	2009年3月20日	分担執筆
3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 「2008年度社会調査実習報告書」	2009年3月	
「2009年度社会調査実習報告書」	2010年3月	
「2010年度社会調査実習報告書」	2011年3月	
4. その他教育活動上特記すべき事項 クラブ顧問(自動車研究部(旧自動車愛好研究会))	2009~2010年度	

Ⅱ 研究活動（5カ年〈2010年度、2009年度、2008年度、2007年度、2006年度〉の活動についてご記入願います。）

著書・論文等の名称	著書・共著の別	発行または発表年月	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	编者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数	査読の有無
【著書】						
『入門・社会調査法』「9章 データファイルの作成」	分担執筆	2010年4月	法律文化社	轟亮・杉野勇編	125-140	
【論文】						
日本の遺伝子診療の現状と課題—「遺伝子診療とその社会文化的側面についてのアンケート調査」から	共著	2008年3月	『医療・生命と倫理・社会』第7号	工藤直志・岩渕亜希子・霜田求・中岡成文・西村ユミ	13-66	有
Constructing Readiness: Process of Genetic Counseling Related to Presymptomatic Diagnosis in Japan	共著	2009年3月	『追手門学院大学社会学部紀要』第3号	IWABUCHI, Akiko and KUDO Tadashi	1-15	無
【その他】						
『論点ハンドブック家族社会学』「階層の再生産と家族」「サポート資源としての家族」「高齢者ケアと家族」「高齢者虐待と家族」	分担執筆	2009年3月	世界思想社	野々山久也	211-214, 233-236, 291-294, 317-320	
『質的調査の方法』「量的調査からみた質的調査」	分担執筆	2010年1月	法律文化社	工藤保則・寺岡伸悟・宮垣元	84-85	
【学会における主な活動】						
なし						
【その他研究活動上特記すべき事項】			年月日		備考	
なし						

Ⅲ社会活動（3ヵ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）

社会における活動	年月日	備 考
『平成19年度 札幌市若年性認知症支援事業 若年認知症の人とその家族に対する実態調査報告書』作成	2008年10月	共著(池田望・ <u>岩渕亜希子</u> ・平野憲子・橋本省吾)

Ⅳ大学運営活動（3ヵ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）（2011年度就任教員は、2011年度の本学での学内職務及び大学業務をご記入願います。）

大学運営における活動	年月日	備 考
【学内職務】		
総合情報教育センター運営委員会委員	～2010年度	
2008年度教育研究系情報通信設備(リプレース)検討部会	～2008年度	
情報教育プロジェクトチーム	～2010年度	
ホームページ委員	2009～2010年度	
社会調査士資格制度 連絡責任者	～2010年度	
【大学業務】		
オープンキャンパス	毎年	
ブリエントランスの集い	2011年1月22日	

2011年度 教員活動評価調査票 (記入用紙)

内海 博文 1/5

所属	社会学部 社会学科	職名	講師	氏名	内海 博文	学位	博士(人間科学)
----	-----------	----	----	----	-------	----	----------

I 教育活動 (3カ年<2010年度、2009年度、2008年度>の活動についてご記入願います。)

【担当科目】 (2011年度就任教員は、2011年度の本学担当科目をご記入願います。)

1. 学部担当科目 新入生演習、表現演習、基礎演習 1・2、社会学演習 1・2・3・4、専門演習 1・2、文化社会学への招待、社会学史、社会学理論、広報学・広告論、社会学の考え方、社会学フィールドワーク、社会のイメージ、卒業論文
2. 大学院担当科目
3. 非常勤等担当科目(括弧内に大学名を記入してください) (2011年度就任教員は、前任校での担当科目についてもご記入願います。) 現代社会論(産業技術短期大学)

【教育業績】 (2011年度就任教員は、前任校での教育業績についてもご記入願います。)

教育実践上の主な業績	年月日	備 考
1. 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
2. 作成した教科書、教材、参考書		
3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
4. その他教育活動上特記すべき事項		

Ⅱ 研究活動（5カ年〈2010年度、2009年度、2008年度、2007年度、2006年度〉の活動についてご記入願います。）

著書・論文等の名称	著書・共著の別	発行または発表年月	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数	査読の有無
【著書】						
「グローバリゼーションと人間の安全保障論の興隆」『社会学のアクチュアリティ:第3巻 社会学のアリーナへ』	共著	2007年11月	東信堂	友枝敏雄・厚東洋輔	261-289	
【論文】						
「東京裁判から9.11へ——人間の安全保障のための予備的考察」	単著	2006年11月	『情況』第三期第七卷第六号:		17-30	無
「人間の安全保障と社会の再想像——9.11以後の2つのトランスナショナルな政治的秩序との対照を手がかりに——」	単著	2006年12月	大阪大学COE報告書『ポストナショナル・シティズンシップ』	大阪大学21世紀COEプログラム「インターフェイスの人文学トランスナショナルリティ研究」プロジェクト	175-218	無
「映像と学習——「遊び」としてのコミュニケーション」	単著	2007年3月	『大阪大学大学院 人間科学研究科紀要』第33巻		213-236	無
「新しい中小企業戦略としてのブランディング——グローバリゼーション時代における持続可能性のために——」	単著	2007年6月	「東大阪市の中小企業に働く人たちの仕事と生活調査報告書」大阪大学法学研究科、平成17～19年度・財団法人日本中小企業福祉事業財団委託研究	水島郁子	123-137	無
「経済と社会・再考——社会法をてがかりにして」	単著	2009年3月	『関西学院大学先端社会研究所紀要』第1号		1-13	無

(書評)「『ポスト・ユートピアの人類学』」	単著	2009年	大阪大学出版会、『コンフリクトの人文学』第1号、大阪大学グローバルCOEプログラム、コンフリクトの人文学国際研究教育拠点		291-297	無
「遊びとしての現実——「フィクションとしてのドキュメンタリー」から人間の科学が学ぶこと」	単著	2010年	大阪大学出版会『コンフリクトの人文学』第2号、大阪大学グローバルCOEプログラム、コンフリクトの人文学国際研究教育拠点		221-251	有
Nuclear Images and National Self-Portraits: Japanese Illustrated Magazine <i>Asahi Graph</i> , 1945-1965	単著	2011年3月	『関西学院大学先端社会研究所紀要』第5号		1-29	無
【その他】						
「文明化(エリアス)」	共著	2010年6月	丸善『社会学事典』	日本社会学会社会学事典刊行委員会	112-113	無
「映像と社会——『フィクションとしてのドキュメンタリー』という観点から——」	単著	2008年6月	日本文化人類学会第42回研究大会、分科会: Rethinking "the Visual" (代表: 田沼幸子), 於京都大学			無
Society in the Age of Globalization, ESA Social Theory Conference, "Social Theory and the Sociological Discipline(s)"	単著	2008年9月	European Sociological Association, Social Theory Research Network, Innsbruck University, Austria.			無

The Predicament of Society?: Sociological imagination in the age of Globalization,	単著	2009年8月	104th American Sociological Association, Annual Meeting, Hilton San Francisco and Parc 55 Hotel, San Francisco, CA.			無
Nuclear Energy in an A-Bombed Country: Analyzing Representations in <i>Asahigraph</i> , 1945-65	単著	2009年10月	The Society for the History of Technology, Annual Meeting Pittsburgh Hilton, Pittsburgh.			無
The Self-Portrait of Post-War Japan and the Images of Nuclear Power: In the Illustrated Magazine <i>Asahigraph</i> , 1945-1965	単著	2010年8月	The Society for Social Studies of Science (4S) 35th 4S Annual Meeting, held jointly with Japanese Society for Science and Technology Studies, University of Tokyo.			無
Re-thinking “the socials” in the age of globalization,	単著	2010年9月	The Bauman Institute International Launch Conference, “Rethinking Global Society”, Monday 6th and Tuesday 7 th September, the University of Leeds.			無
Controversies for (creating new) contexts: Theorizing a reconfiguration of “the socials”	単著	2010年9月	ESA Social Theory Conference, “Controversies in Contexts”, 9-11 September, 2010, European Sociological Association, Social Theory Research Network, Villa Lanna, Prague, Czech Republic.			無

【学会における主な活動】		
【その他研究活動上特記すべき事項】	年月日	備 考

Ⅲ社会活動（3カ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）

社会における活動	年月日	備 考
NPO recip(地域文化に関する情報とプロジェクト)正会員	2004年9月～	
「アフリカ友の会の活動について」、「アフリカ友の会」チャリティー・コンサート vol.5 イタリア宮廷のヴァイオリンの調べ、千里アフリカ友の会支援グループ主催、於カトリック千里ニュータウン教会、司会および講演。	2009年	
「YogiYogi の小さな小さな絵本村・3 絵本 × 私」、Fine Art & Gifts YogiYogi にて、小冊子『聴く、想像する』を展示	2009年	

Ⅳ大学運営活動（3カ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）（2011年度就任教員は、2011年度の本学での学内職務及び大学業務をご記入願います。）

大学運営における活動	年月日	備 考
【学内職務】		
国際交流センター委員	2008年4月～2010年3月	
教育実習運営委員	2008年4月～2010年3月	
カリキュラム改革委員	2010年4月～2011年3月	
【大学業務】		

2011年度 教員活動評価調査票 (記入用紙)

柏原 全孝 1/3

所属	社会学部 社会学科	職名	准教授	氏名	柏原 全孝	学位	修士(人間科学)、経済学修士
----	-----------	----	-----	----	-------	----	----------------

I 教育活動 (3カ年<2010年度、2009年度、2008年度>の活動についてご記入願います。)

【担当科目】 (2011年度就任教員は、2011年度の本学担当科目をご記入願います。)

1. 学部担当科目

メディア文化史、スポーツ社会学、現代社会とスポーツ、新入生演習、表現演習、基礎演習、社会学演習1~4

2. 大学院担当科目

現代社会学特講

3. 非常勤等担当科目(括弧内に大学名を記入してください) (2011年度就任教員は、前任校での担当科目についてもご記入願います。)

【教育業績】 (2011年度就任教員は、前任校での教育業績についてもご記入願います。)

教育実践上の主な業績	年月日	備 考
1. 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
2. 作成した教科書、教材、参考書		
3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
4. その他教育活動上特記すべき事項		

2011年度 教員活動評価調査票（記入用紙）

柏原 全孝 2/3

Ⅱ 研究活動（5カ年〈2010年度、2009年度、2008年度、2007年度、2006年度〉の活動についてご記入願います。）

著書・論文等の名称	著書・共著の別	発行または発表年月	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数	査読の有無
【著書】						
『社会学ベーシック4:都市的世界』	共著	2008年12月	世界思想社	井上俊・伊藤公雄編	pp.239-248	
『コミュニケーション社会学入門』	共著	2010年6月	世界思想社	伊藤公雄編	pp.89-108	
『文化社会学入門』	共著	2010年10月	ミネルヴァ書房	井上俊・長谷正人編		
【論文】						
「監視と盗撮」	単著	2009年3月	追手門学院大学社会学部紀要第3号		pp.17-32	無
「スポーツと美的なもの:新体操という困難から」	単著	2010年3月	追手門学院大学社会学部紀要第4号		pp.17-32	無
【その他】						
【学会における主な活動】						
【その他研究活動上特記すべき事項】			年月日	備	考	

Ⅲ 社会活動（3カ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）

社会における活動	年月日	備	考

2011年度 教員活動評価調査票（記入用紙）

柏原 全孝 3/3

IV大学運営活動（3ヵ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）（2011年度就任教員は、2011年度の本学での学内職務及び大学業務をご記入願います。）

大学運営における活動	年月日	備 考
【学内職務】		
大学問題連絡協議会委員	2008年度	
大学問題連絡協議会委員	2009年度	
教務委員	2010年度	
【大学業務】		
オープンキャンパス	2009年度	
オープンキャンパス、プリエントランスの集い	2010年度	

2011年度 教員活動評価調査票 (記入用紙)

加村 隆英 1/5

所属	社会学部 社会学科	職名	教授	氏名	加村 隆英	学位	農学博士, 京都府立大学, 1988年3月取得
----	-----------	----	----	----	-------	----	-------------------------

I 教育活動 (3カ年<2010年度、2009年度、2008年度>の活動についてご記入願います。)

【担当科目】 (2011年度就任教員は、2011年度の本学担当科目をご記入願います。)

1. 学部担当科目

新入生演習, 表現演習, 社会学演習1, 社会学演習2, 社会学演習3, 社会学演習4, 生物の多様性, 基礎生態学, 生態・環境論, 生態学フィールドワーク1, 生態学フィールドワーク2, 社会人間学への招待, 北摂を学ぶ

2. 大学院担当科目

人間学フィールドスタディ

3. 非常勤等担当科目(括弧内に大学名を記入してください) (2011年度就任教員は、前任校での担当科目についてもご記入願います。)

なし

【教育業績】 (2011年度就任教員は、前任校での教育業績についてもご記入願います。)

教育実践上の主な業績	年月日	備 考
1. 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 2008年度に担当した「新入生演習」(春学期) および「表現演習」(秋学期)を振り返り, その授業運営の成功点と問題点を自己分析した(社会学部FD・自己評価委員会年報, 第3号に掲載)。 講義科目については, 原則として毎回, 授業内容のレジュメを配付して, 学生の理解を助けるよう工夫している。	2009年2月 毎年度	
2. 作成した教科書、教材、参考書 「生態学フィールドワーク1・2」の受講学生が学修するうえで参考となる植物の写真をホームページに掲載。	2006年4月～現在	
3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 なし		
4. その他教育活動上特記すべき事項 生物研究同好会顧問	1989年4月～現在	

II 研究活動 (5カ年<2010年度、2009年度、2008年度、2007年度、2006年度>の活動についてご記入願います。)

著書・論文等の名称	著書・共著の別	発行または発表年月	発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	编者・著者名(共著の場合のみ記入)	該当頁数	査読の有無
【著書】						
大阪城ネイチャーウォッチング	分担執筆	2008年9月	朝日新聞出版会	追手門学院大阪城プロジェクト編	pp. 56-62	
日本産クモ類	分担執筆	2009年8月	東海大学出版会	小野展嗣編	pp.345-355, pp.482-500, pp.549-557	
【論文】						
Spiders of the genus <i>Haplodrassus</i> (Araneae: Gnaphosidae) from Japan	単著	2007年3月	Acta Arachnologica, Vol. 55, No. 2		pp. 95-103	有
人間の生活空間に存在する樹木	単著	2007年3月	追手門学院大学社会学部紀要, No. 1		pp. 97-104	無
A new species of the genus <i>Otacilia</i> (Araneae: Corinnidae) from Japan	単著	2008年7月	Acta Arachnologica, Vol. 57, No. 1		pp. 41-42	有
コウライタンボグモとミヤマタンボグモ	単著	2008年7月	蜘蛛(中部蜘蛛懇談会会誌), No. 41		pp. 1-3	無
大阪城公園のクモ類	単著	2008年11月	追手門学院創立 120 周年記念事業 大阪城プロジェクト調査報告書 いのちの城・大阪城公園の生きもの		pp. 187-196	無
A new species of the genus <i>Zelotes</i> (Araneae: Gnaphosidae) from Taiwan	単著	2010年9月	Acta Arachnologica, Vol. 59, No. 1		pp. 15-16	有

【その他】						
宮城県におけるコアシダカグモの記録	単著	2006年9月	くものいと (関西クモ研究会会誌), No. 39		pp. 34-35	無
大阪府高槻市市街地のクモ2種	単著	2006年9月	くものいと (関西クモ研究会会誌), No. 39		pp. 36-37	無
書評:新海栄一「日本のクモ」 2006年, 文一総合出版	単著	2007年5月	遊絲 (日本蜘蛛学会ニュースレター), No. 20		pp. 7-9	無
深泥池の自然と暮らし	分担執筆	2008年3月	サンライズ出版	深泥池七人委員会編集部会編	p. 52	無
書評:谷川明男「日本産コガネグモ科ジョロウグモ科アシナガグモ科のクモ類同定の手引き」2007年, 日本蜘蛛学会	単著	2008年7月	Acta Arachnologica, Vol. 57, No. 1		p. 58	無
口頭発表:大阪城公園のクモ類	単独	2008年8月	日本蜘蛛学会第40回大会(追手門学院大阪城スクエア)			
同定指南 ネコグモ科 ウラシマグモ属およびナンゴクウラシマグモ属	単著	2009年4月	くものいと (関西クモ研究会会誌), No. 42		pp. 62-70	無
【学会における主な活動】						
1992年4月～2007年3月	関西クモ研究会庶務幹事					
2003年4月～2009年3月	日本蜘蛛学会編集委員					
2003年4月～2011年3月	関西クモ研究会会計幹事					
2006年4月～2009年3月	日本蜘蛛学会図書幹事					
2007年9月～2008年8月	日本蜘蛛学会第40回大会(2008年8月23-24日, 追手門学院大阪城スクエア)の大会事務局を担当					
2009年4月～現在	日本蜘蛛学会評議員					
2011年4月～現在	関西クモ研究会編集幹事					

【その他研究活動上特記すべき事項】	年月日	備 考
学外調査:マダガスカルにおける生物の調査	2009年7月25日～8月4日	

Ⅲ社会活動（3カ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）

社会における活動	年月日	備 考
INAXギャラリー大阪主催の自然観察会「探す見る知るクモの不思議」(場所:大阪城公園)の講師	2008年4月26日	
豊中市教育センター主催「サイエンス・カフェ」で講演(演題:クモは何もの?)	2008年9月13日	
伊丹市昆虫館 企画展「くも」に協力 [資料提供, 現地観察会及び講演会(演題:華麗なるクモの狩り)の講師]	企画展の開期:2011年1月26日～ 2011年4月4日 観察会・講演会:2011年3月20日	

Ⅳ大学運営活動（3カ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）（2011年度就任教員は、2011年度の本学での学内職務及び大学業務をご記入願います。）

大学運営における活動	年月日	備 考
【学内職務】		
追手門学院創立120周年記念事業 大阪城プロジェクト 委員(学術総括)	2006年4月～2009年3月	
キャンパス整備委員会 委員	2008年4月～現在	
大学評議員	2009年5月～2010年3月	
社会学科長	2010年4月～2010年9月	
追手門学院大学創立50周年記念事業大学年史編纂小委員会 委員	2010年12月～現在	

【大学業務】 オープンキャンパスに参加	2008, 2009 年度	
追手門学院創立 120 周年記念事業 大阪城プロジェクト「生きもの探検隊」 (場所:大阪城公園)で講師を務める	2008 年 5 月 11 日	
追手門学院創立 120 周年記念事業広報誌 第 10 号に執筆(大阪城プロジェクト生きもの探検隊)	2008 年 7 月 1 日	
追手門学院創立 120 周年記念事業 大阪城プロジェクト「シンポジウム 自然が育む人と未来」にパネリストとして参加	2008 年 9 月 6 日	

2011年度 教員活動評価調査票 (記入用紙)

草山 太郎 1/3

所属	社会学部 社会学科	職名	講師	氏名	草山 太郎	学位	修士(教育学)
----	-----------	----	----	----	-------	----	---------

I 教育活動 (3カ年<2010年度、2009年度、2008年度>の活動についてご記入願います。)

【担当科目】 (2011年度就任教員は、2011年度の本学担当科目をご記入願います。)

1. 学部担当科目

「障害者福祉論1」「同2」「社会福祉援助技術演習1」「同2」「社会福祉援助技術現場実習指導1」「同3」「社会福祉援助技術現場実習1」「同2」
「社会福祉の考え方」「社会福祉学への招待」「新入生演習」「表現演習」「基礎演習1」「同2」

2. 大学院担当科目

なし

3. 非常勤等担当科目(括弧内に大学名を記入してください) (2011年度就任教員は、前任校での担当科目についてもご記入願います。)

「障害者論」(同志社女子大学)

【教育業績】 (2011年度就任教員は、前任校での教育業績についてもご記入願います。)

教育実践上の主な業績	年月日	備 考
1. 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
コメントペーパーの活用	2008年4月1日～現在	
視聴覚教材を多用した授業	2008年4月1日～現在	
2. 作成した教科書、教材、参考書		
記入式プリントの作成	2008年4月1日～現在	
自作VTRの作成	2008年4月1日～現在	
3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
教育研究所セミナーのコーディネート	2008年7月12日 2008年11月17日	
授業公開の実施	2010年11月25日 2010年12月2日	
4. その他教育活動上特記すべき事項		
福祉体験学習の企画および引率	2008年2月14日	

2011年度 教員活動評価調査票（記入用紙）

Ⅱ 研究活動（5カ年〈2010年度、2009年度、2008年度、2007年度、2006年度〉の活動についてご記入願います。）

著書・論文等の名称	著書・共著の別	発行または発表年月	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数	査読の有無
【著書】						
なし						
【論文】						
車椅子ツインバスケットボールの「おもしろさ」の成り立ち—プレイヤーの語りをとおして—	単著	2009年3月	追手門学院大学 社会学部紀要, 第3号		33-51	無
障害者の性へのサポートを考える—ホワイトハンズの理念とサービスの検討をとおして—	単著	2011年3月	追手門学院大学 社会学部紀要, 第5号		1-21	無
【その他】						
なし						
【学会における主な活動】						
2005年4月～現在		障害学研究会関西部会世話人				
【その他研究活動上特記すべき事項】			年月日	備	考	
「本人の申し出により非公表とした。」						

Ⅲ 社会活動（3カ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）

社会における活動	年月日	備	考
特になし			

2011年度 教員活動評価調査票（記入用紙）

草山 太郎 3/3

IV大学運営活動（3ヵ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）（2011年度就任教員は、2011年度の本学での学内職務及び大学業務をご記入願います。）

大学運営における活動	年月日	備 考
【学内職務】 「本人の申し出により非公表とした。」		
【大学業務】 「本人の申し出により非公表とした。」		

2011年度 教員活動評価調査票 (記入用紙)

栗山 直子 1/5

所属	社会学部 社会学科	職名	准教授	氏名	栗山 直子	学位	社会学修士、社会福祉学修士
----	-----------	----	-----	----	-------	----	---------------

I 教育活動 (3カ年<2010年度、2009年度、2008年度>の活動についてご記入願います。)

【担当科目】 (2011年度就任教員は、2011年度の本学担当科目をご記入願います。)

1. 学部担当科目

児童福祉論(1・2)、地域福祉論、新入生演習、表現演習、基礎演習(1・2)、社会福祉学への招待、社会福祉原論、社会福祉援助技術演習 1・2・3・4、相談援助演習 2、学び論 B(分担)、オーストラリアを学ぶ(分担)

2. 大学院担当科目

なし

3. 非常勤等担当科目(括弧内に大学名を記入してください) (2011年度就任教員は、前任校での担当科目についてもご記入願います。)

広域副専攻「オセアニア研究」(甲南大学)

【教育業績】 (2011年度就任教員は、前任校での教育業績についてもご記入願います。)

教育実践上の主な業績	年月日	備 考
1. 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 「本人の申し出により非公表とした。」		
2. 作成した教科書、教材、参考書 『児童福祉論—実習中心の授業展開』『実習にいくあなたのための準備本』 毎回授業にて毎回プリントを配布している。	2008～	
3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
4. その他教育活動上特記すべき事項 ゼミ内外においての学生に対する生活指導・生活相談、 高校への出張授業等	2008～	

Ⅱ 研究活動（5カ年〈2010年度、2009年度、2008年度、2007年度、2006年度〉の活動についてご記入願います。）

著書・論文等の名称	著書・共著の別	発行または発表年月	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数	査読の有無
【著書】						
「家族・子育てと地球福祉」	共著	2007年5月	『住民主体の地域福祉論－理論と実践』（第6章）法律文化社	井岡勉監修、牧里每次、山本隆編	151～166頁	
「欧米の児童福祉の歴史」 「児童福祉の先達たち」	共著	2007年3月	『児童福祉論（第2版改訂版）』 建帛社	野口勝己編 16-39	83～134頁	
『児童福祉論－実習中心の授業展開』（第2版改訂版）』	編著	2008年3月	改訂版	栗山直子編	160頁	
「ソーシャルワークの意味と種類」（第2章）	分担執筆	2008年5月	大学図書出版	松井圭三・小倉毅編	8～16頁	
「児童福祉の歴史」（第三章）	共著	2009年	『児童家庭福祉論』建帛社	赤木正典、流王次郎編		
「世代間交流と特別支援教育」	分担執筆	2010年12月	『世代間交流の創造』あけび書房	草野篤子・金田利子編		
【論文】						
AD/HD and Gender of Women Involving Household Chores	共著	2007年3月	追手門学院大学社会学部紀要	栗山直子、山田美智子、渡辺新太郎		無
「現代家族の多様化と家庭的保育の位置づけについて」	単著	2008年3月	日本家庭教育学会学会誌 『家庭教育学研究』第13号	栗山直子		有
「クィーンズランドの特別支援教育」 『オーストラリア研究紀要』35号	単著	2009年	「クィーンズランドの特別支援教育」 『オーストラリア研究紀要』35号	「クィーンズランドの特別支援教育」 『オーストラリア研究紀要』35号	45-58頁	

【その他】						
『「寒川・活動研究ノート」コメント』		2007年2月	「神奈川県民協だより」第90号 神奈川県民生委員児童委員協 議会			
【学会における活動】						
国際学会発表 <i>Inter generational relationship between families with autism and elder volunteers in Japan,</i> ARC-autism conference- University of Cambridge WestLoad Concerthall, UK		2006				
国際学会発表 「次世代育成支援-ある美術博物館 の試みより」国際世代間交流フォーラ ム 早稲田大学井深大国際会議場		2006				
国内学会発表 「家庭的保育サービス内容に関する 調査報告」日本社会福祉学会第56 回大会		2008				
国内学会発表 「オーストラリアの特別支援教育の実 践」日本世代間交流学会第一回全 国大会、芦屋大学		2009				

2011年度 教員活動評価調査票（記入用紙）

学会共催シンポジウム司会 「オーストラリアの子どもの福祉と保育 を考える」オーストラリア学会主催関 西例会・オーストラリア研究所	2011				
【学会における主な活動】					
平成 18 年 4 月～平成 21 年 3 月	日本ソーシャルワーク学会編集「社会福祉基本用語辞典」編集ワーキンググループ				
平成 21 年 4 月～9 月	日本世代間交流会学立ち上げ運営委員				
平成 22 年 8 月	日本世代間交流会第一回全国大会事務局長代行、芦屋大学				
平成 22 年 9 月～	日本世代間交流会 理事(渉外担当:オーストラリア)				
【その他研究活動上特記すべき事項】			年月日	備	考

Ⅲ 社会活動（3カ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）

社会における活動	年月日	備	考

2011年度 教員活動評価調査票（記入用紙）

栗山 直子 5/5

IV大学運営活動（3ヵ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）（2011年度就任教員は、2011年度の本学での学内職務及び大学業務をご記入願います。）

大学運営における活動	年月日	備 考
【学内職務】		
学生部委員	2009～2010	
ホームページ運営委員	2008～2009	
キャンパスハラスメント委員	2009	
教育実習運営委員	2010～	
社会福祉士国家試験受験申し込み手続き係担当	2008～	
社会福祉実習巡回担当	2006～2008	
オーストラリア研究所所員	2007～現在	
【大学業務】		
出張授業「大阪電気通信高校」	2009	
大学・学会共催シンポジウム司会「オーストラリアの子どもの福祉と保育を考 える」オーストラリア学会主催関西例会・オーストラリア研究所	2011	
オープンキャンパス(於:調査福祉実習指導室)	2008, 2009	

2011年度 教員活動評価調査票 (記入用紙)

清水 学 1/3

所属	社会学部 社会学科	職名	准教授	氏名	清水 学	学位	学術修士
----	-----------	----	-----	----	------	----	------

I 教育活動 (3カ年<2010年度、2009年度、2008年度>の活動についてご記入願います。)

【担当科目】 (2011年度就任教員は、2011年度の本学担当科目をご記入願います。)

1. 学部担当科目

新入生演習、表現演習、基礎演習1、基礎演習2、社会学演習1、社会学演習2、専門演習1、専門演習2、社会学演習3、社会学演習4、社会学の考え方、サブカルチャー論、知識社会学、現代文化論

2. 大学院担当科目

文化社会学演習

3. 非常勤等担当科目(括弧内に大学名を記入してください) (2011年度就任教員は、前任校での担当科目についてもご記入願います。)

「本人の申し出により非公表とした。」

【教育業績】 (2011年度就任教員は、前任校での教育業績についてもご記入願います。)

教育実践上の主な業績	年月日	備 考
1. 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 「本人の申し出により非公表とした。」		
2. 作成した教科書、教材、参考書 「本人の申し出により非公表とした。」		
3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 「本人の申し出により非公表とした。」		
4. その他教育活動上特記すべき事項 「本人の申し出により非公表とした。」		

2011年度 教員活動評価調査票（記入用紙）

Ⅱ 研究活動（5カ年〈2010年度、2009年度、2008年度、2007年度、2006年度〉の活動についてご記入願います。）

著書・論文等の名称	著書・共著の別	発行または発表年月	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数	査読の有無
【著書】						
都市的世界	共著	2008年12月	世界思想社	井上俊、伊藤公雄編	pp.105-114	
文化の社会学	共著	2009年7月	世界思想社	井上俊、伊藤公雄編	pp.259-268	
フラット・カルチャー：現代日本の社会学	共著	2010年10月	せりか書房	遠藤知巳編	pp.171-178	
【論文】						
表現者の憂鬱—ある「アーティスト」の肖像	単著	2008年3月	『追手門学院大学社会学部紀要』2号		pp.1-40	無
表現者の憂鬱—芸術の社会的世界	単著	2009年3月	『追手門学院大学社会学部紀要』3号		pp.51-100	無
現代マンガと約束事の世界—コンベンションとコミック・リテラシー	単著	2011年3月	『追手門学院大学社会学部紀要』5号		pp.23-63	無
【その他】						
「本人の申し出により非公表とした。」						
【学会における主な活動】						
「本人の申し出により非公表とした。」						
【その他研究活動上特記すべき事項】			年月日	備考		
「本人の申し出により非公表とした。」						

Ⅲ 社会活動（3カ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）

社会における活動	年月日	備考

2011年度 教員活動評価調査票（記入用紙）

IV大学運営活動（3ヵ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）（2011年度就任教員は、2011年度の本学での学内職務及び大学業務をご記入願います。）

大学運営における活動	年月日	備 考
【学内職務】 「本人の申し出により非公表とした。」		
【大学業務】 「本人の申し出により非公表とした。」		

2011年度 教員活動評価調査票 (記入用紙)

城野 充 1/3

所属	社会学部 社会学科	職名	准教授	氏名	城野 充	学位	言語文化学修士
----	-----------	----	-----	----	------	----	---------

I 教育活動 (3カ年<2010年度、2009年度、2008年度>の活動についてご記入願います。)

【担当科目】 (2011年度就任教員は、2011年度の本学担当科目をご記入願います。)

1. 学部担当科目

新入生演習、表現演習、基礎演習1、基礎演習2、社会学演習1、社会学演習2、社会学演習3、社会学演習4、入門社会学、現代メディア論、政治社会学、メディア環境論、文化社会学への招待

2. 大学院担当科目

社会学フィールドスタディ

3. 非常勤等担当科目(括弧内に大学名を記入してください) (2011年度就任教員は、前任校での担当科目についてもご記入願います。)

【教育業績】 (2011年度就任教員は、前任校での教育業績についてもご記入願います。)

教育実践上の主な業績	年月日	備 考
1. 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 学生にとってゼミが「居場所」となるための環境整備(個人研究室のゼミ室化)、「あそび」の精神によるゼミ運営		
2. 作成した教科書、教材、参考書		
3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
4. その他教育活動上特記すべき事項		

2011年度 教員活動評価調査票（記入用紙）

Ⅱ 研究活動（5カ年〈2010年度、2009年度、2008年度、2007年度、2006年度〉の活動についてご記入願います。）

著書・論文等の名称	著書・共著の別	発行または発表年月	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数	査読の有無
【著書】						
【論文】						
《小泉》というメデューサ —テレビ政治のメディア社会学—	単著	2007年3月	追手門学院大学社会学紀要 No.1		25-33頁	無
消費社会におけるメディア環境—映画「グッバイ、レーニン！」の場合—	単著	2010年3月	追手門学院大学社会学紀要 No.4		121-130頁	無
「部族」と「居場所」の社会学—ペレストロイカ期のトウソフカを例として—	単著	2011年3月	追手門学院大学社会学紀要 No.5		65-76頁	無
【その他】						
【学会における主な活動】						
【その他研究活動上特記すべき事項】			年月日	備考		

Ⅲ 社会活動（3カ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）

社会における活動	年月日	備考

2011年度 教員活動評価調査票（記入用紙）

城野 充 3/3

IV大学運営活動（3ヵ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）（2011年度就任教員は、2011年度の本学での学内職務及び大学業務をご記入願います。）

大学運営における活動	年月日	備 考
【学内職務】 学生部委員	2008年度	
紀要編集委員	2009年度	
入試主事	2010年度	
【大学業務】 オープンキャンパス	2010年6月、7月、8月、9月	

2011年度 教員活動評価調査票 (記入用紙)

辰本 頼弘 1/3

所属	社会学部 社会学科	職名	教授	氏名	辰本 頼弘	学位	教育学修士
----	-----------	----	----	----	-------	----	-------

I 教育活動 (3カ年<2010年度、2009年度、2008年度>の活動についてご記入願います。)

【担当科目】 (2011年度就任教員は、2011年度の本学担当科目をご記入願います。)

1. 学部担当科目

(春学期) 基礎体育 1C、基礎体育 1G、応用体育 1J、応用体育 1K、応用体育 1O

(秋学期) 応用体育 2D、応用体育 2F、応用体育 3F、応用体育 3G、体育概論 A、キャンプ実習

2. 大学院担当科目

3. 非常勤等担当科目(括弧内に大学名を記入してください) (2011年度就任教員は、前任校での担当科目についてもご記入願います。)

健康の指導法、幼児の身体発達(大阪教育大学)、体育実技、幼児体育、卒業論文、研究演習(関西福祉科学大学)

【教育業績】 (2011年度就任教員は、前任校での教育業績についてもご記入願います。)

教育実践上の主な業績	年月日	備 考
1. 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) (前任校) 体育講義では、現在のスポーツ的トピックスと身体活動を関連付けて学生の身近な話題・興味を題材に講義を工夫した。(本学)体育概論では、体育・スポーツが幼少期から高齢期までになぜ必要なのかを身近な話題も含め講義を発展させている。		
2. 作成した教科書、教材、参考書 「幼児期の運動あそび」	2009年9月(再掲)	久美株式会社
3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
4. その他教育活動上特記すべき事項 硬式野球部顧問	2011年6月～	

2011年度 教員活動評価調査票（記入用紙）

辰本 頼弘 2/3

Ⅱ 研究活動（5カ年〈2010年度、2009年度、2008年度、2007年度、2006年度〉の活動についてご記入願います。）

著書・論文等の名称	著書・共著の別	発行または発表年月	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数	査読の有無
【著書】						
幼児期の運動あそび	共著	2009年9月	不昧堂出版	高村信良、岸本みさ子、安部保子、矢野正、辰本頼弘、他6名	169～179頁	
【論文】						
「快の笑い」は他人の存在で増加するか？	共著	2007年3月	関西福祉科学大学紀要第10号	辰本頼弘、志水 彰	97～107頁	有
復職支援プログラムとしての「ボデイワーク」の取り組み	単著	同年3月	関西福祉科学大学 EAP 研究所紀要第1号		37～42頁	有
特別養護老人ホームでの運動プログラムにおける楽しさの評価	共著	同年6月	大阪ガスグループ福祉財団研究・調査報告書	辰本頼弘、谷口竜彦、宇恵弘、杉田忠史、三村達也	59～66頁	有
安全教育のための e ラーニング教材開発に関する基礎研究	共著	009年9月	安全教育学研究第9巻第1号	堀 清和、木宮敬信、辰本頼弘、村上佳司、西牧真理、他4名	49～56頁	有
【その他】						
【学会における主な活動】						
2007年		日本安全教育学会第8回大阪大会 大会実行委員長				
2009年4月～2010年3月		日本教育医学会実行委員				
【その他研究活動上特記すべき事項】				年月日	備 考	
特になし						

2011年度 教員活動評価調査票（記入用紙）

辰本 頼弘 3/3

Ⅲ社会活動（3カ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）

社会における活動	年月日	備 考
柏原市福祉協議会主催「シニア大学講座」 講師	2009年および2010年	「高齢者の健康づくり」

Ⅳ大学運営活動（3カ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）（2011年度就任教員は、2011年度の本学での学内職務及び大学業務をご記入願います。）

大学運営における活動	年月日	備 考
【学内職務】		
体育学教室主任	2011年4月	
体育館主幹	2011年6月	
社会学部FD・自己評価委員	2011年4月	
社会学部カリキュラム改革委員	2011年4月	
【大学業務】		

2011年度 教員活動評価調査票 (記入用紙)

千葉 英史 1/3

所属	社会学部 社会学科	職名	准教授	氏名	千葉 英史	学位	学士(体育学)、日本体育大学、1988年3月取得
----	-----------	----	-----	----	-------	----	--------------------------

I 教育活動 (3カ年<2010年度、2009年度、2008年度>の活動についてご記入願います。)

【担当科目】 (2011年度就任教員は、2011年度の本学担当科目をご記入願います。)

1. 学部担当科目

基礎体育, 応用体育, スポーツ概論, 余暇生活実習(スキー実習), 基本科目(余暇とレクリエーション)

2. 大学院担当科目

3. 非常勤等担当科目(括弧内に大学名を記入してください) (2011年度就任教員は、前任校での担当科目についてもご記入願います。)

基礎体育学(関西大学), スポーツ実習(関西大学)

【教育業績】 (2011年度就任教員は、前任校での教育業績についてもご記入願います。)

教育実践上の主な業績	年月日	備 考
1. 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) ①余暇とレクリエーション(基本科目)では、教材を編集し直しパワーポイントを用いて授業を進めている。また、サブテーマとして「健康」に関わる内容を提供し、学生生活における健康的な過ごし方を見直しさせている。 ②実技科目では毎回授業の終了時に「朝食」「睡眠」「運動意欲」「運動量」「満足感」「疲労感」の6つのカテゴリーから、それぞれ五択の回答で自己評価としてアンケートを実施している。		
2. 作成した教科書、教材、参考書 特筆事項なし		
3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 特筆事項なし		
4. その他教育活動上特記すべき事項		

2011年度 教員活動評価調査票（記入用紙）

千葉 英史 2/3

II 研究活動（5カ年〈2010年度、2009年度、2008年度、2007年度、2006年度〉の活動についてご記入願います。）

著書・論文等の名称	著書・共著の別	発行または発表年月	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数	査読の有無
【著書】						
特筆事項なし						
【論文】						
重心動揺と運動能力の関係について－大学生ラグビー選手の重心動揺および運動能力の測定結果から－	共著	2007年2月	関西学院大学 スポーツ科学・健康科学研究室 第10号	溝畑 潤・川平隆司・新宅幸 憲・臼井永男・灘 英世・千葉 英史	pp. 15-22	無
デフラグビーに関する活動調査(1)	単著	2007年12月	追手門学院大学 社会学部紀要 第2号		pp. 53-61	無
デフラグビーに関する活動調査(2)	単著	2011年3月	追手門学院大学 社会学部紀要 第5号		pp. 133-166	無
【その他】						
〈学会発表〉						
女子大学における水泳実習の授業評価－自由記述によるプログラム評価－	共同研究	2006年8月	第57回日本体育学会 (弘前大学文京キャンパス)	宮内一三・木谷織信・灘 英 世・安田忠典・間瀬知紀・千葉 英史・三神憲一・井関眞欣		
日本聴覚障害者ラグビー連盟(デフラグビー)の活動について(1)	共同研究	2008年3月	第1回日本ラグビー学会 (関西大学)	千葉英史・落合孝幸・長田耕 治・坂崎孝浩		
日本聴覚障害者ラグビー連盟(デフラグビー)の活動について(2) －普及・育成活動から－	共同研究	2009年3月	第2回日本ラグビー学会 (関西大学)	柴谷 晋・落合孝幸・長田耕 治・千葉英史		
【学会における主な活動】						
2007年4月～現在に至る		日本ラグビー学会理事				

【その他研究活動上特記すべき事項】	年月日	備	考
特筆事項なし			

Ⅲ社会活動（3カ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）

社会における活動	年月日	備	考
関西ラグビーフットボール協会役員（関西大学ラグビーリーグ委員・会計担当）	1988年4月～現在		
大阪ラグビーフットボール協会役員（大学担当委員）	1988年4月～現在		
日本聴覚障害者ラグビーフットボール連盟強化委員	2001年4月～現在		

Ⅳ大学運営活動（3カ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）（2011年度就任教員は、2011年度の本学での学内職務及び大学業務をご記入願います。）

大学運営における活動	年月日	備	考
【学内職務】 教務委員	2007年4月～現在		
【大学業務】 特筆事項なし			

2011年度 教員活動評価調査票 (記入用紙)

沼尻 正之 1/3

所属	社会学部 社会学科	職名	准教授	氏名	沼尻 正之	学位	文学博士
----	-----------	----	-----	----	-------	----	------

I 教育活動 (3カ年<2010年度、2009年度、2008年度>の活動についてご記入願います。)

【担当科目】 (2011年度就任教員は、2011年度の本学担当科目をご記入願います。)

1. 学部担当科目

現代社会の諸問題 A・B、現代社会論、宗教文化論、新入生演習、表現演習、基礎演習1・2、専門演習1・2、社会学演習3・4

2. 大学院担当科目

社会学理論演習

3. 非常勤等担当科目(括弧内に大学名を記入してください) (2011年度就任教員は、前任校での担当科目についてもご記入願います。)

【教育業績】 (2011年度就任教員は、前任校での教育業績についてもご記入願います。)

教育実践上の主な業績	年月日	備 考
1. 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業評価アンケート実施 パワーポイントを使った授業の試み		
2. 作成した教科書、教材、参考書 講義における配付資料多数		
3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
4. その他教育活動上特記すべき事項 授業に対する感想の学生たちへのフィードバック		

Ⅱ 研究活動（5カ年〈2010年度、2009年度、2008年度、2007年度、2006年度〉の活動についてご記入願います。）

著書・論文等の名称	著書・共著の別	発行または発表年月	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数	査読の有無
【著書】						
『社会学ベーシック3文化の社会学』（「世俗化と新宗教 B.R.ウィルソン『現代宗教の変容』」）	共著	2009年7月	世界思想社	井上俊・伊藤公雄編	P.239-248	
【論文】						
「現代の高等教育における教養の意味」	単著	2007年3月	追手門学院大学教育研究所紀要第25号		P.132-152	無
「越境する世界宗教—グローバル化時代の神々のゆくえ」	単著	2010年3月	追手門学院大学社会学部紀要第4号		P.57-72	無
「ハリウッド映画の中の『聖なるもの』—映画“I am legend”エンディング改変の理由を考える」	単著	2011年3月	追手門学院大学社会学部紀要第5号		P.181-196	無
【その他】						
翻訳『ベッケンバウアー自伝』	単著	2006年5月	中央公論新社	著者：フランツ・ベッケンバウアー		
「世俗化と私事化」	単著	2010年6月	丸善	日本社会学会社会学事典刊行委員会編『社会学事典』項目執筆	P.540-541	
「映画に見るコミュニケーション」	単著	2010年6月	世界思想社	伊藤公雄編『コミュニケーション社会学』	P.109-111	
【学会における主な活動】						
「本人の申し出により非公表とした。」						

【その他研究活動上特記すべき事項】	年月日	備	考
「本人の申し出により非公表とした。」			

Ⅲ社会活動（3カ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）

社会における活動	年月日	備	考
「本人の申し出により非公表とした。」			

Ⅳ大学運営活動（3カ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）（2011年度就任教員は、2011年度の本学での学内職務及び大学業務をご記入願います。）

大学運営における活動	年月日	備	考
【学内職務】 図書館委員	2009, 2010 年度		
【大学業務】 オープンキャンパス(全5回)	2010 年度		

2011年度 教員活動評価調査票 (記入用紙)

平木 宏児 1/3

所属	社会学部 社会学科	職名	教授	氏名	平木 宏児	学位	体育学 学士
----	-----------	----	----	----	-------	----	--------

I 教育活動 (3カ年<2010年度、2009年度、2008年度>の活動についてご記入願います。)

【担当科目】 (2011年度就任教員は、2011年度の本学担当科目をご記入願います。)

1. 学部担当科目 基礎体育、応用体育、スポーツ概論、余暇とレクリエーション、レクリエーション実技、レクリエーション実習、余暇生活実習(ゴルフ)
2. 大学院担当科目
3. 非常勤等担当科目(括弧内に大学名を記入してください) (2011年度就任教員は、前任校での担当科目についてもご記入願います。)

【教育業績】 (2011年度就任教員は、前任校での教育業績についてもご記入願います。)

教育実践上の主な業績	年月日	備 考
1. 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
2. 作成した教科書、教材、参考書		
3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
4. その他教育活動上特記すべき事項		

II 研究活動 (5カ年<2010年度、2009年度、2008年度、2007年度、2006年度>の活動についてご記入願います。)

著書・論文等の名称	著書・共著の別	発行または発表年月	発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	編者・著者名(共著の場合のみ記入)	該当頁数	査読の有無
【著書】						

【論文】						
大学生の生活調査と健康について	単著	2007年3月31日	追手門学院大学 創立40周年記念論集 社会学部篇		P61～P72	無
オーストラリアと日本の高齢者介護施設におけるケアについての研究	共著	2009年3月	オーストラリア学会編集 オーストラリア研究 Vol22	三宅眞理、Anne Rock、田近亜蘭、保津真一郎、仁木稔、西山利正		無
大学生の運動に関する意識について	共著	2011年3月	追手門学院大学社会学部紀要第5号	木谷織信	P167～P179	無
【その他】						
研究ノート スポーツの環境	単著	2010年3月	追手門学院大学社会学部紀要第4号		P147～P156	
学会発表 女子大学における水泳実習の授業評価	共同	2006年8月	日本体育学会第57回大会	灘英世、木谷織信、安田忠典 溝畑寛治、宮内一三		
【学会における主な活動】						
【その他研究活動上特記すべき事項】			年月日	備	考	

Ⅲ社会活動（3カ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）

社会における活動	年月日	備	考
日本レクリエーション協会 公認講師	2002年2月～	レクリエーションインストラクター養成	

2011年度 教員活動評価調査票（記入用紙）

平木 宏児 3/3

IV大学運営活動（3ヵ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）（2011年度就任教員は、2011年度の本学での学内職務及び大学業務をご記入願います。）

大学運営における活動	年月日	備 考
【学内職務】 社会学部長		
【大学業務】 社会学部 紀要編集委員	2010年4月～	
省エネルギー対策委員会委員	2010年	

2011年度 教員活動評価調査票 (記入用紙)

古川 隆司 1/8

所属	社会学部 社会学科	職名	准教授	氏名	古川 隆司	学位	修士(社会学)
----	-----------	----	-----	----	-------	----	---------

I 教育活動 (3カ年<2010年度、2009年度、2008年度>の活動についてご記入願います。)

【担当科目】 (2011年度就任教員は、2011年度の本学担当科目をご記入願います。)

1. 学部担当科目

老人福祉論 1, 老人福祉論 2, 社会福祉原論1, 相談援助の基盤と専門職, 介護概論, 更生保護, 相談援助演習 1, 社会福祉援助技術現場実習指導 2, 社会福祉援助技術現場実習指導 3, 社会福祉援助技術現場実習 1, 社会福祉援助技術現場実習 2, 専門演習 1, 専門演習2

2. 大学院担当科目

社会福祉学特論

3. 非常勤等担当科目(括弧内に大学名を記入してください) (2011年度就任教員は、前任校での担当科目についてもご記入願います。)

相談援助の基盤と専門職, 相談援助の理論と方法, 更生保護, 相談援助演習(近畿大学豊岡短期大学通信教育部社会福祉士養成通信課程)

【教育業績】 (2011年度就任教員は、前任校での教育業績についてもご記入願います。)

教育実践上の主な業績	年月日	備 考
1. 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) <2008年度>		
1) 追手門学院大学「大学特色ある教育」の助成を受けて、吉田正教授(当時)とともに、グループ KJ 法を合宿形式で実践する「さかさま大学」を運営、指導を行った。	2008年度	
2) 学部担当科目「老人福祉論 1」について授業評価のため授業アンケートを実施した。	2008年6月	
3) 学部担当科目「介護概論」について授業評価のため授業アンケートを実施した。	2008年12月	
4) 担当講義科目全てにおいて、コミュニケーションペーパー等で聴取した学生のコメントへのフィードバックを次時の授業レジュメでフィードバックを実施した。	2006年度~2008年	
5) 全学自己評価委員会アンケート部会の試行的取り組みとして、3)の自由記述結果及び授業方法について他委員から評価を受けた。	2009年3月	全学授業アンケート報告書にて成果を掲載

<2009 年度>		
1) 学部担当科目「老人福祉論 1」について授業評価のため授業アンケートを実施した。	2009 年 6 月	
2) 非常勤講師として担当した,近畿大学豊岡短期大学通信教育部社会福祉士養成通信課程におけるスクーリング授業「相談援助演習」および「社会福祉援助演習」にて,授業アンケートを実施した。	2009 年 8 月	
3) 学部担当科目「老人福祉論 2」について授業評価のため授業アンケートを実施した。	2009 年 12 月	
4) 担当講義科目全てにおいて,コミュニケーションペーパー等で聴取した学生のコメントを,次時の授業レジュメにKJ法A型図解にしてフィードバックを実施した。	2009 年 12 月～現在	
5) 追手門学院大学教育改革推進経費の助成を受け,社会学部吉田正教授(当時)の協力を得て「全学さかさま大学」としてKJ法に関する合宿を企画,運営実施した。	2009 年 12 月	改革推進経費に関する報告書にて成果を報告した。同大学 web にて結果を公開。
6) 非常勤講師として担当した,関西学院大学「福祉科教育法 B」について授業評価のため授業アンケートを実施した。	2009 年 12 月	
<2010 年度>		
1) 学部担当科目「老人福祉論 1」について授業評価のため授業アンケートを実施した。	2010 年 6 月	
2) 非常勤講師として担当した,近畿大学豊岡短期大学通信教育部社会福祉士養成通信課程におけるスクーリング授業「相談援助演習」にて,授業アンケートを実施した。	2010 年 8 月	
3) 学部担当科目「老人福祉論 2」について授業評価のため授業アンケートを実施した。	2010 年 12 月	

4) 担当講義科目全てにおいて、コミュニケーションペーパー等で聴取した学生のコメントを、次時の授業レジュメにKJ法A型図解にしてフィードバックを実施した。	2009年12月～現在	
2. 作成した教科書、教材、参考書		
<2008年度>		
1) 大曾根寛編『ライフステージ社会福祉法ーいまの福祉を批判的に考える』法律文化社	2008年6月	
2) 菊井和子・大林雅之・山口三重子・斎藤信也編『ケースで学ぶ医療福祉の倫理』医学書院	2008年9月	第2部ケース編 2) 及び 11) を分担執筆
3) 成清美治・加納光子編『現代社会と福祉』学文社	2009年3月	第10章「福祉政策の課題」を分担執筆
4) 各担当科目において毎回レジュメ・補足資料を作成・配布した。	2008年度	
<2009年度>		
1) 成清美治・峯本佳代子編『高齢者に対する支援と介護保険制度』学文社	2009年4月	第2章「高齢者の福祉需要」を分担執筆
2) 井村圭壯・相澤譲治編『高齢者福祉史と現状課題』学文社	2010年1月	第14章「高齢者保健福祉の実践」を分担執筆
3) 峯本佳世子・中川千恵美・大野まどか編『事例中心で学ぶ相談援助演習』株式会社みらい	2010年2月	高齢者虐待に関する相談援助事例と演習問題・解説を分担執筆
4) 各担当科目において毎回レジュメ・補足資料を作成・配布した。	2009年度	
<2010年度>		
1) 各担当科目において毎回レジュメ・補足資料を作成・配布した他、iPad のアプリケーションソフトを用いたディスカッションのまとめ・学生の発表補助等を行った。	2010年度(～現在)	
3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
1) 横浜国立大学「平成22年度FD研修会」講師	2010年8月	本学教育研究所長梅村修教授・学生FDスタッフとともに研修へ招聘され、SDとの関連などについて講演を行った。

2) 摂南大学教職員研修『学生のメンタルヘルス』講師	2011年2月	同大学学生部主催，教職員向け研修の講師として招聘され，講義を行った。
4. その他教育活動上特記すべき事項 <2008年度>		
なし		
<2009年度>		
研究生1名の指導	2009年度	本学人間学部卒業生1名を、大学院進学を前提に研究生として指導を行った。
追手門学院大学教育研究所 所員	2009年度	委嘱を受け，同研究所で研究活動を行った。また学生FDスタッフ担当を務めた。
<2010年度>		
追手門学院大学教育研究所 所員	2010年度(～20011年度)	委嘱を受け，同研究所で研究活動を行った。また学生FDスタッフ担当を務めた。

II 研究活動（5カ年<2010年度、2009年度、2008年度、2007年度、2006年度>の活動についてご記入願います。）

著書・論文等の名称	著書・共著の別	発行または発表年月	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数	査読の有無
【著書】						
新版・高齢者福祉	共著	2006年4月	学文社	成清美治・峯本佳世子編	145-155頁	
介護予防実践論 キリスト教ミード社会館の足跡から	共著	2006年12月	中央法規出版	大阪地域福祉サービス研究所編	18-21頁	
児童福祉	共著	2007年3月	近畿大学豊岡短期大学[文部科学省認定通信教育テキスト,非買]	河崎洋充編	16-24, 123-153頁	

介護福祉士のための教養学5介護福祉と法	共著	2008年3月	弘文堂	梶原洋生編	67-79頁	
ライフステージ社会福祉法ーいまの福祉を批判的に考える	共著	2008年6月	法律文化社	大曾根寛編	77-91頁	
事例で学ぶ医療福祉の倫理	共著	2008年12月	医学書院	菊井和子・大林雅之・山口三重子・斎藤信也編	88-99頁	
現代社会と福祉	共著	2009年3月	学文社	成清美治・加納光子編	169-180頁	
高齢者に対する支援と介護保険制度	共著	2009年4月	学文社	成清美治・峯本佳世子編	17-26頁	
家族内殺人	共著	2009年6月	洋泉社[新書]	浜井浩一編	130-204頁	
災害福祉とは何かー生活支援体制の構築に向けて-	共編	2010年1月	ミネルヴァ書房	西尾祐吾・大塚保信・古川隆司編	はじめに・5章・10章・13章・おわりにを分担	
高齢者福祉史と現状課題	共著	2010年1月	学文社	井村圭壮・相澤譲治編	164-173頁	
事例中心で学ぶ相談援助演習	共著	2010年2月	株式会社みらい	峯本佳世子・中川千恵美・大野まどか編	89-93, 210-211頁	
刑事司法統計入門	共著	2010年4月	日本評論社	龍谷大学矯正・保護研究センター叢書, 浜井浩一編	223-240頁	
上町学	共著	2011年3月	産経新聞出版社	学校法人追手門学院編	84-87頁	
【論文】						
日本における高齢者の犯罪とソーシャルワーク	単著	2007年3月	追手門学院大学社会学部紀要第1号	追手門学院大学社会学部	73-84頁	無
高齢者虐待防止へのアプローチに必要な「社会的アセスメント」の視点	単著	2007年7月	訪問看護と介護8月号(vol 12N0. 8)	医学書院	656-659頁	有

ポートフォリオによる社会福祉援助技術演習の展開(1)	単著	2008年2月	社会福祉論集第10号	皇學館大学社会福祉学会	53-60頁	無
老年期や死生観に対する学生のイメージ対話型授業を通じた学生理解の試みー	単著	2008年3月	教育研究所紀要第26号	追手門学院大学教育研究所	147-158頁	無
高齢犯罪者の増加と社会福祉の関係, 課題	単著	2008年10月	熊谷大学矯正・保護研究センター研究年報N0.5	現代人文社	175-189頁	無
オーストラリアにおける犯罪者の社会内処遇と日本への示唆	単著	2008年12月	オーストラリア研究紀要34号	追手門学院大学オーストラリア研究所	75-86頁	無
ポートフォリオによる社会福祉援助技術演習の展開(2)	単著	2009年3月	社会福祉論集第11巻	皇學館大学社会福祉学会	17-27頁	無
犯罪者の孤独と生活世界ー吉村昭『仮釈放』をめぐってー	単著	2009年3月	追手門学院大学社会学部紀要第3号	追手門学院大学社会学部	151-158頁	無
認知症への理解と学生のイメージ変容ー対話型授業を通じた試みー	単著	2009年3月	教育研究所紀要第27号	追手門学院大学教育研究所	136-146頁	無
高齢受刑者の釈放前調整におけるソーシャルワークとの連携	単著	2009年6月	犯罪と非行160号	(財)日立みらい財団	209-223頁	有
支援を要する学生へのソーシャルワークと学生相談への示唆	単著	2009年7月	大学と学生平成21年7月号(通巻第69号)	日本学生支援機構	25-34頁	有
高齢犯罪者の更生保護における課題と福祉的援護	単著	2009年10月	熊谷大学矯正・保護研究センター研究年報N0.6	現代人文社	120-130頁	無
オーストラリアにおける高齢犯罪者のケアと課題		2009年12月	オーストラリア研究紀要第35号	追手門学院大学オーストラリア研究所	99-107頁	

高齢犯罪者の釈放前調整における外部との連携について－社会福祉の立場から－		2010年2月	刑政第121巻2号(通巻第1412号)	(財)矯正協会	76-85頁	
「バイステックの原則」とふたつの実践		2010年3月	追手門学院大学教育研究所紀要第28号	追手門学院大学教育研究所		
犯罪者のライフコース観－水上勉『その橋まで』を手がかりに－		2010年3月	追手門学院大学社会学部紀要第4号	追手門学院大学社会学部		
地すべり・水害のおそれがある地域の要援護者支援－社会福祉施設を例に－		2010年8月	砂防と治水(vol.43N0.3)196号	(社)全国治水砂防協会	89-93頁	
地域生活定着支援事業における専門職間連携－要援護性を中心に－		2010年8月	犯罪と非行第165号	(財)日立みらい財団	143-156頁	
社会保障を含む社会復帰支援－高齢者の犯罪と社会的寛容－		2010年9月	週刊社会保障 2010年9月6日号(通巻2594巻)	(株)法研	44-49頁	
高齢犯罪者・触法障害者に対する社会福祉と刑事政策の連携		2010年10月	龍谷大学矯正・保護研究センター研究年報N0.7	現代人文社	66-77頁	
要援護受刑者の釈放時保護－矯正と社会福祉の連携の実践例から－		2011年3月	犯罪と非行第167号	(財)日立みらい財団	41-53頁	
【その他】						
(多数のため省略)						
【学会における主な活動】						
【その他研究活動上特記すべき事項】			年月日	備考		

Ⅲ社会活動（3カ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）

社会における活動	年月日	備 考

Ⅳ大学運営活動（3カ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）（2011年度就任教員は、2011年度の本学での学内職務及び大学業務をご記入願います。）

大学運営における活動	年月日	備 考
【学内職務】		
社会学部自己評価・FD 委員社会学部紀要編集委員キャリア開発部委員	2008 年度	
社会学部自己評価・FD 委員キャリア開発部委員国際交流教育センター委員	2009 年度	
国際交流教育センター委員	2010 年度	
【大学業務】		
全学自己評価委員会委員 授業アンケート作業部会委員全学 FD 推進委員会委員	2008 年度	
全学自己評価委員会委員キャリア開発部委員会委員	2009 年度	
キャリア開発部委員会委員学長室調査役	2010 年度	

2011年度 教員活動評価調査票 (記入用紙)

山本 博史 1/5

所属	社会学部 社会学科	職名	教授	氏名	山本 博史	学位	博士(文学)
----	-----------	----	----	----	-------	----	--------

I 教育活動 (3カ年<2010年度、2009年度、2008年度>の活動についてご記入願います。)

【担当科目】 (2011年度就任教員は、2011年度の本学担当科目をご記入願います。)

1. 学部担当科目

「哲学概論1・2」、「現代社会と倫理」、「環境倫理学」、「新入生演習」、「表現演習」、「専門演習1・2」(旧「社会学演習1・2」)、「社会学演習3・4」、「学び論B」(オムニバスで一部担当)、「社会人間学への招待」(オムニバスで一部担当)

2. 大学院担当科目

「文化人間学特講」

3. 非常勤等担当科目(括弧内に大学名を記入してください) (2011年度就任教員は、前任校での担当科目についてもご記入願います。)

【教育業績】 (2011年度就任教員は、前任校での教育業績についてもご記入願います。)

教育実践上の主な業績	年月日	備 考
1. 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) ホームページでの参考資料提示と、パワーポイントなどIT機器を積極的に利用した授業	ホームページは 1998年6月より毎年更新している。	基本的には教科書を用いず、シラバスに記載した内容に沿って適宜資料を配布しながら授業を展開している。自ら作成したホームページ内に、参考資料(一般に常時公開しているものと、期間を限定して受講者のみにアクセスを制限しているものがある)を提示したり、パワーポイントを使ったりするなど、IT機器を積極的に利用した授業を行っている。
2. 作成した教科書、教材、参考書 ホームページでの資料提示	ホームページは 1998年6月より毎年更新している。	自ら作成したホームページ内に、授業のための参考資料を多数提示している。

3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
4. その他教育活動上特記すべき事項 クラブ顧問(文化会音楽局吹奏楽団)として課外活動を支援	2008年度～2010年度	(1)120周年記念式典での両中高・大学の合同演奏のサポートおよび演奏指導・楽譜作成・指揮 (2)企画「追大をプレゼンしよう」への応募のサポートとプレゼン実施のサポート (3)将軍山会館展示用パネル作成の援助 (4)上海万博プレイベントでの演奏の準備および調整
クラブ顧問(文化会音楽局軽音楽部)として課外活動を支援	2008年度～2010年度	企画「追大をプレゼンしよう」への応募のサポートおよびホームページの作成(新たに事務職員の森岡氏が顧問として加わったので協力して実施)
コア学生リーダー育成キャンプ	2008年9月16日, 17日	ファシリテーターとして参加
学習支援室、学習支援アドバイザー	2009年9月～2010年度	アドバイザー活動のほか、ピアサポーターの研修合宿に参加
学習支援室 企画「映像を読む」第1回 エヴァを見ませんか?	2010年6月30日	「エヴァンゲリオン」という不可解な作品をどう読むかというテーマでミニ講義

II 研究活動（5カ年〈2010年度、2009年度、2008年度、2007年度、2006年度〉の活動についてご記入願います。）

著書・論文等の名称	著書・共著の別	発行または発表年月	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数	査読の有無
【著書】						
【論文】						
カントの賞味期限と倫理学の行方	単著	2006年11月	『ディルタイ研究』第17号	日本ディルタイ協会	89-99頁	無
主体-客体の脱構築から、食の哲学を試みる	単著	2006年11月	『おいしさの科学』Vol.2	食品研究社	4-9頁	無
秘匿された〈まなざし〉-カントの〈狂気論〉-	単著	2007年3月	『追手門学院大学社会学部紀要』創刊号	追手門学院大学社会学部	85-96頁	無
カント・ユクスキュル・ハイデガー(1) -ユクスキュル・ハイデガーからカントを逆照射する-	単著	2010年3月	『追手門学院大学社会学部紀要』第4号	追手門学院大学社会学部	103-120頁	無
【その他】						
学会発表	単独	2006年7月	日本ディルタイ協会	日本ディルタイ協会と日本ショーペンハウアー協会の共催、日本カント協会協賛で開催された共同討論「道德論の諸相と行方 - カント、ショーペンハウアー、ディルタイ」にて提題者として発表		
【学会における主な活動】						
		日本哲学会会員				
		日本カント協会会員				
		「戦争・女性・人権」学会会員				

【その他研究活動上特記すべき事項】	年月日	備	考

Ⅲ社会活動（3ヵ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）

社会における活動	年月日	備	考
1. 委員など			
池田市男女共同参画審議会委員	2008年度～2010年度		
池田市教育問題懇話会委員	2008年度～2010年度		
不登校への対応におけるNPO等の活用に関する実践的研究事業運営委員	2008年度～2010年度		
池田市緑化推進委員	2008年度～2010年度		
門真市男女共同参画審議会会長	2008年度～2010年度		
2. 講演			
今、なぜ男女共同参画が求められているのか -「なぜ男も家事なのか」ではなくて、「男も家事があたりまえ」となる社会をめざして-	2009年6月24日		「門真市男女共同参画研究講座」にて講演
上町学プロジェクトに関わって	2009年12月15日		「うえまち100人の力」(應典院)にて講演

2011年度 教員活動評価調査票（記入用紙）

山本 博史 5/5

IV大学運営活動（3ヵ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）（2011年度就任教員は、2011年度の本学での学内職務及び大学業務をご記入願います。）

大学運営における活動	年月日	備 考
【学内職務】		
全学自己評価委員	2009年度～2010年度	
120周年記念志編纂委員	2008年度	
社会学部FD・自己評価委員	2009年度～2010年度	
学習支援アドバイザー	2009年7月～2010年度	
上町学プロジェクト委員	2009年度～2010年度	
【大学業務】		
1. 出張授業・模擬授業（分野説明会を除く）		
京都府立宮津高校	2008年6月17日	
兵庫県立尼崎高校	2008年9月19日	
大阪府立千里高校	2008年10月9日	
聖母被昇天学院高校	2009年2月26日	
兵庫県立舞子高校	2009年3月5日	
兵庫県立社高校	2009年3月6日	
兵庫県立西宮今津高校	2009年11月11日	
2. オープンキャンパス担当	2009年度全回	
【その他大学運営活動上特記すべき事項】		
国際教養学部FD懇話会での発表	2009年9月1日	「本学のFD活動に欠けているもの」と題して、国際教養学部FD懇話会にて発表した。

2011年度 教員活動評価調査票 (記入用紙)

善積 京子 1/5

所属	社会学部 社会学科	職名	教授	氏名	善積 京子	学位	修士(家政学)、大阪市立大学、1975年3月取得
----	-----------	----	----	----	-------	----	--------------------------

I 教育活動 (3カ年<2010年度、2009年度、2008年度>の活動についてご記入願います。)

【担当科目】 (2011年度就任教員は、2011年度の本学担当科目をご記入願います。)

1. 学部担当科目 家族論、家族比較論、ジェンダーと社会、入門ジェンダー論、社会調査フィールドワーク、社会調査実習、基礎演習1・2、社会学演習1・2・3・4、 新入生演習、表現演習
2. 大学院担当科目 現代家族研究
3. 非常勤等担当科目(括弧内に大学名を記入してください) (2011年度就任教員は、前任校での担当科目についてもご記入願います。) なし

【教育業績】 (2011年度就任教員は、前任校での教育業績についてもご記入願います。)

教育実践上の主な業績	年月日	備 考
1. 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 「比較家族論」および「ジェンダーの社会学」において、ビデオやパワーポイントなどを使い、学生の理解を深めるように努力する。		
2. 作成した教科書、教材、参考書 野々山久也編『論点ハンドブック:家族社会学』世界思想社	2009年3月	「結婚の定義づけ」「制度としての結婚」「伝統的な結婚」「非婚の異性同棲カップル」の項目を執筆
3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 2009年度「社会調査実習報告書」	2010年3月	「社会調査実習 C」の授業において、受講学生による地球環境問題のフィールドワーク調査結果の成果を報告書としてまとめる。
4. その他教育活動上特記すべき事項 児童研究同好会顧問 放送大学の「現代世界の結婚と家族」科目を担当(放送大学客員教授)	2009年より現在に至る	

Ⅱ 研究活動（5カ年〈2010年度、2009年度、2008年度、2007年度、2006年度〉の活動についてご記入願います。）

著書・論文等の名称	著書・共著の別	発行または発表年月	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数	査読の有無
【著書】						
『現代世界の結婚と家族』	共著	2008年3月	日本放送出版協会	宮本みち子・善積京子編	9～25頁 41～60頁 223～233頁	
『論点ハンドブック:家族社会学』	共著	2009年3月	世界思想社	野々山久也 編	105～108頁 113～120頁 255～258頁	
『新編 日本のフェミニズム3:性役割』	共著	2009年7月	岩波書店	井上輝子 他編	88～109頁	
【論文】						
「スウェーデンの性・ジェンダー教育」	単著	2007年3月	『21世紀ジェンダー教育の構築－フィールドワークからの発信』追手門学院ジェンダー教育研究会		41～80頁	無
「スウェーデンにおける離別後の養育・居所・面会(その1)－養育規程と家族法事務所」	単著	2009年4月	『追手門学院大学社会学部紀要』3号		169～191頁	無
「子どもの最善の利益からみたスウェーデンの養育裁判」	単著	2010年6月	『北ヨーロッパ研究』第6巻、(北ヨーロッパ学会)		71～81頁	有

「スウェーデンにおける離別後の養育・居所・面会(その2)―子どもの意思尊重」	単著	2011年3月	『追手門学院大学社会学部紀要』5号		197～229頁	無
「スウェーデンの養育訴訟におけるDVケースの扱い―『子どもの最善』と『ジェンダー公平性』からの考察」	単著	2011年3月	『女性学』(日本女性学会)		83～104頁	有
【その他】						
「スウェーデンにおける同性カップルの生活と制度」	単独報告	2007年12月	お茶大シンポ『同性カップルの生活と制度』報告・コメント			
トランスジェンダー:多様な性のあり方	単著	2009年4月	『追大人権ビエンナーレ』第2号		8～10頁	
スウェーデンにおける離別後の養育・居所・面会―「子どもの最善の利益」視点から裁判訴訟ケース分析	単独報告	2008年9月	日本家族社会学会第18回大会・発表			
『スウェーデンの親権と養育支援体制:子どもの最善の利益からみた事例分析』	共著	2009年9月	科学研究費補助金研究成果報告書	善積京子・高橋美恵子	1～276頁	
「恋愛、結婚」	単著	2010年6月	『社会学事典』丸善		260～261頁	
「スウェーデンの家族―多様なパートナー関係と子育て」	単独報告	2010年9月12日	日本家族社会学会第20回大会・発表			
「新たなワーク・ファミリー・バランス論に向けて―センの〈潜在能力〉アプローチの可能性―」	共同報告	2010年11月7日	日本社会学会第82回大会・発表	松田智子・釜野さおり・斧出節子・高橋美恵子・善積京子		
「父親の育児を阻害するメカニズムと〈父親〉の構築」	共同報告	2010年11月7日	日本社会学会第82回大会・発表	釜野さおり・松田智子・斧出節子・高橋美恵子・善積京子		

【学会における主な活動】		
2007年～2010年	関西社会学会・理事、編集委員	
【その他研究活動上特記すべき事項】	年月日	備 考
2006年～2008年度科学研究補助金(基盤研究(B) 課題「スウェーデンの親権と養育支援体制 - 子どもの最善の利益から見た事例分析」代表者)	2006年～2008年度	
2009年～2011年科学研究補助金(基盤研究(B) 課題「ワークライフバランスと父親の育児に関する日本・スウェーデン・EU比較研究」(研究分担者)	2009年～2011年度	

Ⅲ社会活動（3カ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）

社会における活動	年月日	備 考
「離婚後の共同養育を考える勉強会」第3回・講演	2009年3月17日	演題: スウェーデンにおける子どもの最善の利益
親子ネット関西第1回定例会・講演	2009年3月29日	演題: 離婚と子どもの利益(1)スウェーデンの養育規定と養育訴訟
親子ネット関西第2回定例会・講演	2009年4月29日	演題: 離婚と子どもの利益(2)スウェーデンと日本で、なぜこんなに違うの?
日本女性学研究会7月例会・講演	2009年7月11日	演題: 親子の引き離し: スウェーデンの裁判訴訟事例から日本の親権・監護法制を考える
日本男性学会議、第5回・講演	2009年10月11日	演題: 変わるスウェーデンの男と家族
内閣府男女共同参画局勉強会・講演	2010年10月28日	演題: 変わるスウェーデンの家族—その法律と政策

2011年度 教員活動評価調査票（記入用紙）

善積 京子 5/5

IV大学運営活動（3ヵ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）（2011年度就任教員は、2011年度の本学での学内職務及び大学業務をご記入願います。）

大学運営における活動	年月日	備 考
【学内職務】 「本人の申し出により非公表とした。」		
【大学業務】 「本人の申し出により非公表とした。」		

2011年度 追手門学院大学 教員活動評価調査票 【国際教養学部 アジア学科】

◎教員活動評価票各評価領域の記載年度。

- I 教育活動 2010年度、2009年度、2008年度の3カ年。
- II 研究活動 2010年度、2009年度、2008年度、2007年度、2006年度の5カ年。
- III 社会活動 2010年度、2009年度、2008年度の3カ年。
- IV 大学運営活動 2010年度、2009年度、2008年度の3カ年。

〈アジア学科〉

磯貝 健一	2～4 ページ
梅村 修	5～16 ページ
奥田 尚	17～19 ページ
櫛引 祐希子	20～22 ページ
重松 伸司	23～29 ページ
正信 公章	30～32 ページ
田口 宏二郎	33～34 ページ
武田 秀夫	35～37 ページ
筒井 由起乃	38～43 ページ
永吉 雅夫	44～46 ページ
松家 裕子	47～50 ページ
南出 眞助	51～54 ページ
李 慶国	55～57 ページ

2011年度 教員活動評価調査票 (記入用紙)

磯貝 健一 1/3

所属	国際教養学部 アジア学科	職名	准教授	氏名	磯貝 健一	学位	博士(文学)、京都大学、2010年3月取得
----	--------------	----	-----	----	-------	----	-----------------------

I 教育活動 (3カ年<2010年度、2009年度、2008年度>の活動についてご記入願います。)

【担当科目】 (2011年度就任教員は、2011年度の本学担当科目をご記入願います。)

1. 学部担当科目

新入生演習、キャリアデザイン論、アジアの社会、南・西南アジアの社会、西南アジアの歴史、現代アジアの諸問題、応用演習、南・西南アジア諸語の世界、基礎演習、応用演習、卒業演習、アジア社会演習、アジアフィールドワーク、学び論

2. 大学院担当科目

中国文化特殊講義

3. 非常勤等担当科目(括弧内に大学名を記入してください) (2011年度就任教員は、前任校での担当科目についてもご記入願います。)

現代の中東(京都外国語大学)、アジア史学特論(関西学院大学)、アジア史学特殊講義(関西学院大学)他

【教育業績】 (2011年度就任教員は、前任校での教育業績についてもご記入願います。)

教育実践上の主な業績	年月日	備 考
1. 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業外における学生への個人相談等		
2. 作成した教科書、教材、参考書 適宜レジュメを作成している		
3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 なし		
4. その他教育活動上特記すべき事項 特になし		

2011年度 教員活動評価調査票（記入用紙）

磯貝 健一 2/3

II 研究活動（5カ年〈2010年度、2009年度、2008年度、2007年度、2006年度〉の活動についてご記入願います。）

著書・論文等の名称	著書・共著の別	発行または発表年月	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数	査読の有無
【著書】						
前近代中央アジアにおけるイスラーム法運営の諸相	単著	2010年3月	博士論文、京都大学大学院文学研究科に提出			
オスマン民法典研究序説	共著	2011年3月	NIHU プログラム「イスラーム地域研究」東洋文庫拠点	大河原知樹、堀井聡江		
【論文】						
イスラーム法廷	単著	2006年	小杉泰・江川ひかり編『イスラーム 社会生活・思想・歴史』、新曜社		163-170	有
ヒジュラ暦 742 年カラコルムのペルシア語碑文	共著	2007年	『内陸アジア言語の研究』22	矢島洋一	119-156	有
イスラーム法とペルシア語：前近代西トルキスタンの法曹界	単著	2009年	森本一夫・前田弘毅編『ペルシア語が結んだ世界』、北海道大学出版会		97-128	無
中央アジア・イスラーム法廷における裁判システム—20世紀初頭サマルカンドのファトワー文書を中心として—	単著	2010年	『北海道大学スラブ研究センター共同利用・共同研究拠点公募プログラム・シンポジウム 北西ユーラシア歴史空間の再構築 ロシア外部の史料を通じてみた前近代ロシア世界 報告書』		147-185	無

【その他】						
O rivaiatakh iz Samarkanda nachala XXv.	単独の学会発表（ロシア語）	2009年	<i>Uzbek- Japanese Scientific Cooperation: History and Culture of Central Asia: Sources and Methodological Issues, Tashkent</i>			
川口琢司著『ティムール帝国支配層の研究』	書評	2009年	『東洋史研究』68-2			
【学会における主な活動】						
【その他研究活動上特記すべき事項】				年月日	備	考

Ⅲ社会活動（3ヵ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）

社会における活動	年月日	備	考

Ⅳ大学運営活動（3ヵ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）（2011年度就任教員は、2011年度の本学での学内職務及び大学業務をご記入願います。）

大学運営における活動	年月日	備	考
【学内職務】 国際教養学部紀要編集委員	2010年度		
【大学業務】 オープンキャンパス、プリエントランスの集い	2010年度		

所属	国際教養学部 アジア学科	職名	教授	氏名	梅村 修	学位	修士(文学) (慶応義塾大学 第1444号)
----	--------------	----	----	----	------	----	------------------------

I 教育活動 (3カ年<2010年度、2009年度、2008年度>の活動についてご記入願います。)

【担当科目】 (2011年度就任教員は、2011年度の本学担当科目をご記入願います。)

1. 学部担当科目 日本語読解中級1・2、日本語読解上級1・2、日本語聴解中級1・2、日本語聴解上級1・2、日本語教育実習1・2
2. 大学院担当科目 なし
3. 非常勤等担当科目(括弧内に大学名を記入してください) (2011年度就任教員は、前任校での担当科目についてもご記入願います。) 総合文化演習Ⅱ(神戸薬科大学)、現代広告論(神戸薬科大学)

【教育業績】 (2011年度就任教員は、前任校での教育業績についてもご記入願います。)

教育実践上の主な業績	年月日	備 考
1. 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) (1) 外国人留学生のための「読解フィールドワーク」の試み	2006年4月1日 ～2011年3月31日	「インタビュー・プロジェクト」とは、外国語の学習者が、ある話題について、当該外国語で聞き取り調査をし、それをまとめるプロジェクト・ワーク、広義の体験学習の一つである。「インタビュー・プロジェクト」を思い立った理由は、次の3点である。 1) 既成の日本語の談話教材、なかでも読解教材には、テーマや論旨に著しい偏りがある。また、留学生が抱く日本(人)観には、こうした偏向した読み物からの影響が少なくない。そうしたステレオタイプな日本(人)観を打破して、日本(人)の多様性を発見するような授業を展開してみたい。 2) 留学生は、日本人とまじめに率直な議論をした経験が少ない。また、日本人も留学生を遠巻きにして近寄ろうとしない傾向がある。留学生、日本人双方のインターアクションを高めて、両者の

		<p>気づきを誘発したい。</p> <p>3) 日本語の読解・聴解の授業を、留学生にとって、もっと内発的動機に溢れた、有意義なものにしたい。言い換えれば、ある明確な目的をもって、読んだり聴いたりする授業を展開したい。</p> <p>上記のような意図の実現のためにシラバスを組み立てた。もちろん、よいインタビューをするためには、TPO に合わせて日本語を正しく運用する能力や、相手から有意義な発話を引き出す能力の養成が欠かせない。したがって、文法や発音など、いわゆる語学力の指導も徹底して行う。しかし、日本語力の養成は、あくまでも、上記 3 点の意図の実現のための手段であって、それ自体を学習目標にはしない。すなわち、日本語を話したり聞いたりする能力は、インタビューというタスクの中で付随的に磨かれていくことを狙った。</p>
(2) 外国人留学生のための「インタビュー・プロジェクト」の試み	2005年4月1日 ～2011年3月31日	<p>これは、前述の「インタビュー・プロジェクト」に先立って、留学生が広くさまざまな日本語の文献に当たり、インタビューのテーマを絞り込むために行われる活動である。</p> <p>そもそも、「インタビュー・プロジェクト」は、日本語の読解、聴解の授業を、留学生にとって、もっと内発的動機に溢れたものにしたい、という願いから案出されたものだった。お仕着せの談話を無理やり読ませる(聴かせる)のではなく、留学生には、自らの興味や関心の赴くまま、好きな文章を読み(聴き)深めていってもらいたいと期待した。し</p>

		<p>かし、2005年度の留学生のインタビューをみるかぎりでは、日本人から有意義な発言を引き出すために、関連文章をたくさん読みこんだ跡は、残念ながら見られなかった。インタビューという喫緊の課題をとにかく凌げばいいというので、浅薄な問題意識のまま、おざなりな質問と応答で済ます留学生が多かった。つまり、2005年度のインタビュー・プロジェクトは、明確な目的をもって意欲的に文章を読み解く作業に留学生を駆り立てなかったのだ。「読解フィールドワーク」は、この反省の上に立ち、「自分が本当に興味を持っていることはなにか」を留学生自身に発見させるために行われたものである。留学生は、教科書や教室を離れ、図書館やウェブサイトをフィールドに、インタビューのテーマ探しに赴く。日本語の文献を、文字どおり、読み漁り、要約する作業に没頭した。</p>
<p>(3) NHK 総合 報道番組「クローズアップ現代」を使った授業</p>	<p>2008年4月1日 ～2008年10月31日</p>	<p>NHK 総合で毎週月曜日から木曜日に放映されている長寿報道番組「クローズアップ現代」は、娯楽色の強い民放の報道番組に比べ、偏りの少ない客観的な報道に徹しているように見える。毎回、ていねいな取材と専門家の的確なコメントが、わかりやすくコンパクトにまとめられて茶の間に送り届けられる。さらに、国谷キャスターのよどみない明快な口調や、破綻のない折り目正しいナレーションは、日本語学習者の聴解教材として良質である。もちろん、メディアによる報道番組である以上、事実の切り取り方や解釈には、一定の</p>

		<p>バイアスは避けられない。それにしても公共放送の縛りが作用してか、その言説は最大公約数的な世論形成に大きく与っているように思える。</p> <p>中でも、筆者が大学で学ぶ留学生に資することが多いと思えるのは、「クローズアップ現代」の番組構成、フォーマットが、毎回、かたくななまでに揺るがないことである。毎回、「論点の提示」、「取材に基づく事実の提示」、それに続く「解釈や考察」と手堅くまとめられている。テーマを明確に提示する態度、“事実と意見”“データと考察”を峻別する報道姿勢は、留学生がレポートを書いたり、研究発表をしたりする上でお手本になる。講義の聞き取りに際しても、レポートの執筆に際しても、今の留学生に求められるのは、“事実と意見”、“データと考察”を水際立てることである。「クローズアップ現代」の視聴を通じて、留学生に、感想文やおしゃべりとは違う「反証可能性」を具えた日本語のスタイルを学んでほしかった。</p>
(4) 「ペアワーク・アクティビティ」および「ティーチング・プロジェクト」の試み	2010年4月～現在	<p>本試みは、将来、日本語教師を志す日本人学生と、日本語の運用能力を高めたい留学生が、二人一組になり、日本語を仲立ちにして学びあう授業の試みである。</p> <p>前者の「ペアワーク・アクティビティ」は、日本人と留学生の間にある“文化的ギャップ”や“意図的に作り出された情報格差”を埋めるコミュニケーション・ゲームを通して、留学生の日本語運用力を高めることを目的とした。</p>

後者の「ティーチング・プロジェクト」とは、機能シラバス、もしくは状況シラバスを、留学生(教師役)が、ペアを組んだ日本人学生(生徒役)といっしょに作成し、話題提供(導入・学習目標提示)→語彙・表現の導入・練習(新出語彙の意味や用法、慣用的な表現の発音や機能の説明、練習)→会話練習(会話文の発話、意味説明、練習)→文法説明・練習(日本人学生(生徒役)の質問に応じての説明)→発展練習を、制限時間内で行う活動である。このプロジェクトの趣旨は次の点である。

まず、留学生は、日本語学習者の“キャリア”を活かして、母語(中国語や英語やベトナム語)を日本人に教えることで、外国語学習の“学びのプロセス”に自覚的になることができる。また、教師の立場に身をおくことによって、外国語学習における“よい学び手”とはどんな学習者なのか、体験的に知ることができる。さらに、母語を、日本人に、習い覚えた日本語を活用して教える過程で、教えるための日本語を習得することができる。とくに、学習者に対する「発問」や「指示」の日本語は、身近でありながら留学生自身の口からは発せられることがほとんどない。

一方、日本人学生にとっては、目標言語である外国語のスキルを磨き、留学生と親睦を深める機会であることは言うまでもない。また、日本人学生は、つねに「よい生徒」である必要がある。すなわ

		ち、即席の素人外国語教師である留学生にとって、たいへん意欲的で、教えやすい学生でなければならない。こうした制約の中で、日本人学生は、「能動的に学び、教師からよい説明や練習を引き出す生徒とはどんな学習者なのか」を発見することができる。さらに、授業で使う教材作成に参画することによって、自分が日本語教師になったときのコースデザインやシラバス作成の実習ができる。
2. 作成した教科書、教材、参考書		
(1)『キャラクター総論～文化・商業・知財』(白桃書房・共著)	2009年5月6日	
(2)『地域ブランドと広告～伝える流儀を学ぶ～』(嵯峨野書院・共著)	2010年6月10日	
3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
(1)『学生とともに進めるFD～追手門版学生FDスタッフ 現況と課題』(横浜国立大学FD合宿研修)	2010年9月3日	於・八王子セミナーハウス
(2)『第1回大学生改善学生交流 フリーディスカッション』(岡山大学i*see2010)	2010年9月4日	於:岡山大学創立50周年記念館多目的ホール
4. その他教育活動上特記すべき事項		
教育研究所の所長として、学生FD活動を推進している。 同研究所長として、高大連携事業(総合学習の「追大講座」の企画・実施、茨木中高との懇談会の企画・実施)、 同研究所長として、文章表現コンクール「青が散る」Awardの企画・運営・実施 同研究所長として、学校史編纂事業の推進	2009年4月1日～	

II 研究活動（5カ年〈2010年度、2009年度、2008年度、2007年度、2006年度〉の活動についてご記入願います。）

著書・論文等の名称	著書・共著の別	発行または発表年月	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数	査読の有無
【著書】						
アート・マーケティング	共著	2006年4月	白桃書房	辻幸恵	9～158頁	
消費社会とマーケティング～ブランド・広告・ファッション・産業クラスター～	共著	2007年3月	嵯峨野書院	辻幸恵、東伸一、玄野博行	39～76頁	
キャラクター総論—文化・商業・知財	共著	2008年11月	白桃書房	辻幸恵、水野浩児	2～103頁	
『地域ブランドと広告～伝える流儀を学ぶ～（嵯峨野書院・共著）』	共著	2010年6月	嵯峨野書院	辻幸恵、朽尾安伸	123～184頁	
【論文】						
『外国人留学生のための「インタビュー・プロジェクト」「読解フィールドワーク」の試み』	単著	2006年12月	「留学生教育」第11号（留学生教育学会）		P125-P132	有
『大学のアートディレクション～追手門ブランド構築のために～』	単著	2006年12月	追手門学院大学文学部紀要第42号（大学創立40周年記念論文集）		P55-P72	無
『台湾の食文化に入り込んだ日本』	共著	2007年1月	追手門学院大学アジア文化学科年報第9号	山本祥子	P25-P39	無
『新入生演習での日本語リテラシー教育について』	単著	2007年3月	追手門学院大学教育研究所紀要第25号		P47-P63	無
『新入生が抱えている追手門学院大学のイメージ—追手門ブランド創出のための調査研究報告—』	共著	2008年3月	追手門学院大学教育研究所紀要第26号	水藤達彦、辻幸恵	P64-P90	無

「京のクリエイティブに学ぶアプレンティス・プロジェクト」	単著	2008年12月	追手門学院大学アジア学科年報第2号		P1-P10	無
『NHK クローズアップ現代』を使った日本語聴解の授業」	単著	2009年3月	追手門学院大学教育研究所紀要第27号		P58-P68	無
「ブランデッド・エンタテインメントの理解過程に関する実証的研究～映像広告の非営利的活用が消費者心理に及ぼす影響について」	単著		2007-8年度 科学研究費補助金(基盤研究C)研究報告「映像コンテンツのNPOとPPPの権利管理及び関連する振興政策と協働経営の国際比較			無
「メディア・リテラシーが企業心理に及ぼす影響～広告を使ったコミュニケーション能力養成の試みから～」	単著	2010年9月	日本繊維機械学会誌月刊せんい Vol.63, No9		P481-P484	有
『研究室訪問～教員インタビューの取り組み』	単著	2010年3月	追手門学院大学教育研究所紀要第28号		P17-P27	無
「双方向授業への誘い」	単著	2010年3月	第15回FDフォーラム報告集(コンソーシアム京都)		PP.9-9. ～9-30	無
「学生の成長を促す授業の試み～「ペアワーク・アクティビティ」と「ティーチング・プロジェクト」	単著	2011年3月	追手門学院大学教育研究所紀要第29号			無
「インタビュー・プロジェクト」	単著	2011年3月	追手門学院大学学習支援・教育開発センター年報第1号			無
「追手門版 学生 FD スタッフの活動現況と課題」	単著	2011年3月	第16回FDフォーラム報告集(コンソーシアム京都)		pp.②-9～② -14	無

【その他】						
『広告が消費者心理に及ぼす影響 (第4報)アートの映像広告の “売る仕掛け”』	単 独 発 表	2006 年 6 月	日本繊維機械学会	大阪科学		
『アート商品に対する日本の大学 生の心的効果』	共 同 発 表	2006 年 6 月	日本繊維機械学会	温都蘇、李良		
『ブランド商品に対しての消費者 心理 大学生のケース』	共 同 発 表	2007 年 5 月	日本繊維機械学会	王曉輝、楊威		
『広告が消費者心理に及ぼす影響 (第6報)映像広告の理解過程』	単 独 発 表	2007 年 6 月	日本繊維機械学会			
『広告が消費者心理に及ぼす影響 (第8報)映像広告の理解過程』	単 独 発 表	2008 年 5 月	日本繊維機械学会			
『大学生が求めるシューズ』	共 同 発 表	2008 年 5 月	日本繊維機械学会	森田智、森田大貴		
『レトロ商品と結びつく若者の想起と 行動』	共 同 発 表	2008 年 6 月	日本消費者行動研究学会	辻幸恵		
『京都の魅力店開発事例ー京都市 支援個店へのリサーチ報告ー』	共 同 発 表	2008 年 11 月 23 日	日本消費者行動研究学会	辻幸恵		
『広告が消費者心理に及ぼす影響 (第10報)映像広告の理解過程』	単 独 発 表	2009 年 5 月 21 日	日本繊維機械学会			
『ズボンの選択基準ー大学生のケ ース』	共 同 発 表	2009 年 5 月 21 日	日本繊維機械学会	竹村卓巳、榎井智裕、松下周 平		
『日本人がブランドを好む理由』	共 同 発 表	2009 年 5 月 21 日	日本繊維機械学会	楊帆、尹蘭		

『「ペコちゃん」の世論形成～企業キャラクターはリスク・ヘッジとして機能しうるか～』	単 独 発 表	2009年6月 14日	日本繊維機械学会			
『双方向型授業への誘い』	単 独 発 表	2010年3月7 日	第15回FDフォーラム第9分科 会(大学コンソーシアム京都)	同志社大学新町キャンパス		
『学生途とともに進める FD～追手門 版学生FDスタッフ 現況と課題』	単 独 発 表	2010年3月 19日	第16回大学教育研究フォーラ ム	京都大学 吉田キャンパス		
サブタイトル『学生とともに進める FD ～追手門版 学生FDスタッフ 現況 と課題』	単 独 発 表	2010年6月6 日	大学教育学会第32回大会	愛媛大学 城北キャンパス		
『メガネに対する大学生の意識調査』	共 同 発 表	2010年6月	日本繊維製品消費科学会年次 大会	実践女子大学		
『男子大学生に対する下着の実体調 査』	共 同 発 表	2010年6月 26日	日本繊維製品消費科学会年次 大会	実践女子大学		
『男性の化粧品に対する好悪と男性化 粧品の使用意識』	共 同 発 表	2010年6月 26日	日本繊維製品消費科学会年次 大会	実践女子大学		
『メディア・リテラシーが企業心理に 及ぼす影響～広告を使ったコミュニ ケーション能力養成の試みから』	共 同 発 表	2010年11月 7日	日本消費者行動研究学会第41 回消費者行動研究コンファレン ス	関西学院大学		
『学生とともに進める FD～追手門版 学生FDスタッフの活動 現況と課 題』	単 独 発 表	2011年3月6 日	第16回FDフォーラム第二ミニ シンポジウム(大学コンソーシア ム京都)	京都外国語大学		
『学生とともに進めるFD』	共 同 企 画者	2011年3月 18日	第17回大学教育研究フォーラ ム ラウンドテーブル	京都大学吉田南構内総合館		

【学会における主な活動】		
2004年4月～2008年3月	留学生教育学会理事	
【その他研究活動上特記すべき事項】	年月日	備 考
科学研究費補助金(基盤研究(C))研究報告「映像コンテンツのNPOとPPPの権利管理及び関連する振興政策と協働経営の国際比較」	2007-8年度	
追手門学院大学 学内共同研究1	2006年度	

Ⅲ社会活動（3カ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）

社会における活動	年月日	備 考
【講演・シンポジウム・対談等】		
『骨董の魅力と購買心理』	2009年10月30日	日本繊維機械学会 企業心理と消費者心理研究会第7回公開講演会 於:大阪科学技術センター (勝見充男氏との対談)
『アートとマーケティング～アートで創る「儲ける仕掛け」』	2010年3月12日	大阪彩都総合研究所 2010年春経営者特別フォーラム 於:ホテルグランヴィア大阪
『近代の数寄者とアート』	2010年3月17日	茨木ロータリークラブ「卓話」 於:ホテル日航茨木

IV大学運営活動（3ヵ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）（2011年度就任教員は、2011年度の本学での学内職務及び大学業務をご記入願います。）

大学運営における活動	年月日	備 考
【学内職務】		
国際交流教育センター 委員	2003年～	
教育研究所 所員	2006年～	
学長室調査役	2008年7月～2009年3月	
教育研究所 所長	2009年4月～	
【大学業務】		
『隣の国から見た日本の教育』	2008年2月	朝日・大学パートナーズシンポジウム
「NHK クローズアップ現代を使った日本語聴解の授業」	2008年6月19日	教育研研究所 定例研究会
「ジョージア州立大学(バルドスタ州立大学)受け入れの反省と課題」	2008年9月4日	国際交流教育センター事務室・職場研修
『「もしかしてお宝？」コレクション』	2010年6月9日	第8回おうてもん教育セミナー「和の文化を学び、アート感覚を育む」 於：追手門学院大阪城スクエア
『開運！なんでも鑑定団「出張 なんでも鑑定団in大阪・上町」の招致、企画、出演、番組収録』	2010年9月19日	第8回おうてもん教育セミナー「和の文化を学び、アート感覚を育む」 於：追手門学院大阪城スクエア
『外国人に教える日本語』	2011年2月22日	おうてもん塾第3期 国際交流推進記念国際化社会と国際交流 於：追手門学院大阪城スクエア

2011年度 教員活動評価調査票 (記入用紙)

奥田 尚 1/3

所属	国際教養学部 アジア学科	職名	教授	氏名	奥田 尚	学位	文学修士
----	--------------	----	----	----	------	----	------

I 教育活動 (3カ年<2010年度、2009年度、2008年度>の活動についてご記入願います。)

【担当科目】 (2011年度就任教員は、2011年度の本学担当科目をご記入願います。)

1. 学部担当科目

8・9・10年度:日本史概説1・2、アジアの社会1、アジアの諸文化2、日本語のための古典2、キャリアデザイン論、新入生演習、日本事情1、現代アジアの諸問題2、北摂を学ぶ、/8・10年度のみ:アジア社会演習4 /8年度のみ担当科目:上級演習1・2、アジアフィールドワーク4
/9年度のみ:基礎演習1・2、アジアの諸文化1/10年度のみ担当科目:応用演習1・2

2. 大学院担当科目

8・9・10年度:中国文化特殊講義1

3. 非常勤等担当科目(括弧内に大学名を記入してください) (2011年度就任教員は、前任校での担当科目についてもご記入願います。)

なし

【教育業績】 (2011年度就任教員は、前任校での教育業績についてもご記入願います。)

教育実践上の主な業績	年月日	備 考
1. 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 視覚教材を可能な限り多用する	全期間	全科目
2. 作成した教科書、教材、参考書 自作の教材をプリントして配布する	全期間	全科目
3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 なし		
4. その他教育活動上特記すべき事項 なし		

2011年度 教員活動評価調査票（記入用紙）

奥田 尚 2/3

Ⅱ 研究活動（5カ年〈2010年度、2009年度、2008年度、2007年度、2006年度〉の活動についてご記入願います。）

著書・論文等の名称	著書・共著の別	発行または発表年月	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数	査読の有無
【著書】						
『藤原鎌足と阿武山古墳』	共著	2009年3月	茨木市	茨木市	13～17・70～75頁	
『上海アラカルト』	共著	2009年6月	和泉書院	アジア学科	106～191頁	
【論文】						
『海外新話』の南京条約	単著	2007年3月	創立40周年記念論集文学部編	追手門学院大学		無
虹影『飢餓の娘』に見る現代中国史	単著	2007年11月	アジア学科年報創刊号	追手門学院大学アジア学科		無
棉棉『上海キャンディ』に見る現代中国	単著	2008年1月	国際教養学部紀要創刊号	追手門学院大学		無
『日本書紀』の崇仏排仏記事について(下)	単著	2009年12月	アジア学科年報3号	追手門学院大学アジア学科		無
『日本書紀』の崇仏排仏記事について(上)	単著	2010年1月	国際教養学部紀要3号	追手門学院大学		無
版本『天正記』の斉藤道三と義龍の物語	単著	2010年11月	アジア学科年報4号	追手門学院大学アジア学科		無
【その他】						
【学会における主な活動】						
【その他研究活動上特記すべき事項】			年月日		備考	
永吉雅夫代表・学内共同研究「太閤伝説の基礎的研究」世話役			2010年4月～11年3月			

Ⅲ社会活動（3カ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）

社会における活動	年月日	備 考

Ⅳ大学運営活動（3カ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）（2011年度就任教員は、2011年度の本学での学内職務及び大学業務をご記入願います。）

大学運営における活動	年月日	備 考
【学内職務】		
人権啓発委員	2008～10年度	
キャリア開発部委員会委員	2009～10年度	
【大学業務】		
「本人の申し出により非公表とした。」		

2011年度 教員活動評価調査票 (記入用紙)

櫛引 祐希子 1/3

所属	国際教養学部 アジア学科	職名	講師	氏名	櫛引 祐希子	学位	博士(文学)、東北大学大学院、2008年3月取得
----	--------------	----	----	----	--------	----	--------------------------

I 教育活動 (3カ年<2010年度、2009年度、2008年度>の活動についてご記入願います。)

【担当科目】 (2011年度就任教員は、2011年度の本学担当科目をご記入願います。)

1. 学部担当科目 新入生演習C、キャリアデザイン論N、日本事情1、現代アジアの諸問題1、アジアの社会2D、応用日本語1・2、 国語学1・2、日本語の諸相1B・2B、基礎演習1E・2E
2. 大学院担当科目 なし
3. 非常勤等担当科目(括弧内に大学名を記入してください) (2011年度就任教員は、前任校での担当科目についてもご記入願います。) 地域言語論、日本語の捉え方(岩手大学教育学部)、言葉の世界(岩手大学全学教育)

【教育業績】 (2011年度就任教員は、前任校での教育業績についてもご記入願います。)

教育実践上の主な業績	年月日	備 考
1. 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 「本人の申し出により非公表とした。」		
2. 作成した教科書、教材、参考書 「本人の申し出により非公表とした。」		
3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 「本人の申し出により非公表とした。」		
4. その他教育活動上特記すべき事項 なし		

2011年度 教員活動評価調査票（記入用紙）

櫛引 祐希子 2/3

Ⅱ 研究活動（5カ年〈2010年度、2009年度、2008年度、2007年度、2006年度〉の活動についてご記入願います。）

著書・論文等の名称	著書・共著の別	発行または発表年月	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数	査読の有無
【著書】						
なし						
【論文】						
関東方言の「ウッチャル」の形成に関する一考察	単著	2007年9月	日本文芸研究会 『文芸研究』164		p39～50	有
『日本語方言語彙の意味変化に関する研究』（博士学位論文）	単著	2008年3月	東北大学大学院文学研究科		p1～217	無
意味変化の東西差—方言「エズイ」を例として—	単著	2009年4月	日本語学会 『日本語の研究』5-2		p31～45	有
【その他】						
学会発表；東西における意味変化のパターンに関する一考察—方言「えずい」を通して—	単著	2006年5月	日本語学会			
書評；『ガイドブック方言調査』（小林隆・篠崎晃一編著，ひつじ書房，2007年）	単著	2009年2月	日本女子大学国語国文学会 『國文目白』48		p114～115	
【学会における主な活動】						
なし						

【その他研究活動上特記すべき事項】	年月日	備 考
2007年度;東北大学大学院国語学研究室による南三陸地域方言調査に企画者の一人として参加	2007年7月31日、8月1日、 8月2日	
2008年度;東北大学大学院国語学研究室による宮城県鳴子・鬼首地区方言調査に企画者の一人として参加(鬼首地区を担当)	2008年8月1日、2日	
2009年度;東北大学大学院国語学研究室による宮城県鳴子・鬼首地区方言調査に企画者の一人として参加(鳴子地区を担当)	2009年8月1日、2日	
2010年度;東北大学大学院国語学研究室による陸羽東線グロットグラム調査に企画者の一人として参加	2010年8月1日、2日	

Ⅲ社会活動（3カ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）

社会における活動	年月日	備 考
『河北新報』に連載されているコラム「とうほく方言の泉」の木曜日を担当	2010年5月より連載	

Ⅳ大学運営活動（3カ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）（2011年度就任教員は、2011年度の本学での学内職務及び大学業務をご記入願います。）

大学運営における活動	年月日	備 考
【学内職務】 人権啓発委員 国際教養学部紀要委員		
【大学業務】 2011年度オープンキャンパスに参加	2011年8月28日、 2011年9月18日	
2011年度高大連携事業追大講座を担当	2011年9月2日	担当講義「アジアの中の日本語」

2011年度 教員活動評価調査票 (記入用紙)

重松 伸司 1/7

所属	国際教養学部 アジア学科	職名	教授	氏名	重松 伸司	学位	博士(文学)、京都大学、1999年4月取得
----	--------------	----	----	----	-------	----	-----------------------

I 教育活動 (3カ年<2010年度、2009年度、2008年度>の活動についてご記入願います。)

【担当科目】 (2011年度就任教員は、2011年度の本学担当科目をご記入願います。)

1. 学部担当科目

基礎演習1・2、応用演習1・2、卒業演習1・2、南・西南アジアの社会2、アジアと国際社会2、アジアの諸文化2、アジア論1・2、アジア社会演習1・2、アジアフィールドワーク(タイ・マレーシア)、アジア文化上級演習1・2、アジア文化応用演習1・2、アジア英語情報処理1、アジア英語1・2、現代アジアの諸問題1、フィールドワーク論1、アジアと国際社会1、オーストラリアを学ぶ1、現代社会と人権2

2. 大学院担当科目

中国文化特殊講義

3. 非常勤等担当科目(括弧内に大学名を記入してください) (2011年度就任教員は、前任校での担当科目についてもご記入願います。)

東洋史特殊講義(関西大学)、東洋史基礎史料購読(関西大学)

【教育業績】 (2011年度就任教員は、前任校での教育業績についてもご記入願います。)

教育実践上の主な業績	年月日	備 考
1. 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 「タコヤキフィールドワーク」	2008年12月～2009年1月	「フィールドワーク論」演習の一環として受講生による学外現場での実地調査を行わせた。
「アジアをあるく、アジアを学ぶ」	2008年4月～2010年3月	「アジア論」講義の一環として、アジア各地で活躍する元本学教員および卒業生による講義と学生との討論を行った。
「地域社会の歴史と文化を学ぶ」	2010年4月～9月	「フィールドワーク論」演習の一環として受講生による地域文化の実地調査を行わせた
「IREG」(Information Resources Exhibition Group)の創設と学生参加活動	2008年4月～2009年3月	図書館利用の啓蒙活動の一環として学生有志に選書・書評させ、表彰した。
2. 作成した教科書、教材、参考書		
帝国書院『高等学校新詳世界史B』指導書	2008年4月	大学講義用の資料として活用

帝国書院『世界史のしおり』	2008年1月	大学講義用の資料として活用
「フィールドワーク」のマニュアル作成・利用	2008年4月～2010年3月	学生によるフィールドワークの実施心得を作成し利用させた。
「フィールドワークノート」の作成・配布	2009年4月～2010年3月	フィールドワーク記録ノートとして活用
「リーディングノート」の作成・配布	2009年4月～2010年3月	ゼミ受講生の読書レポートとして活用
「プレゼンテーションノート」の作成と配布	2009年4月～2010年3月	ゼミ受講生の発表用マニュアル
「たこやきフィールドワーク」報告書	2009年2月	受講生による「たこやきフィールドワーク」の報告を冊子として刊行、受講生に配布
3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
講義録「アジアが見える講義の試み」	2008年3月31日	『国際教養学部自己評価』創刊号に、不特定多数受講生を対象とする講義の方法を紹介
京都府立高校教員による研究会での模擬講義及び討論	2009年9月25日	高大連携特設授業として、京都府立加悦谷高校での地歴研究部会において教科書を使った模擬講義とその後、討論を行った。
論文「インド史から世界史B教科書を観る」	2010年5月	帝国書院『世界史のしおり』世界史B特集号に高大連携教育の課題を紹介
講義「アジアを歩く・みる・考える」	2010年9月18日	追手門学院大学出前授業、大阪電気通信大学高等学校
4. その他教育活動上特記すべき事項		
日本の地域文化と歴史を学ぶ短期研修旅行	2008、09年の学院創立記念日	国際教養学部学生及び留学生を対象に、岐阜県明治村、犬山城、リトルワールド(野外民族博物館)における1泊2日のバス旅行を実施
ゴルフ部顧問	2008年4月～	

II 研究活動 (5カ年<2010年度、2009年度、2008年度、2007年度、2006年度>の活動についてご記入願います。)

著書・論文等の名称	著書・共著の別	発行または発表年月	発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	編者・著者名(共著の場合のみ記入)	該当頁数	査読の有無
【著書】						
Spread and Influence of Hinduism and Buddhism in Asia.	共著	2010	Originals., New Delhi.	Sengaku Mayeda and Masahiro Shimoda, eds.	pp. 25~45.	
『南アジアの文化と社会を読み解く』	共著	2011	慶応大学出版会	鈴木正崇編	pp. 87-113.	
『アジアが結ぶ東西世界』	共著	2011年3月	関西大学出版会	橋寺知子・森部豊・蜷川順子・新谷英治共編	pp.126-132;134-147.	
事典項目「印僑」「タミル紛争」	単著	2011年2月1日～運用	小学館百科事典ニッポニカ電子版事典(yahoo, Japan)			
平凡社事典項目「インド人」	単著	2008年7月	『東南アジアを知る事典』			
丸善出版事典項目「インド移民」	単著	2008年12月	『文化人類学事典』			
『カーストの民-ヒンドゥーの儀礼と慣習』第7刷	単訳・注・解説	2008年1月	平凡社		324頁	
『ベンガル湾海域文明圏の研究』	単著	2007年3月	科研報告書(簡易製本版)		75pp.	
『インドを知るための50章』(3版)	編・著	2006年4月	明石書店	重松伸司、三田昌彦共編著	207頁	
【論文】						
「アジアの地域社会における多元的水利用—<コモンズ(共益)>の視点から—」	編・共著	2011年3月	追手門学院大学ベンチャービジネス研究所	『ベンチャービジネスレビュー』第3号	pp. 87~104	無

論文「ペナン物語—歴史の記憶を掘り起こす—」	単著	2011年3月	追手門学院大学国際教養学部アジア学科	『アジア観光学年報』12号	pp. 101-113.	無
CEPEA-Is It Possible to Organize Asia-Oceanic Community?	単著	2007年3月	追手門学院大学オーストラリア研究センター	Journal of Australian Studies vol.32	p.21~28	無
Pearling and Japanese Contribution to Local Community in Early20th Century Australia.	単著	2008年3月	追手門学院大学オーストラリア研究センター	Journal of Australian Studies vol.33	p.91~100	無
「フィールドワークのベンガル湾海域1—マラッカ海峡を渡る—」	単著	2007年11月	追手門学院大学国際教養学部アジア学科	追手門学院大学国際教養学部アジア学科年報第1号	20-31pp.	無
【その他】						
国際シンポジウム『アジアが結ぶ東西世界』	個別コメント	2008年9月27日	関西大学東西学術研究所	羽田正・Arindam Datta 報告に対するコメント・討論		
国際シンポジウム「現代アジアにおける華僑・華人の社団とネットワーク」	総合コメント	2010年12月11日~12月12日	日本大学経済学部	華僑・華人に関する総合コメント・討論		
国際共同研究発表「 <i>An Overview on Medical Tourism-Effect on Asian Societies-</i> 」	口頭報告	2010年8月27日	オーストラリア・クインズランド大学観光学部	オーストラリア研究センター・クインズランド大学共同セミナー報告		
論説「グローバル化はカーストをかえるか」	単著	2006年4月	毎日新聞	『エコノミスト』インド特集号		
論考「ベンガル湾のアルメニア商人たち」4	単著	2006年10月	帝国書院	「世界史のしおり」30号		
論考「ベンガル湾のアルメニア商人たち」5	単著	2007年1月	帝国書院	「世界史のしおり」31号		

論考「東洋のマンチェスターをたどる 1ーボンベイ」	単著	2007年4月	帝国書院	「世界史のしおり」32号		
論考「東洋のマンチェスターをたどる 2ー大大阪」	単著	2007年10月	帝国書院	「世界史のしおり」33号		
論考「東洋のマンチェスターをたどる 3ー上海」	単著	2008年1月	帝国書院	「世界史のしおり」34号		
【学会における主な活動】						
2008年4月～		アジア政経学会、東洋史研究会、史学研究会、オーストラリア研究会				
【その他研究活動上特記すべき事項】			年月日		備 考	
京都大学東南アジア研究所学外研究協力者			2008年4月～			
帝国書院高校世界史教科書編集委員			2008年4月～2010年3月			

Ⅲ 社会活動 (3カ年<2010年度、2009年度、2008年度>の活動についてご記入願います。)

社会における活動	年月日	備 考
茨木市文化財運営委員会委員	2008年4月～	茨木市の文化財保存及び及び広報の提案
大阪府立佐野高等学校学外評議員	2008年4月～2009年3月	同校の教育活動及び広報への提案・審議
講演「インドの環境対応型生活機器試案」	2008年7月9日	彩都総研・産官学連携セミナーにおいて追手門学院大学ベンチャービジネス研究所の研究活動として紹介
JETRO講演会「インドー21世紀の技術・情報・社会」	2009年3月12日	JETROインド経済・経営研究会の公開講演シリーズとして、インドの技術文化について講演

講演「インドの環境適応型エコ生活機器の試案—インド最新工業化の背景を考える—」	2008年7月9日	産官学連携推進大会 2008in北大阪におけるシンポジウムで発表、本学での教育内容の紹介
講演「タタ・ナノカー(スーパーミニカー)は驚異か?—インド最新工業化の背景を考える—」	2008年2月26日	追手門学院大学ベンチャービジネス研究所における研究成果発表
講演「台頭するインドの社会は粉・粒文化～インドの生活文化を食品から考える」	2009年5月27日	日本調理食品研究会における専門研究者対象の講演
講演「ユニバーシティからコムニタスの図書館へ—21世紀大学図書館はどう変わるか—」	2009年10月16日	私立大学図書館協会 西地区部会 京都地区協議会研究会A(書誌)びわこ成蹊スポーツ大学 研究会において、私学図書館職員を対象に講演
講演「国際文化都市・神戸のインド商人たち～アジア世界の中で～」	2010年6月4日	追手門学院大学アワー、神戸ポートタワー
講演「再見！ミスター・サイゴン」	2011年1月25日	おうてもん塾第3期「国際化社会と国際交流」講演
セミナー「アジアの地域社会における多元的水利用—<コモンズ(共益)>の視点から—」	2011年3月27日	ベンチャービジネス研究所セミナーの司会・総合コメント
講演「移民・聖性の移動・環境変化—聖なる水、ガンガー・ジャルをめぐって—」	2010年10月6日	慶応大学東アジア研究センター公開講座「南アジアの文化と社会を読み解く」における講演
論文「経済大国の途を進むインド、グローバル下のインド都市・農村」1・2	2006年9、11月	『彩都総研経営情報案内』vol.321,327

2011年度 教員活動評価調査票（記入用紙）

重松 伸司 7/7

IV大学運営活動（3ヵ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）（2011年度就任教員は、2011年度の本学での学内職務及び大学業務をご記入願います。）

大学運営における活動	年月日	備 考
【学内職務】		
図書館長	2009年4月～2010年3月	
副学長	2009年10月～2010年3月	
【大学業務】		
入試出題・採点委員(大学入試・世界史)、大学院Ⅰ期・Ⅱ期入試出題・面接委員(論文・英語)・社会人入試出題・面接(論文)・外国人入試出題・面接(論文)、論文入試A出題・採点委員	2008年4月～2010年3月	各種入試問題の作成・採点・面接・考課など
学部自己評価委員	2009年4月～2010年3月	学部内における教育改善に関する提案・セミナー、報告書作成業務
オーストラリア研究所所員	2008年4月～	論文査読・選書・国際共同研究など
ベンチャービジネス研究所協力委員	2008年4月～2010年3月	共同研究・学外研究・学外研究広報

2011年度 教員活動評価調査票 (記入用紙)

正信 公章 1/3

所属	国際教養学部 アジア学科	職名	教授	氏名	正信 公章	学位	修士(文学)、京都大学、1977年3月取得
----	--------------	----	----	----	-------	----	-----------------------

I 教育活動 (3カ年<2010年度、2009年度、2008年度>の活動についてご記入願います。)

【担当科目】 (2011年度就任教員は、2011年度の本学担当科目をご記入願います。)

1. 学部担当科目

インドの思想と宗教、アジアの社会(インドの世界)、南・西南アジア諸語の世界(南アジア諸語関連)、タミル語の世界、アジアフィールドワーク(マレーシア)、卒業論文、応用演習、基礎演習、新入生演習、ほか

2. 大学院担当科目

東洋文化演習(インド関連文献講読)

3. 非常勤等担当科目(括弧内に大学名を記入してください) (2011年度就任教員は、前任校での担当科目についてもご記入願います。)

【教育業績】 (2011年度就任教員は、前任校での教育業績についてもご記入願います。)

教育実践上の主な業績	年月日	備 考
1. 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 3/4年必修演習での学外学習	毎年度	学外に出てインド文化の諸要素を身近に体感させる
2. 作成した教科書、教材、参考書		
3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 国際教養学部FD懇話会での発表	2009年3月11日	担当学外授業の実際と課題について発表する
4. その他教育活動上特記すべき事項 学科新入生オリエンテーションツアーの企画・運営とりまとめ	2008年度まで	在学生をチューターとしての近江八幡での1泊研修
学科行事1泊バスツアーの企画・運営とりまとめ	毎年度	リトルワールド・明治村・犬山城1泊研修
映画研究部(シネマクリエイター)顧問	毎年度	学外上映会等の活動を支援する

2011年度 教員活動評価調査票（記入用紙）

正信 公章 2/3

Ⅱ 研究活動（5カ年〈2010年度、2009年度、2008年度、2007年度、2006年度〉の活動についてご記入願います。）

著書・論文等の名称	著書・共著の別	発行または発表年月	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数	査読の有無
【著書】						
【論文】						
多神教世界における人と神々	単著	2007年 3月	追手門学院大学『文学部紀要』42		16～43頁	無
アラサ・ケーサリ・シヴァン	単著	2007年 11月	同『アジア学科年報』1		(34)～(46)頁	無
絵解きの観光学	単著	2008年 4月	同『アジア観光学年報』9		121～126頁	無
アティラナチャンダ石窟祠堂刻文とガネーシャ・ラタ岩石祠堂刻文	単著	2008年 12月	同『アジア学科年報』2		11～21頁	無
ダルマラージャ・ラタ岩石祠堂刻文について	単著	2009年 12月	同『アジア学科年報』3		1～8頁	無
カリヤルシンガルについて	単著	2010年 4月	同『アジア観光学年報』11		67～74頁	無
王名ラージャスインハについて	単著	2011年 1月	同『アジア学科年報』4		46～50頁	無
タラサヤナムについて	単著	2011年 3月	同『アジア観光学年報』12		77～88頁	無
【その他】						
【学会における主な活動】						
【その他研究活動上特記すべき事項】			年月日		備考	

Ⅲ社会活動（3カ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）

社会における活動	年月日	備 考

Ⅳ大学運営活動（3カ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）（2011年度就任教員は、2011年度の本学での学内職務及び大学業務をご記入願います。）

大学運営における活動	年月日	備 考
【学内職務】		
キャリア開発委員	2008年度まで	キャリア開発関係で学科を代表する
文学研究科長	2008年度から3年度	3専攻を統括して研究科の運営にあたる
教務委員	2009年度から2年度	教務関係で学科を代表する
カリキュラム改革委員	2009年度から2年度	カリキュラム改革関係で学科を代表する
【大学業務】		
高校訪問学生の出張指導	2010年度秋1回	府立佐野高校で体験発表する複数の履修生の引率と指導
大学(学科)広報と情報収集のための高校訪問	毎年度	近畿圏の指定校を中心に広報と情報収集
オープンキャンパス学科会場での対応業務	毎年度	来場者へのミニ講義、入試相談等

2011年度 教員活動評価調査票 (記入用紙)

田口 宏二郎 1/2

所属	国際教養学部 アジア学科	職名	准教授	氏名	田口 宏二郎	学位	博士(文学)、大阪大学、1999年3月取得
----	--------------	----	-----	----	--------	----	-----------------------

I 教育活動 (3カ年<2010年度、2009年度、2008年度>の活動についてご記入願います。)

【担当科目】 (2011年度就任教員は、2011年度の本学担当科目をご記入願います。)

1. 学部担当科目 「本人の申し出により非公表とした。」
2. 大学院担当科目 「本人の申し出により非公表とした。」
3. 非常勤等担当科目(括弧内に大学名を記入してください) (2011年度就任教員は、前任校での担当科目についてもご記入願います。) 「本人の申し出により非公表とした。」

【教育業績】 (2011年度就任教員は、前任校での教育業績についてもご記入願います。)

教育実践上の主な業績	年月日	備 考
1. 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 「本人の申し出により非公表とした。」		
2. 作成した教科書、教材、参考書 「本人の申し出により非公表とした。」		
3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 「本人の申し出により非公表とした。」		
4. その他教育活動上特記すべき事項 「本人の申し出により非公表とした。」		

II 研究活動 (5カ年<2010年度、2009年度、2008年度、2007年度、2006年度>の活動についてご記入願います。)

著書・論文等の名称	著書・ 共著の別	発行または 発表年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	査読の 有無
【著書】 「本人の申し出により非公表とした。」						

【論文】						
「本人の申し出により非公表とした。」						
【その他】						
「本人の申し出により非公表とした。」						
【学会における主な活動】						
「本人の申し出により非公表とした。」						
【その他研究活動上特記すべき事項】			年月日	備	考	
「本人の申し出により非公表とした。」						

Ⅲ社会活動（3ヵ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）

社会における活動	年月日	備	考
「本人の申し出により非公表とした。」			

Ⅳ大学運営活動（3ヵ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）（2011年度就任教員は、2011年度の本学での学内職務及び大学業務をご記入願います。）

大学運営における活動	年月日	備	考
【学内職務】			
「本人の申し出により非公表とした。」			
【大学業務】			
「本人の申し出により非公表とした。」			

2011年度 教員活動評価調査票 (記入用紙)

武田 秀夫 1/3

所属	国際教養学部 アジア学科	職名	教授	氏名	武田 秀夫	学位	修士(文学)
----	--------------	----	----	----	-------	----	--------

I 教育活動 (3カ年<2010年度、2009年度、2008年度>の活動についてご記入願います。)

【担当科目】 (2011年度就任教員は、2011年度の本学担当科目をご記入願います。)

1. 学部担当科目

中国の思想1, 2 新入生演習 基礎演習 応用演習 卒業演習 中国語基礎講読 日本事情 現代アジアの諸問題
 中国文化演習(南京)、現地演習(北京)

2. 大学院担当科目

中国哲学

3. 非常勤等担当科目(括弧内に大学名を記入してください) (2011年度就任教員は、前任校での担当科目についてもご記入願います。)

【教育業績】 (2011年度就任教員は、前任校での教育業績についてもご記入願います。)

教育実践上の主な業績	年月日	備 考
1. 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
2. 作成した教科書、教材、参考書		
3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
4. その他教育活動上特記すべき事項 大学院生学位論文指導、留学生担当、クラブ顧問等		

2011年度 教員活動評価調査票（記入用紙）

武田 秀夫 2/3

Ⅱ 研究活動（5カ年〈2010年度、2009年度、2008年度、2007年度、2006年度〉の活動についてご記入願います。）

著書・論文等の名称	著書・共著の別	発行または発表年月	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数	査読の有無
【著書】						
橋本高勝編『中国思想の流れ—明清・近現代(下)』	共著	2006年11月	晃洋書房	清末の万物一体論者—譚嗣同 国民革命の父—孫文	208～213頁 214～223頁	
追手門学院大学国際教養部アジア学科編『上海アラカルト』	共著	2009年6月	和泉書院	現代中国と宗教—上海—	58～81頁	
追手門学院大学 2010年度学内共同研究報告書:『「太閤記」形成の基礎的研究—近世初期軍記類と近現代文芸の秀吉像—』	共著	2011年3月	追手門学院大学	小瀬甫庵『太閤記』における「天」と「理」	30～34頁	
【論文】						
【その他】						
魏源著『老子本義』「老子本義序」及び「論老子」和訳	単著	2008年12月	『アジア学科年報』第1号(通巻第22号)		24～33頁	無
南京の魏源故宅	単著	2010年3月	『アジア観光学年報』第11号		75～76頁	無
【学会における主な活動】						
道教学会理事		2003年～現在に至る				
【その他研究活動上特記すべき事項】			年月日		備考	

Ⅲ社会活動（3カ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）

社会における活動	年月日	備	考

Ⅳ大学運営活動（3カ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）（2011年度就任教員は、2011年度の本学での学内職務及び大学業務をご記入願います。）

大学運営における活動	年月日	備	考
【学内職務】 教育実習委員、(院)自己評価委員、中国語主任			
【大学業務】 模擬授業、オープンキャンパス			

2011年度 教員活動評価調査票 (記入用紙)

筒井 由起乃 1/6

所属	国際教養学部 アジア学科	職名	准教授	氏名	筒井 由起乃	学位	博士(文学)
----	--------------	----	-----	----	--------	----	--------

I 教育活動 (3カ年<2010年度、2009年度、2008年度>の活動についてご記入願います。)

【担当科目】 (2011年度就任教員は、2011年度の本学担当科目をご記入願います。)

1. 学部担当科目

地誌学1・2、東南アジアの社会1・2、東南アジア諸語の世界2、新入生演習、アジア基礎演習、アジア応用演習、アジア文化上級演習、アジア卒業演習、アジアフィールドワーク2、アジア社会演習2、アジアと国際社会1A、北摂を学ぶ、現代アジアの諸問題2、オーストラリアを学ぶ 1

2. 大学院担当科目

東洋文化演習 3

3. 非常勤等担当科目(括弧内に大学名を記入してください) (2011年度就任教員は、前任校での担当科目についてもご記入願います。)

「本人の申し出により非公表とした。」

【教育業績】 (2011年度就任教員は、前任校での教育業績についてもご記入願います。)

教育実践上の主な業績	年月日	備 考
1. 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 「本人の申し出により非公表とした。」		
2. 作成した教科書、教材、参考書 「本人の申し出により非公表とした。」		
3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 「本人の申し出により非公表とした。」		
4. その他教育活動上特記すべき事項 「本人の申し出により非公表とした。」		

Ⅱ 研究活動（5カ年〈2010年度、2009年度、2008年度、2007年度、2006年度〉の活動についてご記入願います。）

著書・論文等の名称	著書・共著の別	発行または発表年月	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数	査読の有無
【著書】						
『アジアの時代の地理学』	共著	2008年3月	古今書院	千田稔編	161-178頁	
『現代東南アジア入門[改訂版]』	共著	2009年3月	古今書院	藤巻正己・瀬川真平編	109-123頁	
『上海アラカルト』	共著	2009年6月	和泉書院	追手門学院大学アジア学科編	25-42頁	
『朝倉世界地理講座 3 東南アジア』	共著	2009年9月	朝倉書店	春山成子・藤巻正己・野間晴雄編	216-226頁	
【論文】						
「ベトナムにおける大学の改革—ハノイ理科大学地理学部を事例として—」	単著	2006年4月	アジア観光学年報 7		115-123頁	無
「現代ベトナム地理学の構築—北部ベトナムを中心として—」	単著	2006年11月	アジア文化学科年報 9		22-33頁	無
「ノーザンテリトリーのマンゴー生産」	単著	2007年12月	オーストラリア研究紀要 33		101-114頁	無
「学界展望(地域研究・地誌)」	単著	2008年6月	人文地理 60-3		46-48頁	無
「「地域」を研究する—地理学と地域研究に関するノート—」	共著	2008年7月	関西大学文学論集 58-1	野間晴雄・筒井由起乃・伊藤未帆	61-95頁	無
Rural Transformation under Land Consolidation of Doi Moi Period in the Red River Delta, Vietnam: A Case Study of the Thanh Mien District, Hai Duong Province	単著	2010年11月	Hội thảo khoa học quốc tế địa lý Đông Nam Á lần thứ X: Tuyển tập các báo cáo khoa học (第10回東南アジア地理学会論考集), Nhà xuất bản Đại học sư phạm (教育大学出版)		pp.564-572	有

【その他】					
「水牛の「落し物」」	単著	2006年4月	まほら47, 旅の文化研究所		38-39頁
‘Geographical Studies of Vietnam in Japan’.	単独発表	2006年9月	地理・地政学会議(ベトナム)、 発表要旨は、Tuyển tập Các công trình hoa học Hội nghị khoa học Địa Lý - Địa Chính ,		pp.97-104
「ベトナム地理学の展開と学界の組織化」	単著	2006年11月	Newsletter No.9 平成16年度～19年度・科学研究費基盤研究(A)(1)一東アジアとその周辺地域における伝統的地理思考の近代地理学の導入による変容過程—第3回国際シンポジウム(科学研究費基盤研究(A)(1)代表:国際日本文化センター 千田 稔)		7-18頁
『ベトナム紅河デルタにおける農地利用から見た社会経済活動に関する地理学的研究報告書』	単著	2007年4月			119頁
「学生による高校出張授業の試みとその効果」	単著	2007年4月	アジア観光学年報8		105-113頁
「「いちば」からみたシンガポールの農業」		2007年11月	アジア学科年報1		94-96頁

'Geography and Area Studies'.		2008年3月	『日越の大学教育における地理学的「知」(鳥取大学地域学部地域政策学科ワーキングペーパー0702)』		48-53頁	
『地理学文献目録第12集』		2009年7月	古今書院	人文地理学会文献目録編集委員会編		
Rural Transformation under Land Consolidation of Doi Moi Period in the Red River Delta, Vietnam: A Case Study of the Thanh Mien District, Hai Duong Province.		2010年11月	東南アジア地理学会 (SEAGA) (ベトナム、ハノイ師範大学)	SEAGA Conference 2010, Understanding the Changing Space, Place and Cultures of Asia: Conference Handbook, University of Education Publishing House,	p.43	
【学会における主な活動】						
「本人の申し出により非公表とした。」						
【その他研究活動上特記すべき事項】			年月日	備 考		
ベトナム科学技術連合会賞を受賞			2006年9月	10年間のベトナム地理学界の発展への功績に対して、ベトナム地理学会の推薦による		
追手門学院大学学長賞を受ける			2007年1月			
科学研究費補助金若手研究(B)「ベトナム紅河デルタにおける農地利用から見た社会経済活動に関する地理学的研究」の研究代表者			2004年4月～2007年3月			
科学研究費補助金基盤研究 C(企画)「ベトナム人文地理学の学史体系化に関する国際共同研究の企画」(研究代表者:野間晴雄(関西大学))の研究分担者			2006年4月～2007年3月			
科学研究費基盤研究(B)「オーストラリアの対アジア緊密化に伴う地域変容の研究」(研究代表者:南出眞助(追手門学院大学))の研究分担者			2006年4月～2009年3月			

科学研究費補助金基盤研究(A)(1)「東アジアとその周辺地域における伝統的地理思考の近代地理学の導入による変容過程」(研究代表者:千田稔(国際日本文化研究センター))の研究分担者	2005年4月～2008年3月	
科学研究費補助金基盤研究(B)「南海地域における琉球の歴史地理的実体と意味の総合的研究」(研究代表者:高橋誠一(関西大学))の研究分担者	2005年4月～2008年3月	
科学研究費補助金若手研究(B)「ドイモイ期ベトナムにおける子どもをめぐる社会環境とその地域差に関する研究」の研究代表者	2010年4月～2014年3月	

Ⅲ社会活動（3カ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）

社会における活動	年月日	備 考
「本人の申し出により非公表とした。」		

Ⅳ大学運営活動（3カ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）（2011年度就任教員は、2011年度の本学での学内職務及び大学業務をご記入願います。）

大学運営における活動	年月日	備 考
【学内職務】		
図書委員	2007年4月～2008年6月	2008年6月～2009年7月まで特別休業
図書館委員	2007年4月～2008年6月	
人権啓発委員	2007年4月～2008年6月	
紀要編集委員	2009年7月～2010年3月	
学生部委員	2010年4月～	

【大学業務】		
出張授業(大阪府立佐野高校)	2010年10月	
オーストラリア研究所所員	2004年4月～	
特別公開講座おうてもん塾「アジアのことば」の一部担当	2010年5月	「ベトナムの「ことば」
学生相談室だより(追手門学院大学学生相談室)No.63 に執筆	2010年11月	「ベトナムからながめる「今」

2011年度 教員活動評価調査票 (記入用紙)

永吉 雅夫 1/3

所属	国際教養学部 アジア学科	職名	教授	氏名	永吉 雅夫	学位	修士(文学、神戸大学)
----	--------------	----	----	----	-------	----	-------------

I 教育活動 (3カ年<2010年度、2009年度、2008年度>の活動についてご記入願います。)

【担当科目】 (2011年度就任教員は、2011年度の本学担当科目をご記入願います。)

1. 学部担当科目

日本の芸能と文学1・2、アジアの諸文化2、アジアの社会2、日本語のための古典1、応用演習1・2、基礎演習1・2、アジアと国際社会1、オーストラリアを学ぶ2、現代アジアの諸問題2、アジア文化上級演習1・2、キャリアデザイン論

2. 大学院担当科目

東洋文化演習1、修士論文

3. 非常勤等担当科目(括弧内に大学名を記入してください) (2011年度就任教員は、前任校での担当科目についてもご記入願います。)

「本人の申し出により非公表とした。」

【教育業績】 (2011年度就任教員は、前任校での教育業績についてもご記入願います。)

教育実践上の主な業績	年月日	備 考
1. 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 日本の芸能と文学特別公開授業江戸音曲の世界<常磐津節>	2008年7月15日、 2009年6月30日、 2010年7月13日	
歌舞伎顔見世鑑賞会	2008年12月19日、 2009年12月3日、 2010年12月17日	
2. 作成した教科書、教材、参考書 「本人の申し出により非公表とした。」		
3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 「本人の申し出により非公表とした。」		
4. その他教育活動上特記すべき事項 「本人の申し出により非公表とした。」		

2011年度 教員活動評価調査票（記入用紙）

永吉 雅夫 2/3

Ⅱ 研究活動（5カ年〈2010年度、2009年度、2008年度、2007年度、2006年度〉の活動についてご記入願います。）

著書・論文等の名称	著書・共著の別	発行または発表年月	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数	査読の有無
【著書】						
上海アラカルト	共著	2009年6月	和泉書院	追手門学院大学アジア学科	82-104	
【論文】						
清水宗治自害前後—江戸・明治の太閤伝説一端	単	2011年3月	「太閤伝説」形成の基礎的研究 学内共同研究報告書		9-19	無
ハイムの記憶・一九七二—小川洋子『ミーナの行進』論	単	2011年1月	追手門学院大学国際教養学部 紀要 第4号		70-82	無
「幻の光」から宮本輝論へ—従属的悲劇の主題化	単	2010年1月	追手門学院大学国際教養学部 紀要 第3号		91-104	無
秀吉と「太閤」—秀吉「自称太閤」論覚書	単	2009年12月	追手門学院大学アジア学科年報第3号		30-42	無
【その他】						
「本人の申し出により非公表とした。」						
【学会における主な活動】						
「本人の申し出により非公表とした。」						
【その他研究活動上特記すべき事項】			年月日	備	考	
「本人の申し出により非公表とした。」						

Ⅲ 社会活動（3カ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）

社会における活動	年月日	備	考
市立伊丹高校ことば文化科特別授業	2010年5月12日		
伊丹市主催「田辺聖子文学館・宮本輝ミュージアム見学会」講師	2010年7月27日		
伊丹市主催「宮本輝ミュージアム見学ツアー」講師	2009年7月2日		

2011年度 教員活動評価調査票（記入用紙）

永吉 雅夫 3/3

IV大学運営活動（3ヵ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）（2011年度就任教員は、2011年度の本学での学内職務及び大学業務をご記入願います。）

大学運営における活動	年月日	備 考
【学内職務】 国際教養学部長	2008年4月1日	2011年3月31日再任任期満了
【大学業務】 「本人の申し出により非公表とした。」		

2011年度 教員活動評価調査票 (記入用紙)

松家 裕子 1/4

所属	国際教養学部 アジア学科	職名	教授	氏名	松家 裕子	学位	修士
----	--------------	----	----	----	-------	----	----

I 教育活動 (3カ年<2010年度、2009年度、2008年度>の活動についてご記入願います。)

【担当科目】 (2011年度就任教員は、2011年度の本学担当科目をご記入願います。)

1. 学部担当科目

専修中国語初級講読、専修総合中国語、中国の文学、漢文学、基礎演習、応用演習、卒業演習、アジア社会演習、アジアフィールドワーク、現代アジアの諸問題

2. 大学院担当科目

中国文学講義

3. 非常勤等担当科目(括弧内に大学名を記入してください) (2011年度就任教員は、前任校での担当科目についてもご記入願います。)

中国文講読(奈良女子大学)

【教育業績】 (2011年度就任教員は、前任校での教育業績についてもご記入願います。)

教育実践上の主な業績	年月日	備 考
1. 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 「本人の申し出により非公表とした。」		
2. 作成した教科書、教材、参考書 「本人の申し出により非公表とした。」		
3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 「本人の申し出により非公表とした。」		
4. その他教育活動上特記すべき事項 「本人の申し出により非公表とした。」		

2011年度 教員活動評価調査票（記入用紙）

松家 裕子 2/4

Ⅱ 研究活動（5カ年〈2010年度、2009年度、2008年度、2007年度、2006年度〉の活動についてご記入願います。）

著書・論文等の名称	著書・共著の別	発行または発表年月	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数	査読の有無
【著書】						
【論文】						
従小説的開端看趙樹理的創作特色	単著	2006年12月	『趙樹理研究』第46・47期合刊			無
中国の口承文芸「十月懐胎（とつきとおか）」—浙江蕭山における実地調査から	単著	2007年3月	追手門学院大学学内共同研究報告書『21世紀ジェンダー教育の構築—フィールドワークからの発信—』			無
「十月懐胎」について—余華から説き起こす	単著	2008年3月	汲古書院『吉田富夫先生退休記念論集』			無
鮑照楽府の一人称は何処まで鮑照か	単著	2008年10月	『桃の会論集』四集			無
【その他】						
（翻訳）劉建平・閻建紅著「評劇は現代劇の創作と上演に大きな成功をおさめてきました」	単著	2008年3月	『幕』66（日中演劇交流・話劇人社）		p7～10	無
（翻訳）「シャーマニズムと道教」「仏教」	単著		関西女性史研究会『台湾女性史入門』（人文書院）		P202～205	無
評劇入門	単著	2009年3月	『幕』68			無

2011年度 教員活動評価調査票（記入用紙）

松家 裕子 3/4

『杏花宝巻』楽善堂版日本語訳(稿)	単著	2010年3月	科学研究費・基盤研究(C)「中国近世唱導文藝研究 一江南地域における実態調査」課題番号 20520341 報告書(2)		85pp	無
紹興の宣巻 一二〇〇八年・馬山鎮 寧桑村 一	単著	2011年1月	『(追手門学院大学)アジア学年報』第4号			無
評劇観劇記 一2010年・北京 一	単著	2011年3月	『(追手門学院大学)アジア観光学年報』第11号			無
紹興民間の『売花宝巻』テキスト	単著	2011年3月	科学研究費報告書『中国近世唱導文藝研究 一江南地域における実態調査』 課題番号 20520341			無

【学会における主な活動】

【その他研究活動上特記すべき事項】	年月日	備 考
科学研究費・基盤研究 C 「中国近世唱導文藝研究 一江南地方における実態調査」代表者	2008年4月～2011年3月	

Ⅲ社会活動（3カ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）

社会における活動	年月日	備 考
中国演劇ヴィジュアル講座「評劇」講師	2008年9月	

2011年度 教員活動評価調査票（記入用紙）

松家 裕子 4/4

IV大学運営活動（3ヵ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）（2011年度就任教員は、2011年度の本学での学内職務及び大学業務をご記入願います。）

大学運営における活動	年月日	備 考
【学内職務】 「本人の申し出により非公表とした。」		
【大学業務】 「本人の申し出により非公表とした。」		

2011年度 教員活動評価調査票 (記入用紙)

南出 眞助 1/4

所属	国際教養学部 アジア学科	職名	教授	氏名	南出 眞助	学位	修士(地理学)、京都大学、1976年3月取得
----	--------------	----	----	----	-------	----	------------------------

I 教育活動 (3カ年<2010年度、2009年度、2008年度>の活動についてご記入願います。)

【担当科目】 (2011年度就任教員は、2011年度の本学担当科目をご記入願います。)

1. 学部担当科目

人文地理学概説、アジアの諸文化、アジアと国際社会、現代アジアの諸問題、アジアフィールドワーク、アジア社会演習、新入生演習、基礎演習、応用演習、卒業演習、オーストラリアを学ぶ

2. 大学院担当科目

中国文化特講

3. 非常勤等担当科目(括弧内に大学名を記入してください) (2011年度就任教員は、前任校での担当科目についてもご記入願います。)

アジア地域研究(同志社女子大学)、歴史地理学(京都女子大学)、歴史地理学(奈良女子大学)

【教育業績】 (2011年度就任教員は、前任校での教育業績についてもご記入願います。)

教育実践上の主な業績	年月日	備 考
1. 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 「オーストラリアを学ぶ」において、学外講師による話題提供、体験重視型の授業を多数実践した。例:オーストラリア大使館関係者による話題提供、演奏家によるアボリジニ楽器演奏と話題提供、同アボリジナルアート・ワークショップなど。	2008年～2010年	
2. 作成した教科書、教材、参考書 オーストラリアに関する分野別パワーポイント教材を多数作成した。	2008年～2010年	
3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 豪日交流基金助成による国際シンポジウム「オーストラリアをどう教えるか」を主宰し、「高校部会」および「総合討論」の座長を務めた。	2010年11月27日	
4. その他教育活動上特記すべき事項 「オーストラリアと国際社会」「オーストラリア産業論」「アジアオーストラリア関係論」の開講に協力した。「オーストラリアを学ぶ」を春・秋とも開講した。	2009年～2010年	
地理歴史研究会顧問、旅行研究会顧問	2008年～2010年	

Ⅱ 研究活動（5カ年〈2010年度、2009年度、2008年度、2007年度、2006年度〉の活動についてご記入願います。）

著書・論文等の名称	著書・共著の別	発行または発表年月	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	编者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数	査読の有無
【著書】						
新修彦根市史第1巻通史古代・中世	共著	2007年1月	彦根市	彦根市史編集委員会	357～381頁	
図説尼崎の歴史上巻	共著	2007年1月	尼崎市	尼崎市立地域研究史料館	23～24頁	
アジアの歴史地理1 領域と移動	共編著	2007年7月	朝倉書店	石原潤・金坂清則・南出眞助・武藤直編	203～212頁	
アジアの時代の地理学－伝統と変革－	共著	2008年3月	古今書院	千田稔編	33～55頁	
王朝文学と交通	共著	2009年5月	竹林舎	倉田実・久保田孝夫編	48～67頁	
上海アラカルト	共著	2009年6月	和泉書院	追手門学院大学アジア学科編	43～57頁	
Proceedings of the 14 th International Conference of Historical Geographers	共編著	2010年3月	京都大学学術出版会	金田章裕・米家泰作・南出眞助・溝口常俊・上杉和央編	113～114頁	
【論文】						
オーストラリア主要港におけるコンテナ輸送の動向－対アジア貿易拡大とその地域的影響－	単著	2006年12月	オーストラリア研究紀要32号		3～19頁	無
年代記と地理書からみたマラッカ王国	単著	2008年1月	国際教養学部紀要1号		69～86頁	無
東アジアにおけるコンテナ輸送の動向	単著	2009年3月	地域と環境8・9号		158～167頁	無
ダーウィン港の移転とウォーターフロント再開発	単著	2009年12月	オーストラリア研究紀要35号		75～82頁	無

日本の高校のオーストラリア修学旅行ークイーンズランド州を中心にー	単著	2010年12月	オーストラリア研究紀要36号		21～29頁	無
【その他】						
2006年ダーウィン調査の概要	単著	2007年12月	オーストラリア研究紀要33号		59～64頁	無
2007年度科研パス調査の概要	単著	2008年12月	オーストラリア研究紀要34号		15～16頁	無
【学会における主な活動】						
人文地理学会	2010年～評議員					
歴史地理学会	2006年～評議員					
条里制・古代都市研究会	2006年～評議員					
オーストラリア学会	2006年～理事、関西地域担当					
【その他研究活動上特記すべき事項】				年月日	備 考	
科研基盤研究(B)「オーストラリアの対アジア緊密化に伴う地域変容の研究」 研究代表者				2006年～2008年		
豪日交流基金賞受賞(追手門学院大学オーストラリア研究所として)				2006年		
追手門学院 学院長受賞(オーストラリア研究所として)				2006年		

Ⅲ社会活動（3カ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）

社会における活動	年月日	備 考
オーストラリアに関する高校出張授業多数	2008年～2010年	
関西日豪協会・大阪日豪協会等との交流活動	2008年～2010年	

2011年度 教員活動評価調査票（記入用紙）

南出 眞助 4/4

IV大学運営活動（3ヵ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）（2011年度就任教員は、2011年度の本学での学内職務及び大学業務をご記入願います。）

大学運営における活動	年月日	備 考
【学内職務】 オーストラリア研究所長	2008年～2010年	
【大学業務】 オープンキャンパスディジュリドウ演奏会	2008年～2010年	

2011年度 教員活動評価調査票 (記入用紙)

李 慶国 1/3

所属	国際教養学部 アジア学科	職名	教授	氏名	李 慶国	学位	修士
----	--------------	----	----	----	------	----	----

I 教育活動 (3カ年<2010年度、2009年度、2008年度>の活動についてご記入願います。)

【担当科目】 (2011年度就任教員は、2011年度の本学担当科目をご記入願います。)

1. 学部担当科目

専修中国語初級講読、専修中国語上級会話、現代中国の文芸、アジアフィールドワーク1(中国)、アジア社会演習2、応用演習、現代アジアの諸問題、中国語現地演習、アジア諸文化、卒論演習、基礎演習

2. 大学院担当科目

中国文化演習

3. 非常勤等担当科目(括弧内に大学名を記入してください) (2011年度就任教員は、前任校での担当科目についてもご記入願います。)

「本人の申し出により非公表とした。」

【教育業績】 (2011年度就任教員は、前任校での教育業績についてもご記入願います。)

教育実践上の主な業績	年月日	備 考
1. 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 「本人の申し出により非公表とした。」		
2. 作成した教科書、教材、参考書 現代中国語教程・初級会話編(試用版)	2010年	
声を出して朗読する中国語(試用版)、応用演習テキスト	2010年	
3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 「本人の申し出により非公表とした。」		
4. その他教育活動上特記すべき事項 「本人の申し出により非公表とした。」		

2011年度 教員活動評価調査票 (記入用紙)

李 慶国 2/3

II 研究活動 (5カ年<2010年度、2009年度、2008年度、2007年度、2006年度>の活動についてご記入願います。)

著書・論文等の名称	著書・共著の別	発行または発表年月	発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	編者・著者名(共著の場合のみ記入)	該当頁数	査読の有無
【著書】						
【論文】						
試論吳蘭人的小説叙述	単著	2006. 12	創立 40 周年記念論集			無
梁啓超の屈原與『楚辞』研究	単著	2008. 1	国際教養学部紀要創刊号			無
従詆毀林紘的「雙簧戲」談起—五四「文学革命」疑案解析	単著	2009. 12	国際教養学部紀要第3号			無
対蔡元培「答林君琴南函」の一点質疑	単著	2010. 1	清末小説から第96号			無
日本初・高中国語教科書「漢文」選篇和漢文教育	単著	2011. 1	国際教養学部紀要第4号			
【その他】						
書評:評劉永文編『晚清小説目録』	単著	2009. 12	漢学研究第27巻第4期			有
報告:『文革こぼれ話』解説	単著	2009. 12	アジア学科年報第3号			
中国語コミュニケーション講座シリーズ:春雨とファン、よいとこしょ	単著	2007. 11 2008. 12	アジア学科年報第1号 アジア学科年報第2号			
【学会における主な活動】						
中国重慶西南大学の国際シンポジウムで論文発表(2009年12月)						
中国蘇州大学の国際シンポジウムで論文発表(2010年11月)						

【その他研究活動上特記すべき事項】	年月日	備 考
『小灯』(尤鳳偉著、李慶国・福田五郎訳)(出版交渉中)	2010年 訳完了	約17万字

Ⅲ社会活動 (3カ年<2010年度、2009年度、2008年度>の活動についてご記入願います。)

社会における活動	年月日	備 考
公開講座フェスタ2008未知への誘いー現在・過去・未来ー小説・読者・メディアー中国における小説と読者意識の変遷	2008年 11月	
公開講座おうてもん塾「おもしろい中国語ー数字のはなし」	2009年 5月	

Ⅳ大学運営活動 (3カ年<2010年度、2009年度、2008年度>の活動についてご記入願います。)(2011年度就任教員は、2011年度の本学での学内職務及び大学業務をご記入願います。)

大学運営における活動	年月日	備 考
【学内職務】		
入試主事	2010年度～	
国際交流教育センター委員	2010年度～	
【大学業務】		
出張授業:明石商業高等学校・面白い中国語	2010年	
出張授業:2010、2009、2回京都の高校へ出張授業がある		
2010年度オープンキャンパスのまとめ役		

2011年度 追手門学院大学 教員活動評価調査票 【国際教養学部 英語コミュニケーション学科】

◎教員活動評価票各評価領域の記載年度。

- I 教育活動 2010年度、2009年度、2008年度の3カ年。
- II 研究活動 2010年度、2009年度、2008年度、2007年度、2006年度の5カ年。
- III 社会活動 2010年度、2009年度、2008年度の3カ年。
- IV 大学運営活動 2010年度、2009年度、2008年度の3カ年。

〈英語コミュニケーション学科〉

稲木 昭子	2～5 ページ
碓井 智子	6～8 ページ
貞光 宮城	9～12 ページ
佐藤 恭子	13～15 ページ
新谷 好	16～18 ページ
水藤 龍彦	19～21 ページ
高尾 典史	22～24 ページ
武田 裕紀	25～28 ページ
箱崎 雄子	29～35 ページ
福島 孝博	36～38 ページ
J. Herrick	39～41 ページ
増崎 恒	42～45 ページ
R. E. Miller	46～48 ページ

2011年度 教員活動評価調査票 (記入用紙)

稲木 昭子 1/4

所属	国際教養学部 英語コミュニケーション学科	職名	教授	氏名	稲木 昭子	学位	文学修士
----	-------------------------	----	----	----	-------	----	------

I 教育活動 (3カ年<2010年度、2009年度、2008年度>の活動についてご記入願います。)

【担当科目】 (2011年度就任教員は、2011年度の本科担当科目をご記入願います。)

1. 学部担当科目

(2008年度) 展開演習、卒業演習、英語コミュニケーション論、英語ライティング、英語リーディング

(2009年度) 特論演習、卒業演習、英語コミュニケーション論、英語ライティング、英語リーディング

(2010年度) 特論演習、卒業演習、英語コミュニケーション論、英語ライティング、英語リーディング、新入生演習

2. 大学院担当科目

(2007年度～) 英語学演習、英語コーパス研究

3. 非常勤等担当科目(括弧内に大学名を記入してください) (2011年度就任教員は、前任校での担当科目についてもご記入願います。)

【教育業績】 (2011年度就任教員は、前任校での教育業績についてもご記入願います。)

教育実践上の主な業績	年月日	備 考
1. 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 外部 e-learning システムの利用	2008年度～2010年度	外部の e-learning システムを利用して、事前に毎回の授業のテーマ、授業中に使用する ppt ファイルおよび関連配付資料などをアップロードする。受講学生は自在に、授業の流れや毎回のテーマ、毎回の配布物が確認できるので、予習を通してある程度の学習意欲を引き起こす効果が期待できる。

<p>2. 作成した教科書、教材、参考書</p> <p>2年間に亘る演習授業の成果をホームページ化</p>	1999 年度～	<p>演習は2年間継続するが、ゼミ生は4年生の終了時に、2年間に亘る学習成果、たとえば授業中の発表で使った ppt ファイルや提出したレポート類全てを、html 化して自分のホームページを作成し、ゼミ全体のホームページにリンクさせる。全員の2年間の成果が凝縮されたホームページは毎年 CD に収めてきている。</p>
<p>3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等</p>		
<p>4. その他教育活動上特記すべき事項</p> <p>「本人の申し出により非公表とした。」</p>		

Ⅱ 研究活動（5カ年〈2010年度、2009年度、2008年度、2007年度、2006年度〉の活動についてご記入願います。）

著書・論文等の名称	著書・共著の別	発行または発表年月	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数	査読の有無
<p>【著書】</p> <p>謎解き「アリス物語」</p>	共著	2010年4月	PHP 研究所	沖田 知子		/
<p>【論文】</p> <p>A Small-Corpus-Based Approach to Alice's Roles</p>	共著	2006年9月	<i>Literary and Linguistics Computing</i> . 21/3	Tomoko Okita	283～294 頁	有
<p>Distinctness Underlying Parallelism: a cognitive aspect of Alice's moves and worlds</p>	共著	2007年3月	『追手門学院大学文学部紀要』42.	Tomoko Okita	73～87 頁	無

Words-of-Strangeness in Alice's Adventures	共著	2008年1月	『追手門学院大学国際教養学部紀要』1.	Tomoko Okita	115～124頁	無
発話動詞と共起する-ly副詞 —誤誘導のテクニック	単著	2009年3月	『英語文化学会論集』18.		1～14頁	無
大統領就任演説のことば学 —人称代名詞の有標的使用	単著	2010年3月	『英語文化学会論集』19.		1～14頁	無
英語の情報デザイン —推理小説における誘導の技法	単著	2011年3月	『英語文化学会論集』20.		1～11頁	無
【その他】						
【学会における主な活動】						
2006年11月	第12回日本キャロル協会研究大会にて、招待講演「アリスのことば学—コンピュータの向こうのアリスの国」を行う。					
2007年4月～2011年3月	英語文化学会長					
【その他研究活動上特記すべき事項】				年月日	備 考	
科学研究費補助金基盤研究C 課題番号:16520295				2004年～2007年	「スモールコーパス利用による文体論と新しい意味理論の研究」(共同研究者 沖田知子)	

Ⅲ社会活動（3ヵ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）

社会における活動	年月日	備 考
留学生との親睦会開催	2007年～2011年	年2回英語文化学会の行事として、学科学生と交換留学生との親睦会を開催する。

おうてもん塾企画及び講義担当	2010年2月	社会人向けのおうてもん塾を学科が担当したので、学科長として企画した。「言葉の不思議 再発見！」というテーマのもと、「アリスのからくりを解く」で講義も担当した。
大学基準協会評価委員	2009年度	
大学基準協会評価委員 主査	2010年度	

IV大学運営活動（3ヵ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）（2011年度就任教員は、2011年度の本学での学内職務及び大学業務をご記入願います。）

大学運営における活動	年月日	備 考
【学内職務】		
文学部改組委員	2005年4月～2011年3月	
キャンパスハラスメント相談員	2007年4月～2009年3月	
教育実習運営委員	2007年4月～2011年3月	
文学研究科英文学専攻主任	2007年11月～2008年3月	
大学評議員	2009年4月～2011年3月	
英語コミュニケーション学科長	2009年4月～2011年3月	
文学研究科自己評価委員	2009年4月～2011年3月	
【大学業務】		
「本人の申し出により非公表とした。」		

2011年度 教員活動評価調査票 (記入用紙)

碓井 智子 1/3

所属	国際教養学部 英語コミュニケーション学科	職名	講師	氏名	碓井 智子	学位	博士(人間・環境学)、京都大学、2008年3月取得
----	-------------------------	----	----	----	-------	----	---------------------------

I 教育活動 (3カ年<2010年度、2009年度、2008年度>の活動についてご記入願います。)

【担当科目】 (2011年度就任教員は、2011年度の本科担当科目をご記入願います。)

1. 学部担当科目

2009年度 秘書英語、観光ビジネス英語、資格英語、トラベルイングリッシュ、英語リーディング

2010年度 秘書英語、資格英語 1, 2, 資格英語 3, 4, トラベルイングリッシュ、英語リーディング

2. 大学院担当科目

3. 非常勤等担当科目(括弧内に大学名を記入してください) (2011年度就任教員は、前任校での担当科目についてもご記入願います。)

「本人の申し出により非公表とした。」

【教育業績】 (2011年度就任教員は、前任校での教育業績についてもご記入願います。)

教育実践上の主な業績	年月日	備 考
1. 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 「本人の申し出により非公表とした。」		
2. 作成した教科書、教材、参考書 「本人の申し出により非公表とした。」		
3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 「本人の申し出により非公表とした。」		
4. その他教育活動上特記すべき事項 「本人の申し出により非公表とした。」		

Ⅱ 研究活動（5カ年〈2010年度、2009年度、2008年度、2007年度、2006年度〉の活動についてご記入願います。）

著書・論文等の名称	著書・ 共著の別	発行または 発表年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称)	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	査読の 有無
【著書】						
ことばの認知とメカニズム	共著	2008年9月	ひつじ書房	児玉一宏、小山哲春(編) 尾谷昌則、黒田航 <u>碓井智子</u> 他	271-287 頁	
認知言語学論考(共著)	共著	2009年9月	ひつじ書房	山梨正明(編) <u>碓井智子</u> 、早 瀬尚子、仲本浩一郎 他	1-80 頁	
【論文】						
Cognitive Time Model: With Special Reference to Temporal and Spatial Phenomena in Natural Language	単著	2008年3月	京都大学		187 頁	有
Generic Schema of Spatial and Temporal Domain: The Concepts of SEQUENCE and DURATION	単著	2007年4月	京都大学、言語科学論集 第13巻		1~14 頁	無
Cognitive Time Model: Two Types of Temporal Metaphor	単著	2006年9月	日本認知言語学会論文集 第6巻、日本認知言語学会		266~276 頁	無
【その他】						

【学会における主な活動】		
1999年4月～	日本英語学会会員	
1999年4月～	関西言語学会会員	
2000年4月～	日本認知言語学会会員	
2000年4月～	日本語用論学会会員	
【その他研究活動上特記すべき事項】	年月日	備 考

Ⅲ社会活動（3ヵ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）

社会における活動	年月日	備 考

Ⅳ大学運営活動（3ヵ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）（2011年度就任教員は、2011年度の本学での学内職務及び大学業務をご記入願います。）

大学運営における活動	年月日	備 考
【学内職務】 「本人の申し出により非公表とした。」		
【大学業務】 「本人の申し出により非公表とした。」		

2011年度 教員活動評価調査票 (記入用紙)

貞光 宮城 1/4

所属	国際教養学部 英語コミュニケーション学科	職名	講師	氏名	貞光 宮城	学位	修士(文学)、大阪大学、1999年3月取得
----	-------------------------	----	----	----	-------	----	-----------------------

I 教育活動 (3カ年<2010年度、2009年度、2008年度>の活動についてご記入願います。)

【担当科目】 (2011年度就任教員は、2011年度の本科担当科目をご記入願います。)

1. 学部担当科目

新入生演習、英語リーディング1・2・3・4、英語ライティング1・2・3・4、英語学概論1・2、特論演習1・2、卒業演習1・2、オーストラリアを学ぶ1、現代社会と人権2、言語と科学2B、カナダ文化演習1・2、カナダ現地演習

2. 大学院担当科目

なし

3. 非常勤等担当科目(括弧内に大学名を記入してください) (2011年度就任教員は、前任校での担当科目についてもご記入願います。)

なし

【教育業績】 (2011年度就任教員は、前任校での教育業績についてもご記入願います。)

教育実践上の主な業績	年月日	備 考
1. 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 「本人の申し出により非公表とした。」		
2. 作成した教科書、教材、参考書 「本人の申し出により非公表とした。」		
3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 「本人の申し出により非公表とした。」		
4. その他教育活動上特記すべき事項 「本人の申し出により非公表とした。」		

2011年度 教員活動評価調査票（記入用紙）

貞光 宮城 2/4

II 研究活動（5カ年〈2010年度、2009年度、2008年度、2007年度、2006年度〉の活動についてご記入願います。）

著書・論文等の名称	著書・共著の別	発行または発表年月	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数	査読の有無
【著書】						
認知言語学論考 No.5	単著	2006年9月	ひつじ書房	山梨正明編	49-78頁	
大学の教育・研究と地域貢献シリーズ第5巻	共著	2008年5月	日本経済評論社	阿部圭司、久宗周二、石原慎士、武井 昭、 <u>貞光宮城</u> 、糸井丈之	109-124頁	
認知言語学論考 No.9	共著	2010年12月	ひつじ書房	山梨正明編 (Tamura, Yuki-Shige and <u>Miyagi Sadamitsu</u>)	245-277頁	
【論文】						
A Demonstration of the Directional Tendency of Synaesthetic Expressions: A Frequency Analysis on Japanese with Smell and Sight Concepts	単著	2007年3月	『八戸大学紀要』第34号		105-116頁	有
Metaphorical Transfer or not: Re-Examination on Synaesthetic Expressions	単著	2007年12月	『八戸大学紀要』第35号		55-6頁	有
言語習得の観点から大学導入教育を考える: 八戸大学「基礎演習・プレゼンテーション演習」の場合	単著	2008年3月	『八戸大学紀要』第36号		81-97頁	有

Bridging the gap between grammar instruction and intercultural communication: some applications of Cognitive Linguistics to the EFL classroom	共著	2010年	Proceedings of the 42th Annual Meeting of the BAAL	Tamura, Yuki-Shige and <u>Miyagi Sadamitsu</u>	139-141 頁	有
【その他】						
辞書改訂 記載項目の執筆	共著	2008年4月～ 2010年3月	『プログレッシブ英和中辞典』 (第5版)	瀬戸賢一、投野由紀夫、宮畑一範、他		
(学会発表) Bridging the Gap between Grammar Instruction and Intercultural Communication: Some Applications of Cognitive Linguistics to EFL Classroom	共同	2009年9月	42nd Annual Meeting of the British Association for Applied Linguistics (New Castle, UK)	Yuki-Shige Tamura and <u>Miyagi Sadamitsu</u>		有
(学会発表) Grammar Instruction that Works along with Intercultural Communication: Some Applications of Cognitive Linguistics to EFL Classes	共同	2010年10月	Free Linguistics Conference 2010 (Sydney, Australia)	<u>Sadamitsu, Miyagi</u> and Yuki-Shige Tamura		有

【学会における主な活動】		
1998年4月～	日本英語学会 会員	
1998年11月～	関西言語学会 会員	
2001年8月～	日本認知言語学会 会員	
2001年11月～	大阪大学英文学会 会員	
2004年5月～	日本英文学会 会員	
2005年3月～	福岡認知言語学会 会員	
2006年12月～2007年11月	人類働態学会 第42回大会実行委員会委員	
2009年7月～	the British Association for Applied Linguistics (英国) 会員	
2010年7月～	Free Linguistics Conference (オーストラリア) 会員	
2010年4月～	日本多読学会 会員	
【その他研究活動上特記すべき事項】	年月日	備 考
なし		

Ⅲ社会活動（3カ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）

社会における活動	年月日	備 考
なし		

Ⅳ大学運営活動（3カ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）（2011年度就任教員は、2011年度の本学での学内職務及び大学業務をご記入願います。）

大学運営における活動	年月日	備 考
【学内職務】 「本人の申し出により非公表とした。」		
【大学業務】 「本人の申し出により非公表とした。」		

2011年度 教員活動評価調査票 (記入用紙)

佐藤 恭子 1/3

所属	国際教養学部 英語コミュニケーション学科	職名	教授	氏名	佐藤 恭子	学位	Ph.D.(言語学) 英国レディング大学 2006年7月取得
----	-------------------------	----	----	----	-------	----	-----------------------------------

I 教育活動 (3カ年<2010年度、2009年度、2008年度>の活動についてご記入願います。)

【担当科目】 (2011年度就任教員は、2011年度の本科担当科目をご記入願います。)

1. 学部担当科目

英語リーディング1, 2, 3, 4 英語ライティング1, 2, 3, 4 英語発音クリニック 英語学講義1,2 特論演習1, 2 卒業演習1, 2
キャリアデザイン論 卒業論文1, 2

2. 大学院担当科目

英語語法文法研究

3. 非常勤等担当科目(括弧内に大学名を記入してください) (2011年度就任教員は、前任校での担当科目についてもご記入願います。)

英語オーラル(神戸大学) (2009年3月まで)

【教育業績】 (2011年度就任教員は、前任校での教育業績についてもご記入願います。)

教育実践上の主な業績	年月日	備 考
1. 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 「本人の申し出により非公表とした。」		
2. 作成した教科書、教材、参考書 「本人の申し出により非公表とした。」		
3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 「本人の申し出により非公表とした。」		
4. その他教育活動上特記すべき事項 「本人の申し出により非公表とした。」		

Ⅱ 研究活動（5カ年〈2010年度、2009年度、2008年度、2007年度、2006年度〉の活動についてご記入願います。）

著書・論文等の名称	著書・共著の別	発行または発表年月	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数	査読の有無
【著書】						
Power Vocabulary	共著	2007年3月	プール学院大学英語教育研究会	佐藤恭子、藤井久仁子、権瞳、Allan Bessette	pp.73-108	
Power Vocabulary	共著	2008年10月	英潮社フェニックス	佐藤恭子、藤井久仁子、権瞳、Allan Bessette	pp.77-112	
【論文】						
英語初年次教育をめぐる諸問題－プレイスメントテストとe-learning	単著	2006年5月	平成17年度 私立大学教育研究高度化推進特別補助事業成果報告書		pp.37-44	無
The effect of L1 in L2 Acquisition of argument structure -With special reference to psych adjectives	単著	2009年1月	追手門学院大学国際教養学部紀要第2号		pp.43-60	無
自他交替を許す非対格動詞の習得における母語とUGの影響	単著	2009年3月	外国語教育メディア学会関西支部研究集録第12号		pp.37-51	有
The role of morphology in the L2 acquisition of unaccusative verbs	単著	2010年1月	追手門学院大学国際教養学部紀要第3号		pp.66-75	無
多様化する英語学習者のニーズに応えるための実践－eラーニングと対面授業を融合させたブレンド学習を用いて－	単著	2011年3月	追手門学院大学学習支援・教育開発センター年報第1号		pp.25-32	
【その他】						
「本人の申し出により非公表とした。」						

【学会における主な活動】		
「本人の申し出により非公表とした。」		
【その他研究活動上特記すべき事項】	年月日	備 考
「本人の申し出により非公表とした。」		

Ⅲ社会活動（3カ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）

社会における活動	年月日	備 考

Ⅳ大学運営活動（3カ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）（2011年度就任教員は、2011年度の本学での学内職務及び大学業務をご記入願います。）

大学運営における活動	年月日	備 考
【学内職務】 「本人の申し出により非公表とした。」		
【大学業務】 「本人の申し出により非公表とした。」		

2011年度 教員活動評価調査票 (記入用紙)

新谷 好 1/3

所属	国際教養学部 英語コミュニケーション学科	職名	教授	氏名	新谷 好	学位	文学修士 (神戸市外国語大学、1979年)
----	-------------------------	----	----	----	------	----	--------------------------

I 教育活動 (3カ年<2010年度、2009年度、2008年度>の活動についてご記入願います。)

【担当科目】 (2011年度就任教員は、2011年度の本科担当科目をご記入願います。)

1. 学部担当科目

英米の文化・文学、英文学概論、展開演習、卒業演習、英語ライティング、英語リーディング

2. 大学院担当科目

英米文学演習、英米文学特論

3. 非常勤等担当科目(括弧内に大学名を記入してください) (2011年度就任教員は、前任校での担当科目についてもご記入願います。)

【教育業績】 (2011年度就任教員は、前任校での教育業績についてもご記入願います。)

教育実践上の主な業績	年月日	備 考
1. 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) インターネットを利用し、英語の運用能力やコンピュータスキルの向上 本学の授業評価では、標準より少しだけ高い評価しか得ていない	2008年～	
パワーポイントを使用し、講義内容の要点を整理 本学の授業評価では、標準的な評価しか得ていない	2008年～	
2. 作成した教科書、教材、参考書 半期講義の「英米の文化・文学」の教材プリント作成	2008年～	
通年講義の「英文学概論」の教材プリント作成	2008年～	
3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 第16回教育研究所セミナーのパネリスト	2008年12月18日	
4. その他教育活動上特記すべき事項		

2011年度 教員活動評価調査票（記入用紙）

新谷 好 2/3

Ⅱ 研究活動（5カ年〈2010年度、2009年度、2008年度、2007年度、2006年度〉の活動についてご記入願います。）

著書・論文等の名称	著書・共著の別	発行または発表年月	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数	査読の有無
【著書】						
【論文】						
オスカー・ワイルドと「新しい女」		2007年3月	追手門学院大学創立40周年記念論集		pp.89-100	無
オスカー・ワイルドの芸術至上主義とヴィクトリア朝の性道徳と検閲		2008年3月	追手門学院大学英語文化学会論集第17号		pp.1-15	無
書簡に見るオスカー・ワイルド(1)		2009年3月	追手門学院大学英語文化学会論集第18号		pp.15-26	無
英国19世紀後期のジャポニズムの進展		2010年3月	追手門学院大学英語文化学会論集第19号		pp.59-74	無
【その他】						
【学会における主な活動】						
2007年4月～現在		日本ワイルド協会理事				
【その他研究活動上特記すべき事項】			年月日	備 考		
平成20年度科学研究「19世紀末から20世紀初頭の英独仏米における日本像の比較研究」(代表 水藤 龍彦 教授)			2008年			

Ⅲ 社会活動（3カ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）

社会における活動	年月日	備 考

IV大学運営活動（3ヵ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）（2011年度就任教員は、2011年度の本学での学内職務及び大学業務をご記入願います。）

大学運営における活動	年月日	備 考
【学内職務】		
英語コミュニケーション学科主任	2008年	
研究成果刊行費検討委員会委員	2008年～2009年	
創立120周年記念募金委員	2008年～2010年	
大学院委員会委員	2008年～2010年	
文学研究科英文学専攻主任	2008年～2010年	
教務部長	2010年～現在	
【大学業務】		
模擬授業(八頭高等学校)	2008年7月16日	
2010年度追手門学院大学秋の専門講座「英語のことば遊び」	2010年10月14日	

2011年度 教員活動評価調査票 (記入用紙)

水藤 龍彦 1/3

所属	国際教養学部 英語コミュニケーション学科	職名	教授	氏名	水藤 龍彦	学位	文学修士
----	-------------------------	----	----	----	-------	----	------

I 教育活動 (3カ年<2010年度、2009年度、2008年度>の活動についてご記入願います。)

【担当科目】 (2011年度就任教員は、2011年度の担当科目をご記入願います。)

1. 学部担当科目

ドイツ語読解入門・初級、ドイツ語表現入門・初級、新入生演習、日本語の諸相、日本語ワークショップ、キャリアデザイン論、ことばと文化(ドイツ語)、ドイツ語表現中級、ドイツ語表現演習、ドイツ語読解演習

2. 大学院担当科目

「本人の申し出により非公表とした。」

3. 非常勤等担当科目(括弧内に大学名を記入してください) (2011年度就任教員は、前任校での担当科目についてもご記入願います。)

ドイツ語(京都大学) 2008年度

【教育業績】 (2011年度就任教員は、前任校での教育業績についてもご記入願います。)

教育実践上の主な業績	年月日	備 考
1. 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 添削指導の取り組み:毎回 100名前後の受講生に対し、文章指導のため、原稿用紙で提出させた作文の添削・返却を行った。(日本語の諸相)	2009年度春学期	
2. 作成した教科書、教材、参考書 「本人の申し出により非公表とした。」		
3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 「国語教育から日本語教育へ」	2008.4	教育研究所定例研究会
大学生のための「日本語ワークショップ」ースキル養成か自己表現か	2009.2	教育研究所定例研究会
4. その他教育活動上特記すべき事項 「本人の申し出により非公表とした。」		

2011年度 教員活動評価調査票（記入用紙）

水藤 龍彦 2/3

Ⅱ 研究活動（5カ年〈2010年度、2009年度、2008年度、2007年度、2006年度〉の活動についてご記入願います。）

著書・論文等の名称	著書・共著の別	発行または発表年月	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数	査読の有無
【著書】						
「本人の申し出により非公表とした。」						
【論文】						
ローベルト・ムージルと新即物主義の絵画	単著	2006.6	日本独文学会研究叢書 045『ドイツ文学と美術』所収		pp. 37-45	無
ユストゥス・ブリンクマン『日本の美術と工芸』を読む(上)	単著	2007.3	追手門学院大学文学部紀要第42号		pp.177-186	無
ウィーン万国博覧会(1873)とユストゥス・ブリンクマン	単著	2010.3	追手門学院大学英語文化学会論集 第19号		pp. 15-23	無
【その他】						
(書評)原研二著『物語と不在——十九世紀オーストリア小説とムージル』	単著	2007.3	オーストリア文学第23号		pp.62-63	
【学会における主な活動】						
「オーストリア文学」編集委員		2006年度、2007年度				
日本独文学会学会賞審査委員		2007年度				
【その他研究活動上特記すべき事項】			年月日		備 考	
科学研究費「19世紀末から20世紀初頭の英独仏米における日本像の比較研究」研究代表者			2008.4-2011.3		本学国際教養学部の3氏(中村啓佑、新谷好、増崎恒)とともに共同研究を行った。	

Ⅲ社会活動（3カ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）

社会における活動	年月日	備 考
「本人の申し出により非公表とした。」		

Ⅳ大学運営活動（3カ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）（2011年度就任教員は、2011年度の本学での学内職務及び大学業務をご記入願います。）

大学運営における活動	年月日	備 考
【学内職務】		
教育研究所長	2008.4～2009.3	
教務部長	2008.9～2010.3	
【大学業務】		
『百二十年志』編集委員長および執筆	2008.11	

2011年度 教員活動評価調査票 (記入用紙)

高尾 典史 1/3

所属	国際教養学部 英語コミュニケーション学科	職名	教授	氏名	高尾 典史	学位	修士(文学)、同志社大学、1978年9月取得
----	-------------------------	----	----	----	-------	----	------------------------

I 教育活動 (3カ年<2010年度、2009年度、2008年度>の活動についてご記入願います。)

【担当科目】 (2011年度就任教員は、2011年度の本学担当科目をご記入願います。)

1. 学部担当科目

言語の科学(2008-2010)、展開演習(2008)、特論演習(2009-2010)、卒業演習(2009-2010)、英語リーディング(2008, 2010)、英語ライティング(2010)

2. 大学院担当科目

英語学特論、言語理論研究

3. 非常勤等担当科目(括弧内に大学名を記入してください) (2011年度就任教員は、前任校での担当科目についてもご記入願います。)

【教育業績】 (2011年度就任教員は、前任校での教育業績についてもご記入願います。)

教育実践上の主な業績	年月日	備考
1. 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
2. 作成した教科書、教材、参考書 講義におけるプリント配付とミニッツ・ペーパーの実施 「英語リーディング」における「英語を読むための文法解説」作成	2008年度春学期・秋学期 2008年度-2010年度	全学共通科目の「言語の科学1・2」で実施 オーラル(aural/oral)中心の英語学習を行ってきた学生は読むための英語力、特に文法力の不足が顕著である。これに対応するために、授業時には必要に応じて正しく読むための文法の説明をしてきたが、予定範囲を終えた段階で、それまで一緒に読んできた英文から文法上のポイントを整理したファイルを元に、英文法の講義を行った。
3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		

4. その他教育活動上特記すべき事項 「本人の申し出により非公表とした。」		
--	--	--

Ⅱ 研究活動（5カ年〈2010年度、2009年度、2008年度、2007年度、2006年度〉の活動についてご記入願います。）

著書・論文等の名称	著書・ 共著の別	発行または 発表年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称)	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	査読の 有無
【著書】						
「本人の申し出により非公表とした。」						
【論文】						
擬似項の性質と役割をめぐって	単著	2010年3月	英語文化学会論集(第19号)		13頁	無
【その他】						
「本人の申し出により非公表とした。」						
【学会における主な活動】						
「本人の申し出により非公表とした。」						
【その他研究活動上特記すべき事項】			年月日	備 考		
「本人の申し出により非公表とした。」						

Ⅲ 社会活動（3カ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）

社会における活動	年月日	備 考
公開講座「国際化社会と国際交流」で講演(下記の追手門学院大学アワーでの講演をベースにしたもの)	2011年2月	英語の発達を跡づけながら、新たな言語の誕生から消滅の危機に瀕している言語までを「生き物」として捉えたものである。

2011年度 教員活動評価調査票（記入用紙）

高尾 典史 3/3

IV大学運営活動（3ヵ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）（2011年度就任教員は、2011年度の本学での学内職務及び大学業務をご記入願います。）

大学運営における活動	年月日	備 考
【学内職務】 特任副学長	2005年4月～2010年3月	現代GP2件採択:担当責任 カリキュラム改革、FD推進、小学校教員免許取得のための提携校開拓、協定による高大連携の推進、GAKUEN導入、キャンパス整備、国際交流推進年の担当責任
英語コミュニケーション学科学科長	2011年4月～	
【大学業務】 追手門学院大学アワーの講師	2010年6月	和歌山会場で「英語の「発達」と危機に瀕する言語」と題して講演。
高大連携:追高講座の講師	2011年2月	追手門学院高等学校の2年生を対象に「ことばの不思議」として授業を実施。

2011年度 教員活動評価調査票 (記入用紙)

武田 裕紀 1/4

所属	国際教養学部 英語コミュニケーション学科	職名	准教授	氏名	武田 裕紀	学位	博士(文学)
----	-------------------------	----	-----	----	-------	----	--------

I 教育活動 (3カ年<2010年度、2009年度、2008年度>の活動についてご記入願います。)

【担当科目】 (2011年度就任教員は、2011年度の本科担当科目をご記入願います。)

1. 学部担当科目

新入生演習、日本語ワークショップ、ことばと文化、フランス語表現入門、フランス語表現初級、フランス語表現上級1、比較思想1、2、ヨーロッパの思想1、2

2. 大学院担当科目

なし

3. 非常勤等担当科目(括弧内に大学名を記入してください) (2011年度就任教員は、前任校での担当科目についてもご記入願います。)

「本人の申し出により非公表とした。」

【教育業績】 (2011年度就任教員は、前任校での教育業績についてもご記入願います。)

教育実践上の主な業績	年月日	備 考
1. 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) マルチメディア機器を活用した授業方法	2009年以降	
2. 作成した教科書、教材、参考書		
3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
4. その他教育活動上特記すべき事項		

Ⅱ 研究活動（5カ年〈2010年度、2009年度、2008年度、2007年度、2006年度〉の活動についてご記入願います。）

著書・論文等の名称	著書・共著の別	発行または発表年月	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数	査読の有無
【著書】						
『哲学の歴史』第5巻	共著	2007年12月	中央公論新社	小林道夫編	pp. 100-102	
『テキストの生理学』	共著	2008年3月	朝日出版社	柏木隆雄教授退職記念論文集刊行会編	pp. 423-434	
『哲学の眺望』	共著	2009年4月	晃洋書房	加國尚志・平尾昌宏編	pp. 32-44	
『デカルトの運動論 数学・自然学・形而上学』	単著	2009年5月	昭和堂		xi + 204 p.	
【論文】						
「トリチェッリの実験とメルセンヌサークル」	単著	2006年12月	『科学史研究』第45巻 (No. 240)		pp.255 -258	有 依頼
「パスカルの科学思想—パスカルによって真空とはどういう問題だったのか—」	単著	2007年9月	『フランス哲学・思想研究』第12号		pp. 28-37	有 依頼
Pascal, Roberval et l'élasticité de l'air	単著	2007年12月	<i>Courrier du Centre international de Blaise Pascal</i>		pp. 40-48	依頼
「デカルトにおける力の存在論的身分」	単著	2008年2月	『人間文化』:聖トマス大学紀要, 第11号		pp.23-47	無
「パスカル『パンセ』における esprit de justesse」	単著	2009年3月	GALLIA(大阪大学フランス語フランス文学会編)No. 48		pp. 1-10	有
Le problème de la chute des graves chez Descartes : entre mathématique, physique et métaphysique	単著	2010年10月	<i>XVIIe siècle, 2010, t. 3</i>		pp. 443-456	有

2011年度 教員活動評価調査票 (記入用紙)

武田 裕紀 3/4

La définition de la lumière chez Descartes – à l'éclairage de la correspondance avec Morin –	単著	2011年3月	GALLIA(大阪大学フランス語フランス文学会編)No. 50		pp. 1-10	有
【学会発表(招待公演のみ)】						
RECONSTITUTION DES EXPERIENCES DE PASCAL SUR LE VIDE	共	平成18年5月	Université Blaise Pascal	小柳公代(愛知県立大学教授)と武田裕紀による共同発表		
メルセンヌ・サークルとトリチェッリの実験(シンポジウム:近代における知とその方法-宮廷、サロン、コレクション-)	単	平成18年5月	第53回日本科学史学会総会、東洋大学			
パスカルにとって真空とはどういう問題だったのか(シンポジウム:パスカルと現代-との解釈をめぐって-)	単	平成18年9月	日仏哲学会2006年度秋季大会、法政大学			
La définition de la lumière chez Descartes – à l'éclairage de la correspondance avec Morin –	単	平成22年11月	Journée d'études dix-septiémistes françaises au Japon (早稲田大学)			
【その他】						
書評:小林道夫『デカルト入門』ちくま文庫、2006	単	平成19年9月	『フランス哲学・思想研究』、第12号、2007年		pp. 183-185	
【学会における主な活動】						
2009年4月～現在	日本フランス語フランス文学会 編集委員					
2009年5月～2011年5月	日本フランス語フランス文学会 関西支部実行委員					
2010年5月～現在	日本フランス語フランス文学会 関西支部会編集委員					

【その他研究活動上特記すべき事項】	年月日	備 考
外部資金		
「近代初期における複数の幾何学的自然観に関する科学思想史的研究」	2006-2008年	研究代表者
「デカルトにおける説得と論証およびその人文主義的起源に関する研究」	2009-2011年	研究代表者
パスカルの自然学関連文書の多角的研究ならびに一次資料からの翻訳	2007-2008年	研究分担者

Ⅲ社会活動（3カ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）

社会における活動	年月日	備 考
ひょうご講座講師	2009年5-6月	計4回

Ⅳ大学運営活動（3カ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）（2011年度就任教員は、2011年度の本学での学内職務及び大学業務をご記入願います。）

大学運営における活動	年月日	備 考
【学内職務】		
【大学業務】 オープンキャンパス(独仏カフェ)	2011年8月	

2011年度 教員活動評価調査票 (記入用紙)

箱崎 雄子 1/7

所属	国際教養学部 英語コミュニケーション学科	職名	准教授	氏名	箱崎 雄子	学位	修士(言語・文化学)、大阪外国語大学、 1992年3月取得
----	-------------------------	----	-----	----	-------	----	----------------------------------

I 教育活動 (3カ年<2010年度、2009年度、2008年度>の活動についてご記入願います。)

【担当科目】 (2011年度就任教員は、2011年度の担当科目をご記入願います。)

1. 学部担当科目

2008年度: 新入生演習、英語リーディング 3・4、検定・資格英語 1・2・3・4、展開演習 1・2、卒業演習 1・2、学び論

2009年度: 新入生演習、資格英語 1・2、観光ビジネス英語 1・2、通訳英語 1・2、英語科教育研究 1・2、卒業演習 1・2、学び論

2010年度: 新入生演習、資格英語 1・2、観光ビジネス英語 1・2、通訳英語 1・2、英語科教育研究 1・2、特論演習 1・2

2. 大学院担当科目

3. 非常勤等担当科目(括弧内に大学名を記入してください) (2011年度就任教員は、前任校での担当科目についてもご記入願います。)

【教育業績】 (2011年度就任教員は、前任校での教育業績についてもご記入願います。)

教育実践上の主な業績	年月日	備考
1. 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
観光英語関係者による講演(学科科目「観光ビジネス英語 2」にて)	2009年11月12日	英語コミュニケーション学科では「実践英語科目」が開講されており、学科予算により、その受講者を対象に、講演会及び観光英語ガイド体験を実施した。
京都における観光英語ガイド体験(学科科目「観光ビジネス英語 2」にて)	2009年12月3日	
通訳英語関係者による講演(学科科目「通訳英語 2」にて)	2009年12月18日	
観光英語関係者による講演(学科科目「観光ビジネス英語 2」にて)	2010年12月20日	
通訳英語関係者による講演(学科科目「通訳英語 2」にて)	2010年12月22日	
京都における観光英語ガイド体験(学科科目「観光ビジネス英語 2」にて)	2011年1月15日	

2. 作成した教科書、教材、参考書 『Forerunner to Power-Up English』総合英語パワーアップ〈入門編〉—リスニングからリーディング—	2009年2月23日	<共同執筆者>唐住結子、河内山真理、笹井悦子、高橋寿夫、田原志都可、樽井武、津村修志、中山喜満、濱本陽子、原田曜子、松村優子 株式会社南雲堂、B5判、総頁数104
3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 セミナー講師「子どもの気づきと体験的理解を促す導入と活動」(小学生を教えるための第34回JASTEC研修セミナー、開催主体:日本児童英語教育学会)	2008年8月1日	
ワークショップ講師「チャンツの活用法—チャンツの条件、作り方と使い方」(日本児童英語教育学会(JASTEC)関西支部第27回秋季研究大会)	2008年11月16日	
研修講師「子どもがのってくる効果的なチャンツ」(平成21年度小学校外国語活動中核教員育成研修、開催主体:東大阪市教育委員会)	2009年7月21日	
セミナー講師「授業で使ってみよう歌・チャンツの活用法」(小学生を教えるための第36回JASTEC研修セミナー、開催主体:日本児童英語教育学会)	2009年8月21日	
ワークショップ「歌とチャンツの効果的な使い方」(関西支部春季研究大会、開催主体:日本児童英語教育学会)	2010年5月30日	
4. その他教育活動上特記すべき事項		

2011年度 教員活動評価調査票（記入用紙）

箱崎 雄子 3/7

Ⅱ 研究活動（5カ年〈2010年度、2009年度、2008年度、2007年度、2006年度〉の活動についてご記入願います。）

著書・論文等の名称	著書・共著の別	発行または発表年月	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数	査読の有無
【著書】						
学研「英語ノート」パーフェクト 3巻 『英語でチャレンジ！2-会話とゲーム』	共著	2010年1月	学研教育出版			
『小学校英語教育の展開—よりよい英語活動への提言』	共著	2010年6月	研究社			
『続小学校英語活動 アイディアバンク』	共著	2011年4月	教育出版			
【論文】						
「英語リスニングにおける内容理解の阻害要因」	単著	2007年3月	追手門学院大学 文学部紀要 第42号(兼)大学40周年記念 論文集		139-144頁	無
「小学校英語学習経験者の追跡調査と小・中学校英語教育への示唆」	共著	2007年12月	近畿大学 語学教育部紀要 第7巻第2号	樋口忠彦、大村吉弘、田邊義隆、 國方太司、加賀田哲也、泉恵美子、 衣笠知子、植松茂男、三上明洋	123-180頁	有
「児童用英語辞書の語彙分析」	単著	2008年1月	追手門学院大学 国際教養学部紀要 創刊号(通算43号)		147-153頁	無
“Independent Grammatical Study: A look into the performance and motivation of 1st year English majors”	共著	2008年3月	追手門学院大学 英語文化学会論集第17号	Ross E. Miller	17-38頁	無

2011年度 教員活動評価調査票（記入用紙）

箱崎 雄子 4/7

「中学校入学以前の英語学習経験が大学生の情意面に及ぼす影響」	共著	2008年9月	日本児童英語教育学会 (JASTEC)研究紀要 第27号	樋口忠彦、國方太司、大村吉弘、田邊義隆、衣笠知子、泉惠美子、加賀田哲也、植松茂男	25-51頁	有
「小学校英語学習経験者の追跡調査と小・中英語教育への示唆」	共著	2008年10月	英語教育 2008年10月増刊号 第57巻第8号	樋口忠彦、國方太司、大村吉弘、田邊義隆、下絵津子、泉惠美子、衣笠知子、加賀田哲也	58-69頁	無
「小学校英語学習経験者の追跡調査と小・中学校英語教育への示唆(続)」	共著	2008年12月	近畿大学 語学教育部紀要 第8巻第2号	樋口忠彦、大村吉弘、田邊義隆、下絵津子、衣笠知子、加賀田哲也、國方太司、泉惠美子	179-234頁	有
“Independent Grammatical Study: A look into the performance and motivation of 2nd year English majors”	共著	2009年3月	追手門学院大学 英語文化学会論集 第18号	Ross E. Miller	27-47頁	無
「中学入学以前の英語学習経験が高校生の情意面に及ぼす影響」	共著	2009年7月	英語授業研究学会紀要第18号	樋口忠彦、下絵津子、加賀田哲也、大村吉弘、泉惠美子、田邊義隆、國方太司、衣笠知子	47-79頁	有
「ブリティッシュ・コロンビア州における第二言語としての英語教育」	単著	2011年1月	追手門学院大学 国際教養学部紀要 第4号(通号46号)		33-41頁	無
「新入生による「研究室訪問」の試行的実践」	単著	2011年3月	追手門学院大学教育研究所教育研究所紀要第29号		113-115頁	無

“Language Ability and Attitudes: A Look at the Impact of a One Month Study Abroad Program”	共著	2011年3月	追手門学院大学 英語文化学会論集 第20号	Ross E. Miller	51-72頁	無
【その他】						
発音の基礎・基本—これだけで英語らしく聞こえる！		2006年8月	東大阪市教育委員会「小学校英語活動地域サポート事業第2回夏期集中講座」			
小学校英語学習者の追跡調査と小・中英語教育への示唆(第1報)		2007年6月	日本児童英語教育学会(JASTEC)第28回全国大会	樋口忠彦(代表)、國方太司、大村吉弘、泉恵美子、植松茂男、加賀田哲也、衣笠知子、田邊義隆、三上明洋		
小学校英語学習者の追跡調査報告		2007年6月	日本児童英語教育学会(JASTEC)関西支部研究大会	樋口忠彦(代表)、國方太司、大村吉弘、泉恵美子、植松茂男、加賀田哲也、衣笠知子、田邊義隆、三上明洋		
効果的なチャンツ指導の技法		2009年12月	英語授業研究学会関西支部第185回例会			
【学会における主な活動】						
2001年～現在		英語授業研究学会関西支部役員				
2008年～現在		日本児童英語教育学会運営委員及び関西支部事務局補佐				
【その他研究活動上特記すべき事項】			年月日		備考	

Ⅲ社会活動（3カ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）

社会における活動	年月日	備 考

Ⅳ大学運営活動（3カ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）（2011年度就任教員は、2011年度の本学での学内職務及び大学業務をご記入願います。）

大学運営における活動	年月日	備 考
【学内職務】		
教務委員	2005年4月～2009年3月	
入試主事	2009年4月～2011年3月	
【大学業務】		
模擬授業「通訳にチャレンジ!!」（於：兵庫県立猪名川高等学校）	2008年7月15日	
オープンキャンパス模擬授業「英語通訳にチャレンジ」	2008年7月20日	
学部・学科 分野理解ガイダンス（於：兵庫県立猪名川高等学校）	2008年8月15日	
出張授業「職業理解ガイダンス—通訳・翻訳家—」（於：香川県立坂出高等学校）	2008年9月19日	
学部学科分野理解ガイダンス「外国語・国際」（於：兵庫県立明石城西高等学校）	2008年11月13日	
模擬授業「通訳・翻訳にチャレンジ!!」（於：兵庫県立西宮今津高等学校）	2008年11月18日	
模擬授業「通訳・翻訳にチャレンジ!!」（於：香川県立坂出高等学校）	2008年11月21日	
模擬授業「通訳・翻訳にチャレンジ!!」（於：兵庫県立川西明峰高等学校）	2009年2月4日	
職業別体験授業「通訳・翻訳にチャレンジ!!」（於：京都八幡高等学校）	2009年2月13日	
オープンキャンパス模擬授業「通訳・翻訳にチャレンジ!!」	2009年6月21日	
模擬授業「通訳・翻訳にチャレンジ!!」（於：兵庫県立西宮今津高等学校）	2009年6月23日	

2011年度 教員活動評価調査票（記入用紙）

箱崎 雄子 7/7

キャリア教育のためのガイダンス「通訳・翻訳にチャレンジ!!」(於: 県立篠山鳳鳴高等学校)	2009年6月24日	
キャリア教育のためのガイダンス「通訳・翻訳にチャレンジ!!」(於: 県立篠山鳳鳴高等学校)	2009年7月8日	
神戸市立科学技術高等学校キャンパス見学会 学科内容説明	2009年8月28日	
オープンキャンパス模擬授業「英語通訳に挑戦!!」	2010年6月20日	
模擬授業「英語発音クリニック」(対象: 大阪電気通信大学高等学校2年生)	2010年9月25日	
模擬授業「英語発音クリニック」(於: 滋賀県立八日市高等学校)	2010年9月30日	
模擬授業「英語発音クリニック」(対象: 京都翔英高等学校3年生)	2010年10月1日	
模擬授業「英語発音クリニック」(於: 兵庫県姫路市立姫路高等学校)	2010年10月21日	
職業理解ガイダンス「通訳・翻訳にチャレンジ!!」(於: 大阪府私立梅花高等学校)	2010年10月28日	
職業理解ガイダンス「英語通訳に挑戦!」(於: 兵庫県私立松蔭高等学校)	2010年11月25日	
模擬授業「英語発音クリニック」(於: 兵庫県立神戸高塚高等学校)	2011年3月9日	
【その他大学運営活動上特記すべき事項】		
平成21年度教員免許状講習「英語運用能力の向上講座」	2009年8月5日	
追大総合講座「社会」「英語を活かした職業」(於: 追手門学院高等学校)	2009年8月28日	
2010年度 追手門学院大学 秋の専門講座「英語らしく聞こえるために」	2010年9月27日	

2011年度 教員活動評価調査票 (記入用紙)

福島 孝博 1/3

所属	国際教養学部 英語コミュニケーション学科	職名	准教授	氏名	福島 孝博	学位	Master of Science, State University of New York at Buffalo、1990年9月取得
----	-------------------------	----	-----	----	-------	----	--

I 教育活動 (3カ年<2010年度、2009年度、2008年度>の活動についてご記入願います。)

【担当科目】 (2011年度就任教員は、2011年度の本科担当科目をご記入願います。)

1. 学部担当科目

言語情報処理学概論1・2、情報科学各論1・2、新入生演習、展開演習1・2、特論演習1. 2、卒業演習1. 2、英語リーディング1・2、英語リーディング3・4、英語ライティング1・2

2. 大学院担当科目

自然言語処理研究

3. 非常勤等担当科目(括弧内に大学名を記入してください) (2011年度就任教員は、前任校での担当科目についてもご記入願います。)

なし

【教育業績】 (2011年度就任教員は、前任校での教育業績についてもご記入願います。)

教育実践上の主な業績	年月日	備 考
1. 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 大学実施の授業評価	2008年度～2010年度	大学授業全体の平均値を上回る評価を得ている。
e-Learning システムの授業での活用	2008年度～2010年度	大阪大学(サイバーメディアセンター)で開発された LMS (Learning Management System)である WebOCMを学内に導入し、ほぼ全ての担当授業で活用した。
2. 作成した教科書、教材、参考書 WebOCM用の教材、小テストの作成	2008年度～2010年度	WebOCM の機能を使い、英語のリーディングやゼミのクラスで教材となる URL の指定や資料の配布をシステムで行い、授業内の小テストを作成、実施した。

3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
4. その他教育活動上特記すべき事項		

Ⅱ 研究活動（5カ年〈2010年度、2009年度、2008年度、2007年度、2006年度〉の活動についてご記入願います。）

著書・論文等の名称	著書・ 共著の別	発行または 発表年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	査読の 有無
【著書】						
なし						
【論文】						
「地震」に関する新聞記事における 報道内容の経時変化調査	単著	2007年3月	追手門学院大学文学部紀要 42号		pp.125-137	無
JACET8000 に基づく単語レベルの 表示とWebOCM への応用の可能性	単著	2007年12月	e-Learning 教育研究 第2巻		pp.33-40	有
英語入試問題の語彙からみた分析	単著	2008年1月	追手門学院大学国際教養学部 紀要 創刊号		pp.135-145	無
テレビ生放送番組に付与された字幕 に関する調査	単著	2011年1月	追手門学院大学国際教養学部 紀要 4号		pp.43-51	無
【その他】						
テレビスポーツ番組におけるリアルタ イム字幕の特徴	単著	2011年3月	言語処理学会第17回年次大 会発表論文集		pp.1063-1066	無

【学会における主な活動】		
(社)電子情報通信学会 ソサイエティ論文誌編集委員会	査読委員	2010年8月より
【その他研究活動上特記すべき事項】	年月日	備 考

Ⅲ社会活動（3カ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）

社会における活動	年月日	備 考

Ⅳ大学運営活動（3カ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）（2011年度就任教員は、2011年度の本学での学内職務及び大学業務をご記入願います。）

大学運営における活動	年月日	備 考
【学内職務】 学科予算担当	2009, 2010 年度	
【大学業務】 国際交流教育センター センター長	2008, 2009, 2010 年度	2006年5月の就任以来、アメリカ、オーストラリア、インド、中国、ヨーロッパを訪問し、英語圏およびアジアでの交換留学提携校の拡大を進める。同時に、09年度よりの国際交流推進年の活動を行っている。

2011年度 教員活動評価調査票 (記入用紙)

Jeffrey Herrick 1/3

所属	国際教養学部 英語コミュニケーション学科	職名	教授	氏名	Jeffrey Herrick	学位	Ph.D., University of Chicago, 1974
----	-------------------------	----	----	----	-----------------	----	------------------------------------

I 教育活動 (3カ年<2010年度、2009年度、2008年度>の活動についてご記入願います。)

【担当科目】 (2011年度就任教員は、2011年度の担当科目をご記入願います。)

1. 学部担当科目 Junior and Senior Seminars, History of English Literature, Presentation, Seminar for Foreign Exchange Students (Japanese literature in translation)
2. 大学院担当科目
3. 非常勤等担当科目(括弧内に大学名を記入してください) (2011年度就任教員は、前任校での担当科目についてもご記入願います。) Momoyama Gakuin University, English I & 2, English 3 & 4

【教育業績】 (2011年度就任教員は、前任校での教育業績についてもご記入願います。)

教育実践上の主な業績	年月日	備 考
1. 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) In my Junior Seminar I use movies based on famous novels to stimulate interest in literature and foster discussion.	every year	
2. 作成した教科書、教材、参考書		
3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
4. その他教育活動上特記すべき事項		

2011年度 教員活動評価調査票（記入用紙）

Ⅱ 研究活動（5カ年〈2010年度、2009年度、2008年度、2007年度、2006年度〉の活動についてご記入願います。）

著書・論文等の名称	著書・共著の別	発行または発表年月	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数	査読の有無
【著書】						
Poetrying	共著	Feb. 2011	Eihosha		146 pages	
【論文】						
“Logos to Go” and other poems		March 2007	Descant (136)			有
“Nexi”		June 2007	Descant (137)			有
“Prodicaments” and other poems		Dec. 2007	Liminal Pleasures (3)	online		無
“Glorioles”		Dec. 2008	Vallum (6:1)			無
“Swim and Burn with Swinburne,” “Birr Burr,” and “Only: A Story”		Jan. 2009	The Antioch Review (67:1)			
“Divine Wind” and “Hohle Fels”		Apr. 2010	Descant (41: 1)			
【その他】						
【学会における主な活動】						
【その他研究活動上特記すべき事項】			年月日	備考		

Ⅲ 社会活動（3カ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）

社会における活動	年月日	備考
Presentation at Osaka-jo Square, titled “What Kind of Monkey Are You,” on poetry	Feb. 2010	

2011年度 教員活動評価調査票（記入用紙）

IV大学運営活動（3ヵ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）（2011年度就任教員は、2011年度の本学での学内職務及び大学業務をご記入願います。）

大学運営における活動	年月日	備 考
【学内職務】		
【大学業務】 Presentations at Open Campus: “Move to English through Movies,” and “Be a Sport”	Every year in August	

2011年度 教員活動評価調査票 (記入用紙)

増崎 恒 1/4

所属	国際教養学部 英語コミュニケーション学科	職名	准教授	氏名	増崎 恒	学位	博士(文学)、広島大学、2004年3月取得
----	-------------------------	----	-----	----	------	----	-----------------------

I 教育活動 (3カ年<2010年度、2009年度、2008年度>の活動についてご記入願います。)

【担当科目】 (2011年度就任教員は、2011年度の本科担当科目をご記入願います。)

1. 学部担当科目

新入生演習、アメリカ史、アメリカ文化講義、英米の文化・文学2、米文学概論1・2、英語リーディング1・2、英語リーディング3・4

2. 大学院担当科目

「本人の申し出により非公表とした。」

3. 非常勤等担当科目(括弧内に大学名を記入してください) (2011年度就任教員は、前任校での担当科目についてもご記入願います。)

「本人の申し出により非公表とした。」

【教育業績】 (2011年度就任教員は、前任校での教育業績についてもご記入願います。)

教育実践上の主な業績	年月日	備考
1. 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 元NHK記者を授業に呼び、学生の日本語文章作法の一助とした。	2008年6月 2009年6月 2010年6月	「新入生演習」の授業内で実践 「新入生演習」の授業内で実践 「新入生演習」の授業内で実践
ジャズ演奏者を授業に招き、学生のジャズとアメリカに対する知識を深めた。	2010年6月	「アメリカ史」の授業内で実施
2. 作成した教科書、教材、参考書 新入生演習の授業プリント、アメリカ史、米文学概論 1・2 の補助プリント、英語リーディングの補助プリント、の作成	2008年4月～現在	各授業内で学生に配布し、授業内容理解の補助としている。
3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 公開授業の実施	2010年11月	「英米の文化・文学2A」の授業1回分を教職員に向けて公開した。
4. その他教育活動上特記すべき事項 「アメリカ民謡研究会」顧問	2008年4月～現在	文化会・報道会顧問会の幹事を兼任
本学交換留学生(インド)の研修旅行における引率	2008年4月～現在	神戸、広島方面へ留学生を毎年引率
追大講座「言葉の不思議」の講師を担当	2010年9月	本学茨木併設高にて実施

II 研究活動（5カ年〈2010年度、2009年度、2008年度、2007年度、2006年度〉の活動についてご記入願います。）

著書・論文等の名称	著書・共著の別	発行または発表年月	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数	査読の有無
【著書】						
『アメリカ文学における階級』	共著	2009年3月	英宝社	早瀬博範編	47～66頁	
【論文】						
「19世紀末移民恐怖とフリークショー—Maggie: A Girl of the Streetsに見るStephen Craneの人種意識—」	単著	2007年3月	『追手門学院大学創立四十周年記念論集 文学部篇』		145～162頁	無
「Stephen Crane の作品に見る〈日本(人)〉イメージ—19世紀末米国の社会文化政治的視点から—」	単著	2009年3月	『追手門学院大学国際教養学部紀要』(2号)		73～90頁	無
「19世紀末から20世紀初頭にかけての米国における日本(人)イメージ—“Grandfather’s Clock” (1876) に見るジェンダー・ポリティクスとの関連で—」	単著	2010年3月	『追手門学院大学 英語文化学会論集』(19号)		25～44頁	無
【その他】						
エッセイ						
『大きな古時計(1876)を再読する—時計の停止と家父長制度—』	単著	2008年4月	「The Americas Today—天理大学アメリカス学会ニューズレター—」58号		6～7頁	

「敬愛なるヘミングウェイ」	単著	2009年1月	<i>Newsletter: The Hemingway Society of Japan</i>		10頁	
学会発表						
スティーヴン・クレインの「怪物」(1898)を読み直す—19世紀末アメリカと電気恐怖	単独	2006年12月	日本英文学会関西支部第1回大会			
「怪物」の正体は?—Stephen Craneの“The Monster”(1898)と電気恐怖の言説	単独	2007年6月	中・四国アメリカ文学会第36回大会			
「逃亡者 Henry Fleming の帰還—スティーヴン・クレインの <i>The Red Badge of Courage</i> と 19 世紀末的な中産階級意識」	単独	2010年10月	日本英文学会中国四国支部第63回大会			
【学会における主な活動】						
2006年4月～2010年3月		追手門学院大学英語文化学会役員				
【その他研究活動上特記すべき事項】				年月日	備 考	
科学研究費補助金・基盤研究(C)・研究課題「19世紀末から20世紀初頭の英独仏米における日本像の比較研究」採択				2008年4月～2011年3月	研究分担者(研究代表者:追手門学院大学・水藤龍彦教授)	

Ⅲ 社会活動 (3カ年<2010年度、2009年度、2008年度>の活動についてご記入願います。)

社会における活動	年月日	備 考
追手門学院大学秋の専門講座「コミュニケーションのための英語—その魅力に迫る」の講師担当	2010年10月	「英語の読みを深めるために」という題目で1回分の講師を担当

2011年度 教員活動評価調査票（記入用紙）

増崎 恒 4/4

IV大学運営活動（3ヵ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）（2011年度就任教員は、2011年度の本学での学内職務及び大学業務をご記入願います。）

大学運営における活動	年月日	備 考
【学内職務】		
入試主事	2008年4月～2008年10月	
ベンチャービジネス研究所 所員	2007年4月～現在	国際教養学部から1名選出
学生部委員	2008年10月～2011年3月	
【大学業務】		
高等学校に赴いての各種出張模擬授業の実施	2008年4月～現在	随時(年間平均5～6回実施)
文化会・報道会顧問会幹事	2008年4月～現在	

2011年度 教員活動評価調査票 (記入用紙)

Ross Eric Miller 1/3

所属	国際教養学部 英語コミュニケーション学科	職名	准教授	氏名	Ross Eric Miller	学位	M.Ed. TESOL, Temple University, 1997年1月
----	-------------------------	----	-----	----	------------------	----	---

I 教育活動 (3カ年<2010年度、2009年度、2008年度>の活動についてご記入願います。)

【担当科目】 (2011年度就任教員は、2011年度の本科担当科目をご記入願います。)

1. 学部担当科目

カナダ文化演習、英語発音クリニック、英語コミュニケーション、卒業演習、特論演習、新入生演習、プレゼンテーション、コンピュータと英語教育、コンピュータと英語研究、英語ライティング

2. 大学院担当科目

「本人の申し出により非公表とした。」

3. 非常勤等担当科目(括弧内に大学名を記入してください) (2011年度就任教員は、前任校での担当科目についてもご記入願います。)

「本人の申し出により非公表とした。」

【教育業績】 (2011年度就任教員は、前任校での教育業績についてもご記入願います。)

教育実践上の主な業績	年月日	備 考
1. 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 「本人の申し出により非公表とした。」		
2. 作成した教科書、教材、参考書 「本人の申し出により非公表とした。」		
3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 「本人の申し出により非公表とした。」		
4. その他教育活動上特記すべき事項 「本人の申し出により非公表とした。」		

II 研究活動 (5カ年<2010年度、2009年度、2008年度、2007年度、2006年度>の活動についてご記入願います。)

著書・論文等の名称	著書・共著の別	発行または発表年月	発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	編者・著者名(共著の場合のみ記入)	該当頁数	査読の有無
【著書】						
「本人の申し出により非公表とした。」						
【論文】						
You Can Lead a Horse to Water… But Can You Make Him “Think”?	単	2007年3月	追手門学院大学英語文化学会 論集第16号		1-8	無
You Can Lead a Horse to the Fountain of Knowledge, but… Can you make him drink?	共	2007年6月	The 5 th Annual Asia TEFL International Conference Companion CD	M.C. Kim		無
Students can be led to Knowledge, but Can they be made to “Drink”?	単	2008年1月	International Liberal Arts Bulletin, No. 1		125-134	無
Independent Grammatical Study: A look into the performance and motivation of 1 st year English majors	共	2008年3月	追手門学院大学英語文化学会 論集第17号	Y. Hakozaki	17-38	無
Independent Grammatical Study: A look into the performance and motivation of 2nd year English majors	共	2009年3月	追手門学院大学英語文化学会 論集第18号	Y. Hakozaki	27-47	無
Language Ability and Attitudes: A Look at the Impact of a One Month Study Abroad Program	共	2011年3月	追手門学院大学英語文化学会 論集第20号	Y. Hakozaki	51-72	無
【その他】						
「本人の申し出により非公表とした。」						

【学会における主な活動】		
「本人の申し出により非公表とした。」		
【その他研究活動上特記すべき事項】	年月日	備 考
「本人の申し出により非公表とした。」		

Ⅲ社会活動（3カ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）

社会における活動	年月日	備 考
It's All In How You Say It	2010年1月	Lecture at 追手門学院大学社会人教室

Ⅳ大学運営活動（3カ年〈2010年度、2009年度、2008年度〉の活動についてご記入願います。）（2011年度就任教員は、2011年度の本学での学内職務及び大学業務をご記入願います。）

大学運営における活動	年月日	備 考
【学内職務】 「本人の申し出により非公表とした。」		
【大学業務】 「本人の申し出により非公表とした。」		